山形県埋蔵文化財センター調査報告書第97集

中　袋　遺　跡

発掘調査報告書

2002

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

中袋遺跡（なかぶくろ）

発掘調査報告書

平成14年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、中袋遺跡の調査結果をまとめたものです。

中袋遺跡は、天童市の南部の高擶地区にあります。立谷川扇状地の扇端部にあたるこの地は、水量も豊富で、水田の広がる農業地帯です。

この度、日本道路公団の東北中央自動車道相馬～尾花沢線の建設工事にともない、高速道路予定地にかかる中袋遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、平安時代の掘立柱建物跡４棟、大型の土器捨場溝跡などの集落跡を示す遺構が見つかっています。遺跡からは石帯・風字硯・耳皿などの特殊な性格を持つ遺物も出土しています。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成14年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　　木　村　　宰

例　　言

1　本書は、日本道路公団東北中央自動車道相馬～尾花沢線にかかる「中袋遺跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は日本道路公団の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要項は下記のとおりである。

遺　跡　名　中袋遺跡　遺跡番号　平成２年度登録
所　在　地　山形県天童市大字高擣字中袋
調 査 主 体　財団法人山形県埋蔵文化財センター
受 託 期 間　平成９年９月１日～平成14年３月31日
現 地 調 査　（第１次調査）　平成９年９月29日～10月29日（３日間）
　　（第２次調査）　平成10年８月17日～平成10年11月13日（54日間）
調査担当者　（第１次調査）　調査第一課長　佐　藤　庄　一（平成９年度）
　　主任調査研究員　佐　藤　正　俊（現調査第三課長）
　　調 査 研 究 員　鈴　木　良　仁
　　調　査　員　長　瀬　えみ子
　　調　査　員　須賀井　明　子
　　調　査　員　斎　藤　健　洋
　　（第２次調査）　調査第一課長　佐　藤　庄　一（平成10年度）
　　主任調査研究員　佐　藤　正　俊（現調査第三課長）
　　調 査 研 究 員　森　谷　昌　央（調査主任）
　　調　査　員　稲　村　圭　一
整 理 期 間　平成９年11月１日～平成14年３月31日
整理担当者　調査第三課長　佐　藤　正　俊
　　調 査 研 究 員　森　谷　昌　央

4　発掘調査および本書を作成するにあたり、日本道路公団東北支社山形工事事務所、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、天童市教育委員会、東南村山教育事務所等関係機関に協力をいただいた。

5　本書の作成・執筆は、森谷昌央、黒坂広美が担当した。編集は須賀井新人・松田道雄が担当し、全体については、佐藤正俊が監修した。

6　委託業務は下記のとおりである。

遺構写真実測　アジア航測株式会社
理化学資料分析　株式会社古環境研究所

7　出土遺物、調査記録類等は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次のとおりである。

ＳＴ…竪穴住居跡	ＳＫ…土坑	ＳＸ…性格不明遺構
ＥＰ…遺構内ピット	ＥＫ…遺構内土坑	ＥＬ…遺構内炉跡
ＲＰ…登録土器・土製品	ＲＱ…登録石器・石製品	
Ｐ…土器	Ｓ…石・礫	

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。中には整理作業中に改めて番号を付した遺構もあるが、その番号は現地調査時の最終遺構番号より後になるように付している。

3　報告書執筆基準は下記のとおりである。

（１）遺構概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。

（２）グリッドの南北軸は、真北に対してＮ－18.5°－Ｅを測る。

（３）遺構実測図は１/40・１/80の縮尺で採録し、各々スケールを付した。なお、実測図中の●は遺物の出土地点を表す。遺構内の遺物出土状況については遺物の出土地点になるべく遺物実測図及び遺物番号をあわせて表記するようにした。ただし小破片や類例が既出で重要でないものについては遺物番号のみを、また出土位置が明確でないものでも重要と思われるものについては遺構内出土として記載している。なお遺構実測図に併記した遺物実測図のスケールは任意であるが、ほぼ１/５に近い縮尺で掲載してある。

（４）遺物実測図・拓影図は、原則的に１/３で採録し、各々スケールを付した。

（５）遺物実測図中で断面が黒ベタのものは須恵器、白ヌキのものは土師器を表している。

（６）遺物図版については１/３を原則としたが、一部任意の縮尺となっているものもある。

（７）本文中の遺物番号は、遺構平面図・遺物実測図・遺物観察表・遺物図版とも共通した番号を使用している。遺物番号は挿図毎に１から番号を付しており、挿図第○図の△番という意味で「○－△」と表記している。

（８）遺物観察表中の（　）内の数値は、図上復元による推計値または残存値を示している。また表中の遺物の分類・底径指数・器高指数・外傾度については須恵器坏・高台付坏、土師器坏・高台付坏・皿などの全形の分かるもの若しくは推計できるもののみ表記している。

（９）遺構覆土の色調の記載については、1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　1　調査に至る経緯……1
　2　調査の経過……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境
　1　地理的環境……3
　2　歴史的環境……3
Ⅲ　遺跡の概要
　1　遺跡の層序……6
　2　遺構・遺物の分布……6
Ⅳ　検出された遺構……9
Ⅴ　出土した遺物
　1　奈良・平安時代の須恵器坏・土師器坏……28
　2　奈良・平安時代のその他の遺物……35
　3　その他の時代の遺物……37
Ⅵ　まとめ……81

報告書抄録……82

表

第１表　遺物分類表
第２表　中袋遺跡
　　須恵器坏・土師器坏指数グラフ
第３表　中袋遺跡及び他遺跡の
　　器種別指数グラフ
第４表　須恵器坏・土師器坏の時期対応表
第５表　遺物観察表１
第６表　遺物観察表２
第７表　遺物観察表３
第８表　遺物観察表４
第９表　遺物観察表５
第10表　遺物観察表６
第11表　遺物観察表７
第12表　遺物観察表８
第13表　遺物観察表９

挿　図

第１図　遺跡概要図……2
第２図　遺跡位置図……4
第３図　遺構配置図……7
第４図　ＳＢ581掘立柱建物跡……10
第５図　ＳＢ582・ＳＢ600掘立柱建物跡……11
第６図　ＳＢ583掘立柱建物跡……12
第７図　ＳＫ１土坑跡……14
第８図　ＳＫ１土坑遺物出土状況……15
第９図　ＳＫ２及び遺物出土状況……16
第10図　ＳＫ３・ＳＫ68土坑跡……17
第11図　ＳＫ14及び遺物出土況……19
第12図　土坑・柱穴遺構図……20
第13図　ＳＤ５・６溝跡遺構図……22
第14図　ＳＸ４遺構図……23
第15図　ＳＸ12及び遺物出土況……25
第16図　ＳＸ102他遺構図……26
第17図　ＳＸ遺構図……27
第18図　遺物分類図……31
第19図　遺物計測値模式図……48
第20図　土器実測図（１）
　ＳＫ１出土土器１……39
第21図　土器実測図（２）
　ＳＫ１出土土器２……40
第22図　土器実測図（３）
　ＳＫ１出土土器３……41
第23図　土器実測図（４）
　ＳＫ１出土土器４……42
第24図　土器実測図（５）
　ＳＫ１出土土器５……43
第25図　土器実測図（６）
　ＳＫ１出土土器６……44
第26図　土器実測図（７）
　ＳＫ２出土土器１……45
第27図　土器実測図（８）
　ＳＫ２出土土器２……46
第28図　土器実測図（９）
　ＳＤ５出土土器１……47
第29図　土器実測図(10)
　ＳＤ５出土土器２……48
第30図　土器実測図(11)
　ＳＸ12出土土器１……49
第31図　土器実測図(12)
　ＳＸ12出土土器２……50
第32図　土器実測図(13)
　ＳＸ12出土土器３……51
第33図　土器実測図(14)
　ＳＫ14出土土器１……52
第34図　土器実測図(15)
　ＳＫ14出土土器２……53
第35図　土器実測図(16)
　ＳＸ102出土土器……54
第36図　土器実測図(17)
　遺構出土土器１……55
第37図　土器実測図(18)
　遺構出土土器２……56
第38図　土器実測図(19)
　遺構出土土器３……57
第39図　土器実測図(20)
　遺構出土土器４……58
第40図　土器実測図(21)
　遺構出土土器５……59
第41図　土器実測図(22)
　遺構出土土器６……60
第42図　土器実測図(23)
　遺構出土土器７……61
第43図　土器実測図(24)
　遺構出土土器８……62

第44図　土器実測図(25)
遺構出土土器９……63
第45図　土器実測図(26)
遺構出土土器10……64
第46図　土器実測図(27)
遺構出土土器11……65
第47図　土器実測図(28)
グリッド出土土器１……66
第48図　土器実測図(29)
グリッド出土土器２……67
第49図　土器実測図(30)
グリッド出土土器３……68
第50図　土器実測図(31)
グリッド出土土器４……69
第51図　土器実測図(32)
グリッド出土土器５……70
第52図　土器実測図(33)
陶磁器・土製品・石製品……71

図　版

図版１　遺跡全景（１）
図版２　遺跡全景（２）
図版３　遺構（１）
図版４　遺構（２）
図版５　遺構（３）
図版６　遺構（４）
図版７　遺構（５）
図版８　遺構（６）
図版９　遺構（７）
図版10　遺物（１）　ＳＫ１出土遺物１
図版11　遺物（２）　ＳＫ１出土遺物２
図版12　遺物（３）　ＳＫ１出土遺物３
図版13　遺物（４）　ＳＫ１出土遺物４
図版14　遺物（５）　ＳＫ１出土遺物・
ＳＫ２出土遺物１
図版15　遺物（６）　ＳＫ２出土遺物２・
ＳＤ５出土遺物１
図版16　遺物（７）　ＳＤ５出土遺物２
図版17　遺物（８）　ＳＸ12出土遺物１
図版18　遺物（９）　ＳＸ12出土遺物２
図版19　遺物(10)　ＳＸ14出土遺物１
図版20　遺物(11)　ＳＸ14出土遺物２・
ＳＸ102他出土遺物
図版21　遺物(12)　遺構出土遺物１
図版22　遺物(13)　遺構出土遺物２
図版23　遺物(14)　遺構出土遺物３
図版24　遺物(15)　遺構出土遺物４
図版25　遺物(16)　遺構出土遺物５
図版26　遺物(17)　遺構出土遺物６・
包含層出土遺物１
図版27　遺物(18)　包含層出土遺物２
図版28　遺物(19)　包含層出土遺物３
陶磁器・灰釉陶器・石製品他

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経緯

この度の中袋遺跡の発掘は、日本道路公団による東北中央自動車道相馬～尾花沢線（上山～東根間）の建設工事に伴うものである。

山形県教育委員会は、この事業に伴って平成２年度から計画路線周辺の遺跡の分布調査を行ってきた。その調査結果に基づいて埋蔵文化財の取り扱いについて日本道路公団と協議を行い、財団法人山形県埋蔵文化財センターが日本道路公団の委託を受けて、平成９年度に予備調査（第１次調査）を実施した。これにより当該地区が平安時代の集落跡であることが確認された。平成10年度は遺跡範囲のうち8,100㎡調査し、記録保存を行った。

発掘調査に至るまでの協議などは以下の通りである。

◆日本道路公団東北支社管理課長より山形県埋蔵文化財センター調査第一課長あてに「平成10年度埋蔵文化財発掘調査に係る費用積算調書の作成」の依頼（H10/１/19）

◆山形県埋蔵文化財センター理事長より日本道路公団東北支社長あてに、発掘調査を実施すること及び経費見積もりの回答（H10/２/10）

◆日本道路公団東北支社長より山形県埋蔵文化財センター理事長あてに、「東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）建設に伴う平成10年度の埋蔵文化財発掘調査の依頼（H10/４/１）

◆日本道路公団東北支社と山形県埋蔵文化財センターが、「埋蔵物発掘調査業務の委託契約」を締結（H10/４/１）

2　調査の経過

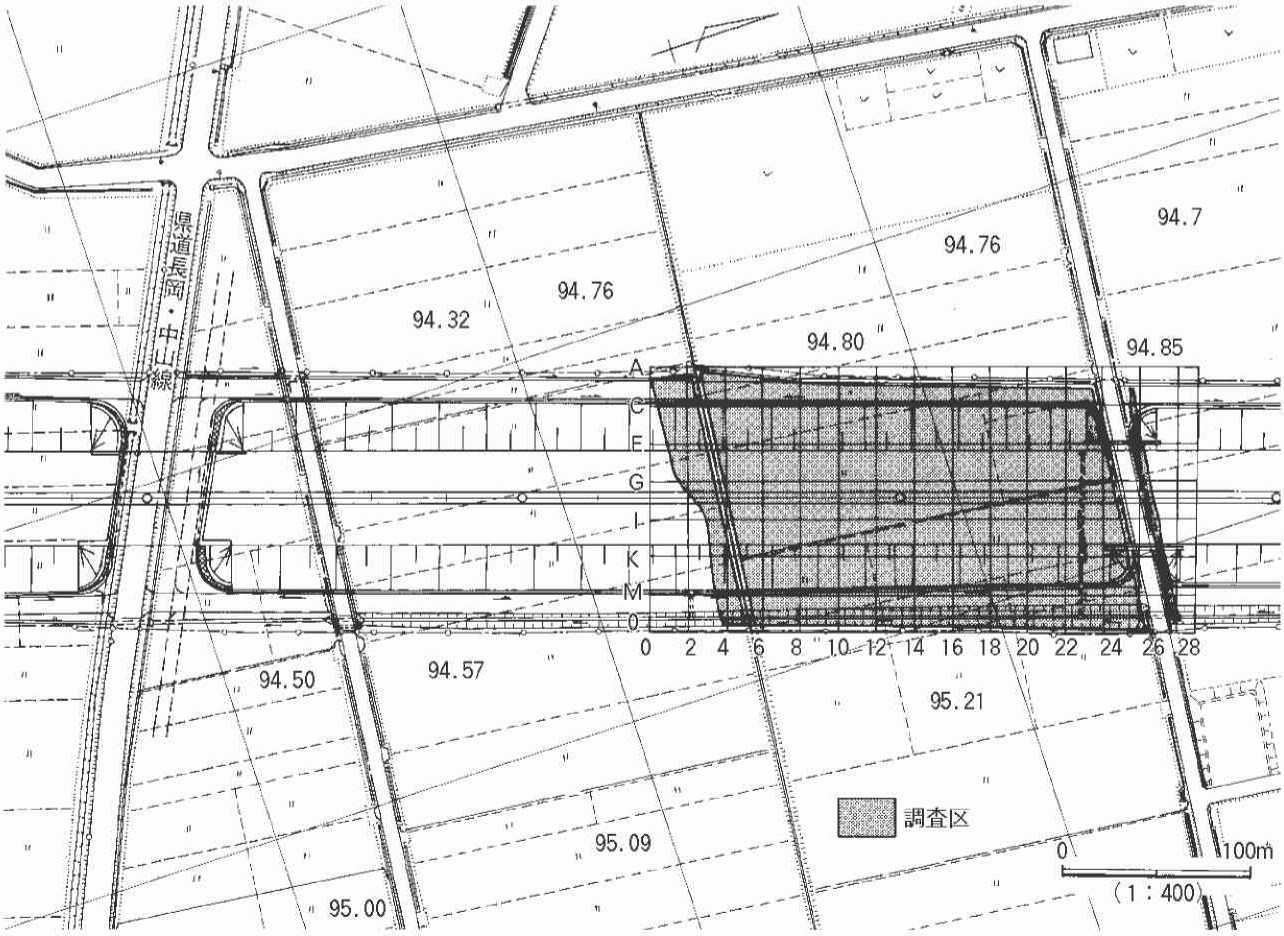
発掘調査は、平成10年８月17日から11月13日まで実働日数54日間で行い、調査面積は8,100㎡である。

発掘調査は当初中袋遺跡より約200m南に位置する砂子田遺跡の調査終了後の10月から行う予定であった。砂子田遺跡の発掘調査が７月から約１ヶ月の予定で行われたが、その遺構検出の結果、予定されていたよりも遺物数も面積も大きく拡大することが明らかになった。これにより中袋遺跡の調査時期及び体制も変更せざるを得ない状況となり、中袋遺跡の表土除去と遺構検出を10月調査開始予定から８月中旬に繰り上げることとなった。まず中袋遺跡と砂子田遺跡の今後の発掘調査の工程を再検討するために遺構検出を行い、正確な遺構数及び分掛りを出すことになった。また中袋遺跡の担当班が砂子田遺跡の担当班と同一であったため、調査を同時並行するにあたり、調査員・作業員を増員した。

先ず、８月19日に重機を導入して、中袋遺跡の表土除去を行った。その後８月25日から遺構検出面の面整理を行い、遺構の検出に努めた。遺跡の南半は泥炭質で、表土除去の段階から水が湧き、遺構検出の際にも遺構・遺物検出は皆無に近かった。このため遺跡南半は遺跡の範囲から除外し、最低限必要な調査を行うに止めた。

その後検出された遺構のマーキング・遺構配置図の作成・遺構番号の登録を行い、遺構の分布状況を確認した。その結果、遺跡の主体部は調査区（高速道路予定地）より西側に存し、調査区は遺跡の主体から大きく外れていることが判明した。この結果により中袋遺跡と砂子田遺跡を同時並行する目処が立ち、中袋遺跡についてはそのまま本調査に移行することとなった。その後グリッドを設定し、検出した遺構の精査を行い、土の堆積状況・土器の分布状況を記録した後、遺構を完掘した。こうして遺跡の発掘調査は11月13日で終了した。発掘調査終了後の11月17日には遺構の写真実測用の空中撮影を行い、同時に遺跡の全形写真を撮影した。11月25日には砂子田遺跡と同時に現地説明会を行い、遺跡の概要について関係公所並びに一般の方々に公開を行った。

なお、中袋遺跡のグリッドの設定については、日本道路公団が高速道路予定地内に設置したセンター杭を基準として10m四方に区画した。グリッド番号は東西方向に西からＡ～Ｏの大文字のアルファベットを、南北方向は南から１～29の数字を使用した。グリッドの表記は検出地点・出土地点の北西角を取って「Ａ－１」などと表記している。グリッドの南北軸は、真北に対してＮ－18.5°－Ｅを測る。



第１図　遺跡概要図

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

中袋遺跡は、天童市街から南西約４㎞の天童市高擶に位置し、標高は94～95mを測る。ほぼ天童市の南端に位置し、山形市との境界に位置する。天童市と山形市の間には、出羽山脈の面白山に源を発して西流する立谷川が存し、中袋遺跡はこの立谷川の扇状地の扇端部に立地している。周辺では高擶（たかだま）の集落の西に自然堤防が見て取れ、ほ場整備の行われる前の昭和25年の空中写真には南北、或いは東西に走る黒い帯状の筋が何本も確認できる。このことから高擶の周辺には最上川及び暴れ川である立谷川が何度も流路を変えながら南北東西に流れていたことがわかる。また立谷川がしばしば氾濫を繰り返していたのは近世の古文書にも見え、洪水の記録が何回か現れる。中袋遺跡の調査区南半には広大な泥炭層が広がり、断面図から見ても旧河川の可能性が疑われる。立谷川の本流若しくは支流の可能性が考えられる。立谷川は豊富な水量を周辺の地域にもたらしており、立谷川扇状地の扇端部に位置する高擶の周辺は水田地帯が広がっている。昔から水田には適した地帯だったと考えられる。中袋遺跡の主体部は地山が安定した褐色を呈しており、周囲の泥炭層と比較すると、微高地であったことは明らかである。

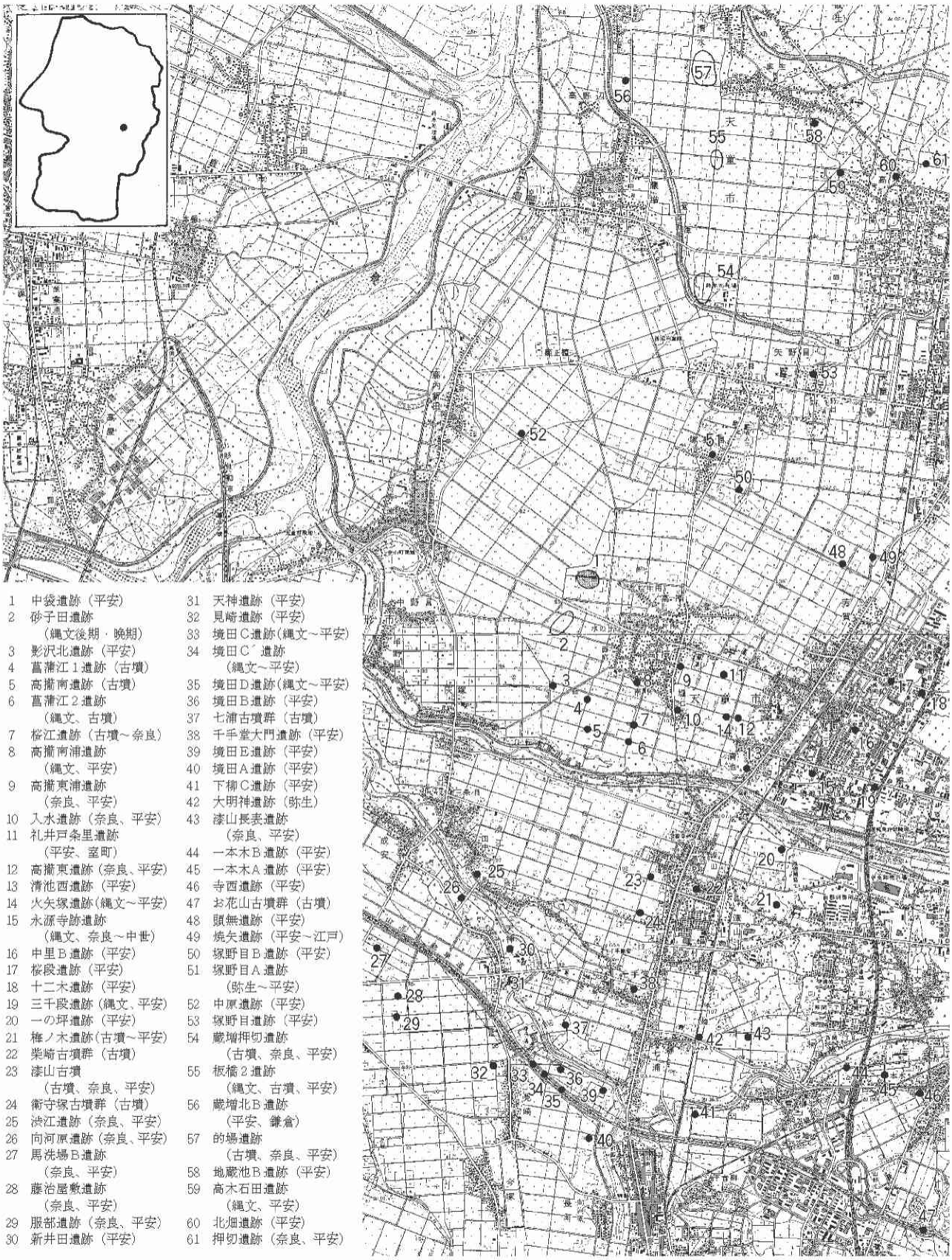
2　歴史的環境

本遺跡は立谷川の北岸に位置しているが、立谷川の扇状地やその南を流れる村山高瀬川の扇状地は自然湧水の豊富な扇端部付近に遺跡が集中して分布する。以下それぞれの時代について立谷川以北の天童市側の遺跡と、立谷川以南、村山高瀬川周辺の遺跡について概観する。

縄文時代から弥生時代では縄文時代後期から晩期の遺跡が多い。立谷川北岸の天童市側では縄文時代後期の遺跡として石田遺跡・白山堂遺跡・宮田遺跡・渡戸遺跡・高擶南浦遺跡・砂子田遺跡が知られる。多くは河川沿いの低湿地に集落が営まれているが、傾向としては山際に多い。中袋遺跡から約200m程南に位置する砂子田遺跡は現在最も低地に立地する遺跡である。縄文時代晩期では、矢口遺跡・沼田遺跡・宮田遺跡が知られる。

弥生時代の遺跡としては、天童市北部の成生地区に位置し、山形県内の磨消縄文を伴う土器の基準資料となっている地蔵池遺跡が有名である。位置的には中袋遺跡から北に７㎞ほど離れている。他に塚野目Ａ遺跡が知られる。こうした天童市側の遺跡分布に対して、立谷川の南から村山高瀬川にかけての地域には弥生時代の遺跡が多い。磨消縄文主体の土器が出土し中期枡形囲式併行として「漆山式」が提唱されている漆山遺跡。桜井式併行の土器が多数出土して「七浦式」が提唱される七浦遺跡。籾殻圧痕をもつ土器と石包丁が出土した江俣遺跡。縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての土器変遷の窺える良好な一括資料が出土した北柳１遺跡。北柳１遺跡では縄文時代最終末期の竪穴住居跡が多数検出されている。

弥生時代中期以降になると本格的な水耕農業が行われるようになり、伏流水に富む立谷川・村山高瀬川の扇状地に位置するこの地域には大規模な集落が営まれるようになった。特に古墳時代の遺跡は数多い。天童市側では、木製品が大量に出土し国の指定史跡となった古墳時代中



1　中袋遺跡（平安）
2　砂子田遺跡
　（縄文後期・晩期）
3　影沢北遺跡（平安）
4　菖蒲江１遺跡（古墳）
5　高擶南遺跡（古墳）
6　菖蒲江２遺跡
　（縄文、古墳）
7　桜江遺跡（古墳～奈良）
8　高擶南浦遺跡
　（縄文、平安）
9　高擶東浦遺跡
　（奈良、平安）
10　入水遺跡（奈良、平安）
11　礼井戸条里遺跡
　（平安、室町）
12　高擶東遺跡（奈良、平安）
13　清池西遺跡（平安）
14　火矢塚遺跡（縄文～平安）
15　永源寺跡遺跡
　（縄文、奈良～中世）
16　中里Ｂ遺跡（平安）
17　桜段遺跡（平安）
18　十二木遺跡（平安）
19　三千段遺跡（縄文、平安）
20　一の坪遺跡（平安）
21　梅ノ木遺跡（古墳～平安）
22　柴崎古墳群（古墳）
23　漆山古墳
　（古墳、奈良、平安）
24　衛守塚古墳群（古墳）
25　渋江遺跡（奈良、平安）
26　向河原遺跡（奈良、平安）
27　馬洗場Ｂ遺跡
　（奈良、平安）
28　藤治屋敷遺跡
　（奈良、平安）
29　服部遺跡（奈良、平安）
30　新井田遺跡（平安）
31　天神遺跡（平安）
32　見崎遺跡（平安）
33　境田Ｃ遺跡（縄文～平安）
34　境田Ｃ´遺跡
　（縄文～平安）
35　境田Ｄ遺跡（縄文～平安）
36　境田Ｂ遺跡（平安）
37　七浦古墳群（古墳）
38　千手堂大門遺跡（平安）
39　境田Ｅ遺跡（平安）
40　境田Ａ遺跡（平安）
41　下柳Ｃ遺跡（平安）
42　大明神遺跡（弥生）
43　漆山長表遺跡
　（奈良、平安）
44　一本木Ｂ遺跡（平安）
45　一本木Ａ遺跡（平安）
46　寺西遺跡（平安）
47　お花山古墳群（古墳）
48　頭無遺跡（平安）
49　焼矢遺跡（平安～江戸）
50　塚野目Ｂ遺跡（平安）
51　塚野目Ａ遺跡
　（弥生～平安）
52　中原遺跡（平安）
53　塚野目遺跡（平安）
54　蔵増押切遺跡
　（古墳、奈良、平安）
55　板橋２遺跡
　（縄文、古墳、平安）
56　蔵増北Ｂ遺跡
　（平安、鎌倉）
57　的場遺跡
　（古墳、奈良、平安）
58　地蔵池Ｂ遺跡（平安）
59　高木石田遺跡
　（縄文、平安）
60　北畑遺跡（平安）
61　押切遺跡（奈良、平安）

第２図　遺跡位置図（国土地理院発行２万５千分の１地形図「山形北部」「寒河江」を1／２縮尺して使用）

期後半の西沼田遺跡をはじめ、古墳時代前期の集落跡と中期の河川跡から多量の土器と木製品が出土した板橋２遺跡、古墳時代中期の集落跡から搬入品の古式須恵器が多数出土し県内最古のカマド跡が検出された的場遺跡がある。他に高擣南遺跡・桜江遺跡・菖蒲江遺跡などが知られ、古墳としては中袋遺跡の西約２㎞に位置する火矢塚古墳群がある。

立谷川以南の山形市側では数基の古墳が検出された梅ノ木遺跡、古墳時代中期の竪穴住居が多数検出された村山高瀬川南岸の下柳Ａ遺跡がある。更に村山高瀬川・須川の扇端部では、内口花文鏡の日本最北端の出土例となった馬洗場（うまあらいば）Ｂ遺跡がある。ここからは古墳時代前期前葉の古手の古式土師器が竪穴住居や旧河川跡から出土するとともに、木製品も多数出土している。同じく馬洗場Ｂ遺跡と近接する服部遺跡からも同時期と見られる木製品が多数出土している。この地域は集落跡が多数存在すると同時に古墳群が集中していることでも知られる。また古墳としては昭和57～58年に山形県教育委員会によって調査され、木棺・石棺・箱式石棺等を埋葬施設とする24基の古墳が検出されたお花山古墳群が有名である。時期的には５世紀末から７世紀前半に位置付けられる。他に古墳時代後期を中心とする七浦古墳群・衛守塚（えもりづか）古墳群・柴崎古墳群などの平地に作られた古墳が、旧羽州街道沿いに点在している。これらの古墳時代の集落跡・古墳は、最上川に注ぐ立谷川・馬見ヶ崎川及び馬見ヶ崎川に合流する村山高瀬川による複合扇状地の扇端部の後背湿地沿いに集中しており、古墳時代の集落の占地について興味深い情報を提供している。

奈良・平安時代になると遺跡数は飛躍的に増加する。中袋遺跡に近接する影沢北遺跡などで発掘調査が行われているが、未調査の遺跡が大部分である。その中にあって、現在奥羽山脈と最上川との間で最も西側、つまり最上川寄りに位置するのが中袋遺跡である。奈良・平安時代の集落跡の分布を見ると、最も多いのが旧国道13号線（元の羽州街道）沿いである。湧水地帯がこの地点にあたるためと考えられるが、この地点は中袋遺跡より２㎞程東に位置する。これらのことを考え合わせると、中袋遺跡は奈良・平安時代の集落跡としてはかなり低地に立地していることが理解される。

中袋遺跡から西に２㎞程の位置に最上川が流れている。ここからほど近い場所に月山から東流する寒河江川と最上川の合流地点がある。この寒河江川を２㎞程上ったところに古代の須恵器の登り窯が多数存在する平野山に行き着く。また中袋遺跡の４㎞ほど北東の位置には同じく須恵器の登り窯が検出された二子沢窯跡が存在する。共に中袋遺跡から同じような距離にあり、中袋遺跡の土器がどこで生産されていたのか興味深い問題もある。

中世以降では、本遺跡の東側に位置する高擣の村落が南北朝時代から江戸時代にかけての高擣城跡になっており、周辺にはその名残を表す「楯の内」・「西楯」・「堀端」等の小字名が今も残っている。

このように、当地域は縄文時代から近世にかけて多くの集落跡が営まれた。これは立谷川・村山高瀬川など奥羽山脈から流れる豊富な水量によってもたらされたものである。特に水耕農業が発達した弥生時代中期以降は、稲作の生産地帯として積極的に開拓が行われてきたことが推測される。

Ⅲ　遺跡の概要

1　遺跡の層序

中袋遺跡は、立谷川扇状地の扇端部に立地し、遺跡の主体部は微高地、その他は泥炭の湿地となっている。このように、中袋遺跡の層序は、地点によって大きく異なる。そのため第３図中の基本層では安定した微高地の基本層序を図示した。泥炭層は、旧河川と思われ、一部深掘りをして土層を確認したが、河川の埋没を示す自然堆積のみのため説明は割愛する。

中袋遺跡の基本層序は３層からなり、上のⅠ・Ⅱ層が堆積土であり、最下層（Ⅲ層）が地山である。全層ともややグライ化しており、全体に青黒く変色している。第Ⅰ層は表土である。第Ⅱ層は黒味がかった褐色で、水田耕作によるものか酸化第２鉄を多く含む。この層は遺物包含層で、恐らく平安時代の生活面であろう。遺構はこの層から掘り込まれているが、遺構検出のため、表土除去ではこの下のⅢ層まで重機で掘り下げている。第Ⅲ層は地山で、最も安定した層である。褐灰色を呈する。第Ⅲ層の下にも層があるが、遺構も遺物も検出されなかった。泥炭層と同じような層序を呈していることから、更に古い時代の旧河川の可能性も考えられる。

2　遺構・遺物の分布

遺構は、平安時代初期の掘立柱建物跡４棟、大型の土坑４基、その他の土坑５基、墓壙１基、性格不明遺構７基、溝跡６条などである。出土遺物は、土器を中心として整理箱で45箱である。平安時代初期の土師器・須恵器を中心として、陶磁器・灰釉陶器・耳皿・風字硯・石帯なども出土している。

遺構は遺構配置図に示した通り、調査区西側に大きく偏っている。調査区8,100㎡のうち北西角１/４以外には、ほとんど見るべき遺構は存在しない。また、北西角１/４についても遺跡の主体とは言い難く、確認された掘立柱建物跡４棟は全て調査区の西端に懸かるのみで、建物の全体が検出されたものは１棟もない。遺跡の主体を大きくはずしているのは明らかで、遺跡の主体は高速道路予定地の西側に位置すると考えられる。また、今回の調査では大型の土坑や性格不明遺構から多量の土器が出土しており、土器捨て場若くは生活ででた有機物も含めた捨て場と考えている。また、やや離れた調査区北東部からは合せ口甕棺も出土している。こうした土器捨て場や墓壙が平安時代に集落のどの辺に形成されたかは興味深い問題であるが、中袋遺跡の遺構の配置情況を見れば、遺跡の端につくられたと考えるのが自然である。遺跡の主体をはずしている証左と考えたい。

遺物の分布は、遺構の分布状況と同じ傾向を示している。つまり調査区の北西角１/４から出土した遺物が大部分で、それ以外の調査区からの出土は極めて少ない。特に南東部の泥炭層から出土した遺物は須恵器の坏１点ほどである。遺構の分布同様、遺物の分布状況からも遺跡の主体が調査区北西角より以西にあることを裏付けている。遺物は平安時代初期の10世紀初頭のものが主体である。中には奈良時代の須恵器や中世の陶磁器なども含まれるが客体的である。土器の多くが、土坑などから出土している。土器捨て場として利用されていたのであろう。

B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
S B 581
S B 582
S B 583
S B 600
S P 467
S X 427
S K 574
S X 12
S K 3
S K 2
S X 238
S K 229
S D 224
S P 197
S K 14
S D 5
S X 177
S K 1
S K 4
S D 166
S D 157
S D 6
S D 5
S X 381
S K 568
S D 127
S K 565
S K 9
S X 382
S D 117
S K 564
S X 384
S X 102
S K 68
S D 64
S X 396
S X 414
S X 10
95.00m
S
Ⅲ
N
Ⅰ
Ⅱ
基本層序
Ⅰ　2.5Y 4/2 暗灰黄色シルト　　2.5Y 3/2 黒褐色シルトブロック状に20%含む表土層
Ⅱ　2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色シルト　鉄分含む（包含層）
Ⅲ　10YR4/1 褐灰色粘質シルト　　ほぼ均一（地山）
0
3m
(1:600)

第３図　遺構配置図

Ⅳ　検出された遺構

遺構の選び出しの基準について予め簡略に記載しておく。掘立柱建物跡については全て、土坑や溝跡・性格不明遺構は遺物の出土状況が良好なもののみを記載している。こうした基準を満たした遺構は少なく、本報告に記載した遺構は僅か25である。遺構配置図には多数の遺構が記載されているが、泥炭層付近の遺構は平面形も不明瞭で、掘り込みも明らかでなく、遺物も少なかった。よって大部分の遺構は選び出しの基準を満たさず、遺構配置図上でのみの記載とした。

ＳＢ581・ＳＡ584（第４図、図版３）

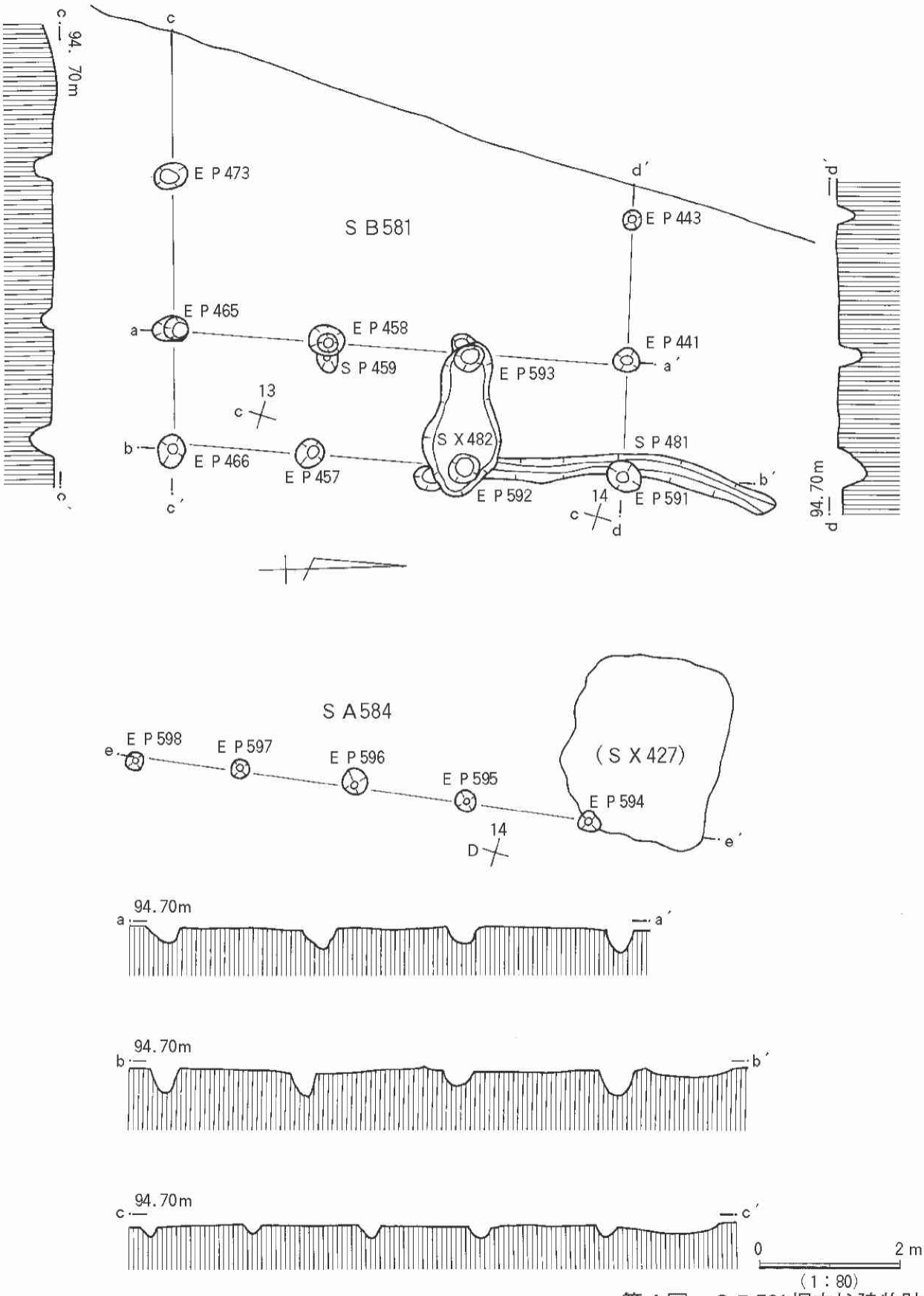
Ｂ－14区に位置する。南北軸は真北から東に5.5°傾く。平面形は、ＳＢ581が南北３間×東西２間以上（調査区外のため不明）の長方形を呈し、東側に庇がつく。西側にも庇がつく可能性はあるが不明である。ＳＡ584はＳＢ581の東側４ｍの位置する南北４間の柱列である。南北軸はＳＢ581と同じで、ＳＢ581に平行する。規模は、ＳＢ581が南北7.0ｍを測り、東西方向は調査区外のため不明である（残存値6.2ｍ）。ＳＡ584は南北6.8ｍを測る。柱間の距離は、ＳＢ581が2.0ｍ～2.2ｍ、庇と母屋の間はやや狭く1.8ｍである。ＳＡ584は、1.6ｍを測る。柱穴は小さいもので直径28㎝、大きいもので直径52㎝を測るが、平均直径約40㎝の円形を呈する。柱穴の深さは、検出面から28㎝から40㎝と浅い。ＳＡ584はやや小さく直径28㎝～3.6㎝の円形である。柱穴の深さは、検出面から18㎝から20㎝である。重複する遺構はない。柱穴から直接出土した遺物は皆無である。ただし、グリッド出土の遺物から９世紀後半から10世紀初頭の年代が与えられる。

ＳＢ582（第５図、図版３）

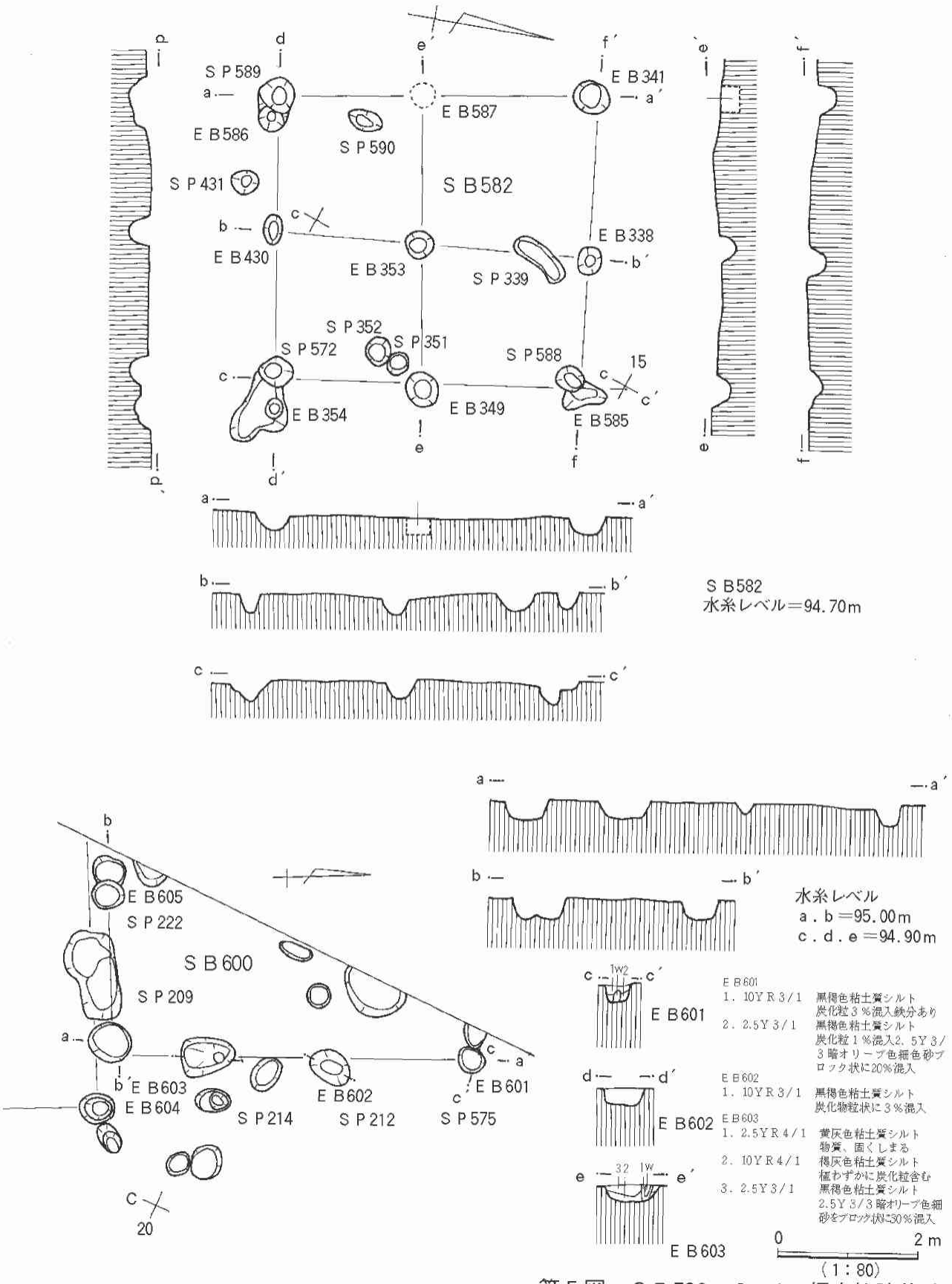
Ｂ－15区に位置する。南北軸は真北から西に8.5°傾く。平面形は南北２間×東西２間の総柱の掘立柱建物跡である。南北5.4ｍ、東西5.4ｍのほぼ正方形を呈する。柱穴間の距離は2.0ｍから2.3ｍを測る。柱穴は直径40㎝から54㎝の円形で、検出面からの深さはほとんどが28㎝前後と浅い。柱穴の覆土には炭化物を含んでいる。他の遺構との重複関係はない。ＳＢ581と同様に柱穴からの出土遺物は皆無で時期決定は難しい。グリッド出土の遺物から９世紀後半から10世紀初頭の年代が与えられる。

ＳＢ583（第６図、図版３）

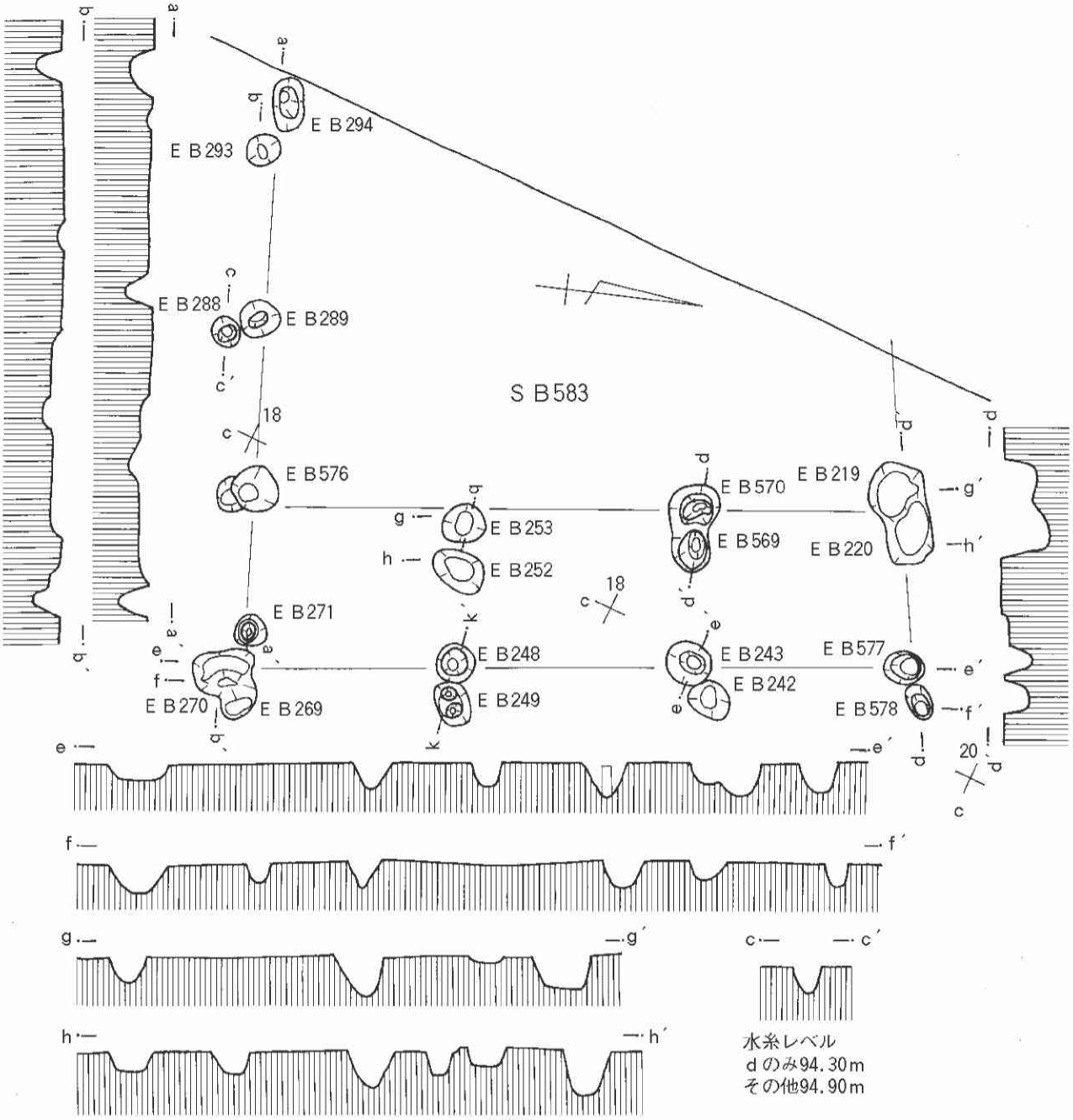
Ｂ－20区に位置する。南北軸は真北に対して西に７°傾く。平面形は南北３間、東西２間以上（調査区外に広がるため不明）と東側に庇がつく。西側は調査区外のため庇がつくかは不明である。南北8.8ｍ、東西は調査区外に広がるため不明（残存値5.2ｍ）。柱穴間の距離は2.2ｍから3.0ｍで、庇との距離はやや狭く1.8ｍから2.0ｍを測る。柱穴は直径44㎝から80㎝までばらつくが、平均直径約60㎝を測る。検出面からの深さは40㎝から60㎝を測り比較的深い。またＥＢ243は柱根が残っていた。遺構の重複については、各柱穴に隣接してもう一つの柱穴が存在しており、建て替えの結果と判断した。出土遺物は皆無で時期決定は難しい。グリッド出土の遺物から９世紀後半から10世紀初頭と判断した。

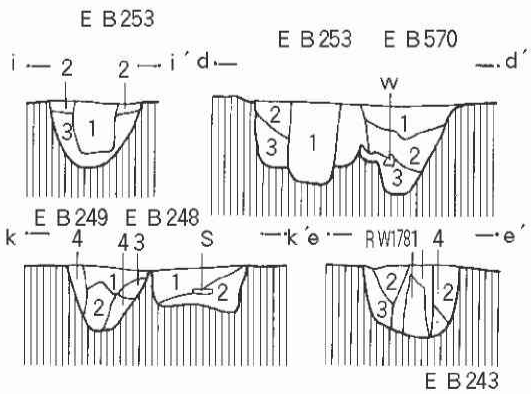


第４図　ＳＢ581掘立柱建物跡



第５図　ＳＢ582、ＳＢ600掘立柱建物跡





E D253
1. 10YR2/1 黒色シルト 炭化物をブロック状に3%、5Y3/1オリーブ黒色シルトをブロック状に10%含む
2. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト 炭化物をブロック状に5%含む
3. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト 5Y4/2灰オリーブ色、細砂をブロック状に20%含む
E B569
1. 10YR2/1 黒色シルト 炭化物を粒状に3%、7.5Y4/2灰オリーブ色、細砂をブロック状に10%含む、柱穴アタリ
2. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 炭化物を粒状に3%含む
3. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト ほぼ均質で固くしまる
E B570
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト 炭化物を粒状に3%含む
2. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 炭化物を粒状に3%含む
3. 10YR3/1 黒褐色粘土 均質、固くしまる
E B249
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 炭化物を粒状に3%含む
2. 10YR3/1 黒褐色シルト (粘質) ほぼ均質で鉄分あり
E B248
1. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト 炭化物をブロック状に5%含む
2. 10YR2/1 黒色シルト 炭化物をブロック状に3%、5Y3/1オリーブ黒色シルトをブロック状に3%含む
3. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト ほぼ均質で鉄分あり
4. 5Y3/2 オリーブ黒色細砂 10YR3/1黒褐色粘土質シルトをブロック状に20%含む
E B243
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト 均質、固くしまる
2. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト ほぼ均質固くしまる
3. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト 鉄分含む、固くしまる
4. 2.5Y3/1 黒褐色粘土 均質

0 2m
(1:80)

第6図 S B583掘立柱建物跡

ＳＢ600（第５図）

Ｂ－21区に位置する。南北軸は真北に対して５°西に傾く。平面形は南北３間、東西２間以上（調査区外のため不明）。南北5.7m、東西は調査区外のため不明。柱穴間の距離は1.4m～2.0mまで幅があり、一定ではない。あるいは柱穴の組み合わせが間違っている可能性もある。柱穴の検出面からの深さは22㎝～30㎝である。ＥＢ601・603は柱根が残っている。遺構はＳＢ583に隣接しており、その距離はほとんど重複しているといってよい。ただし柱穴の切りあい関係がないため、新旧関係ははっきりしない。またＳＤ５がＳＢ583およびＳＢ600の周りを巡っており、あるいは供伴する建物とも考えられよう。出土遺物は皆無で時期決定は難しい。ＳＢ583と同時期の９世紀後半から10世紀初頭と判断しておく。

ＳＫ１（第７・８図、図版４）

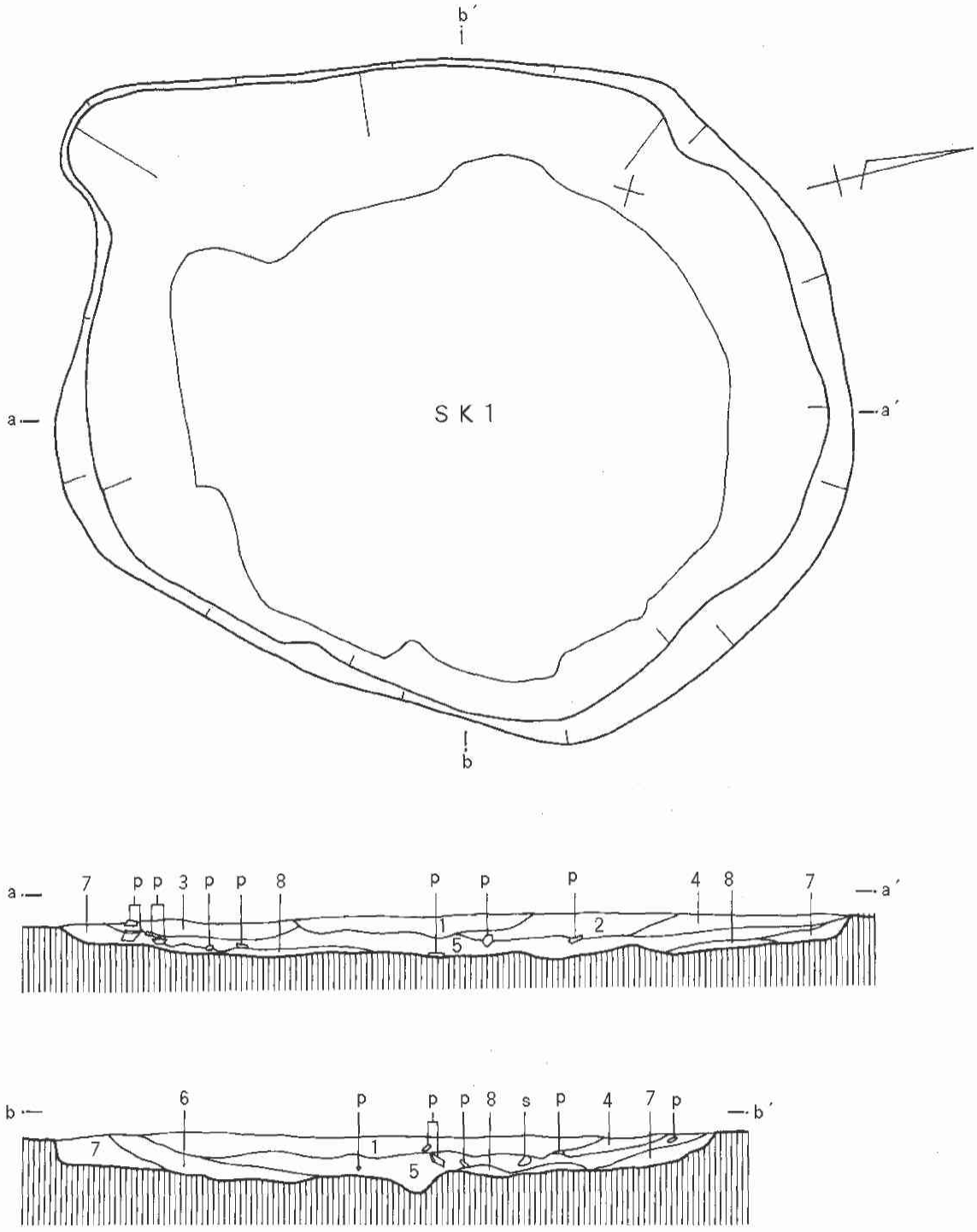
Ｄ－19区に位置する。平面形は、南北５m、東西4.1mの不整円形を呈する。検出面からの深さは最も深い場所で36㎝を測るが、大部分は26㎝前後で、底面はほぼ平坦である。立ち上がりは緩やかで、浅い擂鉢状を呈する。覆土全体に黒褐色を呈し炭化物を含む。遺物を多量に含み、報告書への掲載遺物は110点を数える。出土遺物の内訳は土師器100（坏63・高台付坏29・埚３・甕３・高台付皿１・壺１）、須恵器10（甕５・坏２・高台付坏１・蓋１・壺１）である。出土層位はほぼ第５層からの出土で一括性は高いものと考えている。須恵器の割合も約10％と低い。凡そ10世紀初頭の年代が与えられる。なお出土遺物からするとＳＫ１は土器捨て場と考えられる。覆土中に炭化物がかなり含まれることを考えれば、生活からでた有機質の廃棄物をも捨てていた可能性も高い。ＳＫ１はゴミ捨て場と考えたい。

ＳＫ２（第９図、図版４）

Ｃ－19区に位置する。平面形は南北3.2m、東西2.6mの小判型に近い不整形をなす。検出面からの深さは約22㎝で、底面はほぼ平坦である。立ち上がりは緩やかである。覆土は全体に炭化物を含む黒褐色を呈する。他の遺構との重複関係では、ＳＫ２はＳＸ238を切っている。出土遺物は比較的多く、本報告では33個体の実測図を掲載している。出土遺物の内訳は、33点中土師器が25点（高台付坏12・坏８・甕３・壺１・埚１）、須恵器８点（甕５・坏２・高台付坏１）である。土器の特徴はほぼＳＫ１出土土器と同じである。時期もほぼ同じと考える。なおＳＫ１と同様の理由からＳＫ２はゴミ捨て場（土器捨て場を兼ねる）と考えている。

ＳＫ３（第10図、図版４）

Ｃ－18区に位置する。平面形は南北2.2m、東西2.5mの不整円形を呈する。検出面からの深さは約14㎝で、底面はほぼ平坦である。立ち上がりは緩やかである。覆土は他の土坑の黒褐色堆積土と異なり灰色を呈す。発掘調査の過程で覆土第２層にテフラと思われる粘土層が層状に堆積しており分析を行った。結果は十和田ａ火山灰（ＡＤ915）や約１・３万年～１・４万年前の浅間板鼻黄色軽石あるいは浅間草津黄色軽石に由来する可能性のある火山ガラスが検出されたにとどまり、それとても同定の精度は低いとされた。他の遺構との重複関係は、ＳＢ583に切られている。ＳＫ３からは須恵器の坏が２点（うち１点は墨書土器）と、土師器の坏が１点出土している。時期は９世紀後半としておく。



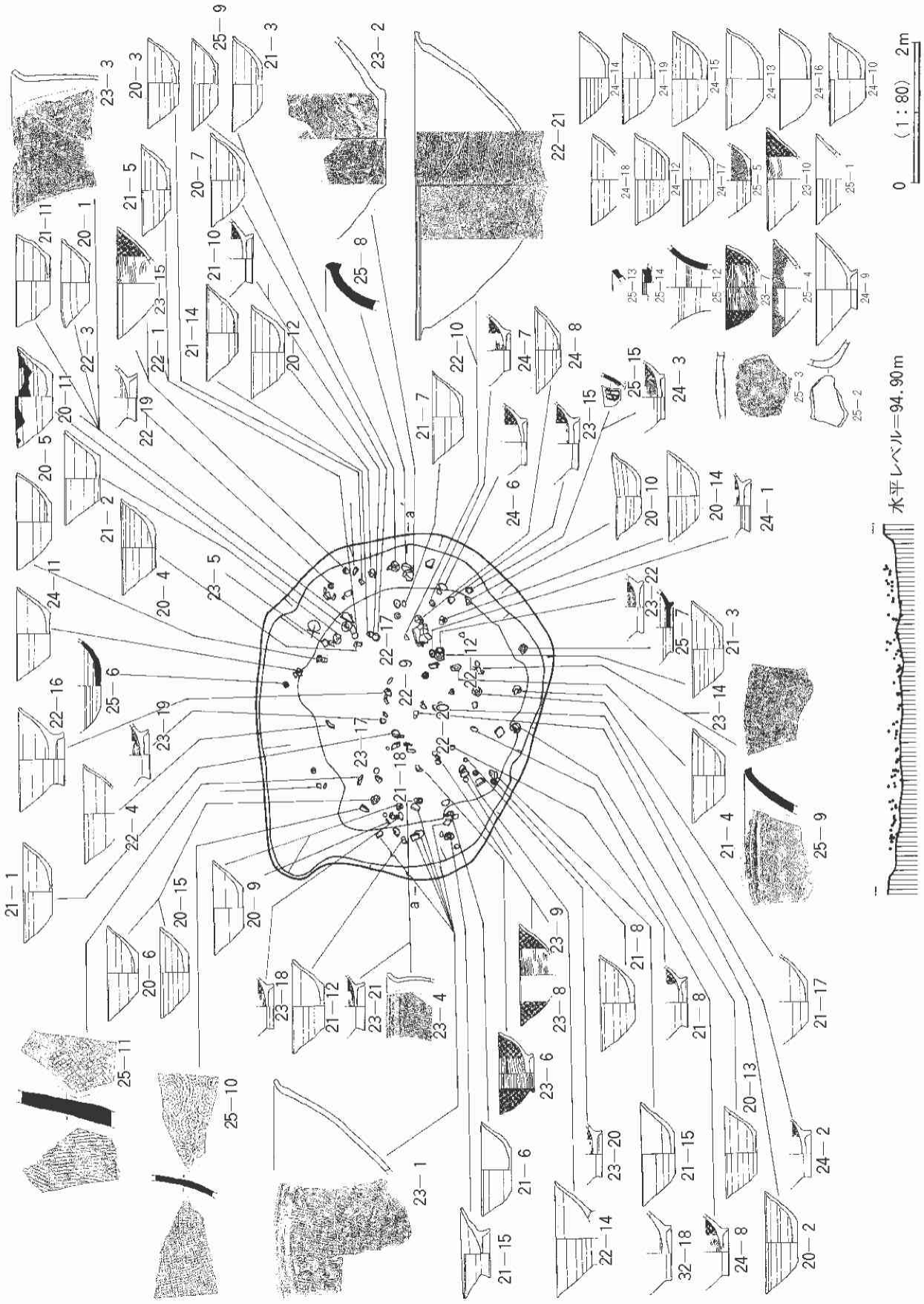
SK1

1. 10YR2/2	黒褐色粘土質シルト	炭化粒3%含む、酸化鉄含む
2. 10YR2/3	黒褐色シルト	炭化粒5%10YR3/4暗褐色シルト5%粒状に含む
3. 10YR2/2	黒褐色シルト	炭化粒5%10YR4/6褐色砂質シルトブロック状に含む
4. 7.5YR2/1	黒色シルト	均質
5. 10YR2/2	黒褐色シルト	炭化粒3%極小礫を少量含む遺物を多量に含む
6. 10YR3/1	黒褐色砂質シルト	炭化粒3%7.5YR5/1灰色細砂10%ブロック状に含む
7. 10YR4/4	褐色砂質シルト	黒褐色シルト20%ブロック状に含む2.5Y5/1黄灰色シルトが10%帯状に含む
8. 5YR4/4	オリーブ黒色砂質シルト	黒褐色シルト20%ブロック状に含む炭化粒3/2含む

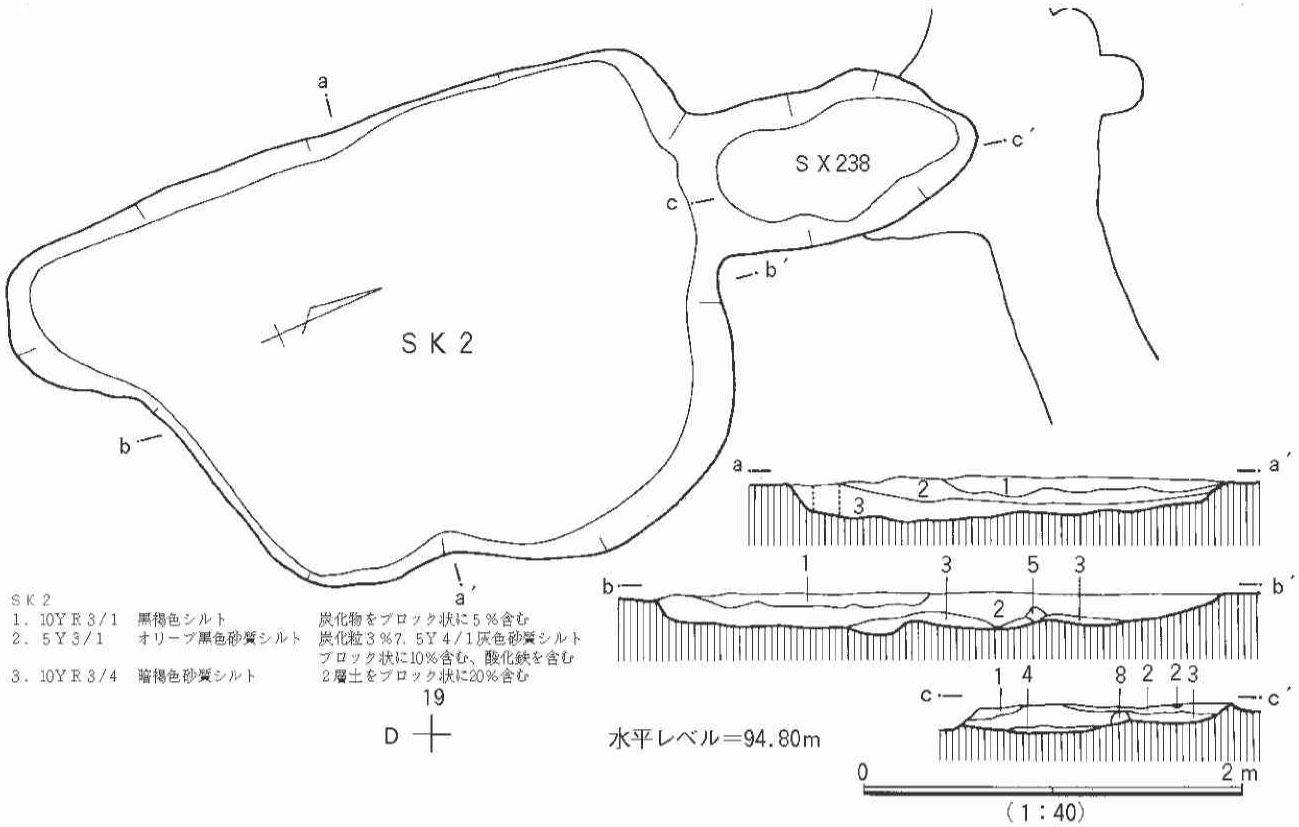
水糸レベル＝94.90m

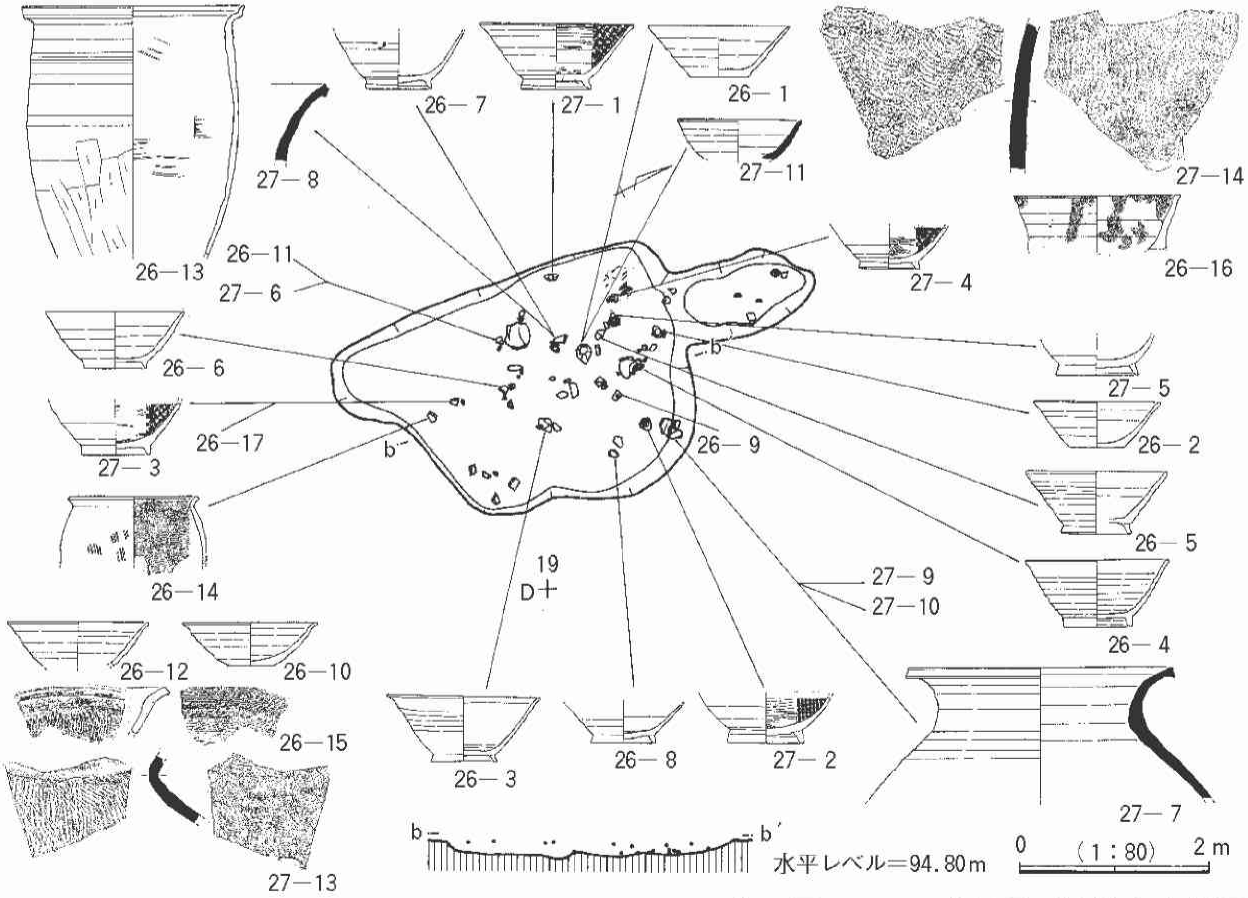
0 2m
(1：40)

第7図　SK1土坑跡

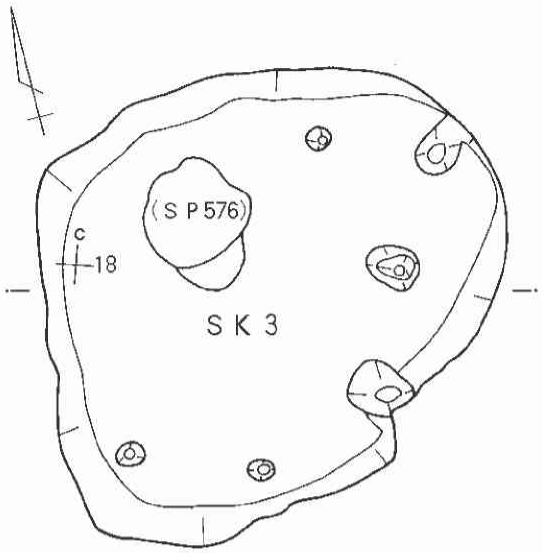


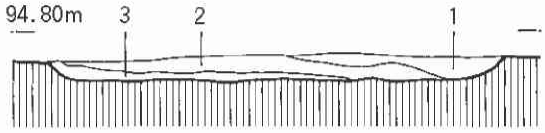
第８図　ＳＫ１土坑遺物出土状況

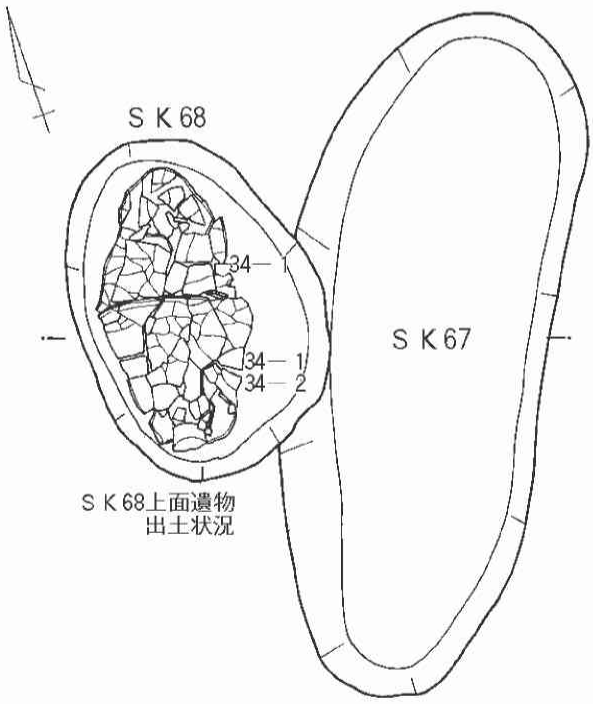




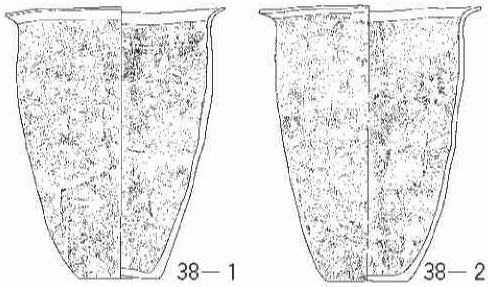
第9図　ＳＫ２土坑及び遺物出土状況

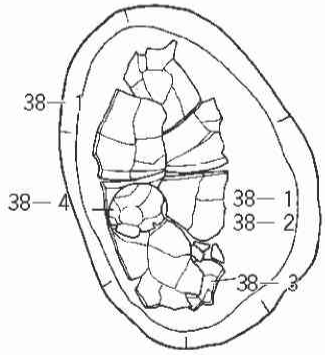






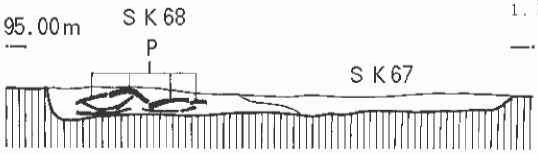
SK68上面遺物
出土状況





SK68下面建物出土状況

SK68
1. 2.5Y 3/2　黒褐色シルト　鉄分を含む、10YR 4/6褐色シルトブロック状に10%含む
SK67
1. 2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色シルト　10YR 4/6褐色シルトをブロック状に10%含む



(1：40)

第10図　SK3・SK68土坑跡

ＳＫ14（第11図、図版４・５）

Ｂ－23区に位置する。平面形は南北2.1m、東西2.3mの不整円形を呈する。検出面からの深さは20㎝で、底面は平坦である。立ち上がりは西側で急に立ち上がるが、東側は緩やかである。覆土は全体に褐灰色と明るく、炭化物を多量に含んでいる。重複関係は、ＳＤ５と連絡すると思われる溝を切っている（ＳＫ14が新しい）。出土遺物で報告書に掲載したものが39個体ある。内訳は土師器33点（坏22・高台付坏５・甕５・壺１）、須恵器６点（坏６）である。

ＳＫ68（第10図、図版５）

Ｋ－19区に位置する。平面形は南北1.8m、東西1.3mの楕円形を呈する。検出面からの深さは16㎝と浅い。底面はほぼ平坦である。立ち上がりは急である。東側を後世の畝跡ＳＫ67に切られる。合せ口甕棺が出土しており墓壙と推測される。リン・カルシウム分析の結果、地山に比べて土坑内の覆土はリン酸の含有量が高かった。墓壙であることを補強する資料である。出土遺物の合せ口甕棺を構成するのは２点の土師器甕で、実測図（第34図）でわかるようにほぼ同じ器形、容量を持つ。また両者とも底部に木葉痕を持ち、ほぼ同じように製作されている。更に供伴遺物として、合せ口甕棺の内部から出土した土師器の両黒坏と甕棺の下から出土した土師器坏がある。時期は９世紀後半から10世紀初頭を想定している。なお、ＳＫ68は調査区の東端に近いところで検出されており、遺跡の主体部からは約25m程離れた場所にある。墓域にしては他に墓壙が見つかっていないため別の意味があるように思われるが、資料不足のため不明である。

ＳＫ９（第12図）

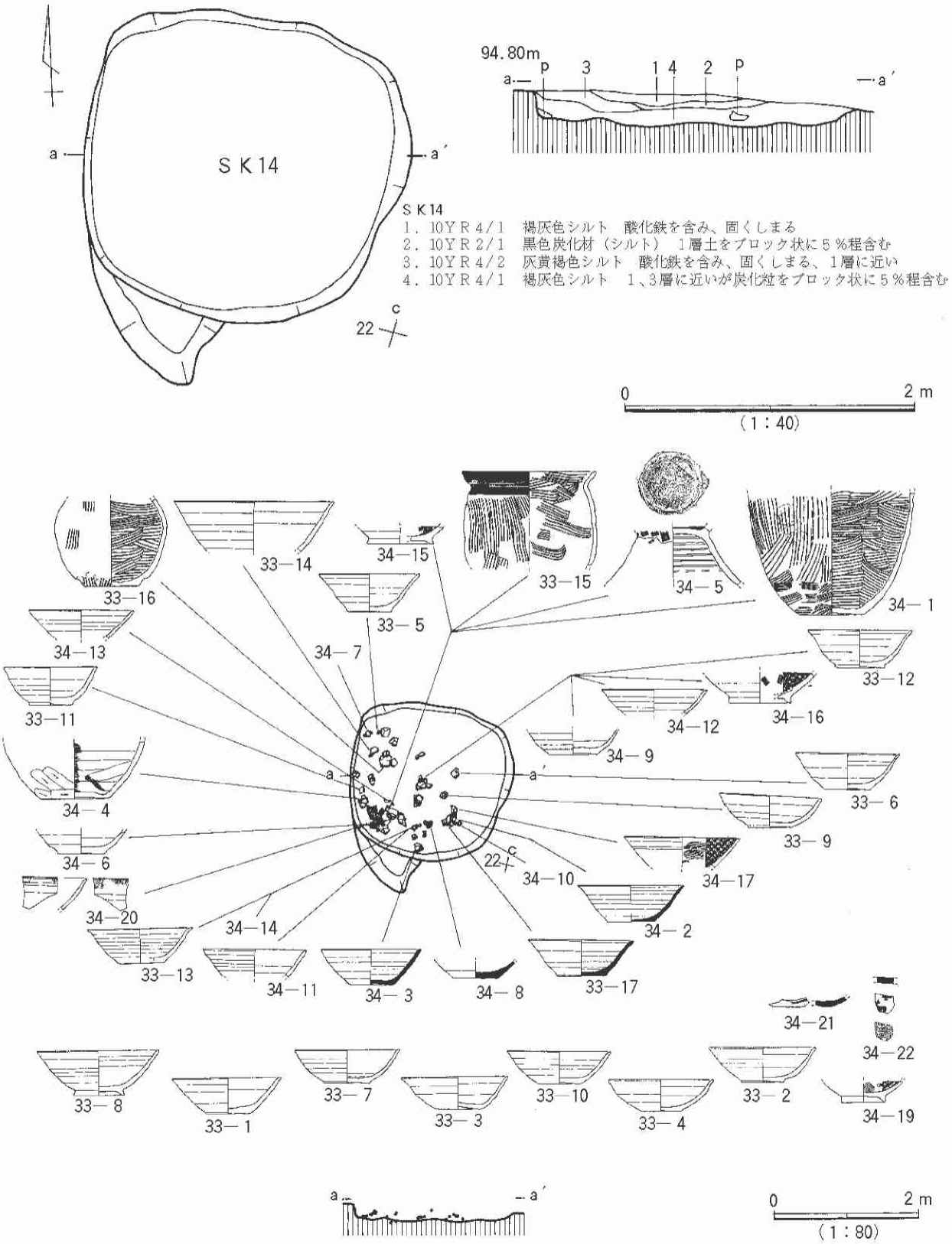
Ｈ－22区に位置する。平面形は直径約1.7mの不整円形を呈する。検出面からの深さは14㎝と浅く、底面は平坦である。立ち上がりは緩やかである。ＳＫ９からは土師器の坏と高台付坏が１点づつ出土している。破片資料のため時期決定は難しいが、９世紀後半から10世紀初頭と推測される。

ＳＫ229（第12図、図版５）

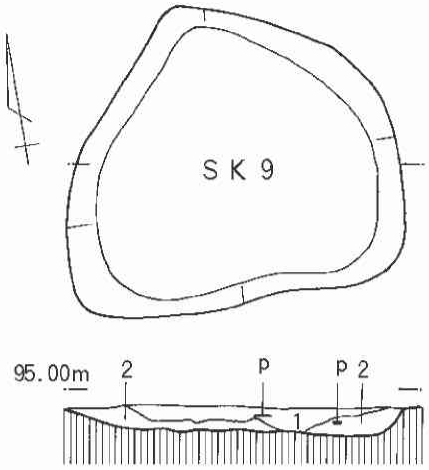
Ｄ－20区に位置する。平面形は直径約1.3mの不整円形を呈する。検出面からの深さは18㎝である。立ち上がりはやや急である。土層の堆積は自然堆積で、覆土は炭化物を含む黒褐色土である。ＳＫ229の中には柱穴跡のような痕跡があり、そこから土師器の両黒の耳皿が出土している。他にＳＫ229からは中世の青白磁の小壺蓋が出土しており、流れ込みとも考えられる。出土時の記録の不備で詳しい出土状況が不明であるが、あるいはＳＫ229自体は中世の所産で、平安時代の柱穴跡を切っている可能性も考えられる。両論を併記しておく。時期は青白磁の時期を採れば中世、土師器の耳皿の時期を取れば10世紀前後と推量される。なお青白磁の小壺の蓋は完形品で、山形県内で同形の完形品としては初である。

ＳＫ564（第12図）

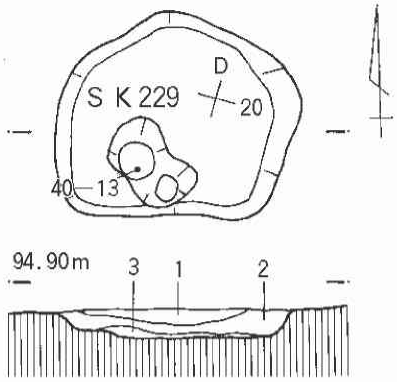
Ｉ－22区に位置する。平面形は直径約1.2mのほぼ円形を呈する。検出面からの深さは約10㎝。立ち上がりは緩やかである。土層の堆積は自然堆積で、覆土には炭化物の塊が多量に含まれている。土師器の坏３点、高台付坏２点が出土。９世紀第４四半期から10世紀初頭に比定。



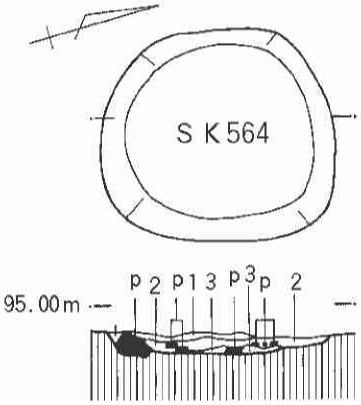
第11図　ＳＫ14土坑及び遺物出土状況



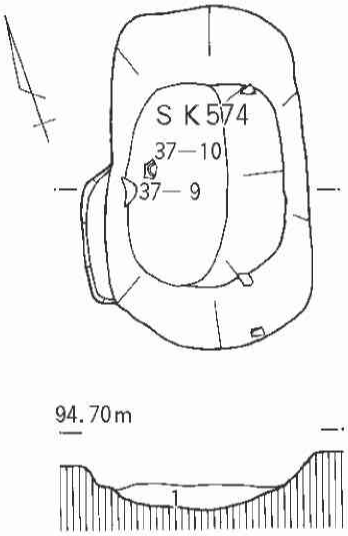
SK 9
1. 10YR2/2　黒褐色シルト　炭化物をブロック状に10%、10YR2/1黒色シルトを帯状に10%含む
2. 10YR4/1　褐灰色シルト　炭化物をブロック状に5%含むしまりなし



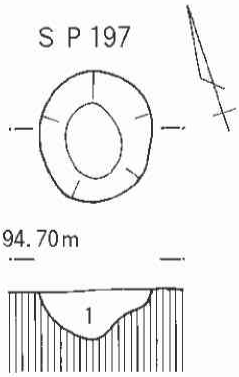
SK229
1. 10YR2/3　黒褐色シルト　炭化物を含む
2. 10YR3/1　黒褐色シルト　暗褐色土をブロック状に含み炭化物を含む
3. 5Y3/1　オリーブ黒色シルト　灰オリーブ色細砂をブロック状に含む



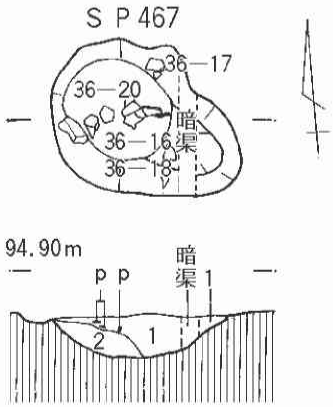
SK564
1. 10YR3/1　黒褐色シルト　炭化物を含む
2. 10YR2/1　黒色シルト　炭化物を多量に含み、黒褐色土をブロック状に含む
3. 10YR4/1　灰褐色シルト　均質しまりなし



SK574
1. 10YR4/1　褐灰色シルト　炭化粒が5%程混じる



SP197
1. 5Y3/1　オリーブ黒色粘質シルト　炭化粒を粒状に5%、10YR3/4暗褐色シルトブロック状に10%含む



SP467
1. 10YR3/2　黒褐色シルト　炭化材をブロック状に10%含む
2. 10YR2/3　黒褐色シルト　炭化物をブロック状に10%、10YR4/6褐色シルトをブロック状に10%含む

0　2m
(1：40)

第12図　土坑・柱穴遺構図

ＳＫ574（第12図、図版６）

Ｄ－14区に位置する。南北1.8m、東西１mの長方形を呈する。検出面からの深さ30㎝である。立ち上がりは急である。覆土には炭化物を僅かに含む。遺物は土師器の坏・高台付坏、須恵器の坏が出土しているが僅かである。９世紀後半に比定。

ＳＰ197（第12図）

Ｂ－22区に位置する。平面形は直径約70㎝の円形を呈する。検出面からの深さは26㎝である。立ち上がりは柱穴とすれば緩やかである。遺物は土師器坏３点で、うち１点は墨書の痕跡があるが文字は不明である。９世紀後半の所産と考えられる。

ＳＰ467（第12図）

Ｂ－12区とＣ－12区にまたがっている。平面形は直径約80㎝の不整円形を呈する。東側を現代の暗渠跡に切られる。検出面からの深さは24㎝で浅い。覆土には炭化材を多量に含む。内黒の土師器坏１点と、土師器甕の破片４点が出土している。９世紀第４四半期から10世紀初頭としておく。

ＳＤ５（第13図、図版６）

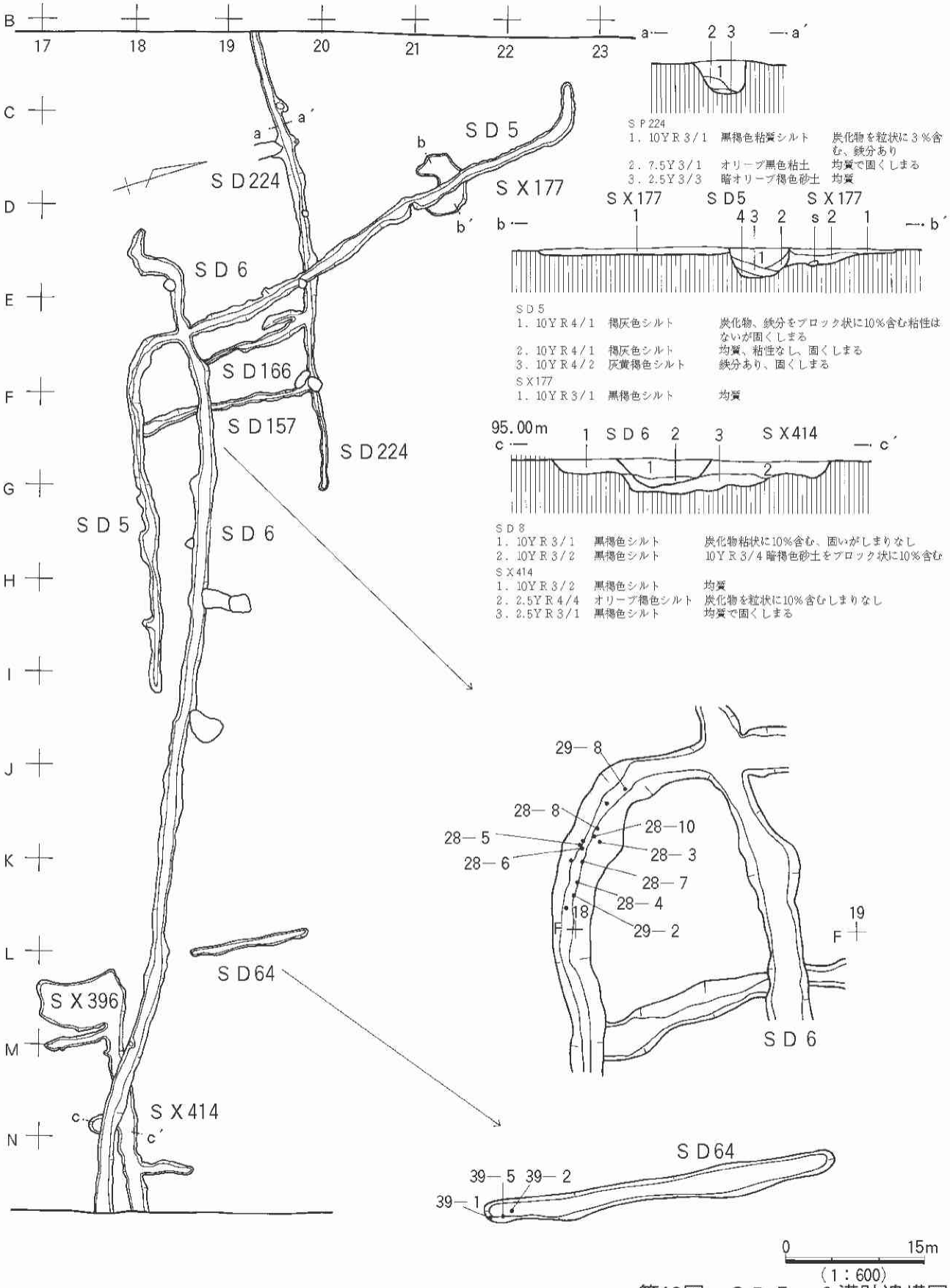
調査区の北西角のＢ－23区からＥ－19区まで調査区を斜めに南下し、その後Ｉ－19区まで東西に走る。検出面からの深さは約30㎝である。ＳＤ６との重複関係は不明だが、ＳＤ224を切っている。ＳＤ５の南北軸は、ほぼＳＢ583とその北側に位置するＳＢ600の南北軸と同じで、それら二つの掘立柱建物跡を囲んでいるように見える。あるいはＳＢ583に付属する区画溝の可能性もある。仮に区画溝とすれば、ＳＢ583付近のＳＫ１・２なども、伴に区画されていたと考えるのが自然であり、当時の住居の配置を考える上でも面白い資料といえる。出土遺物で報告書に掲載したものが32点で、土師器28点（坏15・高台付坏６・内黒の段皿１・埦３・甕２・鉢１）、須恵器４点（坏２・壺１・甕１）である。須恵器が少なく、器形の特徴から９世紀第４四半期から10世紀初頭と考えたい。

ＳＤ６（第13図、図版６）

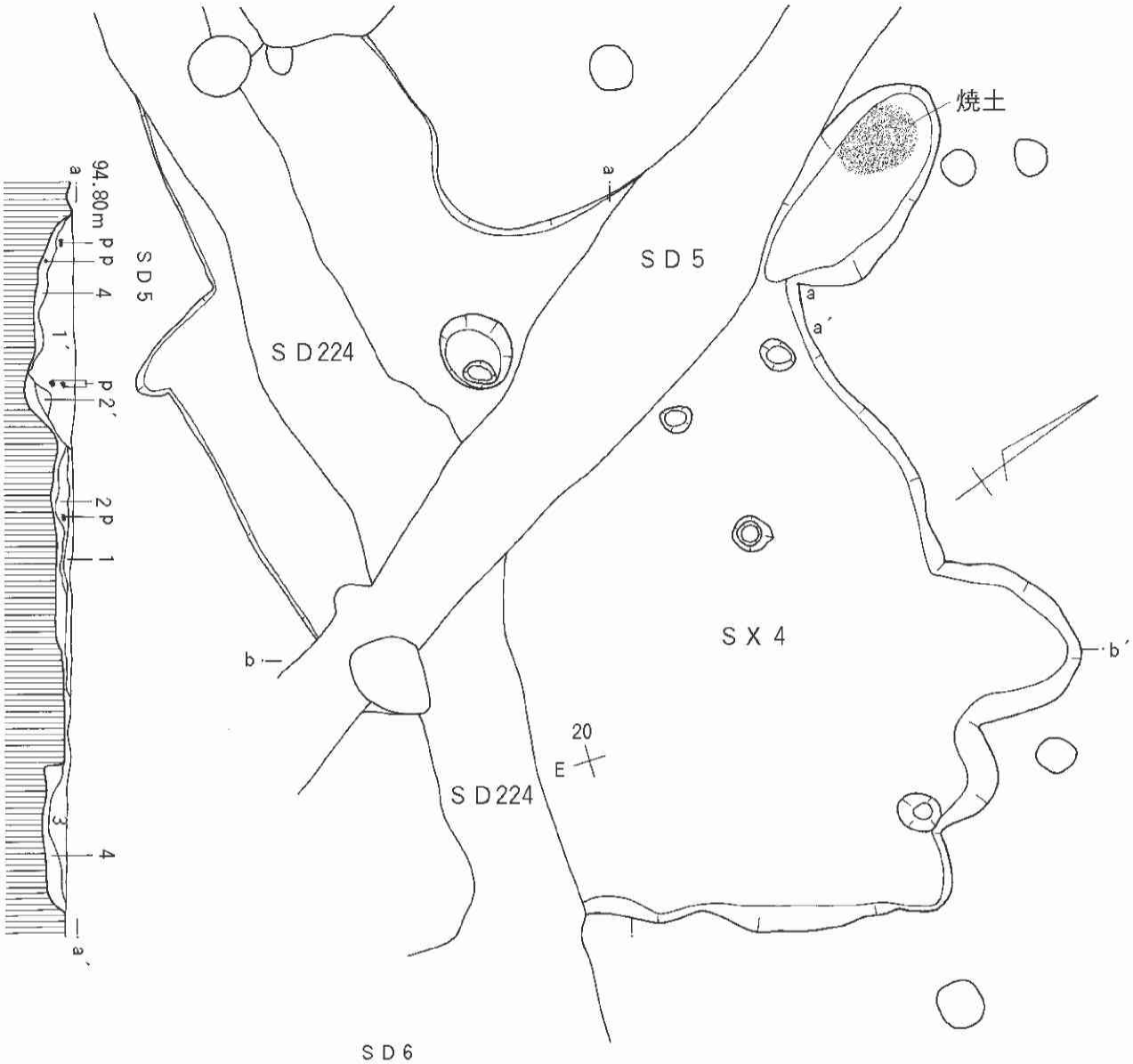
Ｄ－19区からＮ－18区まで、調査区を東西に横切る。検出面からの深さは約20㎝前後と浅い。ＳＤ５との重複関係は不明だが、ＳＤ157を切っている。出土遺物は掲載したもので須恵器坏、土師器坏および両黒の坏が出土している。やや底径が大きく、須恵器が比較的多く見られることから、９世紀第３四半期から第４四半期を中心とした年代が考えられる。

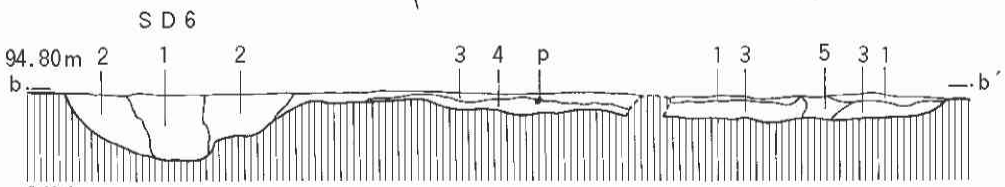
ＳＸ４（第14図、図版９）

Ｄ－21区に位置する。当初竪穴住居跡を想定して調査を行ったが、プランも不明瞭で柱穴もなかったため、性格不明遺構とした。平面形は南北約3.5m、東西約5.5mの長方形に見えるが、各辺でプランは乱れ、平面形は明確ではない。検出面からの深さは深いところで約10㎝だが、大部分は掘り込みが少なく判然としない。或いは竪穴住居跡の覆土が飛ばされ、堀方だけが残ったものとも考えたが結論には至らなかった。なお、北側には浅い掘り込みがあり焼土が見つかっている。重複関係はＳＤ５・ＳＤ224に切られている。良好な遺物は出土していない。ＳＤ５に切られることから９世紀第４四半期よりは古いと思われる。



第13図　ＳＤ５・６溝跡遺構図





SX4

1.	10YR3/1	黒褐色シルト	ほぼ均質固いがしまりなし
2.	10YR3/1	黒褐色シルト	炭化物粒状を3%含む10YR3/4暗褐色シルトをブロック状に20%含む
3.	2.5Y4/1	黄灰色粘質シルト	ほぼ均質、固いがしまりなし
4.	10YR4/4	褐色砂質シルト	極小礫を多量に含む
5.	10YR1/2	黒色シルト	10YR3/1黒褐色シルトブロック状に30%含む

SD5

1.	10YR3/1	黒褐色粘質シルト	炭化物を粒状に5%、10YR4/4褐色シルト細砂をブロック状に20%含む
2.	2.5YR4/1	黄灰色粘質シルト	均質
3.	2.5YR3/1	黒褐色粘質シルト	炭化物を粒状に3%、2.5YR4/1黄灰色細砂をブロック状に20%含む
4.	10YR3/4	暗褐色砂質シルト	ほぼ均質

SD6

1.	10YR3/1	黒褐色粘質シルト	10YR3/4暗褐色シルト、ブロック状に40%含む
2.	10YR4/1	褐灰色シルト	炭化物粒状を5%鉄分を含む

0　2 m

(1:40)

第14図　SX4遺構図

ＳＸ12（第15図）

Ｄ－17区に位置する。平面形は南北約11.2m、東西約3.6～5.6mの不整長方形を呈するが、覆土と地山の区別がつきにくく、プランも明瞭でないかったことを付記しておく。検出面からの深さが約12㎝と極めて浅い。覆土は全体に炭化物を多量に含んでいた。また覆土第３層とした層からは灰色細砂の混入が見られ、火山灰の可能性を疑い分析を行った。その結果微量の火山灰（十和田ａ火山灰ほか３種類）が検出されたものの、微量のため同定精度は高くないとの結論を得た。出土遺物は報告書に掲載したもので51点である。内訳は須恵器38点（坏29・高台付坏１・蓋３・壺３・甕２）、土師器13点（坏５・埦１・壺１・甕６）である。特記すべき点は、須恵器の比率の高さと墨書土器の多さである。12点の墨書土器が出土し、全て須恵器であった（坏11・高台付坏１）。またＳＫ１やＳＫ２に見られた土師器の圧倒的優勢に対して、ＳＸ12の須恵器の優勢は明らかに違和感がある。また須恵器は底径が大きく器高が低いものが多い。なお、器種として蓋が出土しているのはこの遺構だけである。須恵器の優位と器形からは９世紀第３四半期後半から第４四半期を考えている。最後に遺構の性格であるが、墨書土器の多さを鑑みれば、何らかの祭祀的な意味合いを持つものと考える。

ＳＸ10（第17図、図版３）

Ｎ－21区に位置する。当初竪穴住居を想定していたが、柱穴やカマド跡が見つからないことから、性格不明の遺構とした。平面形は南北2.6m、東西3.0m以上の東西に長い長方形を呈する。東側は調査区外のため不明である。検出面からの深さは16㎝～20㎝で、立ち上がりは急である。出土遺物は須恵器坏１点で、底径が大きく器高が低い。９世紀第２四半期に比定した。

ＳＸ102（第16図）

Ｊ－19区に位置する。平面形は南北4.2m、東西６ｍの東西に長い不整長方形を呈するが、プランは不明瞭である。検出面からの深さは約20㎝で、立ち上がりは緩やかである。出土遺物は須恵器９点（坏２・壺２・甕５）、土師器１（両黒の坏）である。ほとんどが破片である。出土した須恵器は底径が大きく器高が低い。９世紀第２四半期前後に比定した。

ＳＸ357（第17図、図版９）

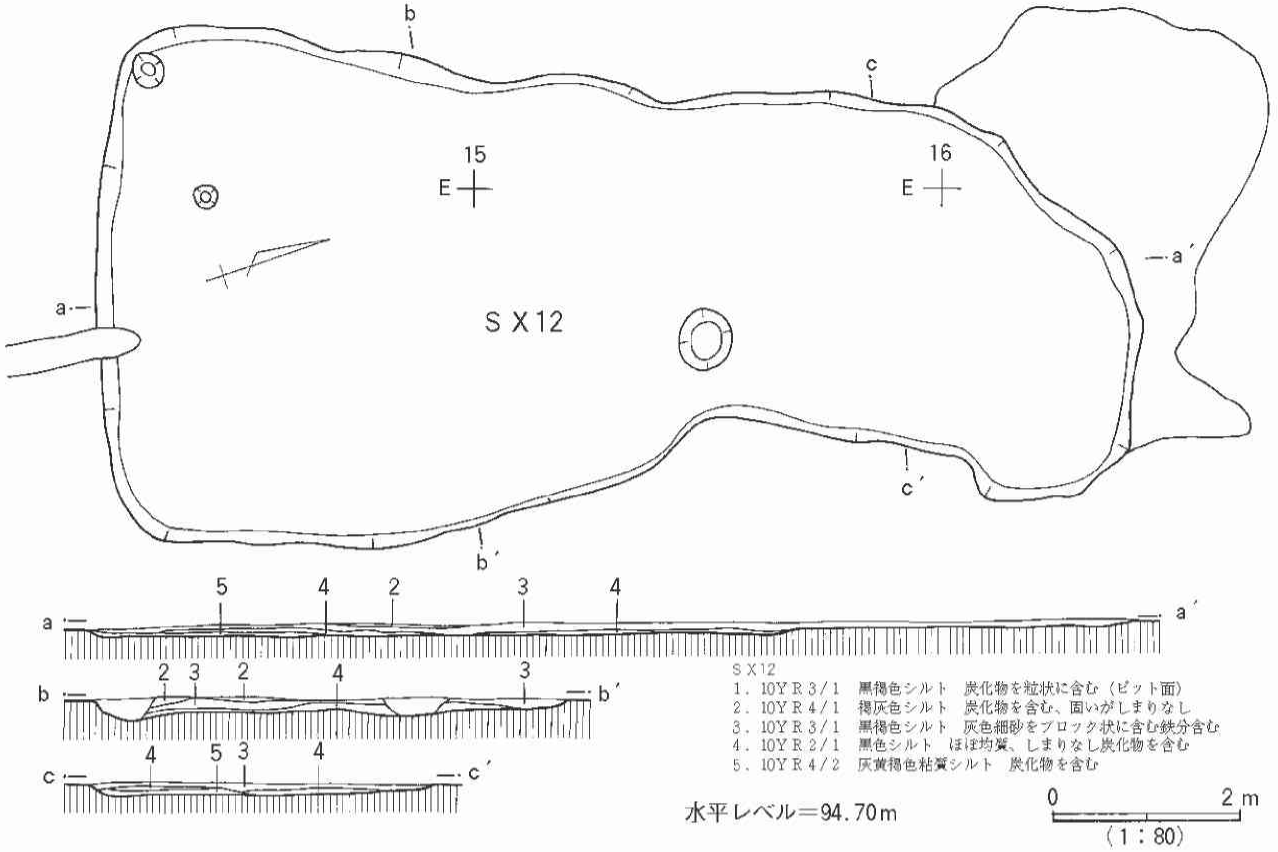
Ｃ－15区に位置する。平面形は南北1.5m、東西2.16mの東西に長い楕円形を呈する。検出面からの深さは18㎝で、立ち上がりは緩やかである。出土した遺物は、土師器の高台付坏、内黒土師器の高台付坏、土師器坏、土師器甕、須恵器の坏である。土師器坏１点に墨書が施される。時期は９世紀第４四半期か。

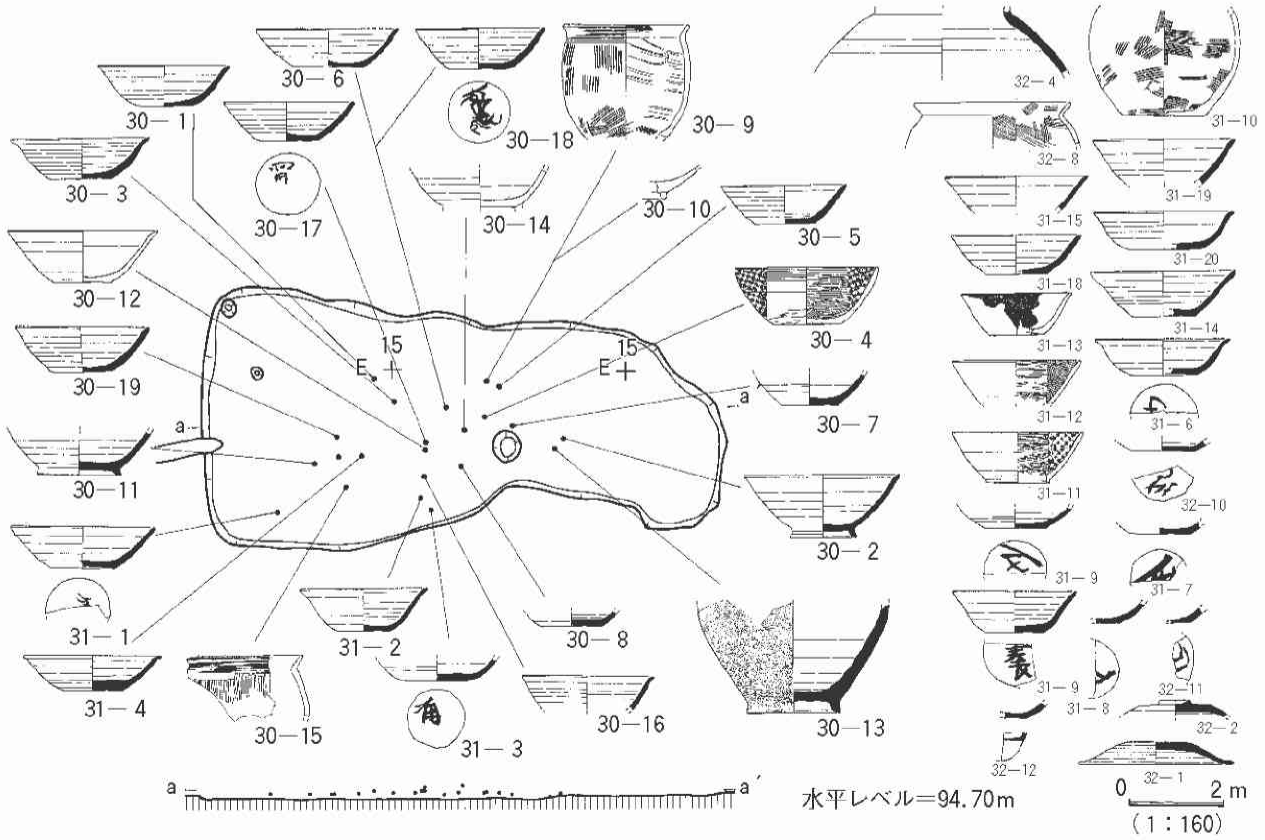
ＳＸ427（第17図、図版９）

Ｃ－14区に位置する。平面形は南北2.1m、東西2.8mの東西に長い不整長方形を呈する。検出面からの深さは約30㎝で、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは急である。出土遺物は須恵器の坏・甕と土師器の坏・甕が１点づつ出土している。時期は９世紀第４四半期前後か。

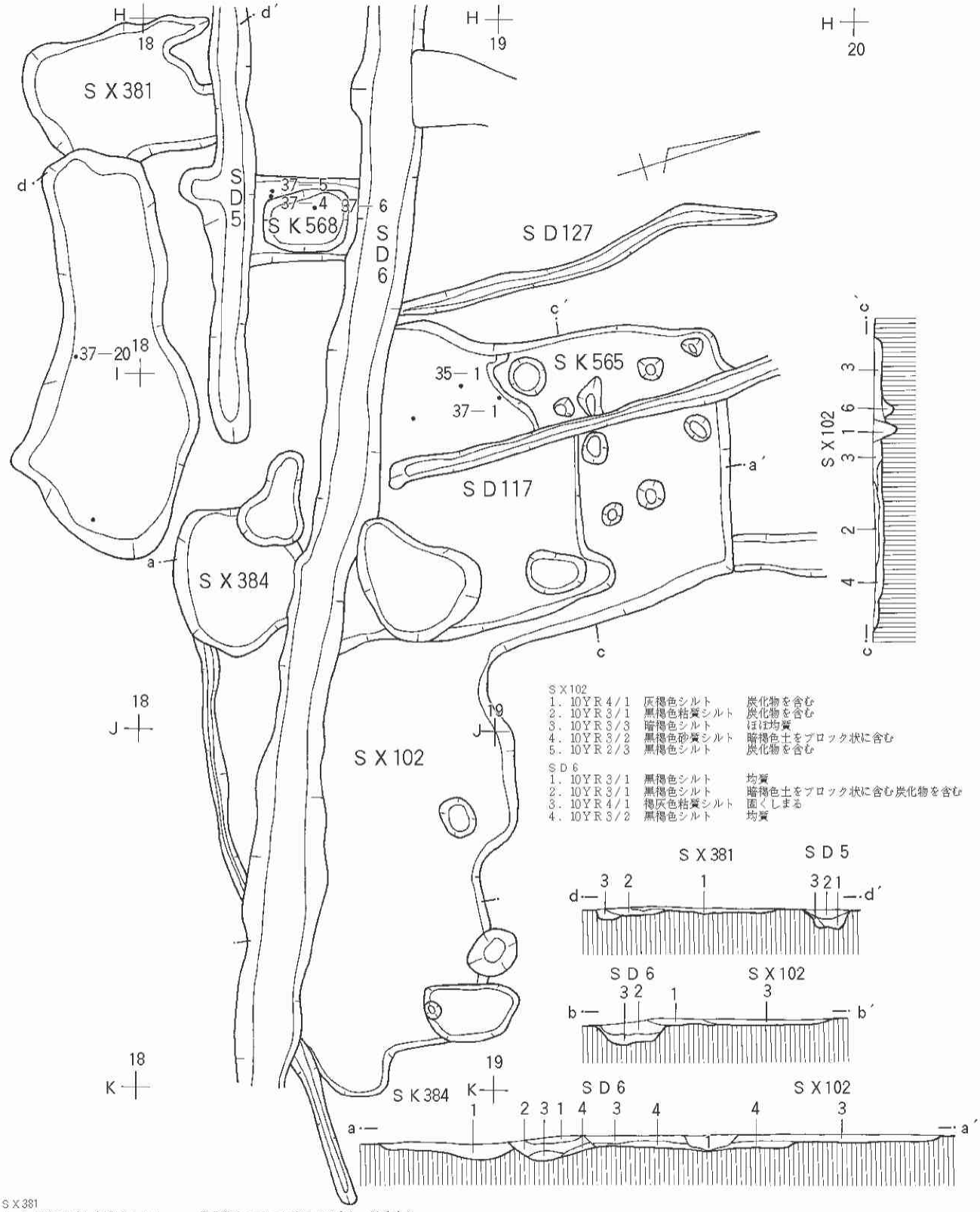
Ｍ－20（第17図、図版９）

遺構ではないが落ち込み状の部分に土師器の甕がまとまって出土しており、接合してほぼ完形に近くなったので、地点名のみ挙げておく。

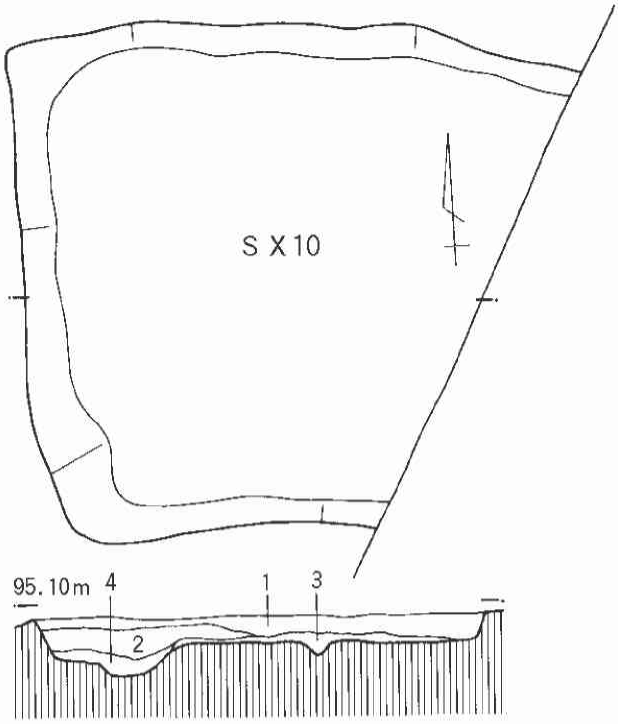




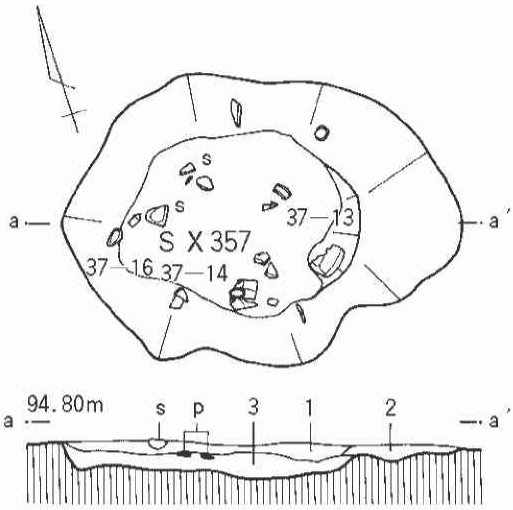
第15図　ＳＸ12及び遺物出土状況



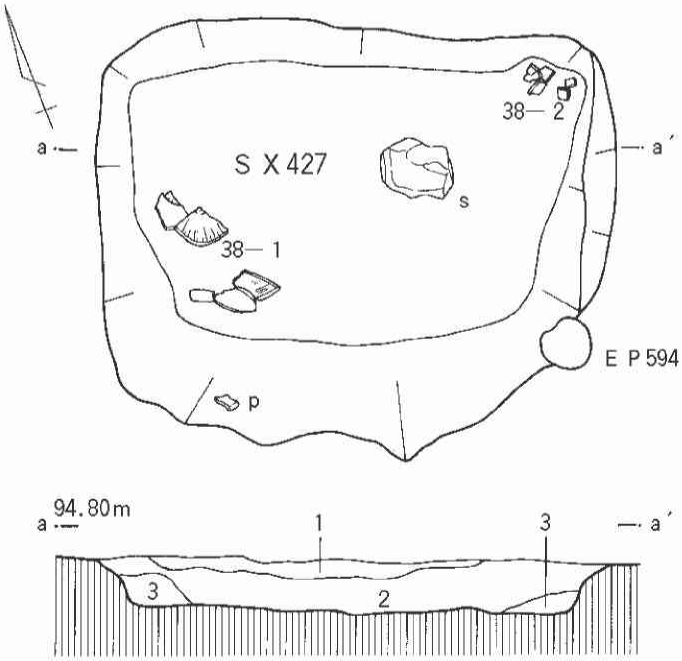
第16図 S X102他遺構図



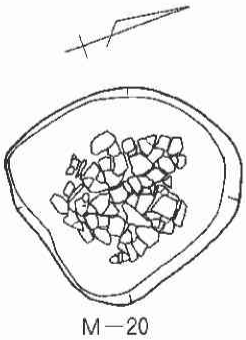
S X 10
1．10Y R 2/2　黒褐色シルト　2.5Y R 4/4 オリーブ褐色シルトをブロック状に10%含む、しまりなし
2．10Y R 3/1　黒褐色粘質シルト　ほぼ均質、鉄分を含む
3．10Y R 3/3　暗褐色シルト　均質
4．10Y R 3/2　黒褐色粘質シルト　均質



S X 357
1．10Y R 4/1　褐灰色シルト　炭化粒３%程まだらに混じる、固いがしまりなし
2．7.5Y R 4/1　灰色シルト　均質
3．10Y R 2/1　黒色シルト　1層土10%程粒状に混じる炭化粒３%程混じる



S X 427
1．10Y R 2/2　黒褐色シルト　10Y R 4/1褐灰色シルトブロックわずかに混じる
2．10Y R 4/1　褐灰色シルト　炭化粒５%程混じる
3．10Y R 2/2　黒褐色シルト　2層より若干黒みがかる



0　2 m
（1：40）

第17図　S X 遺構図

V　出土した遺物

本遺跡から出土した遺物は、包含層・遺構内出土をあわせて整理用のコンテナ45箱分である。時期的には平安時代の９世紀第３四半期若しくは第４四半期から10世紀初頭を主体とする。土器の種別では土師器が主体を占め、須恵器は１割前後でほとんどが破片である。他に土製品・石製品がある。奈良・平安時代以外では中世に属する遺物もごく僅かだが存在する。先ず奈良・平安時代の土器の年代を坏を中心に検討する。その後遺構の共伴土器から時期毎の土器の組成を検討する。なお、遺物について述べる前に、遺物の選択基準と用語の定義に触れておく。

遺物の選択基準：遺構の性格を明らかにするように、なるべく小さな遺物も実測している。特に数量的に少なかった須恵器などは、掲載した遺物より小さいな物はどれも器種が特定できないような小破片である。

遺物の計測値：表や本文中に示した遺物の計測値の中で、(　) で示した数値は残存値若しくは推計値である。残存値と推計値の違いは特別に明記はしていない。

統計に使用した資料数：法量計算を行う上で使用した資料は、口径・底径・器高が実測できるもの若しくは推計できるものに限った。３点の計測値のうち１点でも不明のものは統計資料から除外している。

口径・底径・器高・外傾度：第19図（ｐ48）に模式図を示した。底径・器高は高台の付くものについては台部の底径と、台部を入れた器高を計測値としている。外傾度は土器の主軸に対する体部の角度を表す。よって外傾度が小さいほど垂直に近く、大きいほど外に開く器形となる。なお、ここでいう外傾度は単純に口端と底部端を結んだものであり、体部の膨らみなどの要素は一切捨象している。他の報告書や論文では体部の膨らみを外傾度に反映させているものもあるが、本報告書ではその定義を採っていないことを予めお断りしておく。また高台付坏の外傾度は、高台部を含めず坏部で計測している（第19図参照）。

底径指数：「底径÷口径×100」で求められる数値。これは口径に対する底径の割合を示しており、口径を100とした場合の％を示す。

器高指数：「器高÷口径×100」で求められる数値。これは口径に対する器高の割合を示しており、口径を100とした場合の％を示す。

指数グラフ：Ｘ軸に底径指数を、Ｙ軸に器高指数を取ったグラフ。口径を100とした場合の底径と器高の割合を示したグラフ。本書で掲載したグラフは全て指数グラフである。

以上のように用語を使用している。

１　奈良・平安時代の須恵器坏・土師器坏

最初に土器の分類とその方法を、次に他遺跡との法量の比較により分類毎の時期決定を、最後に遺構の時期と土器の共伴関係を検討する。

土器の分類方法：土器分類は第１表（ｐ30）土器分類表と、第18図土器分類図（ｐ31）を参照されたい。基本的に分類の方法は器形で単純に分類している。法量による分類を行ったのが、

須恵器坏・高台坏、土師器坏・高台坏、黒色土器坏・高台坏である。これらは完形品が多く資料数が多いため可能であった。この時期の土器は時間の推移による器形変化に乏しく、器形の微妙な変化を捉えるには法量による分類が有効であると考えたためである。

法量による分類の方法は、先ず①資料の抽出を行った。次に②底径指数・器高指数を求め、指数グラフを作成した。③指数グラフ上のドット集中域を検討し仮の分類を行った。しかし法量のみではドットの集中域を他の集中域から分離することが難しいため外傾度の要素を取り入れた。集中域がうまく分離できるような外傾度を求め、これを基準として更に分類を行った。④最後に同一分類内で器形毎に分類した。よって分類基準の優先順位は、１法量（底径指数・器高指数）、２外傾度、３器形となる。

他遺跡との法量比較：他遺跡の土器の法量を検討することにより、本遺跡の時期を決定する。比較資料は山形盆地の①寒河江市の平野山古窯群第14地点１号窯跡、②同古窯群第14地点２号窯跡、③同古窯群第12地点ＳＱ33窯跡及び灰原Ｈ出土土器（報告書でいう「Ｃ群土器」）、④同古窯群第12地点ＳＧ31捨場出土土器（報告書でいう「Ｄ群土器」）、⑤山形市馬上台遺跡ＳＫ１・２・４・５土坑出土土器である。

それぞれの時期を報告書などで比定すると、①は９世紀第２四半期、②は①と近いがやや新しいものもあるため９世紀第２四半期（新）、③は報告書では９世紀第２四半期としているが、平成10年度の城柵官衙遺跡発表会資料では９世紀第３四半期に比定されている。④は報告書では９世紀第４四半期とされている。⑤は報告書では10世紀初頭とされるが、土師器の小型坏の出土しないＳＫ４と出土するＳＫ１・２・５の間に時期差が想定される。

＜須恵器坏Ａ＞

Ａ１類：法量的にも器形的にも異質であり検討から除外する。時期的には８世紀中頃を想定しているが、ここでは根拠を含めて触れない。

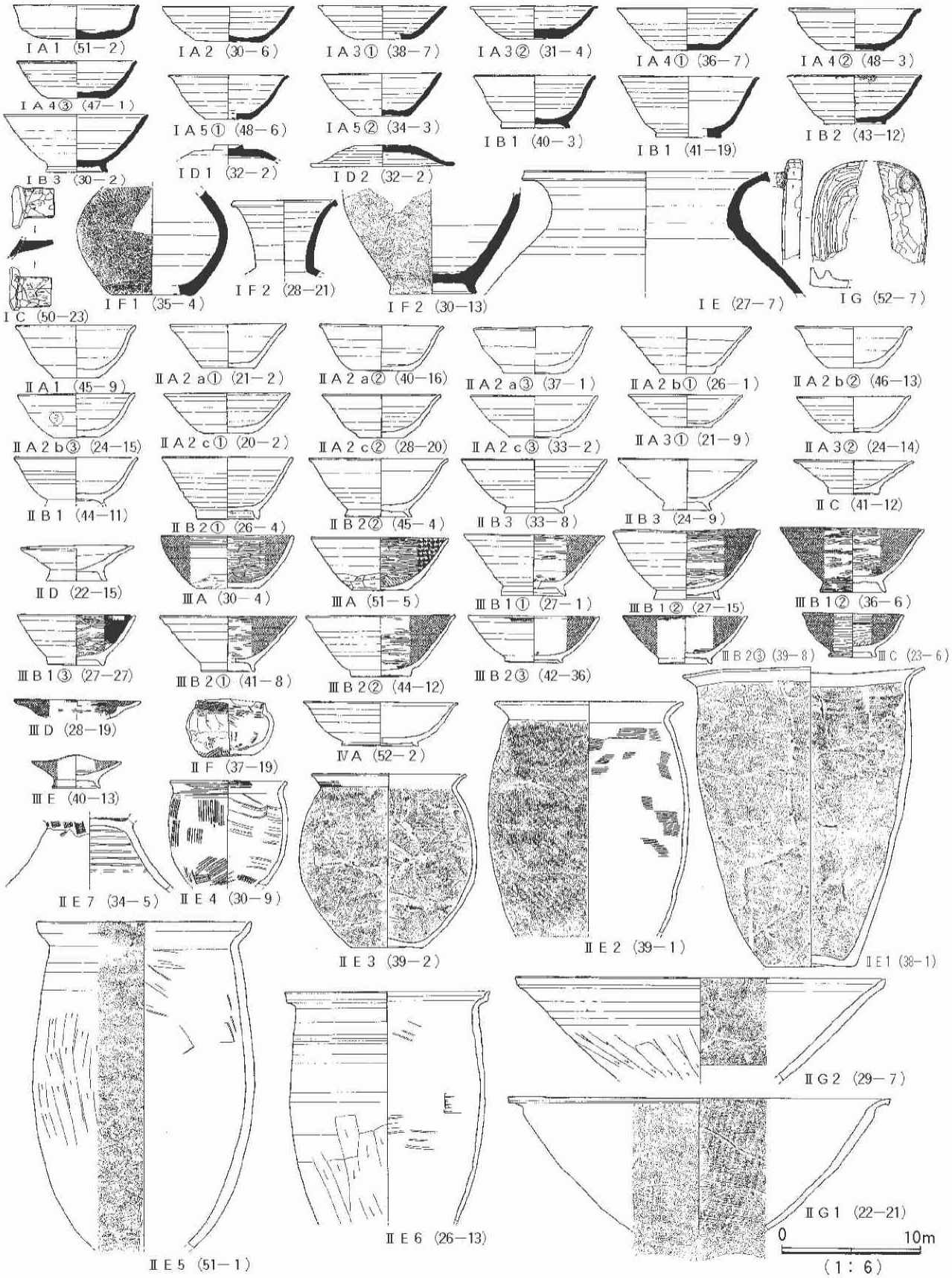
Ａ２類：法量的には③に近い。しかしＡ２類は底部回転篦切りであり、③は報告書によれば全て回転糸切りであり回転篦切りは組成しない。近い時期の資料として①・②と比較するとやや外れるが、変異の中には入ってくる。また①・②には底部回転篦切りも若干ながら存在するらしい。よって①・②の時期である９世紀第２四半期（古）に比定する。但し回転篦切りであることを考慮すると９世紀第１四半期までさかのぼる可能性も考えられる。

Ａ３類：法量的には③に近い。③よりもやや古い①・②はＡ３類よりも底径が大きく器高が低く時期差が想定される。③とＡ２類を比較すると器高はほぼ同じだが、③の方が底径に幅がある。③の時期に含まれると考える。③の時期を取り９世紀第２四半期（新）若しくは９世紀第３四半期とするが、どちらかといえば９世紀第３四半期と考えたい。

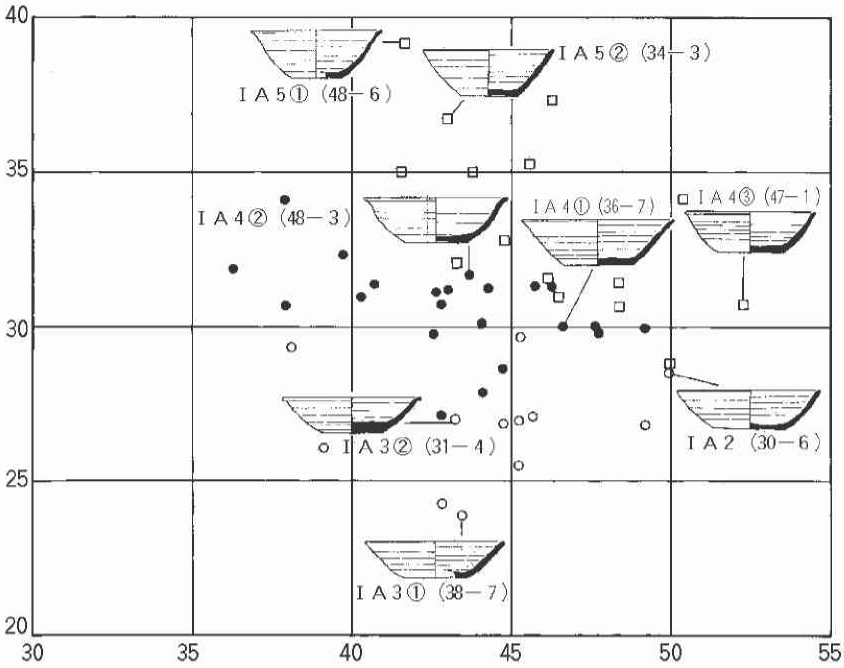
Ａ４類：底径は③と同じだが器高が指数の単位で５ほど大きい。須恵器の器高が漸次大きくなることを考えれば③よりも新しい。④の法量は底径が40前後で、器高が30～35に収まり、Ａ４類とは底径・器高共にほぼ同じである。④とほぼ同じ時期が想定されるがＡ４類の器高の分布が低いことからやや早い時期とも考えられる。③と④の間の時期と考え９世紀第３四半期（新）若しくは９世紀第４四半期（古）に比定する。

第１表　土器分類表

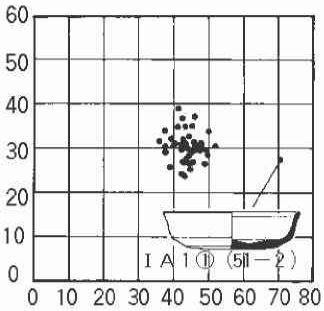
種別	器種	分類	ロクロ	底径指数	器高指数	外傾度	器形	外面調整	内面調整	底部形態	切離し
Ⅰ須恵器	A無台坏	1	使用	71	27	－	底部からの立ち上がりが直に近い。箱型。	篦ケズリ	ロクロ	平底	回転篦切
		2	使用	50	29	45	口径に比して底径・器高共に小さい。体部が内彎気味に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	回転篦切
		3①	使用	38～42	24～27	45超	口径に比して底径・器高共に小さい。体部が直線的に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		3②					口径に比して底径・器高共に小さい。体部が内彎、口縁部で外反。				
		4①	使用	40～50	30～35	40～50	やや器高が高い。体部が直線的に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		4②					やや器高が高い。体部が内彎、口縁部で外反。				
		4③					やや器高が高い。体部が内彎気味に立ち上がる。				
		5①	使用	40～50	35～40	38～43	底径が小さく、器高が高い。体部が内彎、口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		5②					底径が小さく、器高が高い。体部が内彎気味に立ち上がる。				
	B有台坏	1	使用	45超	45～50	35未満	底径・器高共に大きく、外傾度が小さい。体部が内彎し、口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	高台	回転糸切
		2	使用	45～50	40～45	35～40	器高がやや低いもの。体部が内彎気味に立ち上がるものと、内彎後、口縁部で外反するものがある。	ロクロ	ロクロ	高台	回転糸切
		3	使用	40前後	40前後	40以上	口径に対して底径が小さく、外に大きく開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	高台	回転糸切
	C 双耳坏		使用	－	－	－	耳部の破片資料のみ。	ロクロ	ロクロ	－	－
	D蓋	1	使用	－	－	－	器高が低く、平坦な天井部を持ち、口縁端部が内側に屈曲する。	ロクロ	ロクロ	－	－
		2	使用	－	－	－	器高が低く、平らな天井部で、摘みを持たない。口縁部で外反する。	ロクロ	ロクロ	－	回転糸切
	E 甕		使用	－	－	－	中型の甕。丸みを持った胴部の中位に最大径。口縁部で外反する。	ロクロ	ロクロ	－	－
	F壺	1	使用	－	－	－	無台の壺。体部中位に最大径。短頸壺か？	ロクロ	ロクロ	平底	－
		2	使用	－	－	－	有台の壺。長頸壺か？	ロクロ	ロクロ	台坏	回転糸切→菊花状
	G 硯		使用	－	－	－	風字硯。破片資料。	ロクロ	ケズリ	脚付	－
Ⅱ土師器	A無台坏	1	使用	40～48	40超	31～36	底径・器高共に大きい。体部が内彎し、口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		2 a①	使用	45～50	34～50	34～37	やや器高が低い。体部が直線的に立ち上がるもの。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		2 a②					やや器高が低い。体部が内彎、口縁部で外反。				
		2 a③					やや器高が低い。体部が内彎気味に立ち上がる。				
		2 b①	使用	37～42	33～38	37～41	2 aに比し底径・器高共に小さい。体部が直線的に立ち上がるもの。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		2 b②					2 aに比し底径・器高共に小さい。体部が内彎、口縁部で外反。				
		2 b③					2 aに比し底径・器高共に小さい。体部が内彎気味に立ち上がる。				
		2 c①	使用	35～45	30～35	41～46	更に底径・器高が小さい。体部が直線的に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		2 c②					更に底径・器高が小さい。体部が内彎、口縁部で外反。				
		2 c③					更に底径・器高が小さい。体部が内彎気味に立ち上がる。				
		3①	使用	35～45	25～30	46～52	小形の坏。器高が小さく、強く外傾。体部が内彎、口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	回転糸切
		3②					小形の坏。器高が小さく、強く外傾。体部は内彎気味に立ち上がる。				
	B有台坏	1	使用	50前後	52～56	39	底径が大きく、器高の低いもの。体部が内彎、口縁部でやや外反する。	ロクロ	ロクロ	高台	回転糸切／回転糸切＋菊花状ナデツケ
		2①	使用	45～50	40～45	33～40	底径がやや小さく、器高の高いもの。体部が直線的に開く。	ロクロ	ロクロ	高台	
		2②					底径がやや小さく、器高の高いもの。体部が内彎、口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	高台	
		3	使用	35～40	35～40	43～48	底径が極端に小さく、器高も中程度のもの。体部が直線的に開くものと内彎気味に開くものがある。	ロクロ	ロクロ	高台	
	C Ⅲ		使用	42前後	23～23	50～55	中実の台状の底部から、体部が直線的に外に大きく開くもの。	ロクロ	ロクロ		回転糸切
	D 高台付Ⅲ		使用	54	32	56	坏部の器高が極めて小さく、直線的に大きく外に開く。				
	E甕	1	不使用	－	－	－	大型の長胴甕。胴部上位に最大径。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	平底	－
		2	不使用	－	－	－	大型の長胴甕。胴部中位に最大径。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	－	－
		3	不使用	－	－	－	中型の長胴甕。体部中位に最大径。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	平底	ケズリ？
		4	不使用	－	－	－	小形の甕。体部中位に最大径を持つ。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	－	－
		5	使用	－	－	－	大型の長胴甕。体部は丸みを帯び、胴部中位に最大径。口縁部で屈曲し一旦外反するが、再び屈曲し口縁部が内彎するもの。	ケズリ タタキ	ハケメ 篦ナデ	平底	－
		6	使用	－	－	－	中型の長胴甕。体部は丸みを帯び、胴部中位に最大径。口縁部で屈曲し再び立ち上がる。	ケズリ	ハケメ	－	－
		7	使用	－	－	－	有台のものを一括した。	ハケメ	ハケメ	高台	－
	F 壺		不使用	－	－	－	小形の壺。他は破片資料のみ。	ハケメ	篦ナデ	－	－
	G鍋	1	使用	－	－	－	体部が内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反するもの。	ハケメ	ハケメ	－	－
		2	使用	－	－	－	体部がほぼ直線的に開くもの。口縁部は微妙に外反する。	ケズリ	ナデ	－	－
Ⅲ土師器＝黒色土器	A 無台坏		使用	43～48	37～42	34～38	底径に対して器高が高く、外傾度が小さい。体部は内彎気味に立上るものと、内彎後口縁部が外反するものとがある。	ロクロ／ロクロ＋ミガキ＋黒色化	ロクロ／ロクロ＋ミガキ＋黒色化	平底	回転糸切
	B有台坏	1①	使用	45～50	40～45	35～39	底径・器高共に大きいもの。体部は直線的に開く。				
		1②					底径・器高共に大きいもの。体部が内彎、口縁部で外反するもの。				
		1③					底径・器高共に大きいもの。体部が内彎気味に開くもの。				
		2①	使用	40～45	35～40	40超	底径・器高共小さいもの。体部は直線的に開く。				
		2②					底径・器高共小さいもの。体部は内彎、口縁部で外反するもの。				
		2③					底径・器高共に小さいもの。体部が内彎気味に開くもの。				
	C 高台付碗		使用	47	45	38	底径・器高共に小さい。体部が内彎しながら立ち上がる。			高台	回転糸切
	D 段Ⅲ		使用	－	－	－	体部は段を持ちながら大きく開く。			－	－
	E 耳Ⅲ		不使用				口縁部の両側を内側に折り込んでいる。			高台	？→ナデ
Ⅳ陶灰器釉	A 碗		使用	－	－	－	器高が低く、体部が内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。			台付	
	B 長頸壺		使用	－	－	－	破片資料のみ。				


ⅠA1 (51−2)
ⅠA2 (30−6)
ⅠA3① (38−7)
ⅠA3② (31−4)
ⅠA4① (36−7)
ⅠA4② (48−3)
ⅠA4③ (47−1)
ⅠA5① (48−6)
ⅠA5② (34−3)
ⅠB1 (40−3)
ⅠB1 (41−19)
ⅠB2 (43−12)
ⅠB3 (30−2)
ⅠD1 (32−2)
ⅠD2 (32−2)
ⅠC (50−23)
ⅠF1 (35−4)
ⅠF2 (28−21)
ⅠF2 (30−13)
ⅠE (27−7)
ⅠG (52−7)
ⅡA1 (45−9)
ⅡA2a① (21−2)
ⅡA2a② (40−16)
ⅡA2a③ (37−1)
ⅡA2b① (26−1)
ⅡA2b② (46−13)
ⅡA2b③ (24−15)
ⅡA2c① (20−2)
ⅡA2c② (28−20)
ⅡA2c③ (33−2)
ⅡA3① (21−9)
ⅡA3② (24−14)
ⅡB1 (44−11)
ⅡB2① (26−4)
ⅡB2② (45−4)
ⅡB3 (33−8)
ⅡB3 (24−9)
ⅡC (41−12)
ⅡD (22−15)
ⅢA (30−4)
ⅢA (51−5)
ⅢB1① (27−1)
ⅢB1② (27−15)
ⅢB1② (36−6)
ⅢB1③ (27−27)
ⅢB2① (41−8)
ⅢB2② (44−12)
ⅢB2③ (42−36)
ⅢB2③ (39−8)
ⅢC (23−6)
ⅢD (28−19)
ⅡF (37−19)
ⅣA (52−2)
ⅢE (40−13)
ⅡE7 (34−5)
ⅡE4 (30−9)
ⅡE3 (39−2)
ⅡE2 (39−1)
ⅡE1 (38−1)
ⅡE5 (51−1)
ⅡE6 (26−13)
ⅡG2 (29−7)
ⅡG1 (22−21)
0
10m
(1：6)

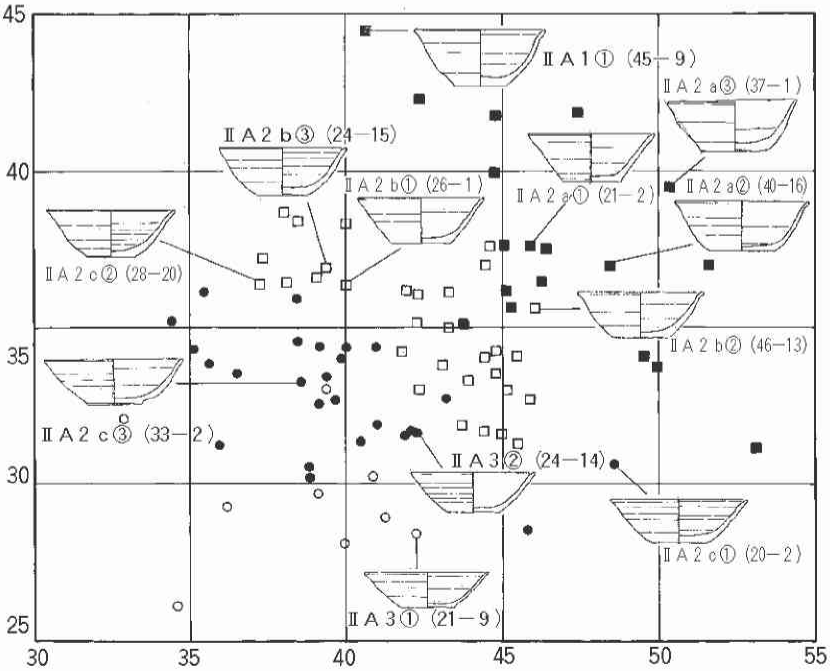
第18図　遺物分類図



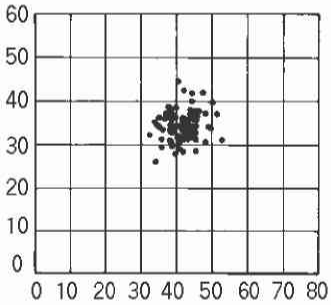
第２－２表　２－１表拡大図



第２－１表　中袋遺跡「須恵器坏」指数グラフ

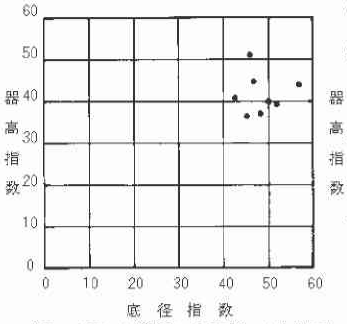


第２－４表　２－３表拡大図

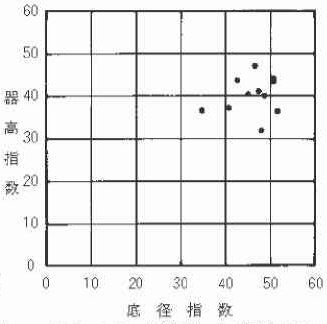


第２－３表　中袋遺跡「土師器坏」指数グラフ

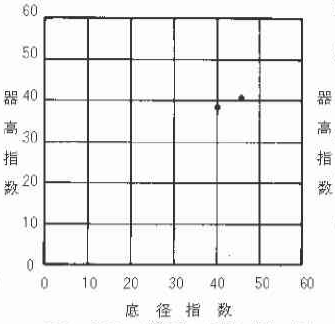
第２表　中袋遺跡　須恵器坏、土師器坏指数グラフ



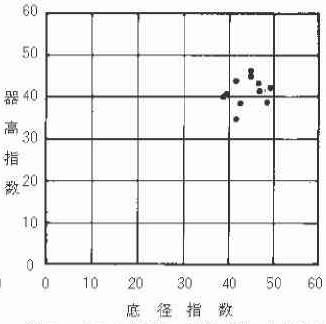
第３－１表　中袋遺跡　「須恵器　高台付坏」



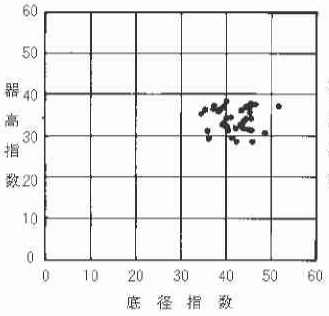
第３－２表　中袋遺跡　「土師器　坏」



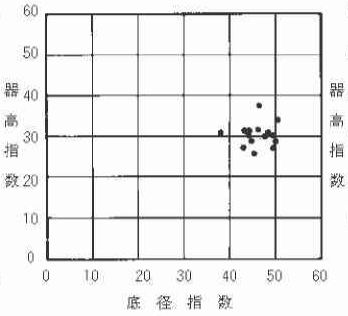
第３－３表　中袋遺跡　「黒色土器　坏」



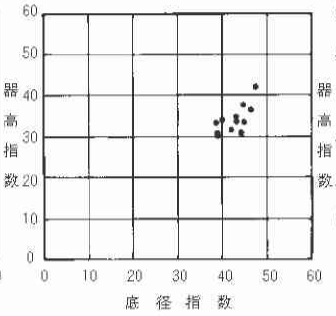
第３－４表　中袋遺跡　「黒色土器　高台付坏」



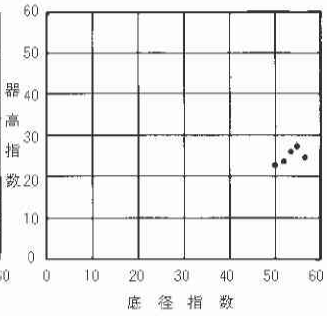
第３－５表　中袋遺跡　ＳＫ１「土師器　坏」



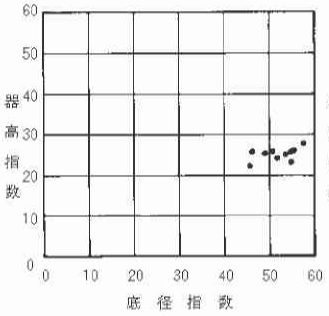
第３－６表　中袋遺跡　ＳＫ12「須恵器　坏」



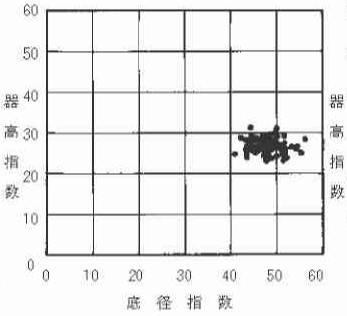
第３－７表　中袋遺跡　ＳＫ４「土師器　坏」



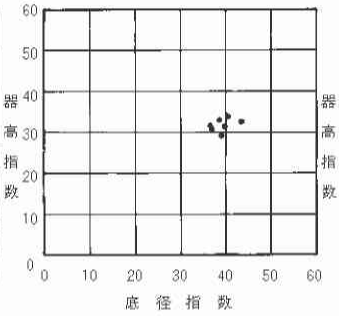
第３－８表　平野山14－１号窯跡　「須恵器　坏」



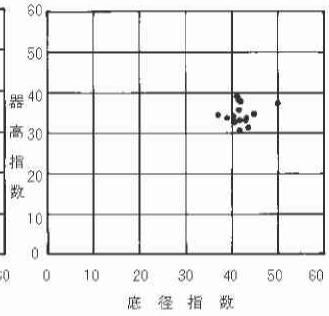
第３－９表　平野山14－２号窯跡　「須恵器　坏」



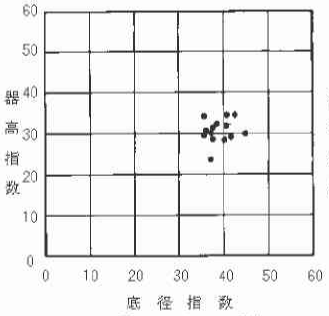
第３－10表　平野山12地点Ｃ群（ＳＧ33、灰原Ｈ）「須恵器　坏」



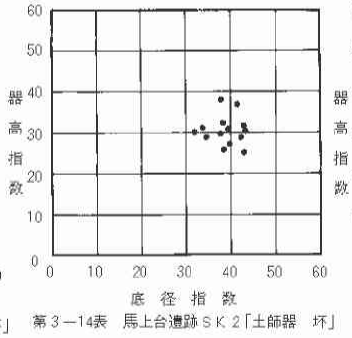
第３－11表　平野山12地点Ｄ群（ＳＧ31）「須恵器　坏」



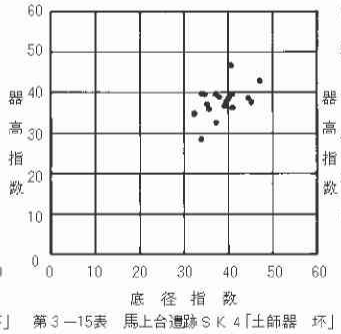
第３－12表　平野山12地点Ｄ群（ＳＧ31）「土師器　坏」



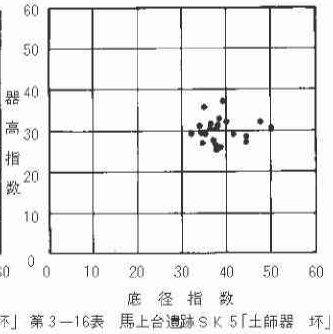
第３－13表　馬上台遺跡ＳＫ１「土師器　坏」



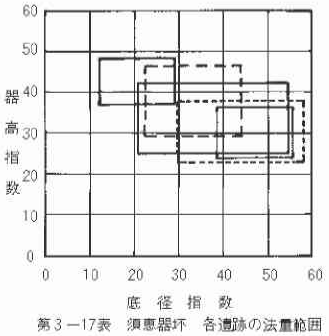
第３－14表　馬上台遺跡ＳＫ２「土師器　坏」



第３－15表　馬上台遺跡ＳＫ４「土師器　坏」



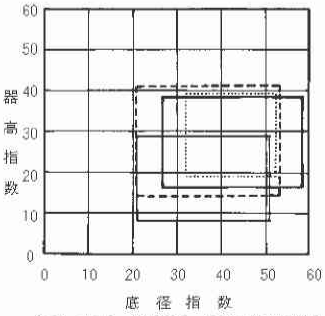
第３－16表　馬上台遺跡ＳＫ５「土師器　坏」



第３－17表　須恵器坏　各遺跡の法量範囲

第３－17表　凡例

- 平野山12地点Ｄ群（ＳＧ31）「須恵器坏」
- 中袋遺跡ＳＸ12「須恵器坏」
- 平野山12地点Ｃ群（ＳＧ33、灰原Ｈ）「須恵器坏」
- 平野山14－２号窯跡「須恵器坏」
- 平野山14－１号窯跡「須恵器坏」



第３－18表　土師器坏　各遺跡の法量範囲

第３－18表　凡例

- 平野山12地点Ｄ群（ＳＧ31）「土師器坏」
- 中袋遺跡「土師器坏」（第12－１も）
- 馬上台遺跡「土師器坏」
- 馬上台遺跡「土師器小型坏」

第３表　中袋遺跡及び他遺跡の器種別指数グラフ

Ａ５類：底径が④よりもやや大きいが、器高は指数の単位で５ほど大きい。よって、Ａ５類は④よりも新しいと判断した。④より新しいことから10世紀初頭も十分に考えられるが、須恵器坏が存在することを考えるとまだ９世紀代に入る可能性がある。よって９世紀最終末期から10世紀初頭としておく。

＜土師器坏Ａ＞

Ａ１類：底径・器高共に大きく古い要素を持っている。ただし山形盆地ではロクロ成形の土師器坏出現期にあたる９世紀第２四半期から第３四半期の資料が少なく厳密な意味では比較できなかった。④と比較するとＡ１が底径・器高共に大きく、④の時期よりは古く、９世紀第２四半期から第３四半期に比定される。

Ａ２ａ類：器高は④・⑤ＳＫ４と同じだが、底径が指数の単位で５程大きい。ばらつきの範囲とすれば④・⑤ＳＫ４と同じ時期、そうでなければやや古い様相を持つ。

Ａ２ｂ類：④・⑤ＳＫ４と同じ傾向を示す。よって④・⑤ＳＫ４と同じ時期に比定される。

Ａ２ｃ類：④・⑤ＳＫ４よりも底径・器高共に低く、⑤ＳＫ１・２・５に近い。

法量的には④及び⑤ＳＫ４は同じ範囲にまとまるが、或いは９世紀第４四半期と10世紀初頭の土師器坏にはあまり大きな変化はないのかもしれない。ここでは９世紀第４四半期から10紀初頭に比定しておく。但し土師器坏Ａ２ｃ類はより新しい様相を示す。

Ａ３：⑤ＳＫ１・２・５と同じく底径・器高共にやや小さい。⑤報告書でいう小型坏にあたる。底径・器高の縮小化が一層進行している。⑤ＳＫ１・２・５の範囲に等しく、小型坏の出現期として10世紀第１四半期から第２四半期に比定される。

遺構毎の出土状況：遺構単位でどの分類の土器が共伴するのかをここでは検討する。検討の対象となる遺構は、ある程度の一括性が保証され、かつ出土土器点数が多いものとなる。この条件を満たす遺構はＳＫ１・２・14・68・ＳＸ12の僅か５基に過ぎない。全て土坑類である。

ＳＫ１：須恵器は全て破片資料で、器種も壺・甕に偏る。須恵器の坏・高台付坏は１点づつで全形も不明である。須恵器の供膳形態が組成するのかも疑われる。土師器供膳形態は坏Ａ２、Ａ３類の各細分の土器が出土している。他に土師器では高台付坏Ｂ３類（22－16、24－９）、高台付碗（23－６・７）、高台付皿（22－15）がある。黒色土器では坏はなく、高台坏Ｂ２類（23－８・10）が共伴する。煮沸形態の土師器では甕Ｅ６（23－３）、堝Ｇ１（22－21）がある。土器の斉一性が強く、ほとんど時期幅を想定しない。10世紀初頭（第１四半期）としておく。

ＳＫ２：須恵器は全て破片資料で数も少ない。壺・甕が主である。土師器の供膳形態では坏が少なく、高台付が多い。土師器は坏Ａ２ｂ類（26－１・２）、Ａ３類（26－10）、高台付坏Ｂ２類（26－３・４・５）が出土している。ＳＫ１のような極端に底径・器高が小さく、大きく外に開く土師器高台付坏Ｂ３類は共伴しない。黒色土器坏はなく高台付坏Ｂ１類（27－１・15）が共伴する。器形的にも土師器高台付坏に近い。煮沸形態では土師器甕Ｅ５（26－13）・Ｅ６（26－・14）が出土している。ＳＫ１とほぼ同じ時期と考えたいが、須恵器が組成することからやや古い。土師器坏Ａ３類の時期を取れば10世紀初頭以降となるが、Ａ３自体が少なく土師器高台付坏Ｂ２類に主体があり、大きく下ることはない。よって10世紀直後としておく。

ＳＫ14：須恵器坏はＡ５類が３点出土している（33－17、34－２・３）。須恵器で器形の判別できるものが比較的多いものの基本的に少ない。土師器供膳形態では坏がＡ１～Ａ２類まで満遍なく出土している。但しＡ１類はやや異質である（33－11・13）。主体はＡ２ｂ類（33－５・６）、Ａ２ｃ類（33－１・２・４・７・９・10・13）である。また土師器の小型坏であるＡ３類が組成しない点は重要である。遺構の時期の下限が10世紀初頭より下らないことを意味する。土師器高台付坏はＢ３類（33－８）が出土している。黒色土器は破片資料のみである。土師器の煮沸形態ではＥ３（34－１）・Ｅ４（33－15・16）・Ｅ７（34－５）が出土している。全体に見て土師器坏Ａ１は特異だが、土師器坏の時期から凡そ９世紀第４四半期から10世紀初頭に比定される。但し数は少ないが須恵器が存在することから10世紀まで下らず９世紀末としておく。

ＳＫ68：合せ口甕棺が埋設された墓壙であるが、一括性があるためここで触れる。出土した土器は、甕棺の本体である甕２点と甕棺内部に内蔵されていた土師器１点、そして甕棺の下から出土した黒色土器１点である。甕は非ロクロ調整の土師器で分類のＥ１類である。土師器坏はＡ１類が１点である（38－４）。黒色土器はＡ類である（38－３）。坏類の検討から９世紀第３四半期から第４四半期に比定される。黒色土器の坏があり高台付坏がないことや、須恵器のないことも重要だが、資料数が少ないことから、須恵器が全く組成しないとするには根拠に乏しい。よってここでは時期的には幅を持たせておく。

ＳＸ12：須恵器が主体をなし、須恵器坏Ａ３類（31－１・４・６）、Ａ４類（30－１・３・５・18、31－２・14・17・18）、Ａ５類（30－19・31－５）まで出土しているが、出土数からするとＡ３類が主体を占める。他に須恵器高台付坏Ｂ３類、蓋Ｄ１・Ｄ２類、甕Ｅ類、壺Ｆ２類、土師器坏Ａ２ｃ類、甕Ｅ４類が出土している。また底部切り離しが回転篦切りによる須恵器坏Ａ２類（30－６）が出土している点も看過できない。須恵器坏からすると９世紀第２四半期から９世紀第４四半期まで時期幅がある。須恵器高台付坏Ｂ４類も時期的には新しく、９世紀第４四半期に比定される。土師器坏は先の検討で９世紀第４四半期から10世紀初頭については法量的に大きな変化がつかめないことがわかっており、土師器坏Ａ２ｃ類が９世紀第４四半期に存在しても良い。また集落跡では登り窯などの生産遺跡と異なり単純な形での土器の一括性は期待できない。廃棄時期が一緒でも伝世などにより他時期の土器の共伴がありえるからである。よってＳＸ12については廃棄時期を最も新しい土器群の時期を採り９世紀第４四半期とするが、９世紀第２四半期から９世紀第３四半期の資料も混在する可能性を否定できない。

２　奈良・平安時代のその他遺物

ここでは前項で触れなかった遺物の中で説明の必要なものについて述べる。

須恵器

＜須恵器高台付坏Ｂ＞須恵器の高台付坏は、法量による分類を行っているが資料数が少なく、他遺跡との法量の比較による時期の比定には至っていない。全体に10世紀まで下らない。

Ｂ１類：３点のみである（40－８・41－19・44－８）。外傾度が小さく、坏身の深いもの。

本遺跡では古手に属する。

Ｂ２類：４点のみである（37－20・41－14・43－12・47－17）。器高がＢ１類よりも小さくなり、外傾度も大きくなる。やや新しい。

Ｂ３類：１点のみである（30－２）。底径が小さくなり、外傾度も極めて大きく、外に大きく開く。須恵器としては９世紀第４四半期まで下がる可能性がある。

＜須恵器硯Ｇ＞硯類は３点出土している（52－７・８・９）。全て風字硯である。52－７はＳＸ375出土で、内外面ともに箆ケズリ調整される。底部には脚がつく。内面の陸部と海部の境界には仕切りがなされている。52－８はＭ－17区（旧河川跡）出土で、内外面共に箆ケズリ調整されるが、52－７のように仕切りはなく、陸部と海部の境界も判然としない。

土師器

＜土師器高台付坏Ｂ＞土師器の高台付坏は法量で分類はしているが、資料数が少なく、他遺跡との法量比較は出来なかった。９世紀第２四半期以降と考えているが、資料が少ない。

Ｂ１類：２点のみである（44－11・46－18）。底径が大きく器高の小さいもの。古手に属する。

Ｂ２類：７点ある（22－16・26－３・４・５・６・37－14・45－４）。底径が小さく外傾度が大きい。ＳＫ１・２からの出土より９世紀の最終末から10世紀初頭の時期が与えられる。

Ｂ３類：２点のみである（24－９・33－８）。口径は大きいが、底径・器高が共に小さく、外傾度が極めて大きい。ＳＫ１・14からの出土を考えるとＢ２類と大きな時間差はないようだが、器形的には大きく異なり、より新しい様相ととらえたい。

＜土師器皿Ｃ＞２点のみの出土である（41－５・12）。小形の土師器坏に似るが、より外傾度が大きい。底部は台付ではないがかなり厚めで、後世の柱状高台を思わせる。新しい様相か。

＜土師器高台付皿＞１点のみの出土である（22－15）。器形的には土師器皿Ｃに似る。但し底部に台がついている。ＳＫ１からの出土で土師器皿同様に新しい様相ととらえたい。

黒色土器

黒色土器は全般に数が少ない。坏と高台付坏に分けられ、坏は古手の土師器に似る。坏はＳＫ１・２・14等には組成しないため、10世紀前後には廃絶するのかもしれない。これに対して高台付坏は10世紀前後には黒色土器の主体となる。黒色土器の坏と高台付坏は時期・系統が異なり、その性格についても考慮する必要がある。黒色土器では他に灰釉陶器の模倣と疑われる段皿や耳皿も出土している。黒色土器高台付坏、特に内外面を丁寧なミガキ調整後に黒色処理する両黒の土器は、その制作技法が黒色土器の耳皿や段皿に共通しており、灰釉陶器や緑釉陶器の模倣とも考えられる。

＜黒色土器坏Ａ＞２点のみの出土である（30－４・51－５）。破片資料では坏か台付か判断できないものもあったが、大部分が台付と判断した。ロクロ成形であるが、内面ミガキ調整後黒色処理される。30－４はＳＸ12出土で、ＳＸ12の中でも古いものと考えられる。

＜黒色土器高台付坏Ｂ＞

Ｂ１類：７点出土している（27－１・15・31－11・36－６・37－27・39－７・41－20）。底径・器高共に大きいもの。外傾度が小さい。やや古い。体部の立上りが直線的なものと、内彎

気味に立上り口縁部で屈曲するもの、内彎気味に立上り口縁部に至るものに細分される。

Ｂ２類：６点出土している（23－８・10・39－８・41－８・42－16・44－12）。底径器高共にＢ１類より小さい。結果外傾度が大きく、外に大きく開く器形となっている。Ｂ１同様に器形により３分される。

＜黒色土器段皿Ｄ＞１点（28－19）がＳＤ５から出土している。ロクロ成形で内外面ともミガキ調整後、黒色処理される。体部中位で段がつく。底部は欠損しているが恐らく高台がつく。

＜黒色土器耳皿＞１点（40－13）のみで、ＳＫ229出土である。内外面共にミガキ調整後黒色処理される。

灰釉陶器

＜灰釉陶器碗Ａ＞灰釉陶器の碗は４点出土している（52－２・４・５・６）。全て破片資料であるが、52－２のみ全形が伺える。全体に厚手で、体部は内彎しながら立ち上がり口縁部で強く外反する。口縁端部は水平に近い。高台は低く僅かに外に開く角高台である。底部及び体部に回転篦削りが施される。内面は灰釉が施される。猿投Ｋ－14の２型式に比定。52－４はＳＸ427出土の口縁部破片である。内外面に灰釉が施される。口縁端部の外反が弱い。猿投Ｋ－90の２型式若しくは３型式に比定。52－５はＨ－３区出土の底部から体部中位の破片である。高台は長く三日月高台に近い。底部・体部下半に回転篦ケズリが施される。体部は直線的に開くようである。灰釉は内面底部の高台接地面には施されない。猿投Ｋ－90の２型式に比定。52－６はＫ－15区出土の体部破片である。体部外面に回転篦ケズリが施される。内面に灰釉が施される。体部が内彎気味に立ち上がることから、猿投Ｋ－14からＫ－90（古）に比定。

＜灰釉陶器長頸壺Ｂ＞１点のみ出土している（52－３）。体部若くは肩部の破片である。極めて小さく器形を窺うことは困難である。また時期も決定しがたい。猿投Ｋ－90頃としておく。

石製品

石帯が１点出土している（52－10）。Ｆ－17区出土である。黒色粘板岩の丸鞆で、表面及び側面は良く磨かれる。裏側の三方に二孔一対の潜り孔を空けてある。潜り孔は互いに斜めに穿孔されており、２孔の接点で貫通するように作り出されている。裏側の潜り孔周辺は３ヶ所とも破損しているが、補修のためにできたものではない。９世紀から10世紀のものであろう。山形県内での腰帯具は、８世紀代の金属製の銙帯が置賜盆地から、９世紀から10世紀に比定される石帯は庄内の飽海地方から複数出土している（当センター『西谷地遺跡第３次発掘調査報告書』1996、Ｐ91参照）。しかし山形盆地からの出土は僅少で、これまでは山辺町の達磨寺遺跡から石帯の巡方が１点出土したのみである。本遺跡からは石帯以外に風字硯・段皿・耳皿・灰釉陶器など特異な遺物が出土しており、遺跡の性格を考える上で興味ある遺物である。

３　他時期の遺物

奈良・平安時代以外の遺物について一括する。

＜青白磁小壺蓋＞１点出土している（52－１）。ＳＫ229からの出土である。蓋の上部には蓮弁文が２段施される（上段６弁、下段16弁）。胎土は乳白色を呈し、釉は白みの強い青白色を

呈する。釉は上面にのみ施され、内面には施釉されない。上部の一部が欠損するもののほぼ完形である。摘みは付かない。13世紀代のものであろう。発掘段階では完形品の県内初出になるが、近年の発掘では東根の小田島城跡でも出土している。破片では寒河江市の三条遺跡にも類例がある。

中世の遺物で特記すべきものはこの１点のみである。奈良・平安時代に最上川の後背湿地の僅かな微高地に遺跡があることから、中世でも同様の微高地を占地していてもおかしくない。遺跡の主体部には中世の遺構が存在する可能性もある。

出典

1　平野山古窯群第14地点１号・２号窯跡の資料データは、寒河江市教育委員会『平野山窯跡第14地点発掘調査報告書』のデータを、「とことん須恵器を見る会」第９・10回資料で再計測・再実測したものを２次利用している。

2　平野山古窯群第12地点のＣ群土器・Ｄ群土器の資料データは、財団法人山形県埋蔵文化財センター『平野山古窯跡群第12地点遺跡第２次調査発掘調査報告書』のデータを一部再処理して利用している。また、本報告書で使用した同遺跡のＣ群土器データはＳＱ33と灰原Ｈの双方を一つにまとめてグラフ化している。同遺跡の報告書では灰原Ｈの資料がＳＱ33と比べて法量的にばらつきがあるとされ別個にグラフ化されているが、筆者は大きな違いはないと判断したためである。なおデータは担当であった須賀井明子氏から提供していただいた。

3　馬上台遺跡の各土坑出土の土器については、山形市教育委員会『馬上台遺跡発掘調査報告書』の観察表から土師器坏を抽出し再処理したものを利用した。

参考文献

第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局編『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』1992

とことん須恵器を見る会編『とことん須恵器を見る会第９・10回資料』2001

山形市教育委員会『馬上台遺跡発掘調査報告書』1995

寒河江市教育委員会『平野山窯跡第14地点発掘調査報告書』山形県寒河江市埋蔵文化財調査報告書第３集 1984

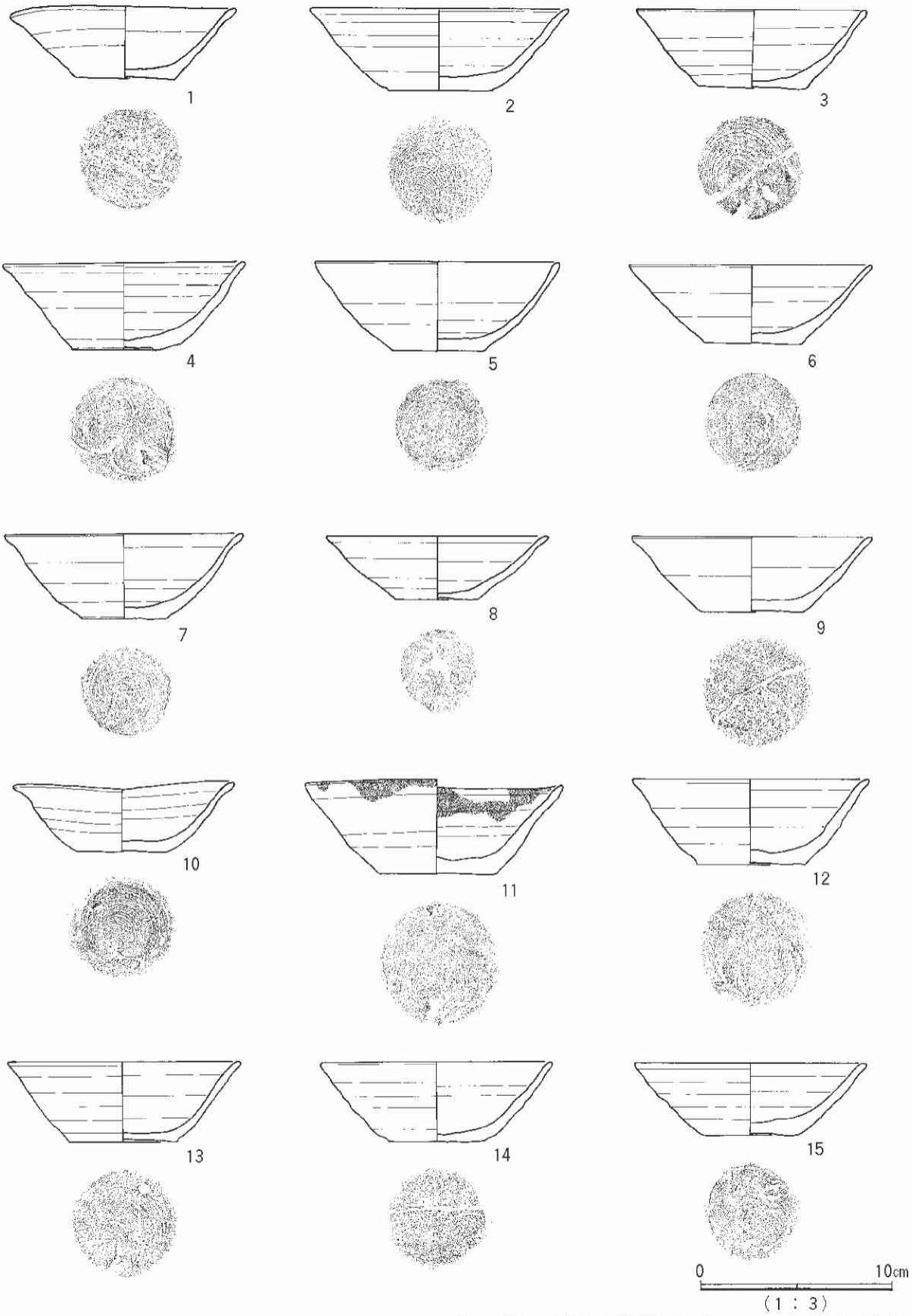
山形県教育委員会『境田Ｃ′・Ｄ遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第76集 1984

山形県教育委員会『達磨寺遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第104集 1986

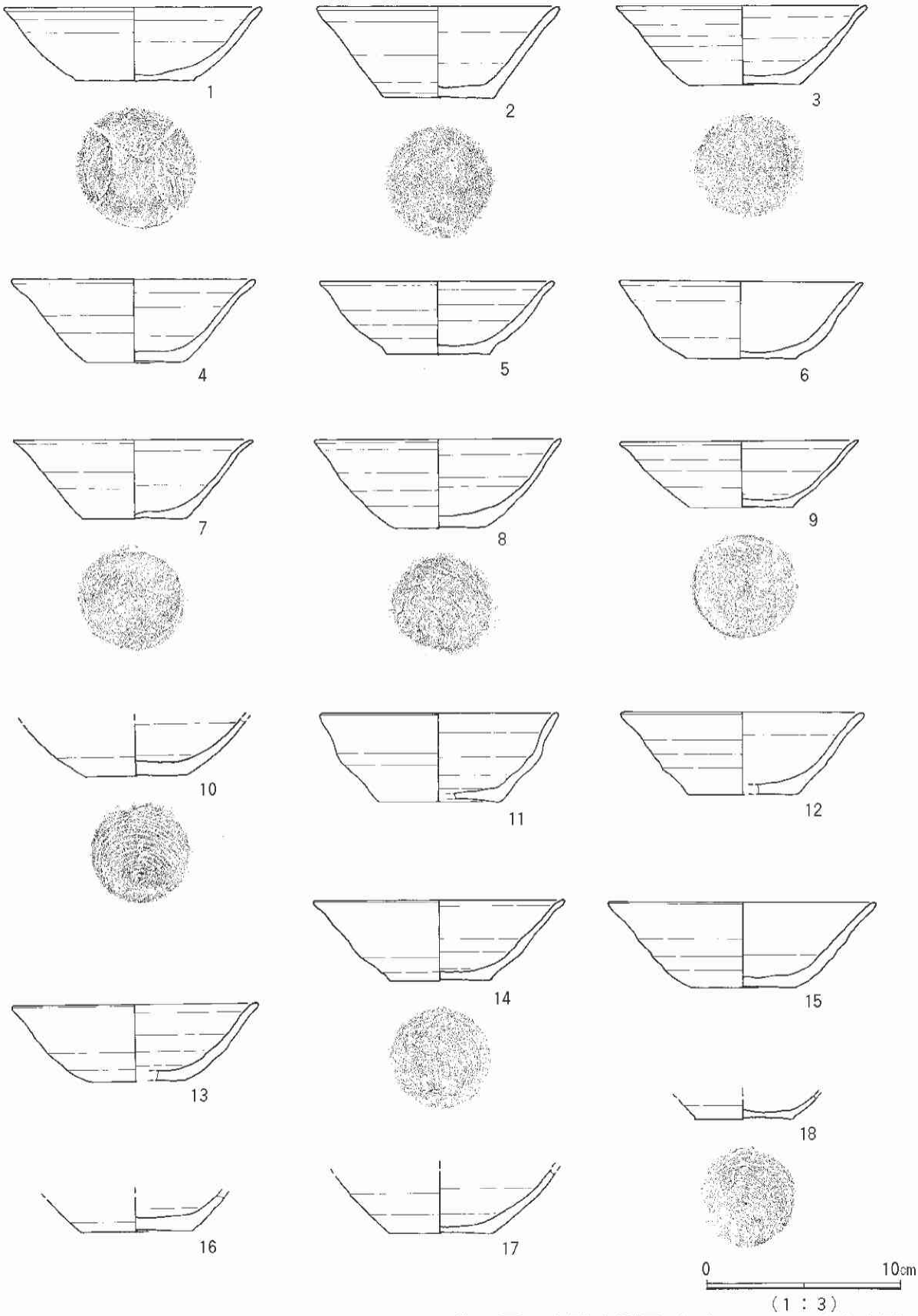
（財）山形県埋蔵文化財センター『富山２遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第41集 1998

（財）山形県埋蔵文化財センター『今塚遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第７集 1994

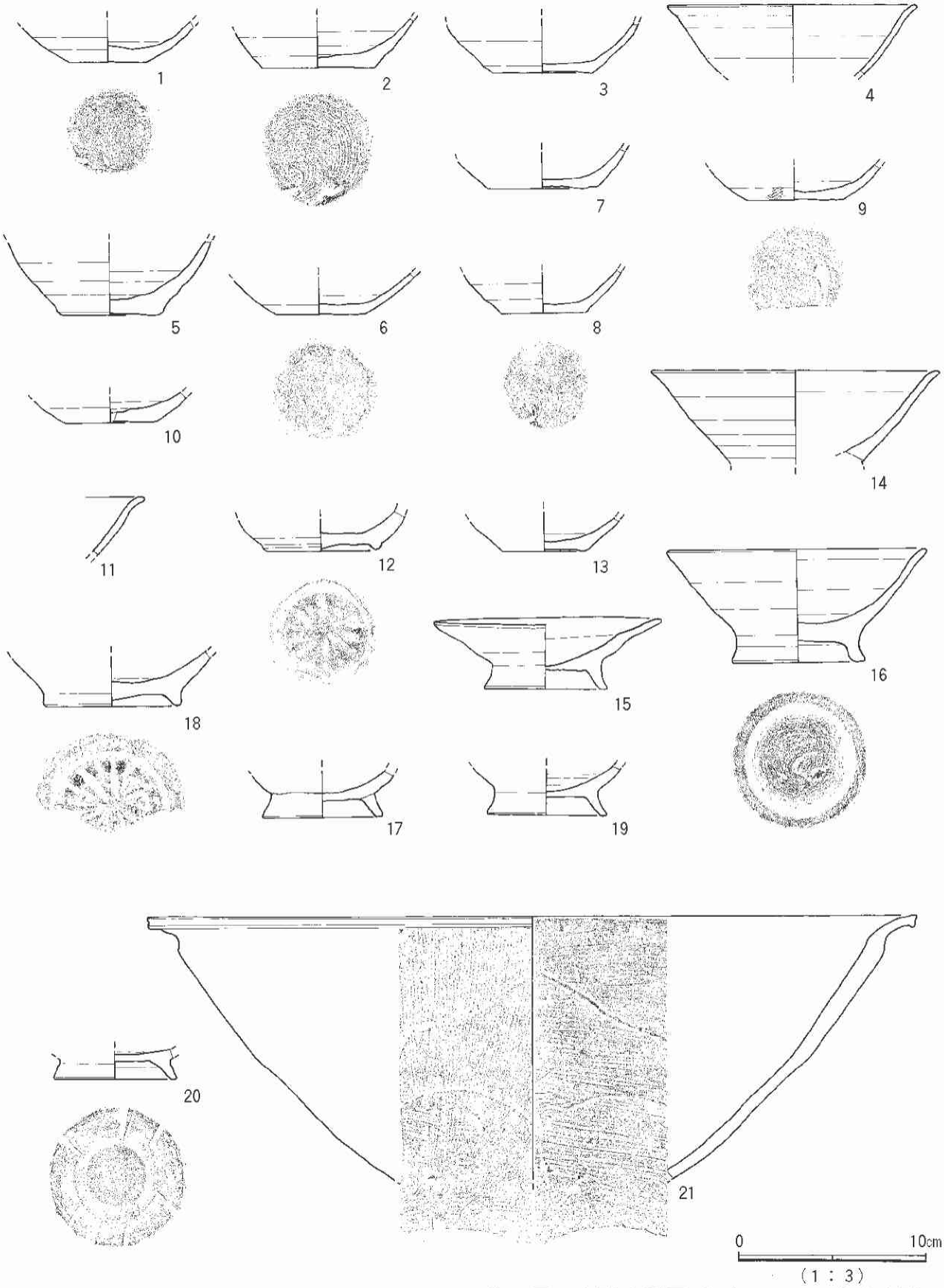
（財）山形県埋蔵文化財センター『平野山古窯跡群第12地点遺跡第２次調査発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第52集 1998



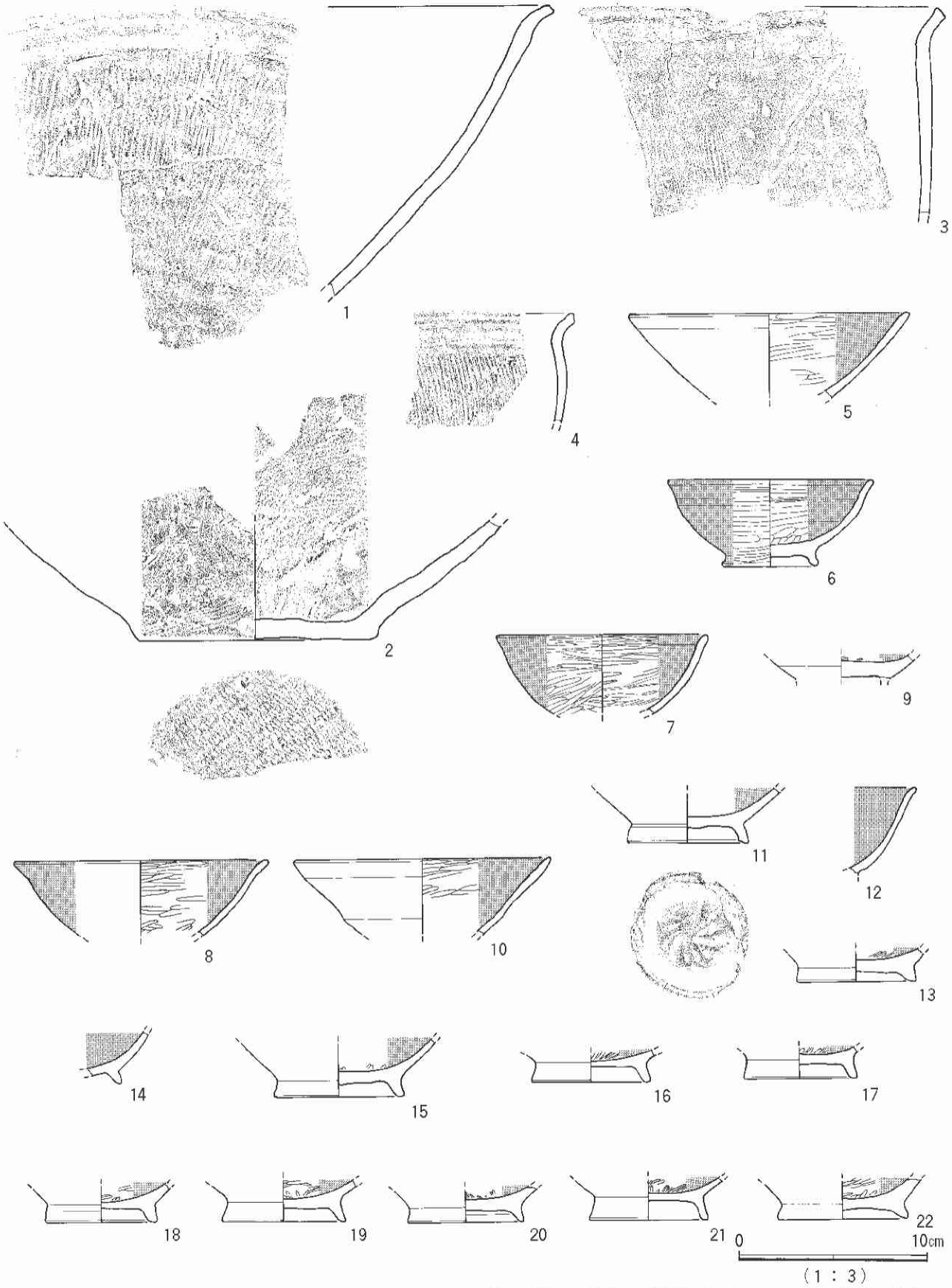
第20図　土器実測図（1）　ＳＫ１出土土器１



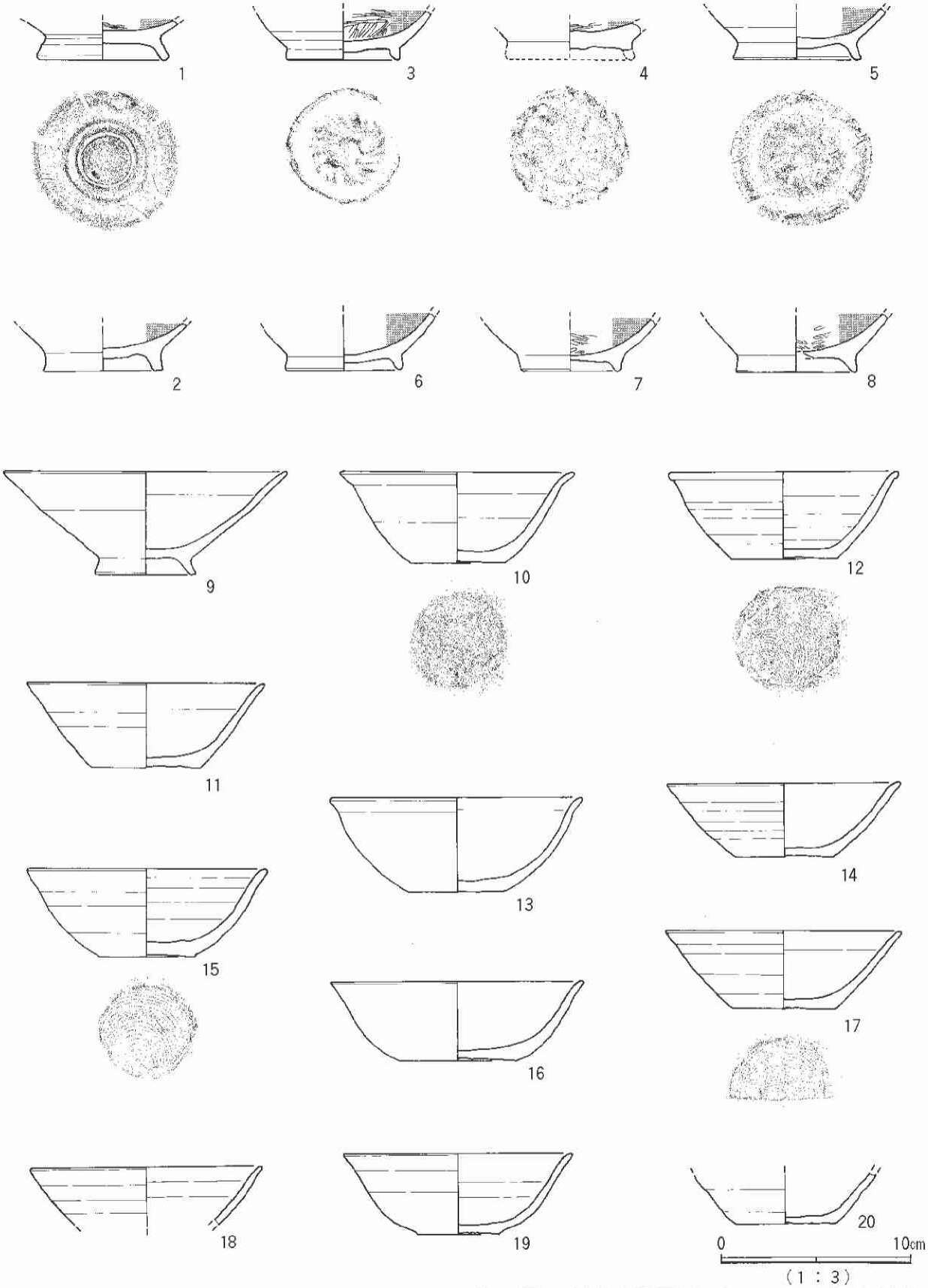
第21図　土器実測図（2）　ＳＫ１出土土器２



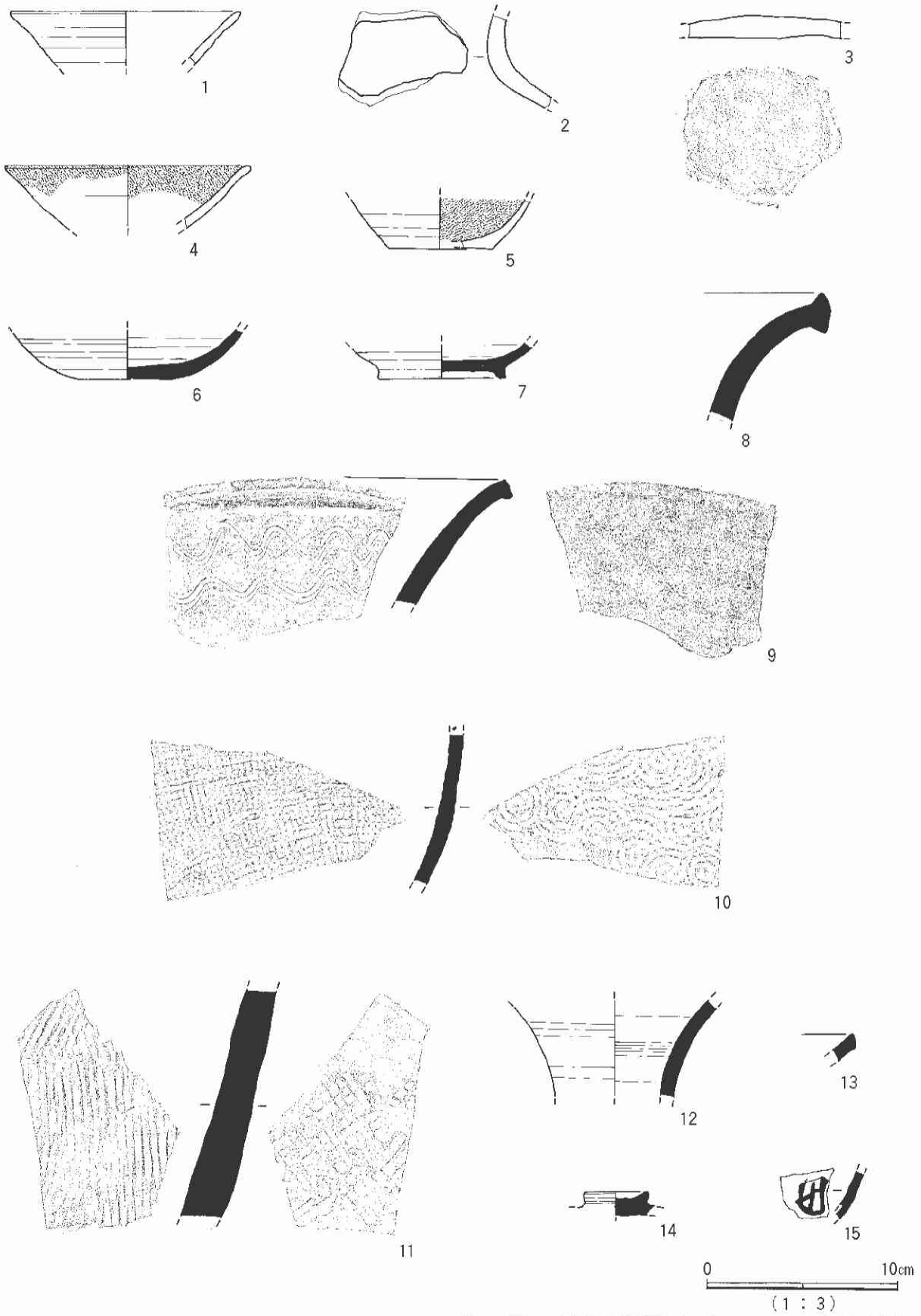
第22図　土器実測図（3）　ＳＫ１出土土器３



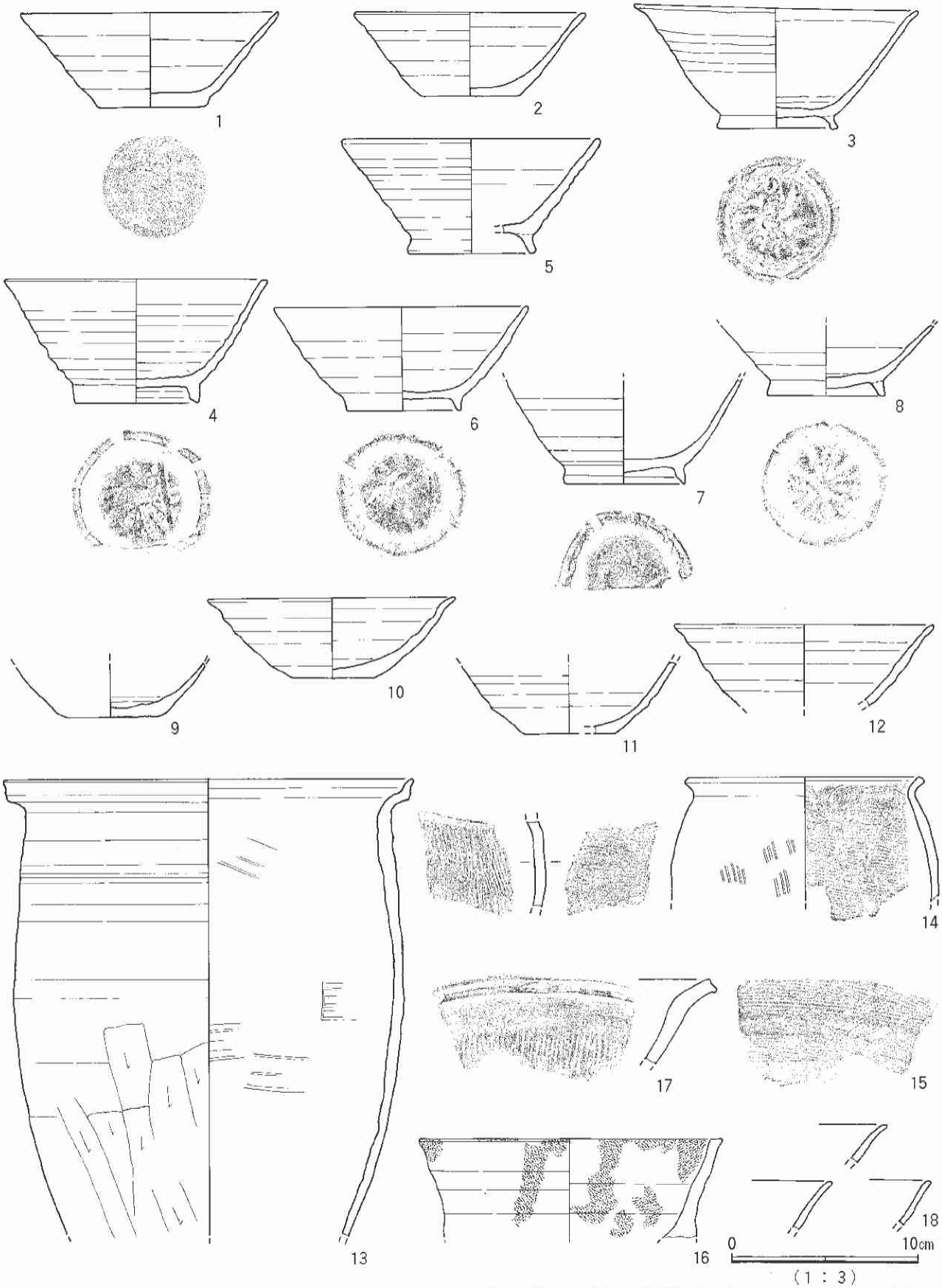
第23図　土器実測図（4）　ＳＫ１出土土器４



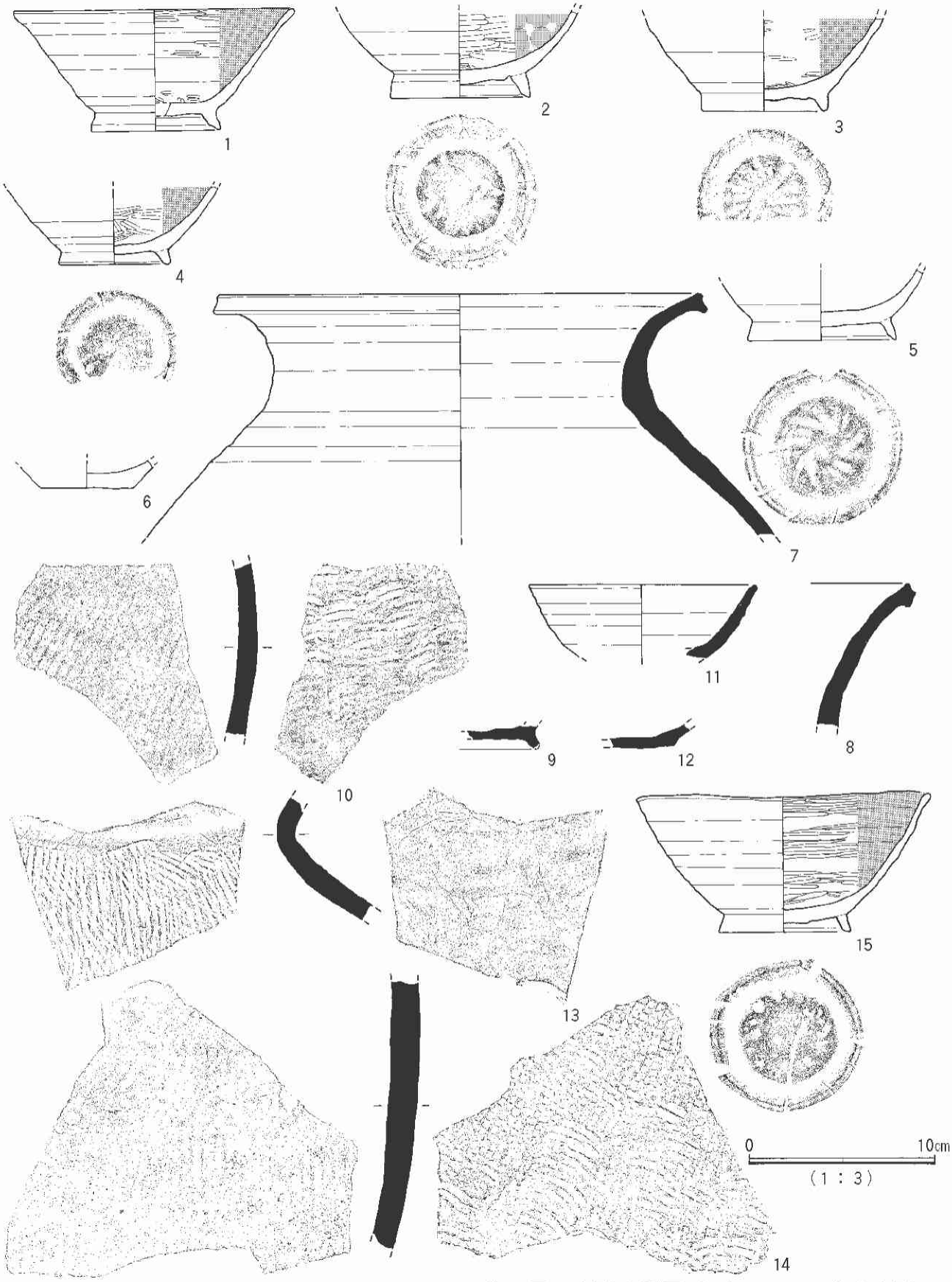
第24図　土器実測図（5）　ＳＫ１出土土器５



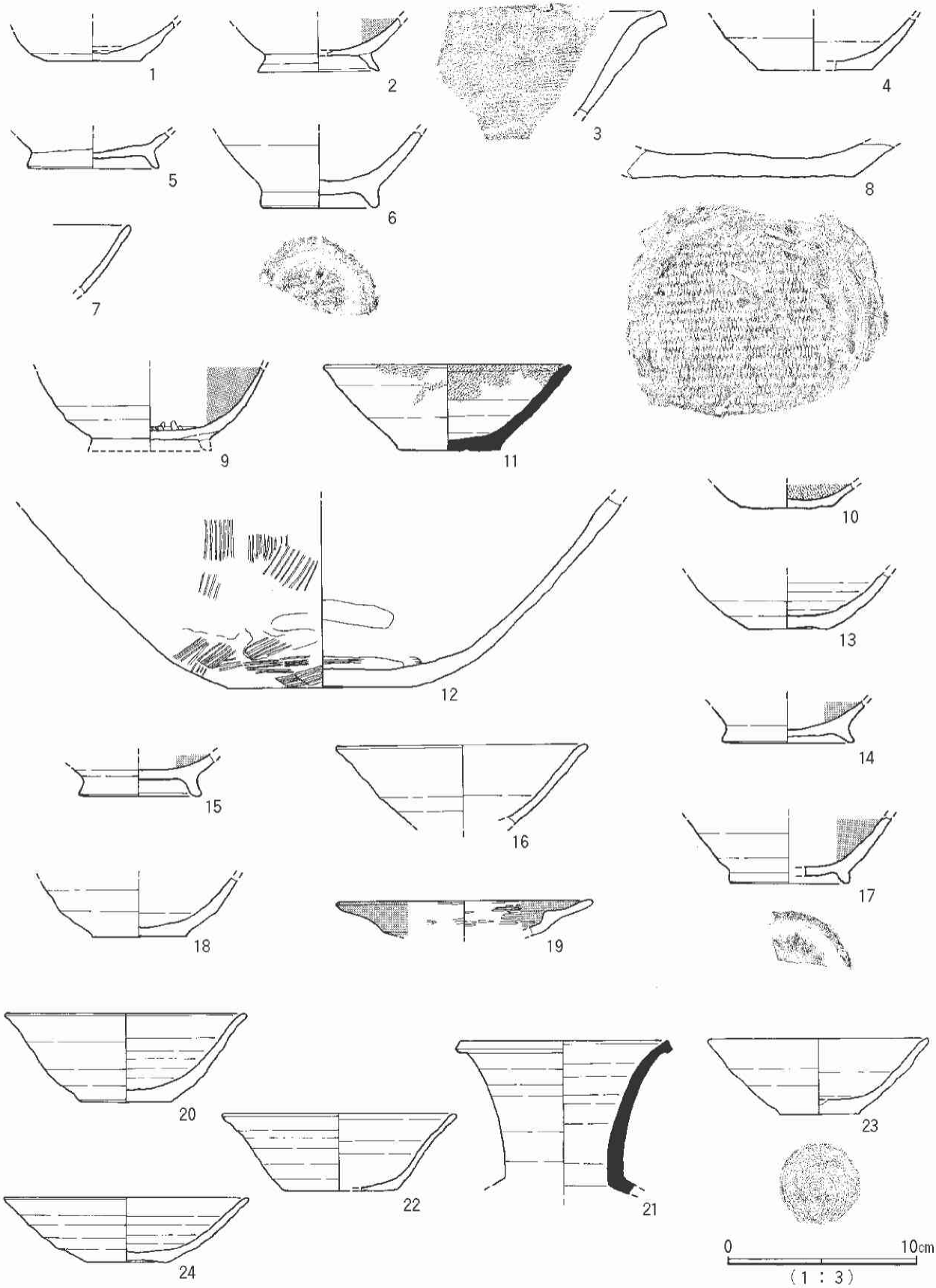
第25図　土器実測図（6）　ＳＫ１出土土器６



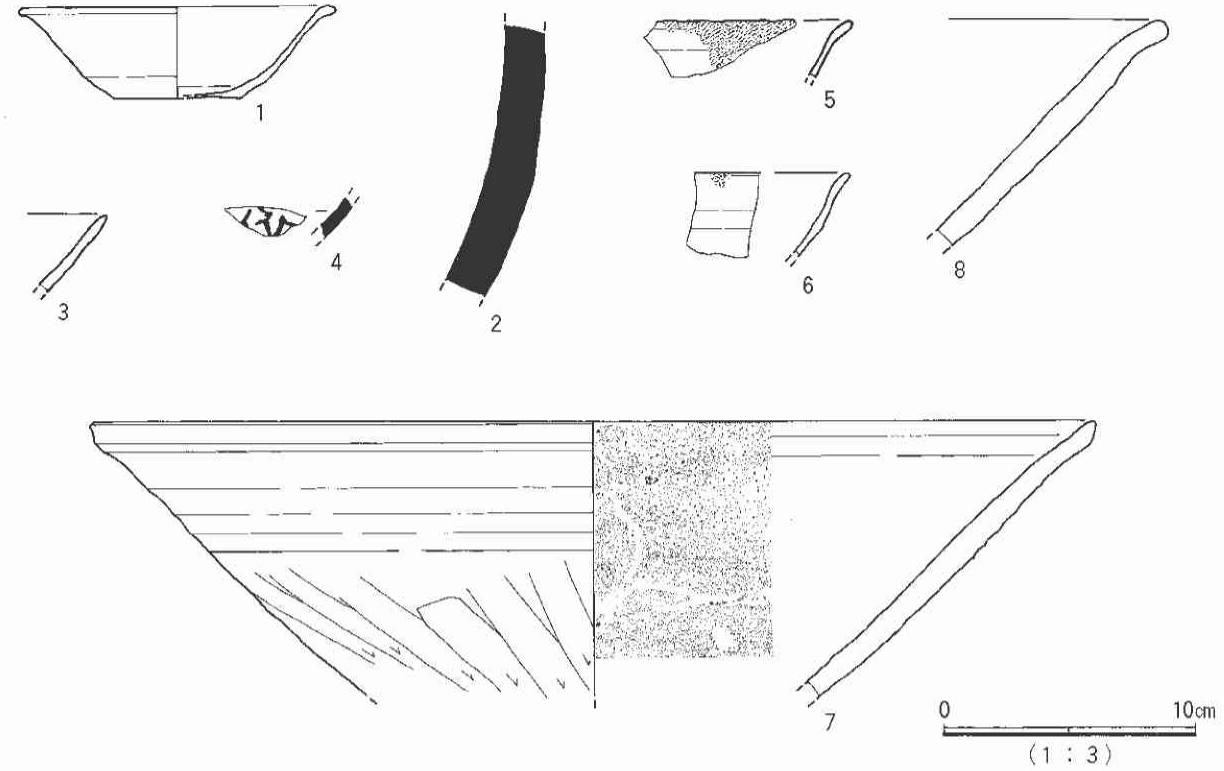
第26図　土器実測図（7）　ＳＫ２出土土器１



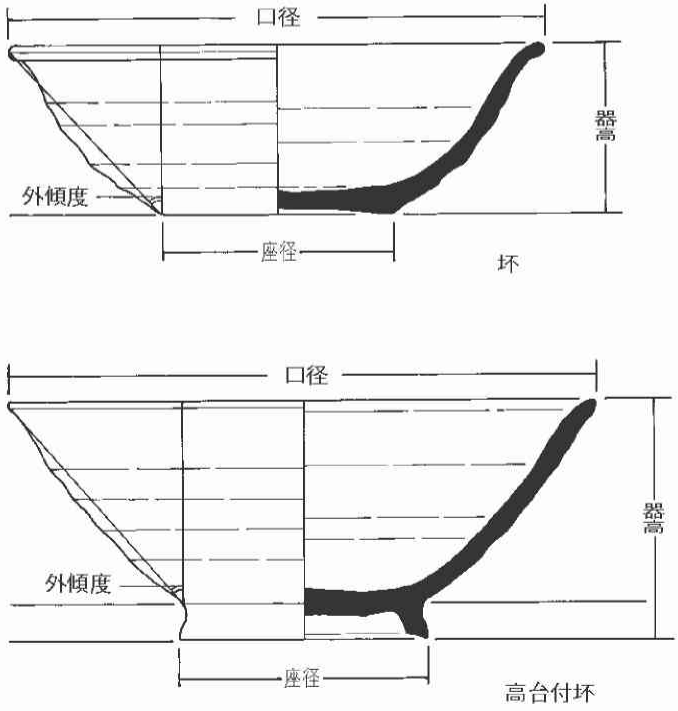
第27図　土器実測図（8）　ＳＫ２出土土器２



第28図　土器実測図（９）　ＳＤ５出土土器１



第29図　土器実測図（10）　ＳＤ５出土土器２



凡　例

①「底径指数」＝底径÷口径×100
　　口径に対する底径の比率

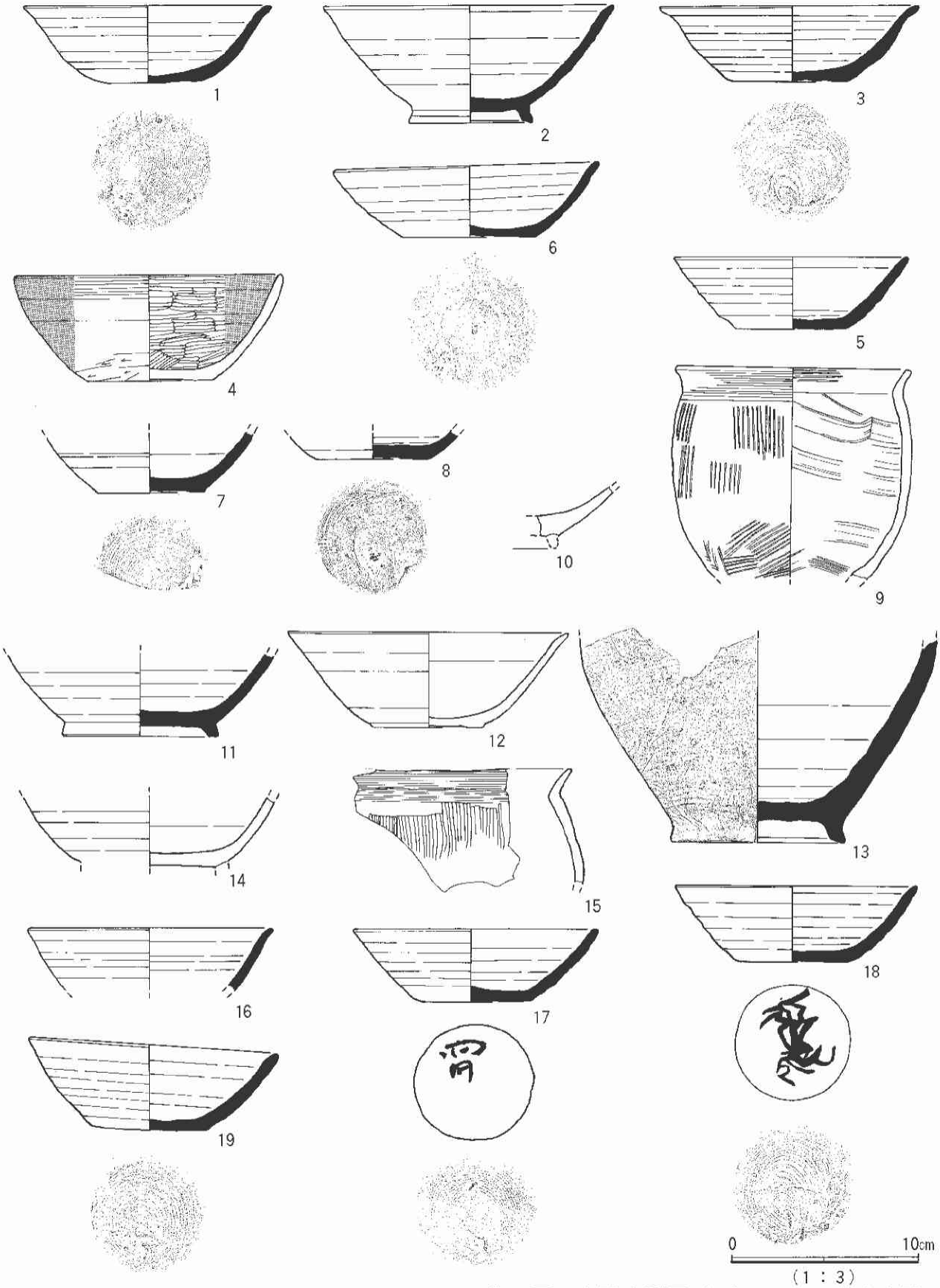
②「器高指数」＝器高÷口径×100
　　口径に対する器高の比率

③「外傾度」

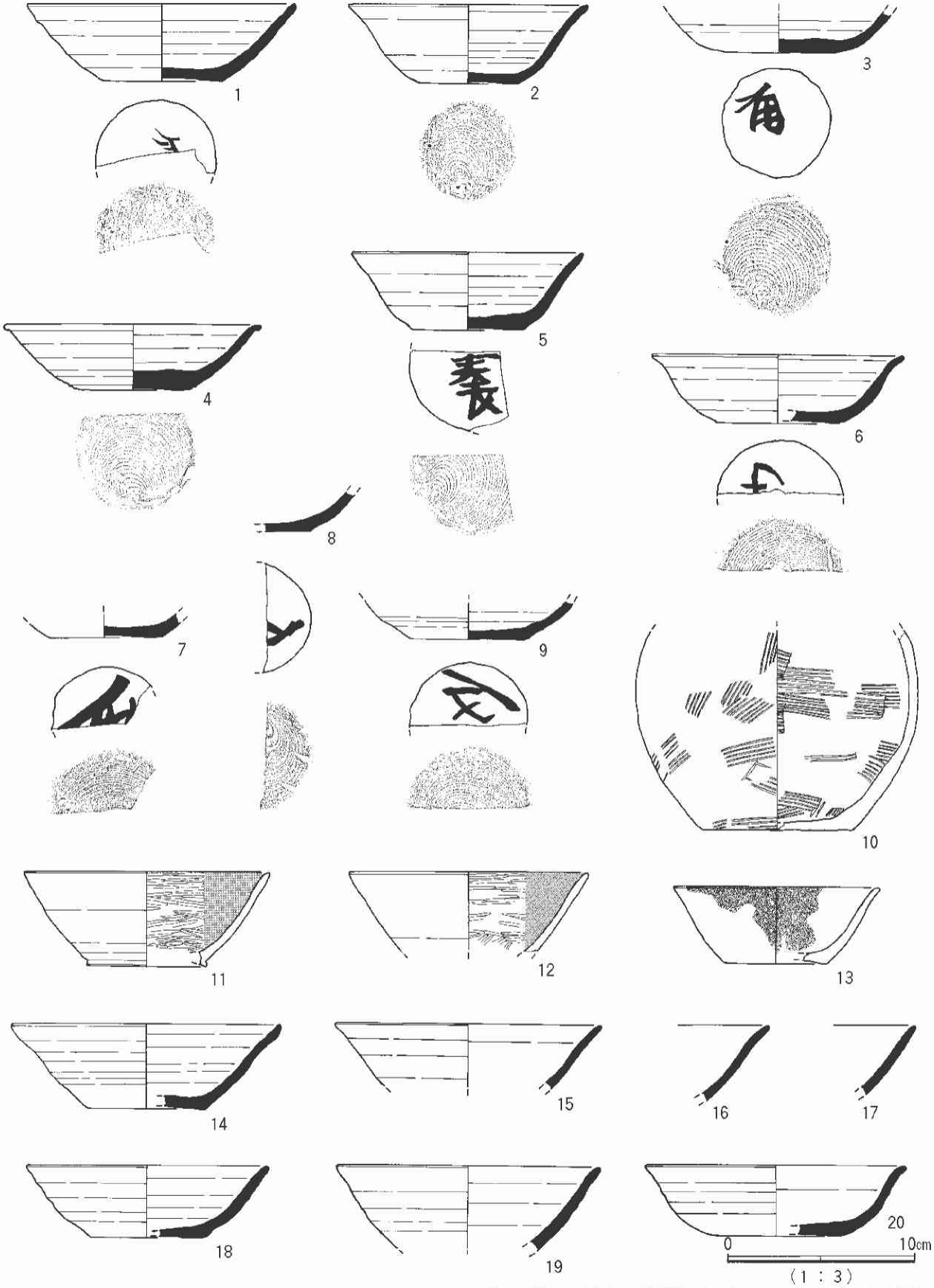
体部の開きの大きさを示す。ここでは単純に口端（口縁部の陵線）と底部端を結んだ線の開き具合を外傾度としている。よって体部の膨らみなどの要素は一切捨象している。

なお、高台付坏については坏部の底部端を基点として計測している。

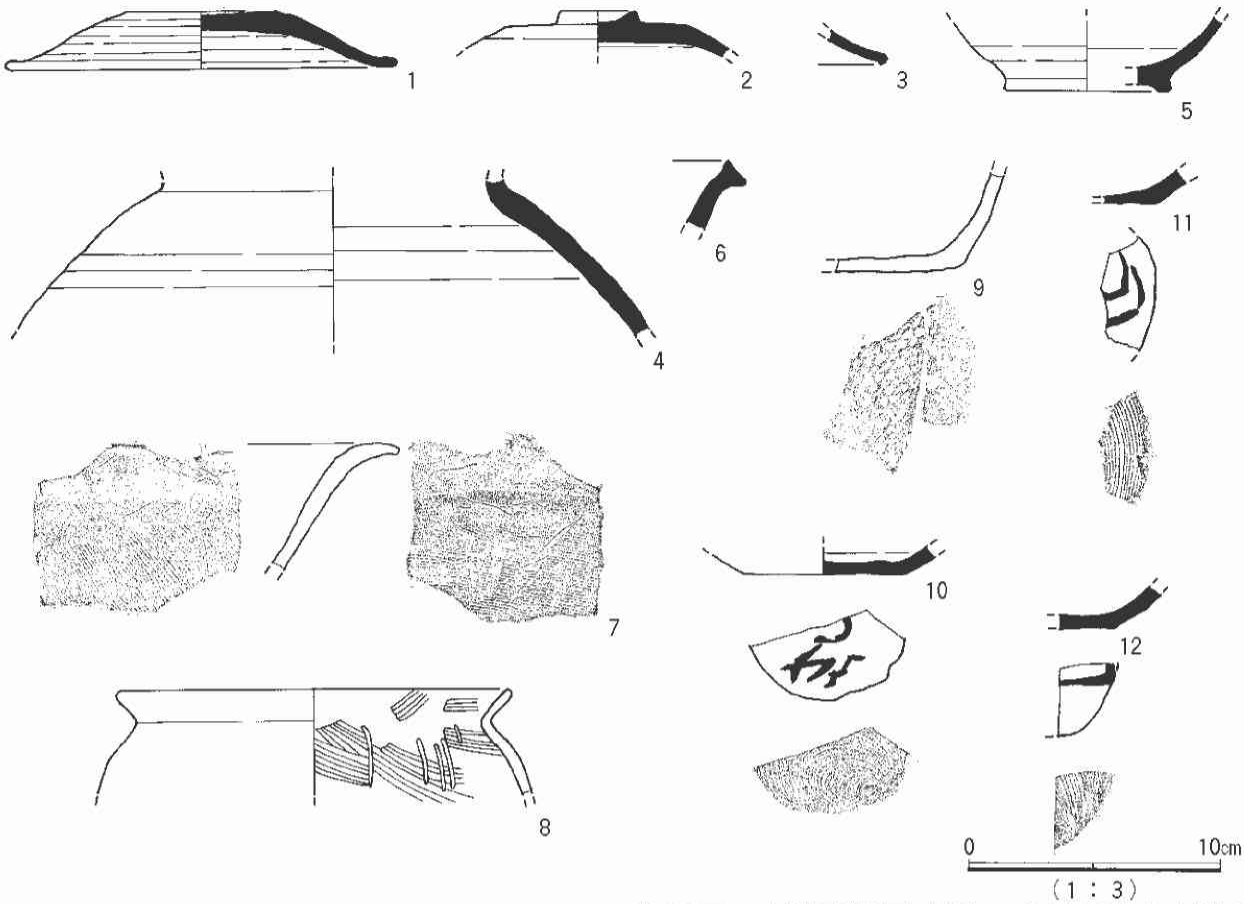
第19図　坏類計測値模式図



第30図　土器実測図（11）　ＳＸ12出土土器１



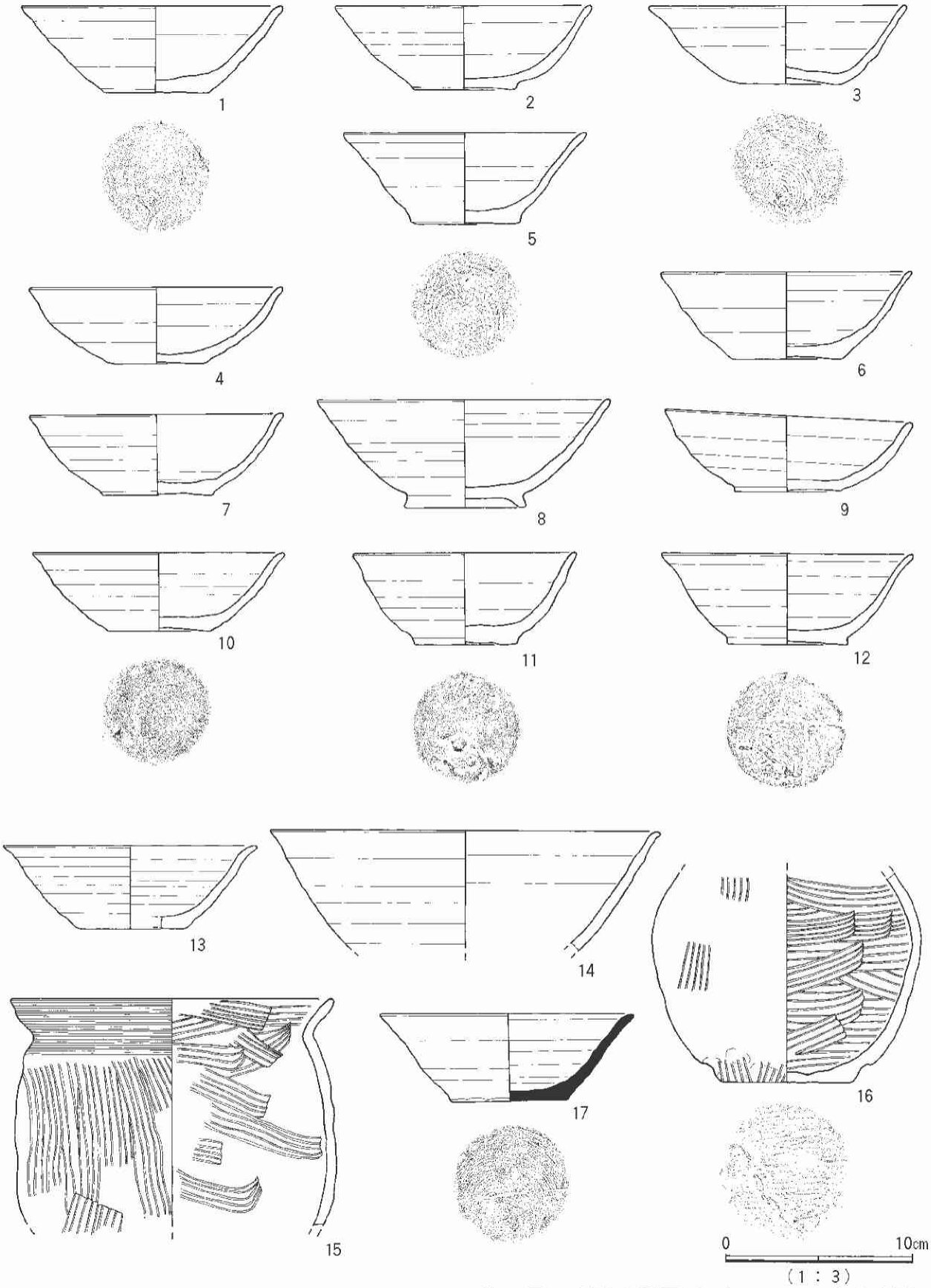
第31図　土器実測図（12）　ＳＸ12出土土器２



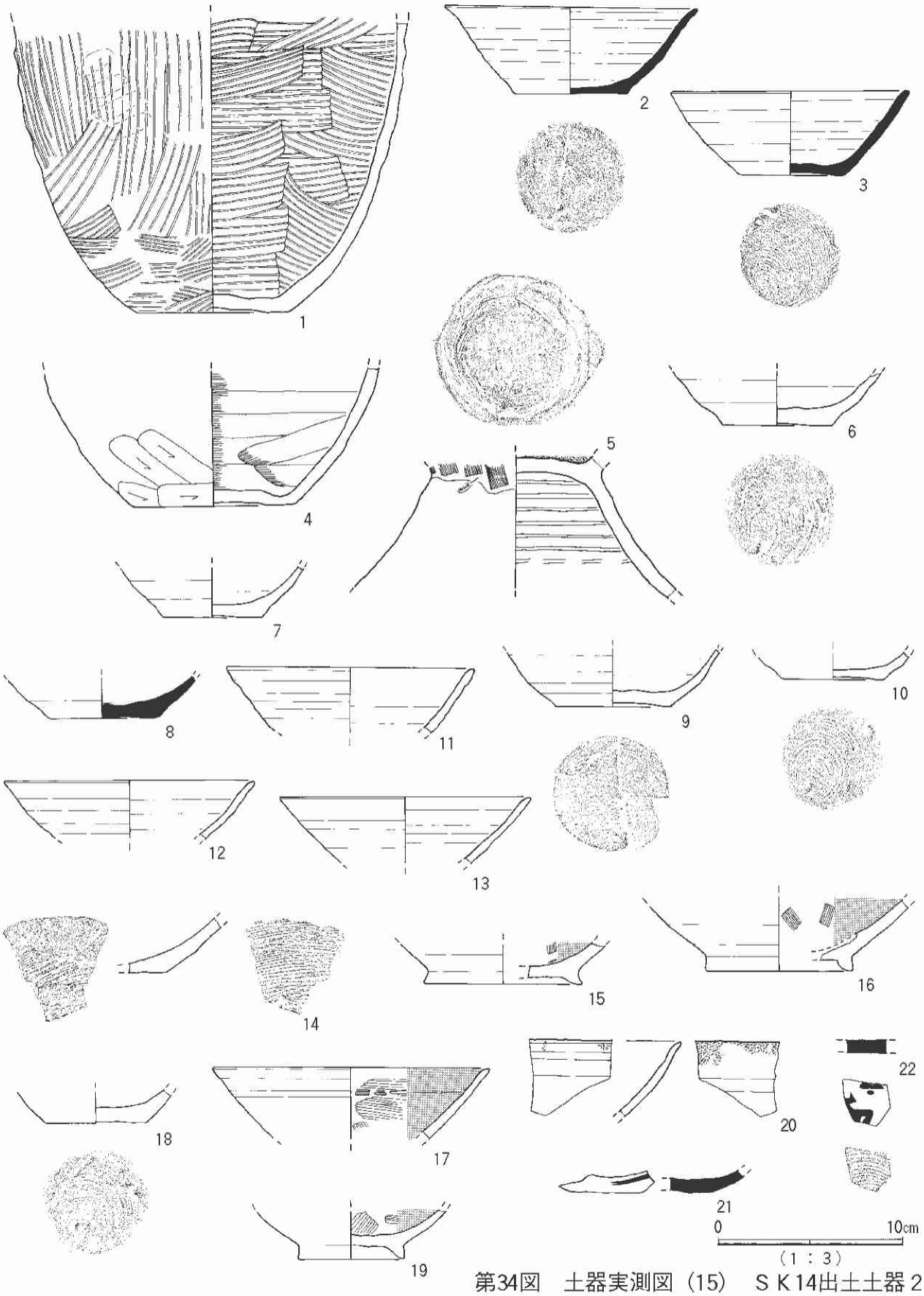
第32図　土器実測図（13）　ＳＸ12出土土器３

須坏	比較資料	時期	中袋遺跡	土坏	比較資料	時期	中袋遺跡
Ａ１	なし	８ｃ中		Ａ１	④平野山12 ＳＧ31	９ｃ第２～第３四半期	
Ａ２	①②平野山14－１・２	９ｃ第２四半期	ＳＸ12	Ａ２	⑤馬上台 ＳＫ４	９ｃ第４～10c初	ＳＫ１・２・14
Ａ３	③平野山12 ＳＱ33	９ｃ第３四半期	ＳＸ12	Ａ３	⑤馬上台 ＳＫ１・２・５	10c第１～第２四半期	ＳＫ１・２
Ａ４	③平野山12 ＳＱ33	９ｃ第３四半期	ＳＸ12				
	④平野山12 ＳＧ31	９ｃ第４四半期	ＳＸ12				
Ａ５	④平野山12 ＳＧ31	９ｃ第４四半期	ＳＸ12				

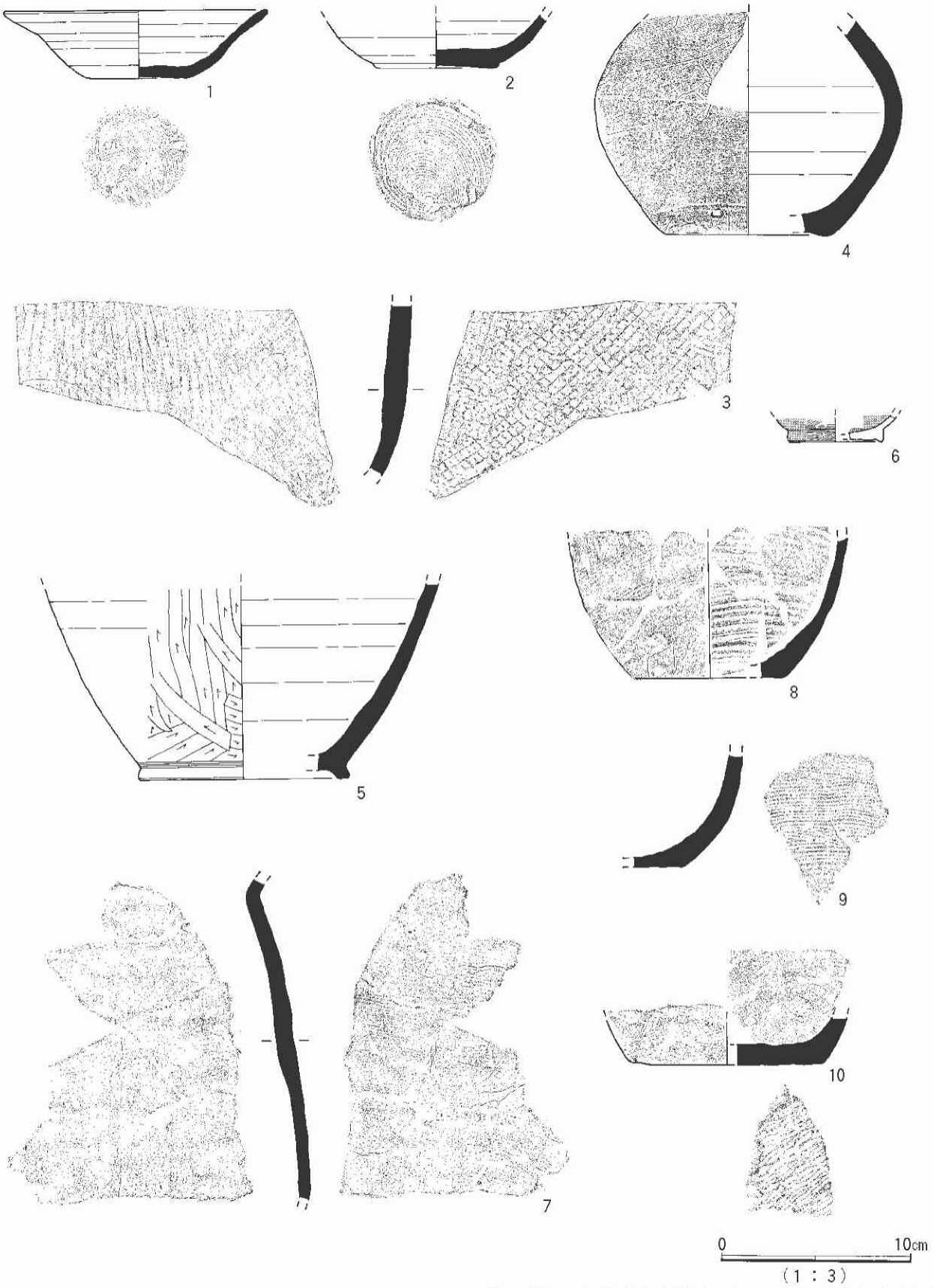
第４表　須恵器坏・土師器坏の時期対応表



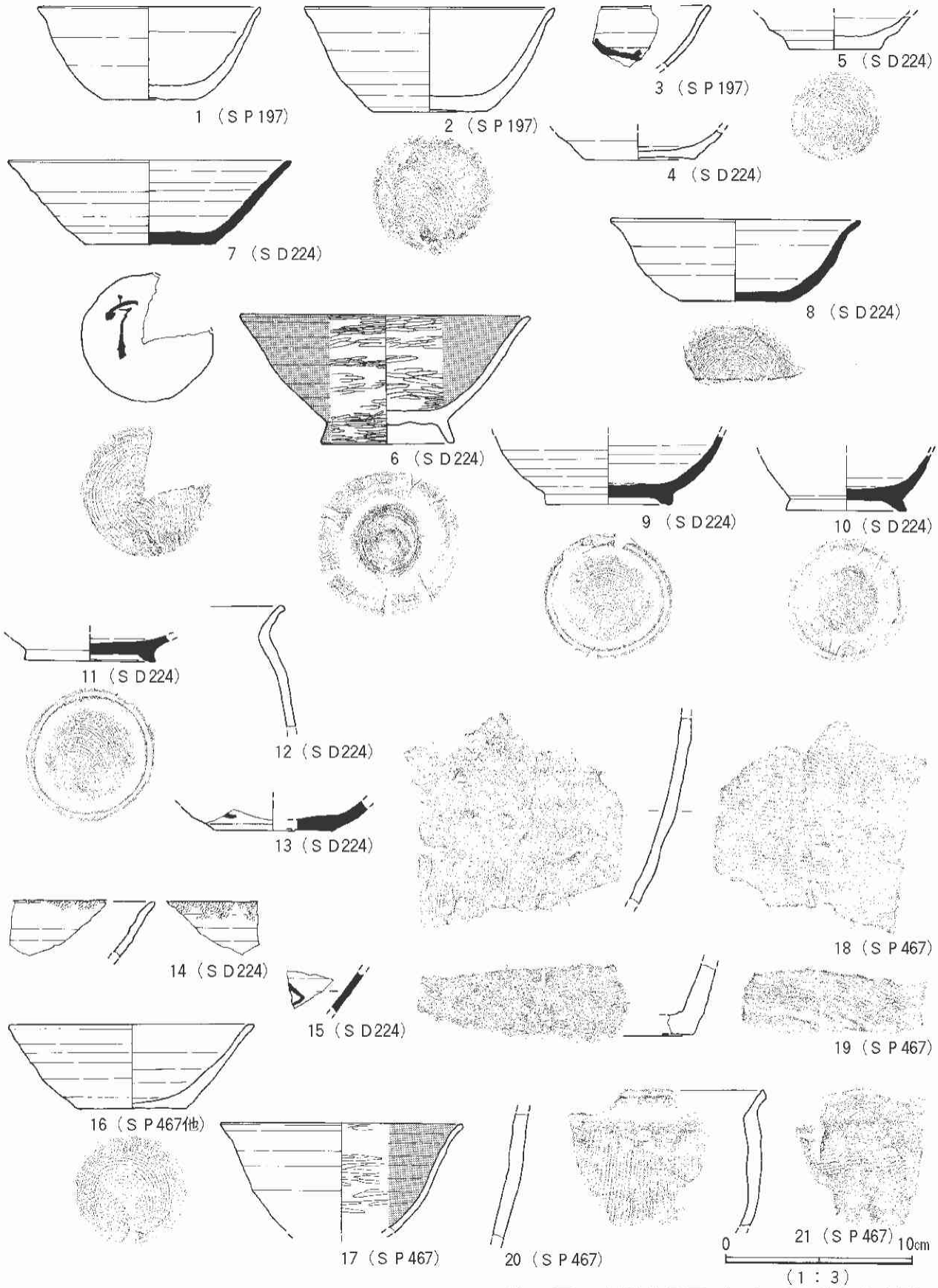
第33図　土器実測図（14）　ＳＫ14出土土器１



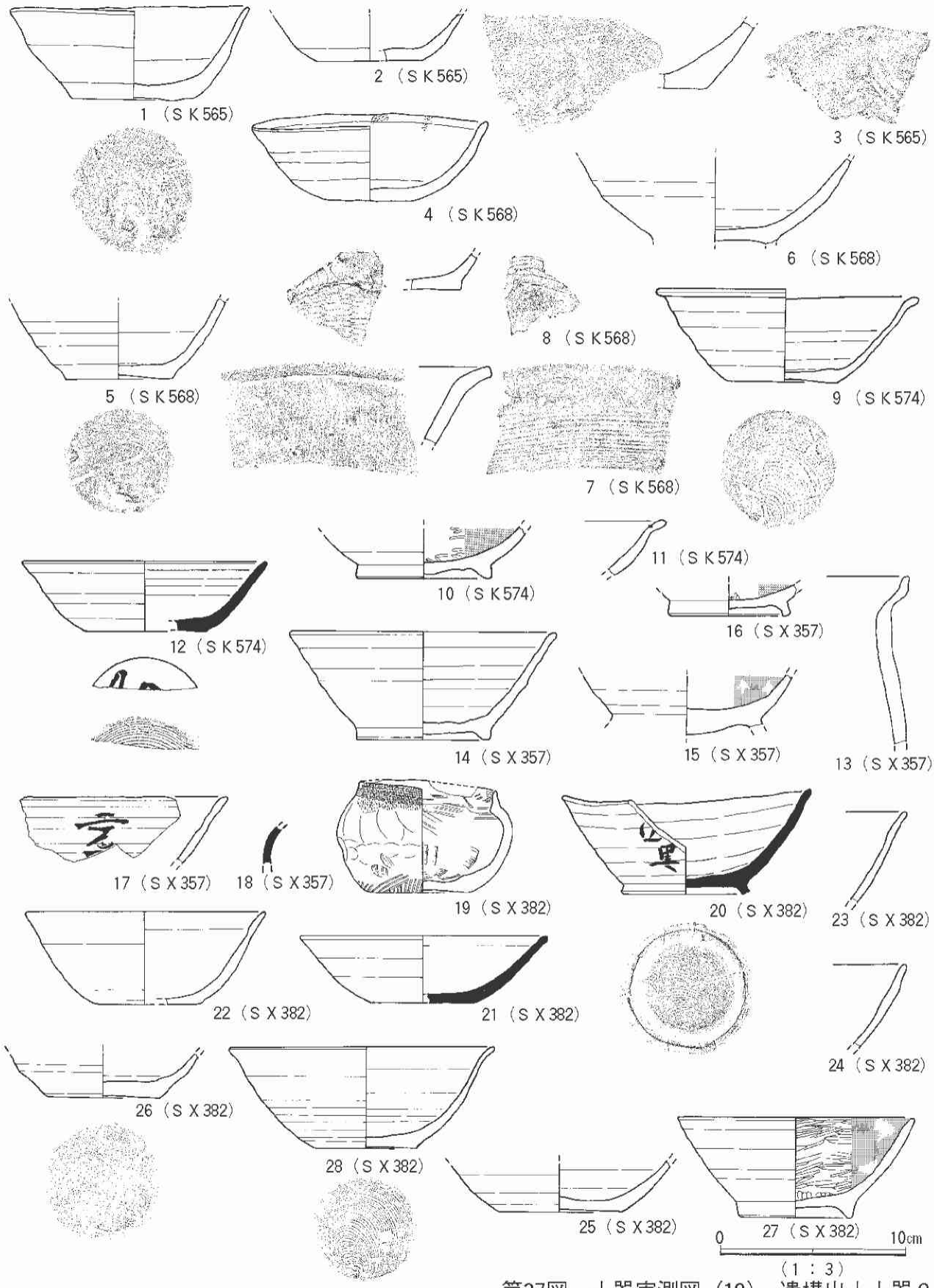
第34図　土器実測図（15）　ＳＫ14出土土器２



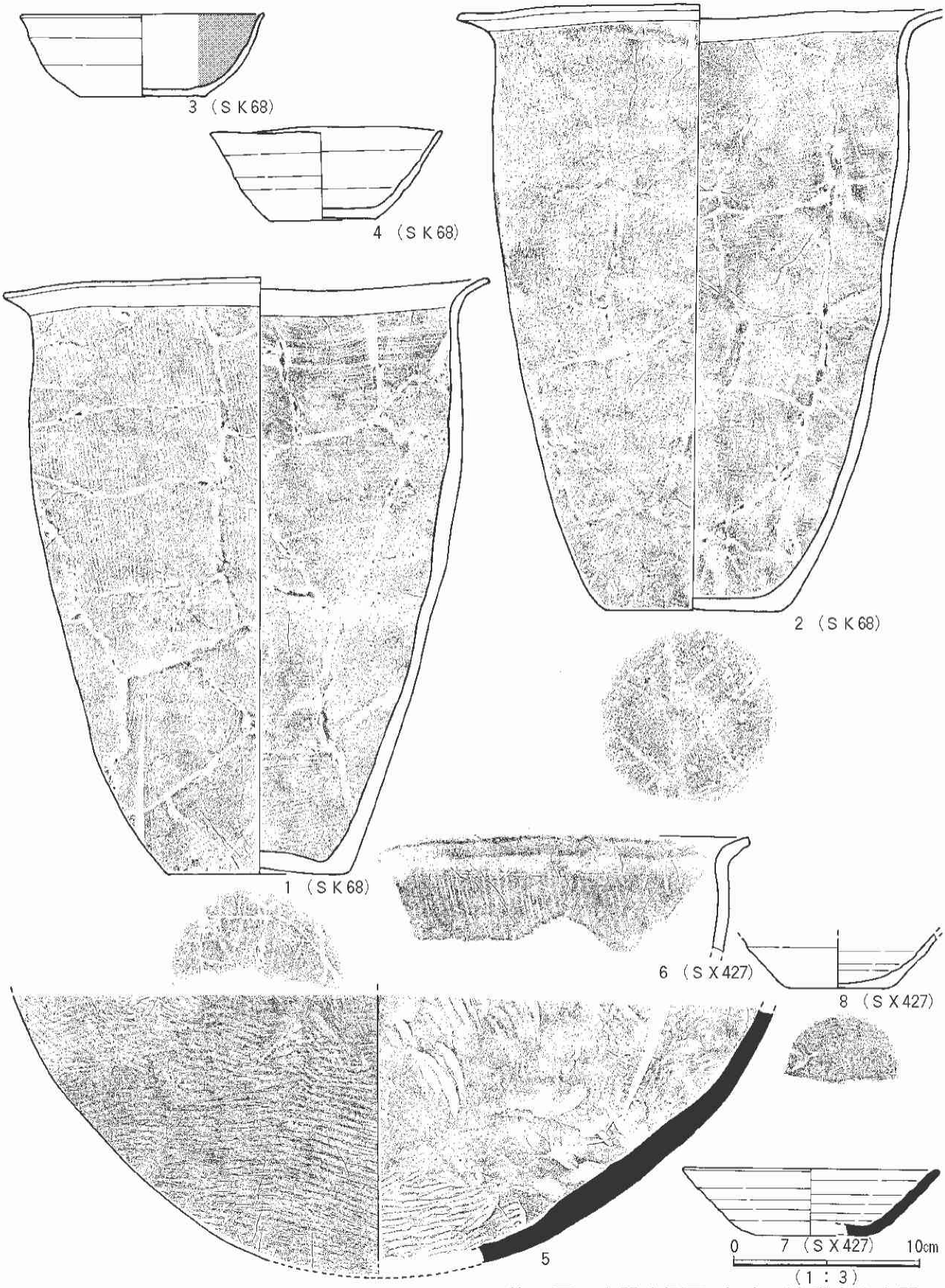
第35図　土器実測図（16）　ＳＸ102出土土器



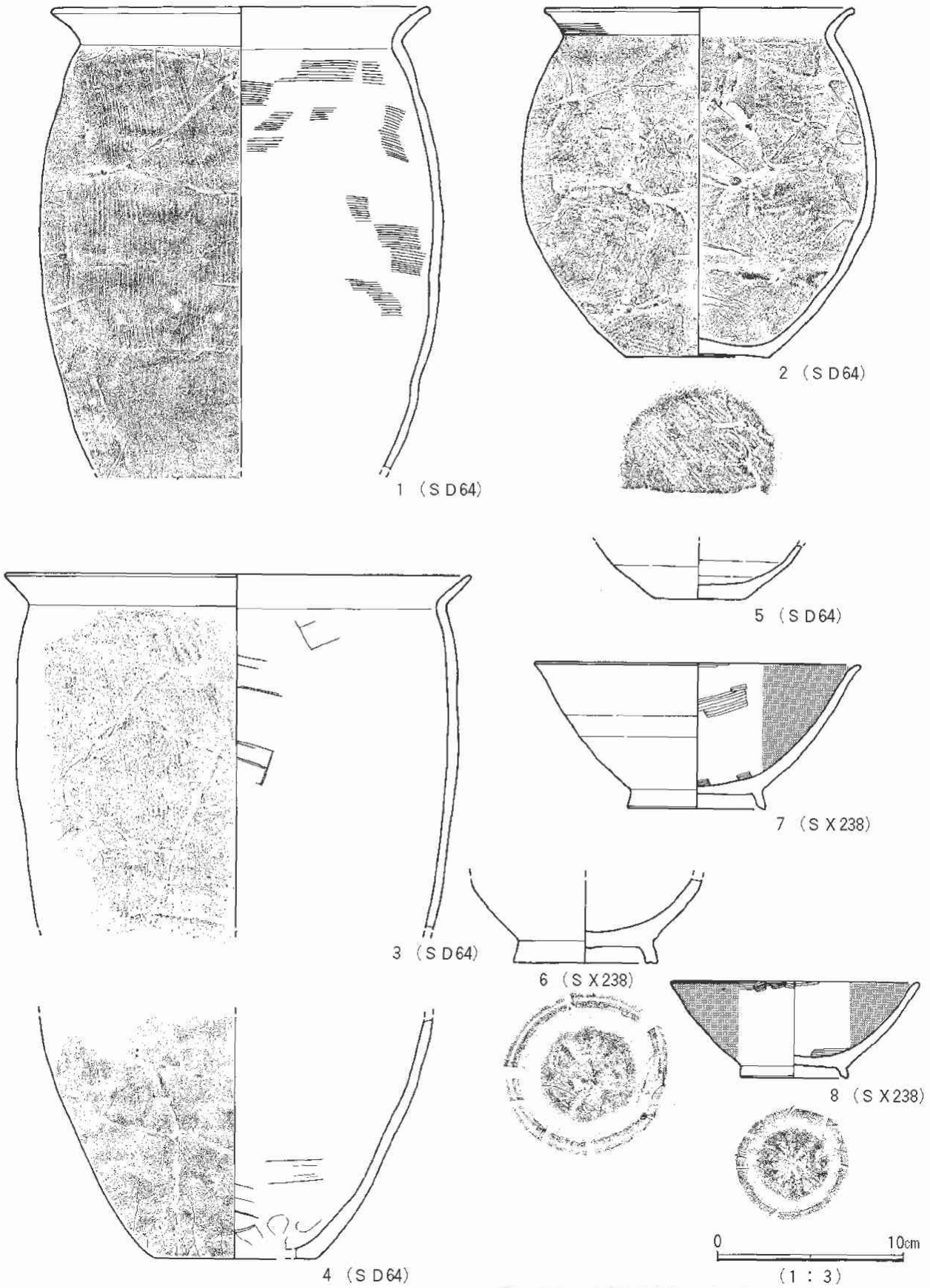
第36図　土器実測図（17）　遺構出土土器１



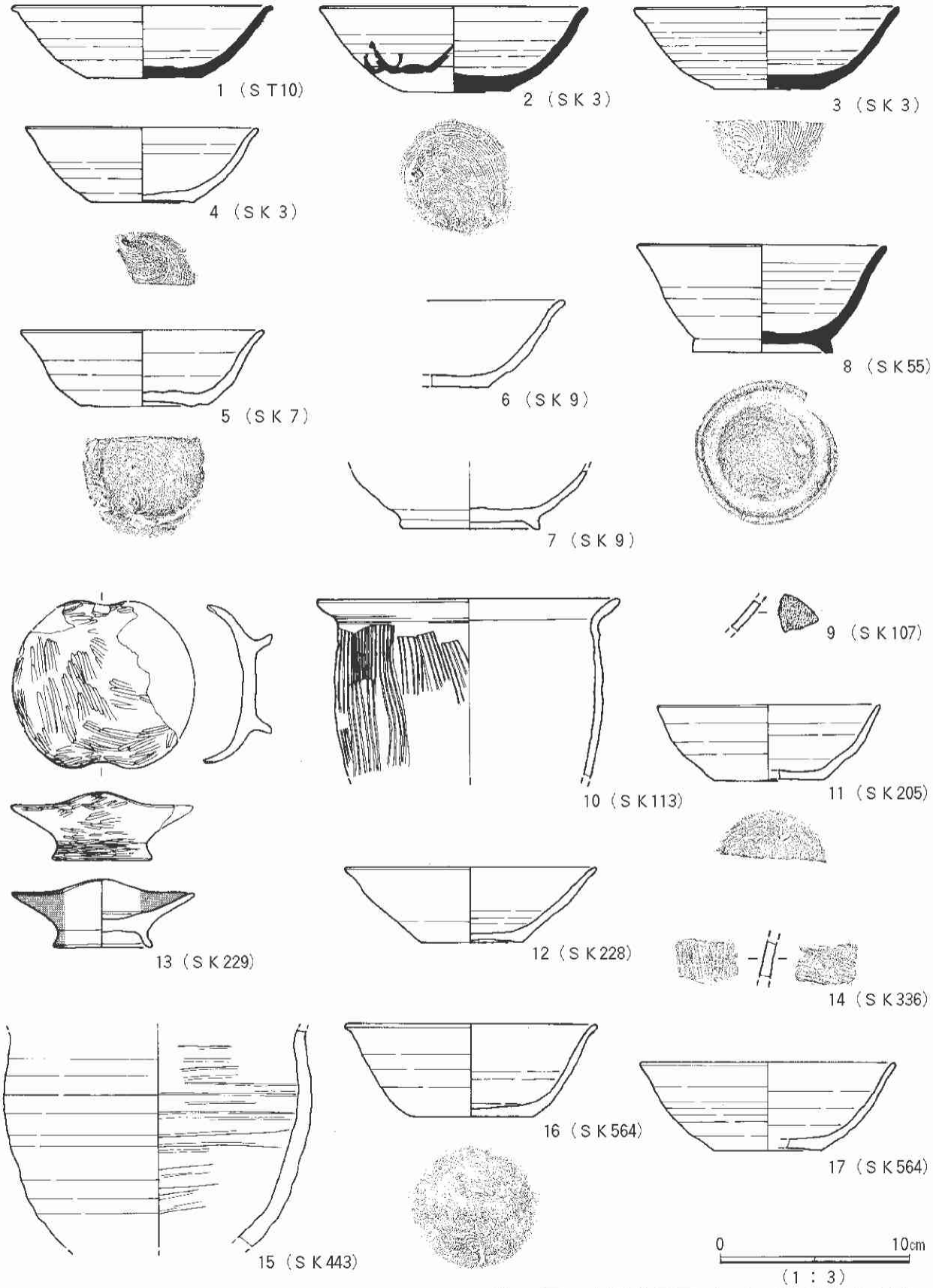
第37図　土器実測図（18）　遺構出土土器２



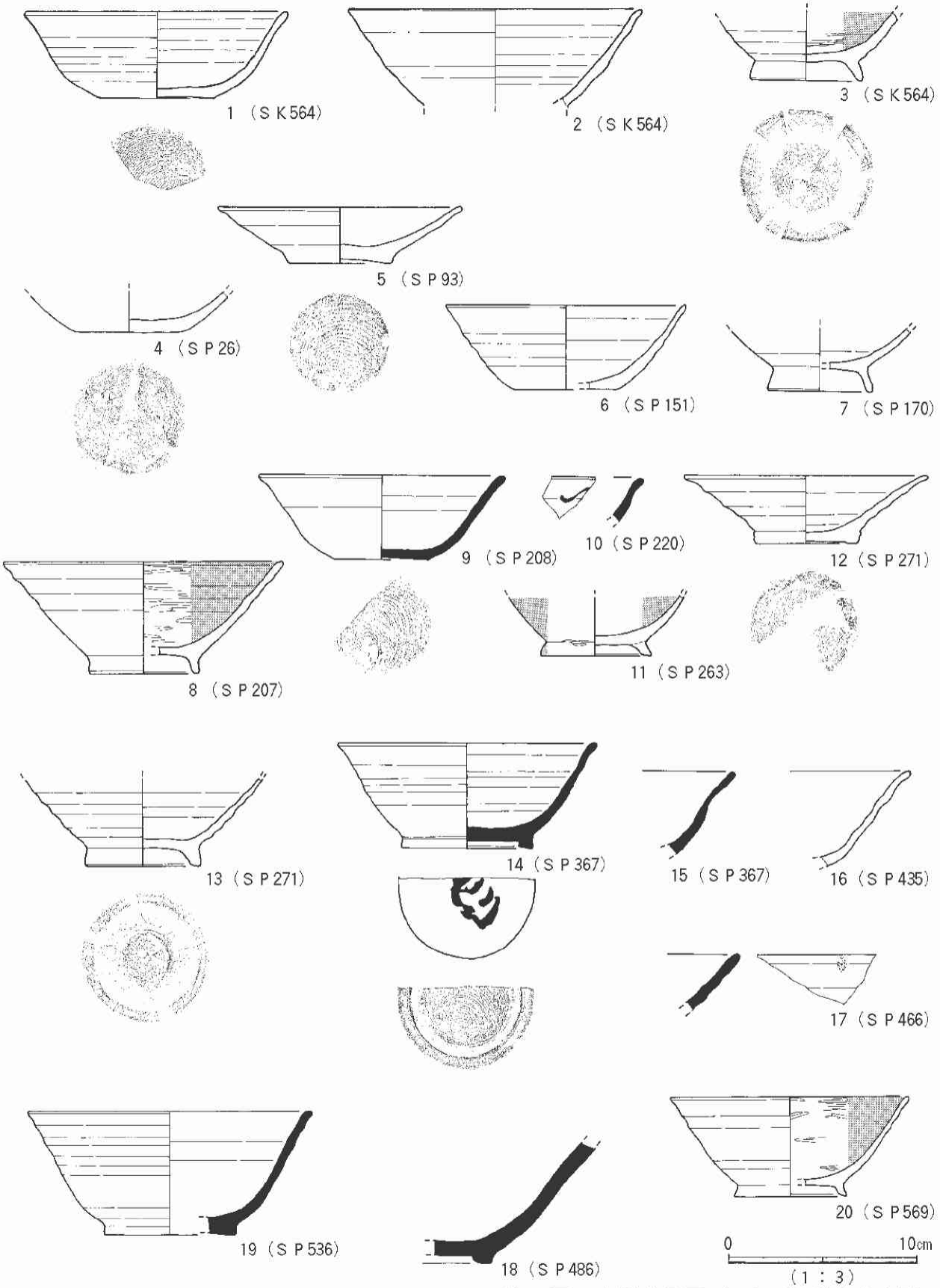
第38図　土器実測図（19）　遺構出土土器３



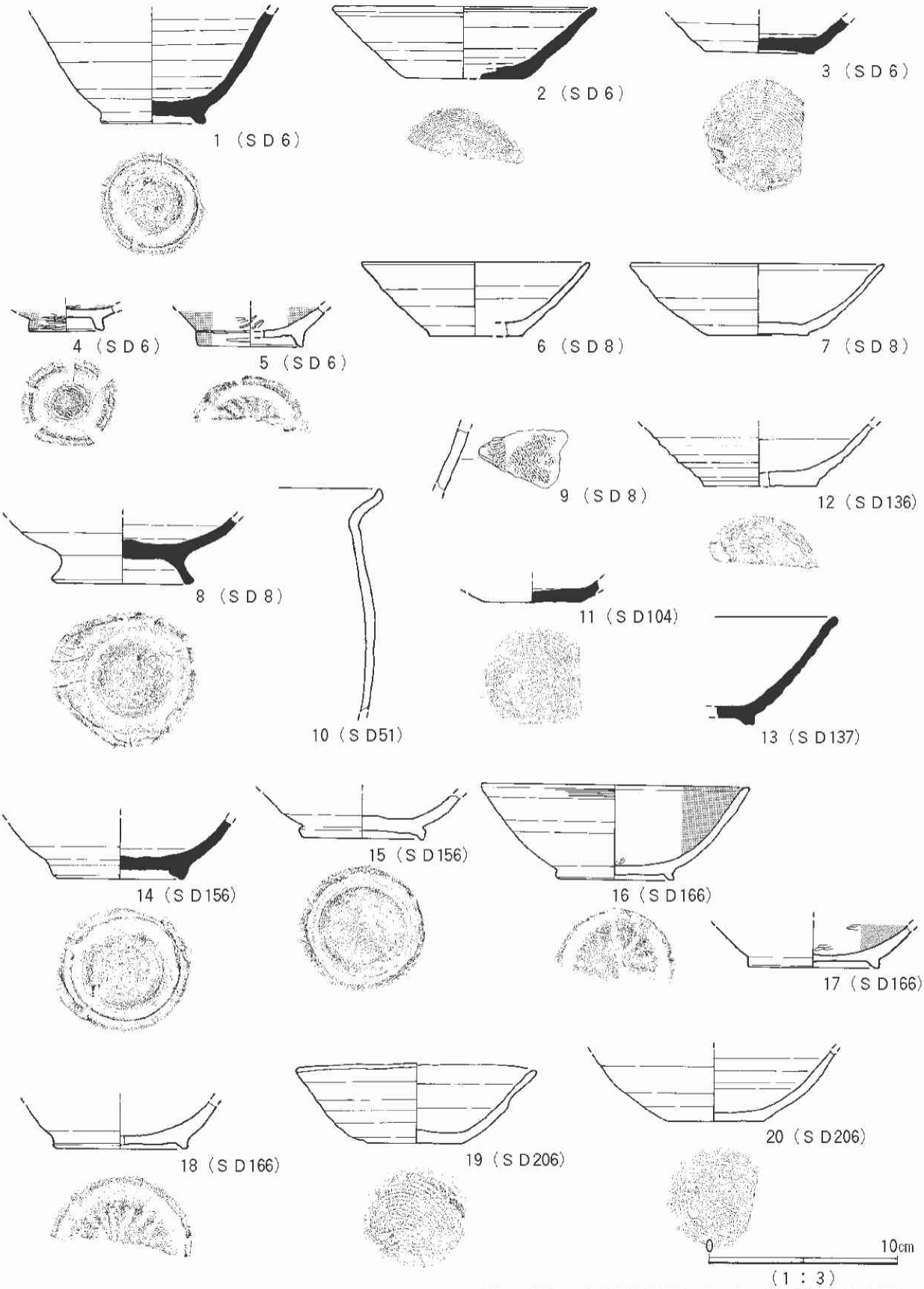
第39図　土器実測図（20）　遺構出土土器4



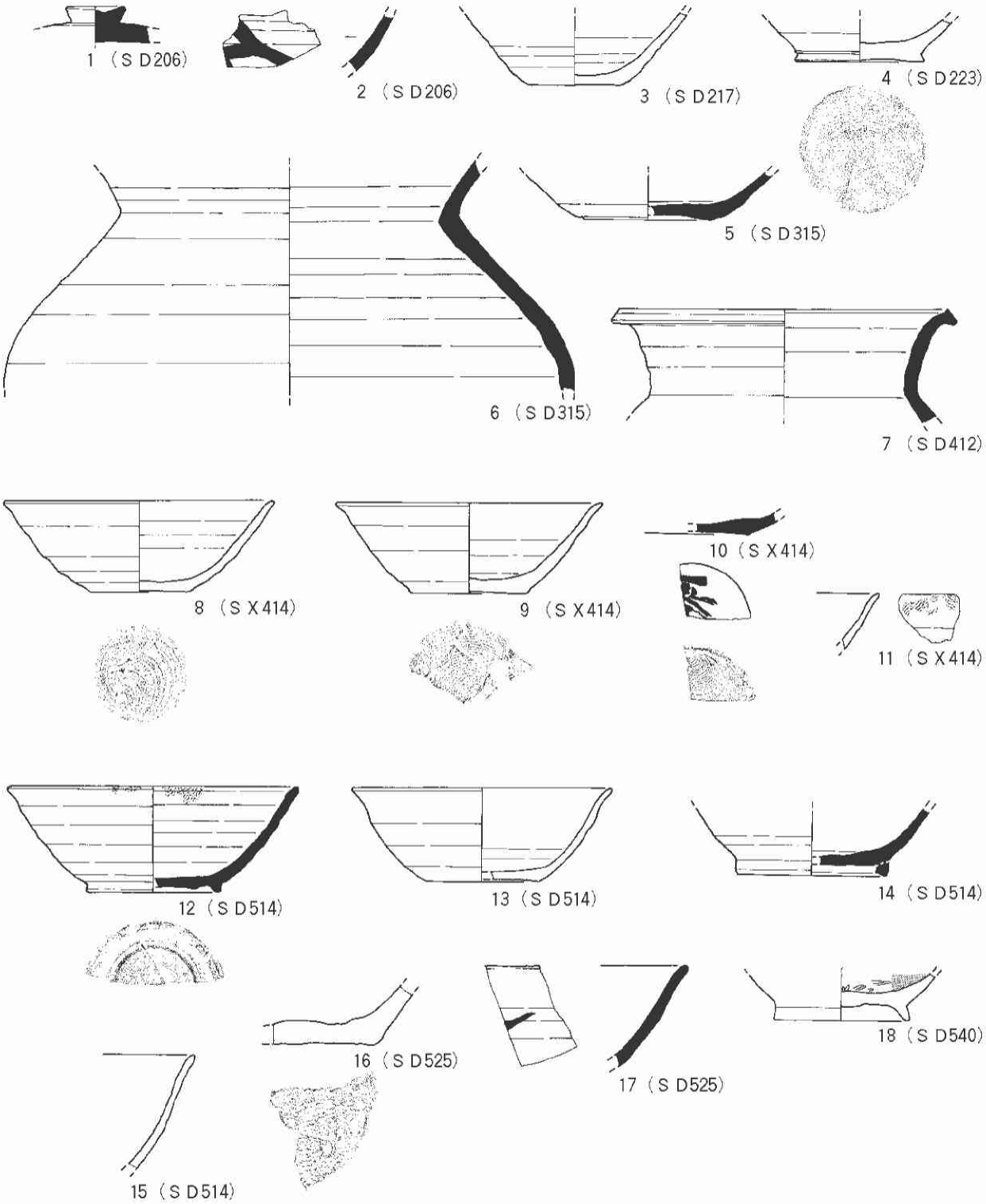
第40図　土器実測図（21）　遺構出土土器５



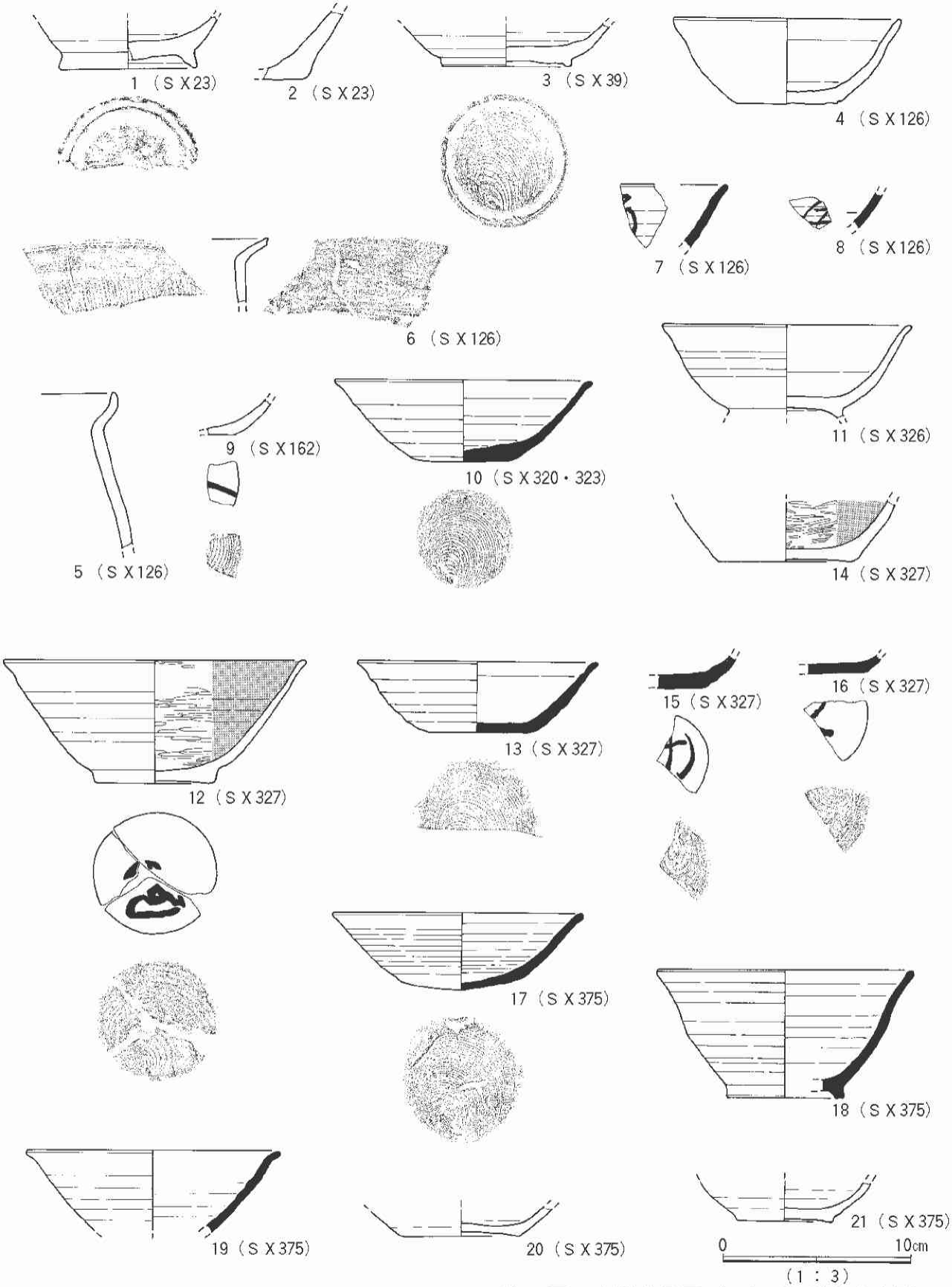
第41図　土器実測図（22）　遺構出土土器６



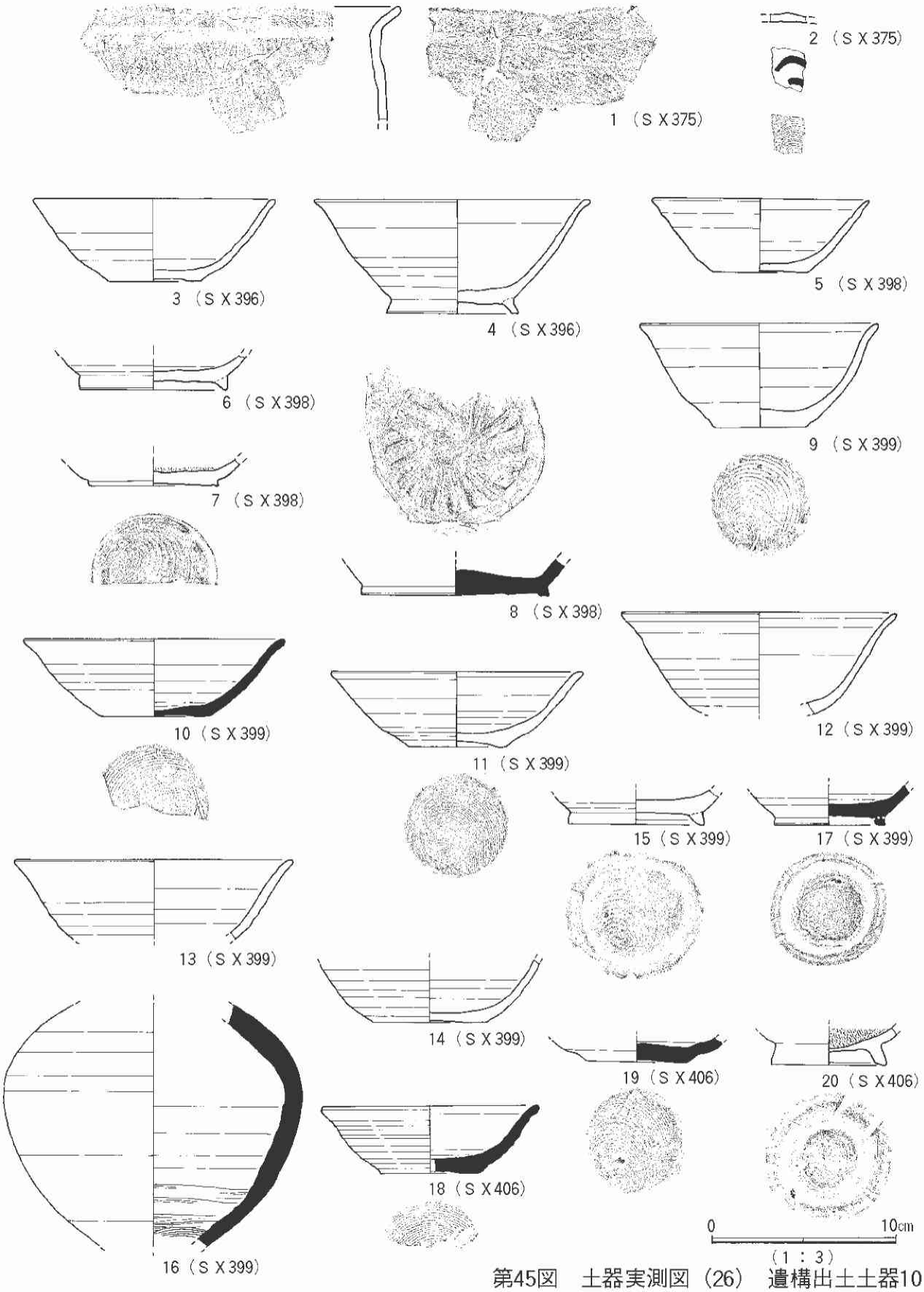
第42図　土器実測図（23）　遺構出土土器７



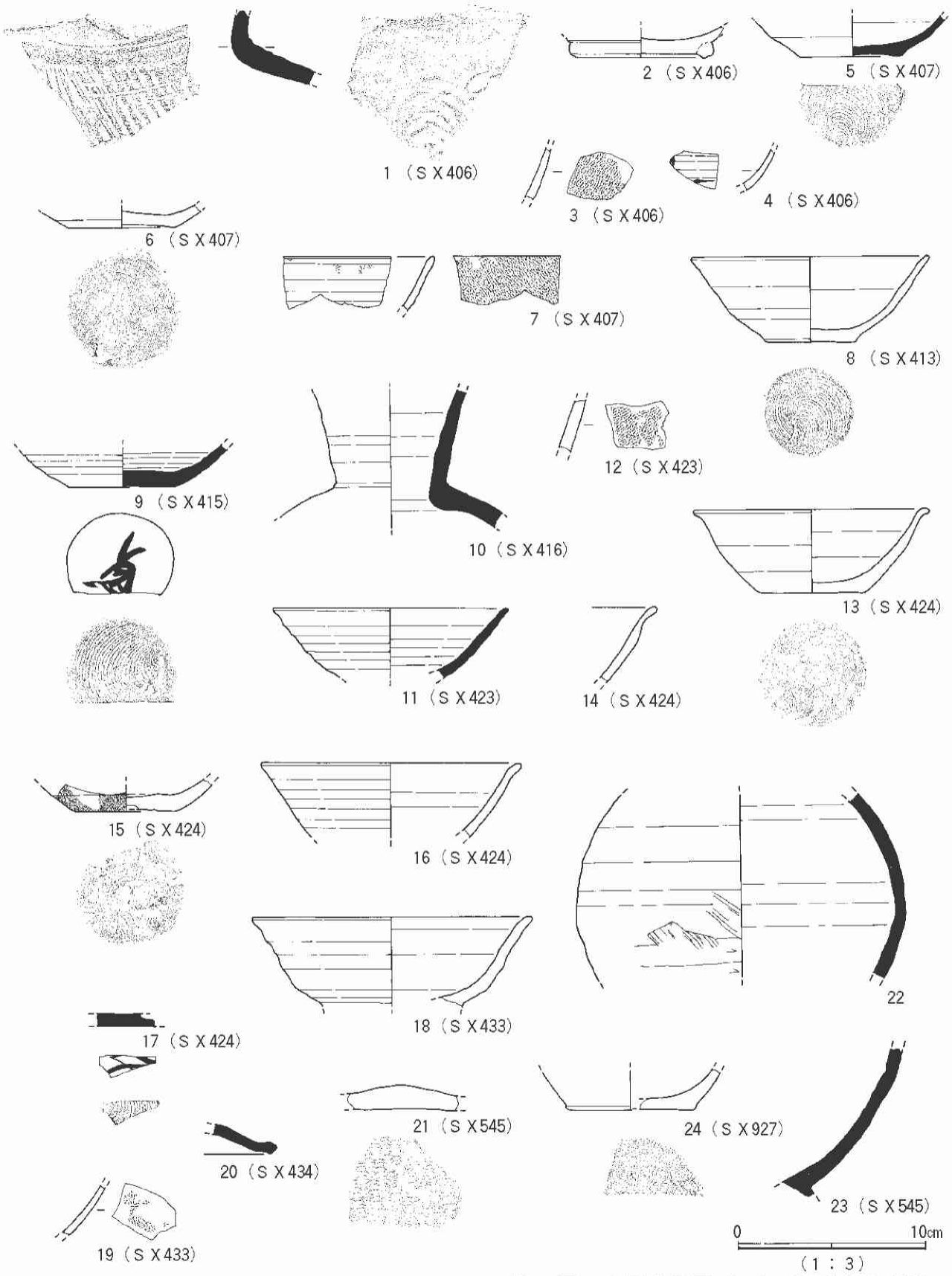
第43図　土器実測図（24）　遺構出土土器８



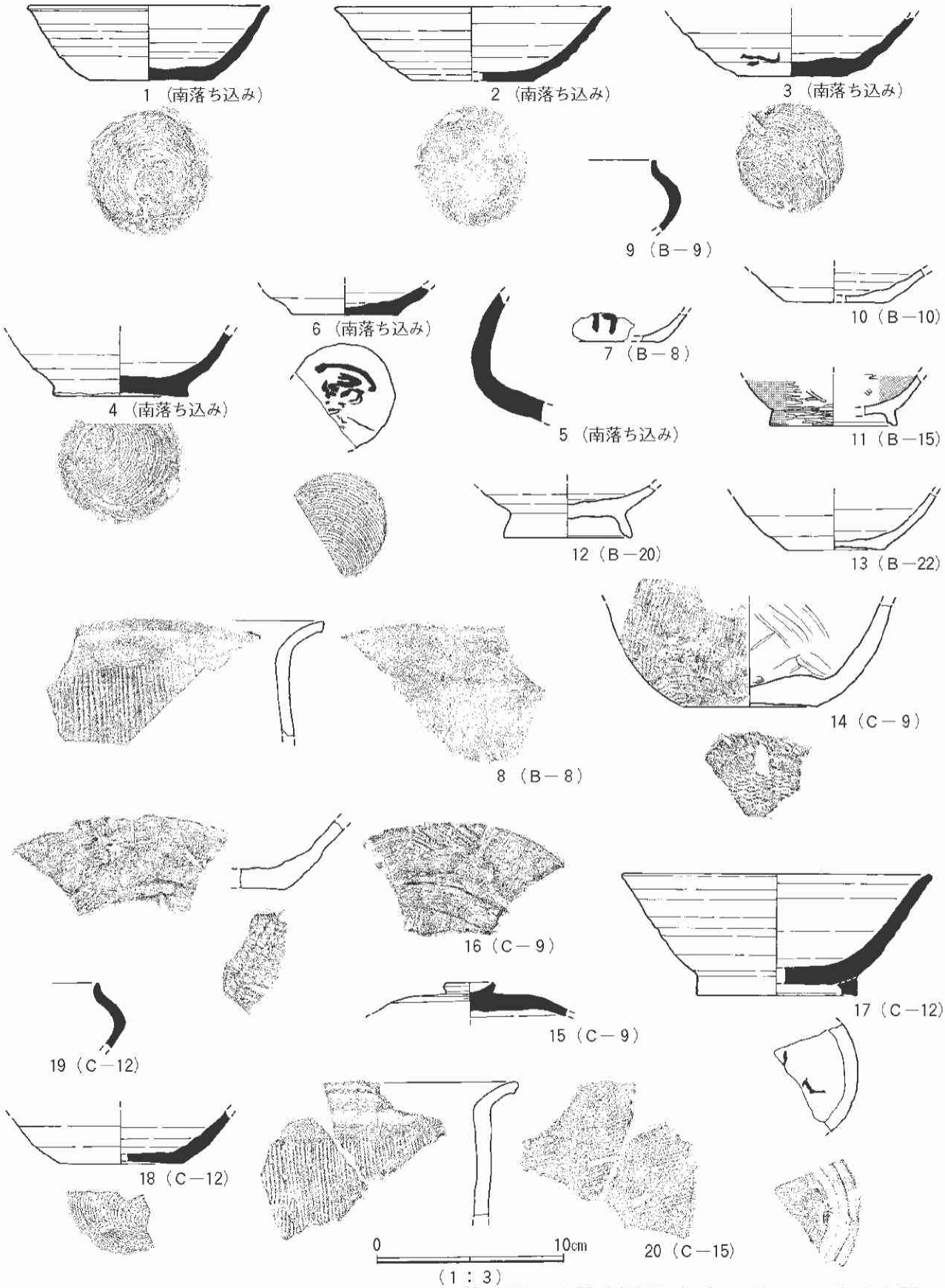
第44図　土器実測図（25）　遺構出土土器 9



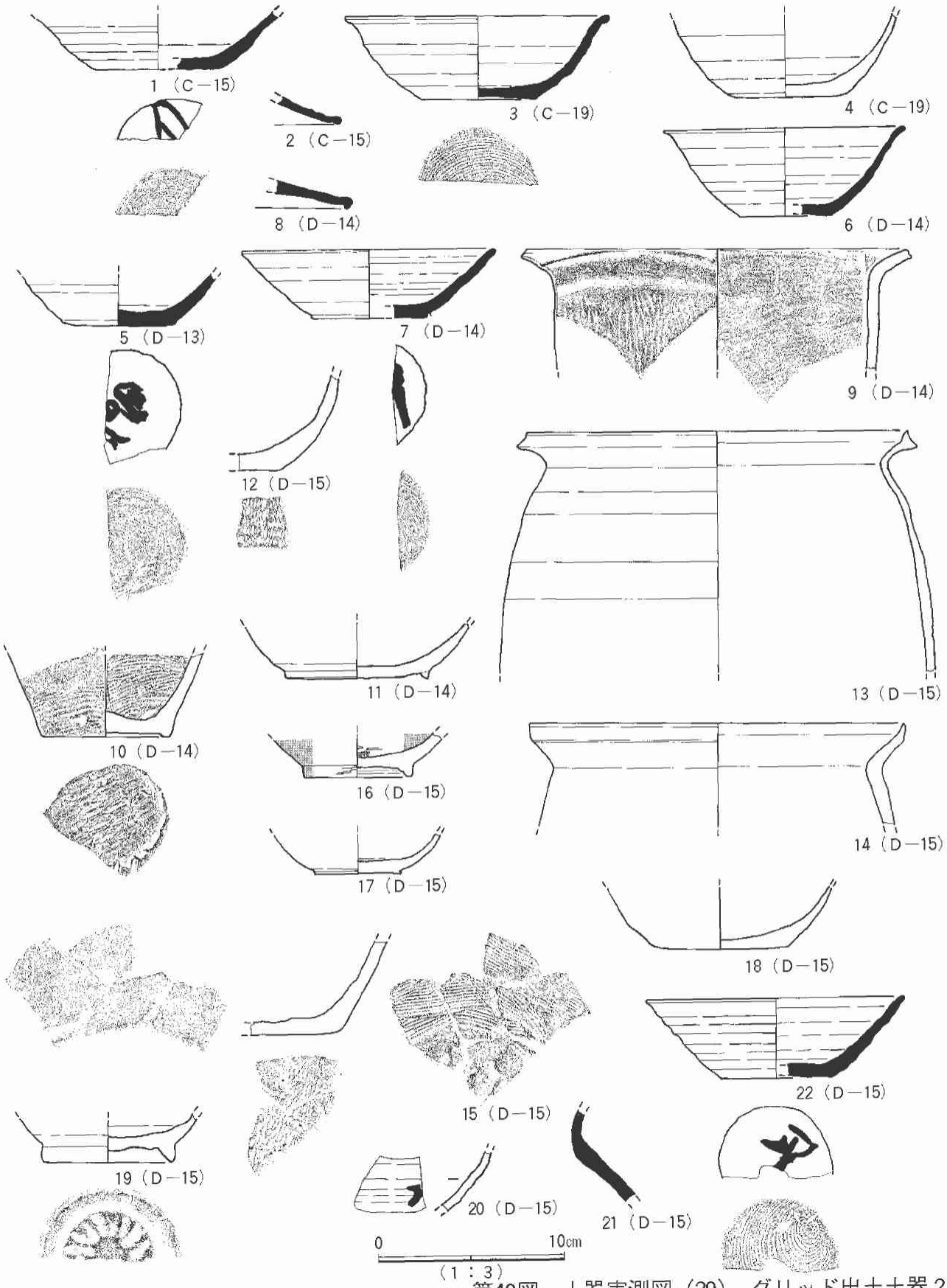
第45図　土器実測図（26）　遺構出土土器10



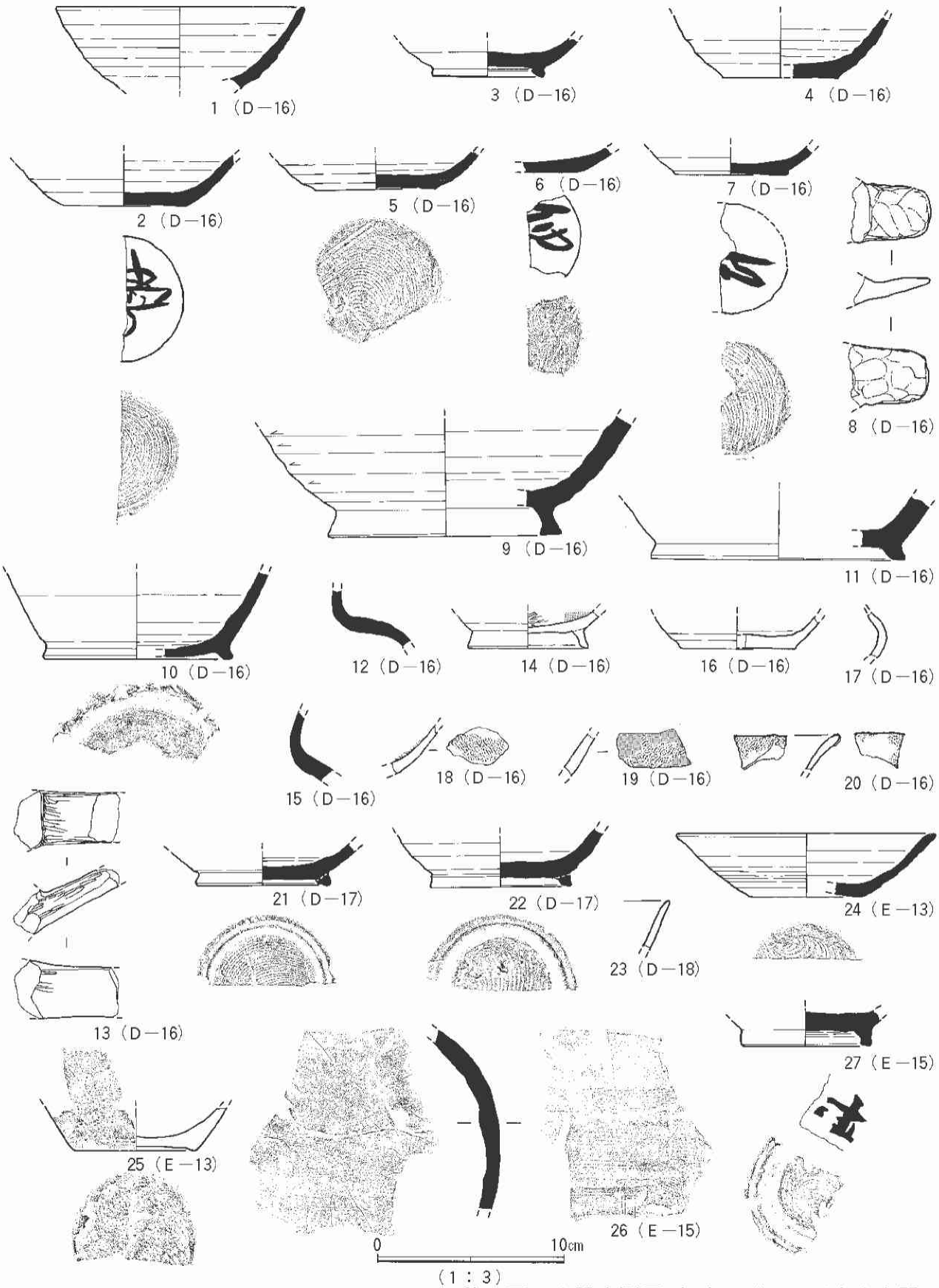
第46図　土器実測図（27）　遺構出土土器11



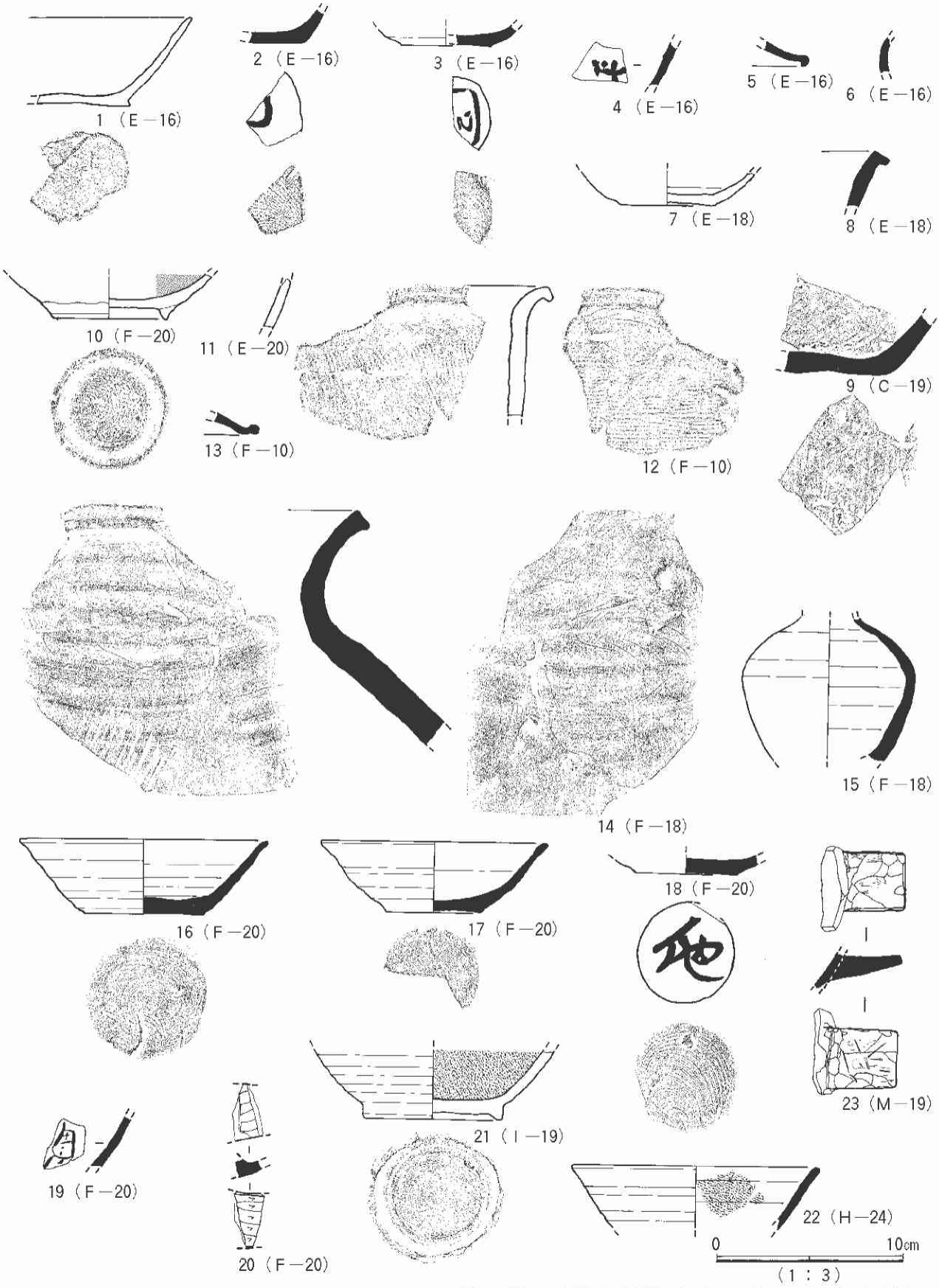
第47図　土器実測図（28）　グリッド出土土器1



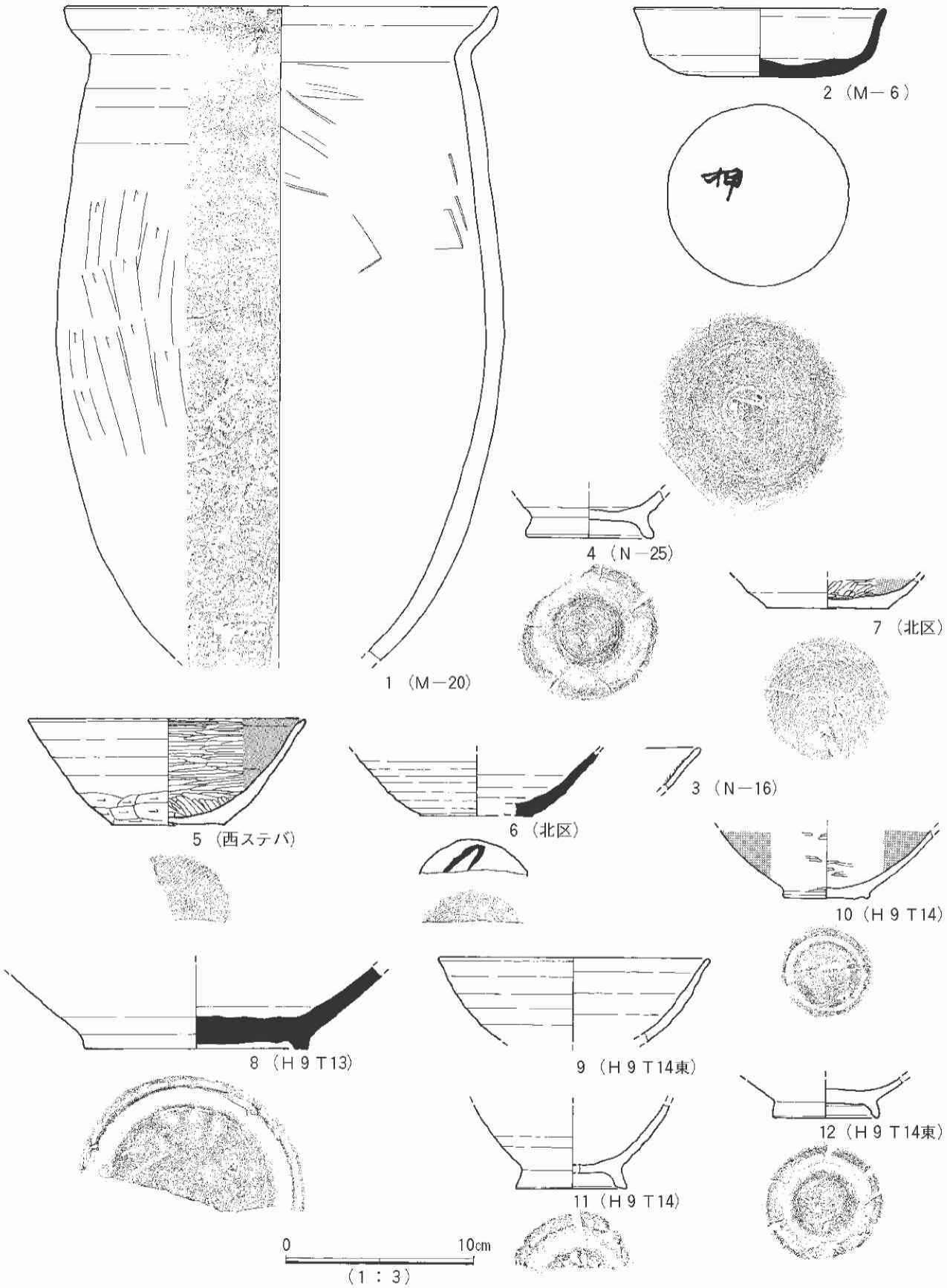
第48図　土器実測図（29）　グリッド出土土器２



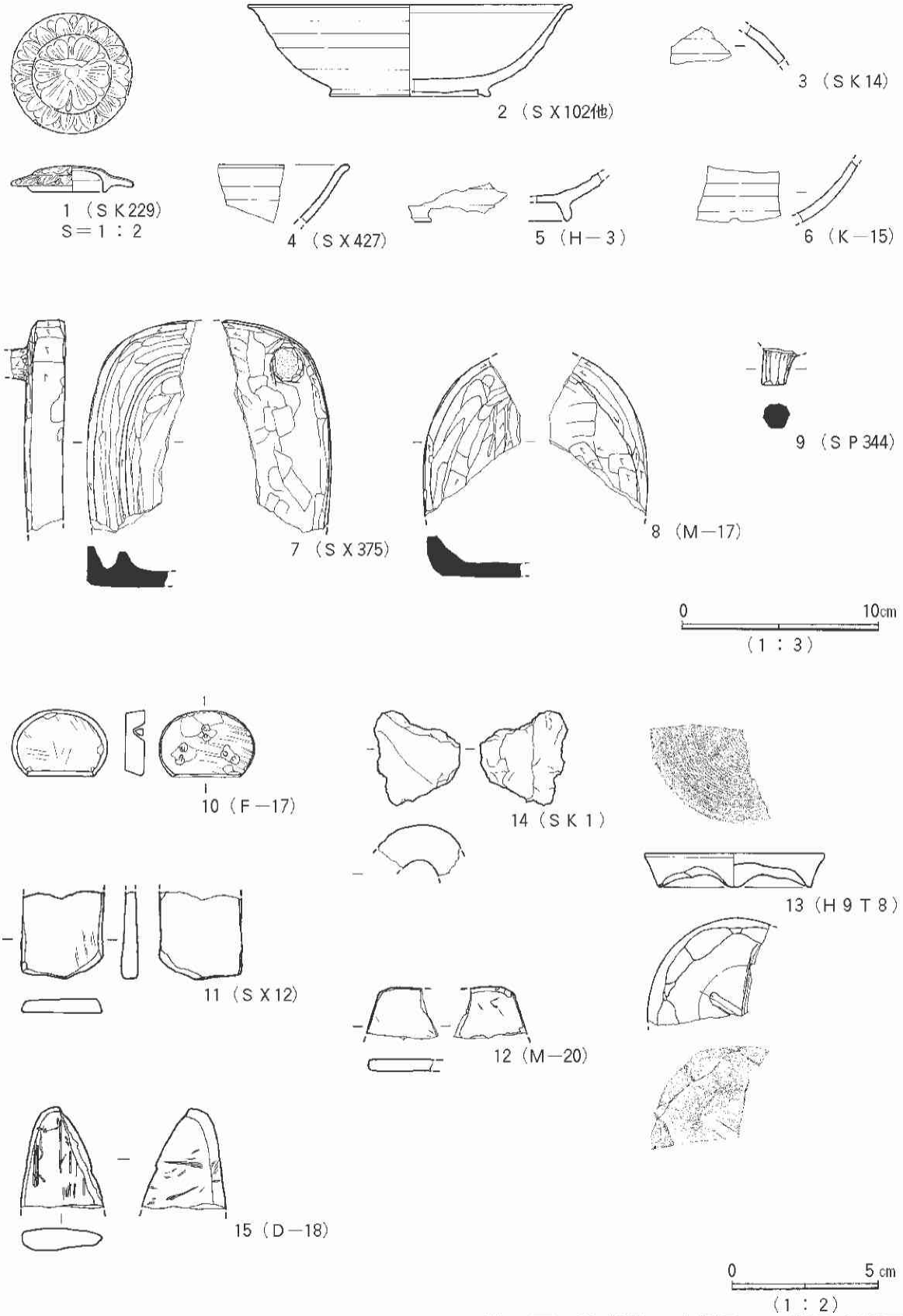
第49図　土器実測図（30）　グリッド出土土器３



第50図　土器実測図（31）　グリッド出土土器4



第51図　土器実測図（32）　グリッド出土土器5



第52図　陶磁器、土製品、石製品実測図

第５表　遺物観察表１

新図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	ＲＰ番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第20図	1	1	ＳＫ１	65	土師器	坏	ⅡＡ2b①	119.0	52.0	38.0	3.0	43.7	31.9	40.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切？	
	2	2	ＳＫ１	99	土師器	坏	ⅡＡ2c①	140.0	68.0	43.0	4.0	48.6	30.7	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	3	ＳＫ１	70	土師器	坏	ⅡＡ2b③	(120.0)	52.0	(43.0)	3.5	(43.3)	(36.0)	40.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	4	ＳＫ１	59	土師器	坏	ⅡＡ2b③	(127.0)	55.0	46.0	5.0	(43.3)	(36.2)	(38.5)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	5	ＳＫ１	56	土師器	坏	ⅡＡ2c③	(129.0)	48.0	(47.0)	3.0	(37.2)	36.4	(41.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	6	ＳＫ１	129	土師器	坏	ⅡＡ3②	(127.0)	50.0	(42.0)	3.5	(39.4)	33.1	45.8	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	7	ＳＫ１	64	土師器	坏	ⅡＡ3①	(125.0)	48.0	(45.0)	4.0	(38.4)	36.0	(42.0)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	8	ＳＫ１	76	土師器	坏	ⅡＡ3②	116.0	42.0	34.0	3.5	36.2	29.3	47.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	9	ＳＫ１	126	土師器	坏	ⅡＡ3②	(126.0)	53.0	(40.0)	4.5	(42.1)	31.7	(42.0)	ロクロ	ロクロ	回転糸切？	
	10	10	ＳＫ１	82	土師器	坏	ⅡＡ3①	116.0	46.0	38.0	3.5	39.7	32.8	43.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	11	ＳＫ１	60	土師器	坏	ⅡＡ2b①	135.0	60.0	50.0	5.0	44.4	37.0	39.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	口縁部外内面に煤付着
	12	12	ＳＫ１	72	土師器	坏	ⅡＡ2b③	124.0	56.0	45.0	4.0	45.2	36.3	37.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	13	13	ＳＫ１	87	土師器	坏	ⅡＡ2b①	123.0	56.0	42.0	3.0	45.5	34.1	37.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	14	ＳＫ１	79	土師器	坏	ⅡＡ3②	(122.0)	50.0	(42.0)	5.0	(41.0)	34.4	42.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切？	
	15	15	ＳＫ１	129	土師器	坏	ⅡＡ3②	121.0	49.0	38.0	3.5	40.5	31.4	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第21図	1	16	ＳＫ１	103	土師器	坏	ⅡＡ3②	133.0	61.0	38.0	4.0	45.9	28.6	43.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	17	ＳＫ１	58	土師器	坏	ⅡＡ2a①	125.0	58.0	47.0	4.0	46.4	37.6	36.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	18	ＳＫ１	91	土師器	坏	ⅡＡ3①	129.0	56.0	41.0	4.0	43.4	31.8	41.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	19	ＳＫ１	90	土師器	坏	ⅡＡ3①	125.0	50.0	43.0	3.0	40.0	34.4	42.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	20	ＳＫ１	61	土師器	坏	ⅡＡ3①	120.0	54.0	38.0	4.5	45.0	31.7	41.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	21	ＳＫ１	117	土師器	坏	ⅡＡ2b①	(126.0)	56.0	40.0	4.0	(44.4)	(31.7)	37.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	22	ＳＫ１	73	土師器	坏	ⅡＡ2b②	123.0	54.0	41.0	2.5	43.9	33.3	40.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	23	ＳＫ１	115	土師器	坏	ⅡＡ3②	127.0	45.0	46.0	3.0	35.4	36.2	41.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	24	ＳＫ１	71	土師器	坏	ⅡＡ3②	123.0	52.0	35.0	2.0	42.3	28.5	46.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	10	25	ＳＫ１	63	土師器	坏			50.0	(28.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	26	ＳＫ１	65	土師器	坏	ⅡＡ2a③	124.0	64.0	(46.0)	4.5	51.6	(37.1)	34.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	12	27	ＳＫ１	130	土師器	坏	ⅡＡ2b②	(126.0)	(56.0)	(43.0)	4.0	44.4	34.1	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切？	
	13	28	ＳＫ１	71	土師器	坏	ⅡＡ3②	(128.0)	(46.0)	(40.0)	4.5	35.9	31.3	44.0	ロクロ	ロクロ	不明	
	14	29	ＳＫ１	62	土師器	坏	ⅡＡc②	(130.0)	(52.0)	(42.0)	4.0	40.0	32.3	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	15	30	ＳＫ１	114	土師器	坏	ⅡＡ2c①	(138.0)	(54.0)	(45.0)	5.0	39.1	32.6	43.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	16	31	ＳＫ１	118	土師器	坏			58.0	(16.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	17	32	ＳＫ１	88	土師器	坏			52.0	(33.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	18	33	ＳＫ１	105	土師器	坏			(50.0)	(11.0)	2.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第22図	1	34	ＳＫ１	67	土師器	坏			40.0	(22.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	35	ＳＫ１	116	土師器	坏			58.0	(26.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	36	ＳＫ１	65	土師器	坏			53.0	(26.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	37	ＳＫ１	97	土師器	坏		134.0		(37.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		
	5	38	ＳＫ１	57	土師器	坏			(52.0)	(40.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	39	ＳＫ１	121	土師器	坏			48.0	(22.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	40	ＳＫ１	133	土師器	坏			58.0	(20.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	不明	
	8	41	ＳＫ１	68	土師器	坏			(45.0)	(22.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	42	ＳＫ１	98	土師器	坏			50.0	(17.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	外面の体部下半から底部に漆か？
	10	43	ＳＫ１	77	土師器	坏			(50.0)	(15.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	44	ＳＫ１	86	土師器	坏				(31.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	12	45	ＳＫ１	95	土師器	高台付坏			58.0	(17.0)	7.0				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	13	46	ＳＫ１	113	土師器	坏			45.0	(17.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	47	ＳＫ１	111	土師器	高台付坏		156.0	(69.0)	(50.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		坏か？
	15	48	ＳＫ１	120	土師器	高台付皿	ⅡＤ	122.0	66.0	39.0	5.5	54.1	32.0	56.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	16	49	ＳＫ１	96	土師器	高台付坏	ⅡＢ２	(140.0)	(71.0)	(61.0)	3.5	50.7	43.6	37.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	17	50	ＳＫ１	78	土師器	高台付坏			(65.0)	(24.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	18	51	ＳＫ１	114	土師器	高台付坏			(74.0)	(28.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	19	52	ＳＫ１	69	土師器	高台付坏			(63.0)	(26.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	20	53	ＳＫ１	101	土師器	高台付坏			(66.0)	(16.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	21	54	ＳＫ１	77	土師器	埦	ⅡＧ１	(410.0)		(140.0)	7.0				ハケメ	ハケメ		
第23図	1	55	ＳＫ１	123他	土師器	埦	ⅡＧ１			(155.0)	7.5				ハケメ	ハケメ		RP123･124･125･119･131接合
	2	56	ＳＫ１	74	土師器	埦	ⅡＧ１		(124.0)	(63.0)	8.5				ハケメ	ハケメ	不明	底部外面に網代痕
	3	57	ＳＫ１	65	土師器	甕	ⅡＥ６			(109.0)	7.5				ハケメ	ハケメ		
	4	58	ＳＫ１	122	土師器	甕	ⅡＥ６			(58.0)	5.0				ハケメ	ハケメ		
	5	59	ＳＫ１	67	黒色土器	高台付坏	ⅢＢ2①	(150.0)	(60.0)	(45.0)	3.5	40.0		44.0	ロクロ	ロクロ?ミガキ		坏か？内面炭素吸着。
	6	60	ＳＫ１	106	黒色土器	高台付鉢	ⅢＣ	104.0	49.0	47.0	4.0	47.1	45.2	38.0	ロクロ ミガキ	ロクロ ミガキ	回転糸切	外・内面炭素吸着
	7	61	ＳＫ１		黒色土器	高台付鉢	ⅢＣ	114.0	(50.0)	(42.0)	4.0			36.0	ロクロ?ミガキ	ロクロ?ミガキ		坏か?外･内面炭素吸着、SD出土土器接合
	8	62	ＳＫ１	107	黒色土器	高台付坏	ⅢＢ2②	(136.0)	(56.0)	(40.0)	3.5	41.2		(42.0)	ロクロ？	ロクロ?ミガキ		坏か？内面炭素吸着。
	9	63	ＳＫ１	107	黒色土器	高台付坏				(9.0)	4.5				ロクロ？	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	10	64	ＳＫ１		黒色土器	高台付坏	ⅢＢ2①	(138.0)	(56.0)	(40.0)	3.5	40.6		(44.0)	ロクロ	ロクロ?ミガキ		坏か？内面炭素吸着。
	11	65	ＳＫ１	63	黒色土器	高台付坏			64.0	(29.0)	4.0				ロクロ	ロクロ ミガキ?	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	12	66	ＳＫ１	134	黒色土器	高台付坏				(46.0)	3.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ?		高台付坏か？内面炭素吸着。
	13	67	ＳＫ１	132	黒色土器	高台付坏			(64.0)	(17.0)	4.5				ロクロ	ロクロ?ミガキ?	回転糸切	内面炭素吸着

第６表　遺物観察表２

掲図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	ＲＰ番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第23図	14	68	ＳＫ１	89	黒色土器	高台付坏				(27.0)	3.5				ミガキ？	ミガキ？	不明	外・内面炭素吸着
	15	69	ＳＫ１	80	黒色土器	高台付坏			70.0	(30.0)	3.0				ロクロ？	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	16	70	ＳＫ１	61	黒色土器	高台付坏			64.0	(17.0)	3.5				ロクロ	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	17	71	ＳＫ１	104	黒色土器	高台付坏			60.0	(17.0)	3.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	18	72	ＳＫ１	128	黒色土器	高台付坏			59.0	(20.0)	4.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ	不明	内面炭素吸着
	19	74	ＳＫ１	102	黒色土器	高台付坏			65.0	(22.0)	4.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	20	75	ＳＫ１	110	黒色土器	高台付坏			(61.0)	(19.0)	4.0				ミガキ	ミガキ？	回転糸切	内面炭素吸着
	21	76	ＳＫ１	122	黒色土器	高台付坏			63.0	(22.0)	3.0				ロクロ?ミガキ	ロクロ?ミガキ	不明	内面炭素吸着
	22	77	ＳＫ１	92	黒色土器	高台付坏			70.0	(21.0)	6.0				ロクロ？	ロクロ?ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
第24図	1	73	ＳＫ１	93	黒色土器	高台付坏			67.0	(21.0)	3.5				ロクロ	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	2	78	ＳＫ１	100	黒色土器	高台付坏			63.0	(24.0)	3.0				ロクロ？	ミガキ？	不明	内面炭素吸着？
	3	79	ＳＫ１	83	黒色土器	高台付坏			60.0	(26.0)	3.5				ロクロ	ロクロ?ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	4	80	ＳＫ１	112	黒色土器	高台付坏			(64.0)	(15.0)	7.0				不明	ロクロ?ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	5	81	ＳＫ１	108	黒色土器	高台付坏			67.0	(27.0)	3.5				ロクロ	ロクロ?ミガキ?	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	6	82	ＳＫ１	81	黒色土器	高台付坏			62.0	(30.0)	4.0				不明	ミガキ？	菊花状ナデツケ?	内面炭素吸着
	7	83	ＳＫ１	84	黒色土器	高台付坏			(52.0)	(27.0)	4.0				ナデ?ロクロ	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	8	84	ＳＫ１	109	黒色土器	高台付坏			(64.0)	(30.0)	5.0				不明	ロクロ?ミガキ	不明	内部炭素吸着　底部穿口か？
	9	85	ＳＫ１		土師器	高台付坏	ⅡＢ３	150.0	52.0	55.0	3.5	34.7	36.7	48.0	ロクロ	ロクロ	ナデ	
	10	86	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA2b②	125.0	50.0	48.0	4.0	40.0	38.4	38.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	87	ＳＫ１	55	土師器	坏	ⅡA2b①	126.0	57.0	45.0	3.5	45.2	35.7	37.0	ロクロ	ロクロ	不明	
	12	88	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA2a②	122.0	56.0	46.0	4.0	45.9	37.7	35.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	13	89	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA2b②	134.0	50.0	50.0	3.5	37.3	37.3	39.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	90	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA3②	123.0	52.0	39.0	4.0	42.3	31.7	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	15	91	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA2b③	127.0	50.0	47.0	5.0	39.4	37.0	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	16	92	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA2c②	136.0	62.0	42.0	4.0	45.6	30.9	42.0	不明	不明	不明	
	17	93	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA3②	125.0	54.0	41.0	3.5	43.2	32.8	41.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	18	94	ＳＫ１		土師器	坏		123.0		(31.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		坏か？
	19	95	ＳＫ１		土師器	坏	ⅡA3②	122.0	42.0	43.0	3.0	34.4	35.2	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	20	96	ＳＫ１		土師器	坏			52.0	(26.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第25図	1	97	ＳＫ１		土師器	坏		122.0		(28.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		坏か？
	2	98	ＳＫ１		土師器	壷									ロクロ	不明		壷か？
	3	99	ＳＫ１		土師器	甕											不明	底部外面に網代痕、SK1④出土
	4	101①	ＳＫ１		土師器	坏		130.0		(33.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		坏か？外面内面漆付着。
	5	101②	ＳＫ１		土師器	坏			54.0	(27.0)	3.5				ロクロ	不明	回転糸切	内面全面漆付着
	6	102	ＳＫ１	54	須恵器	坏			50.0	(26.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	103	ＳＫ１	85	須恵器	高台付坏			67.0	(18.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	104	ＳＫ１	75	須恵器	甕	ＩＥ			(67.0)	11.0				ロクロ	ロクロ		
	9	105	ＳＫ１	89	須恵器	甕	ＩＥ			(64.0)	9.5				ロクロ	ロクロ		
	10	106	ＳＫ１	136	須恵器	甕	ＩＥ				7.5				タタキ	アテ		
	11	107	ＳＫ１	135	須恵器	甕	ＩＥ				20.0				タタキ	アテ		
	12	108	ＳＫ１		須恵器	壷	ＩＦ１				7.0				ロクロ	ロクロ		頸径（62）
	13	109	ＳＫ１		須恵器	甕				(15.0)	6.0				ロクロ	ロクロ		
	14	110	ＳＫ１		須恵器	壷	ＩＤ１			(12.0)					ロクロ	ロクロ		
	15	111	ＳＫ１	83	須恵器	坏					4.0				ロクロ	ロクロ		墨書あり「田」か？
第26図	1	1	ＳＫ２	35	土師器	坏	ⅡA2b①	140.0	56.0	51.0	4.0	40.0	36.4	39.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	2	ＳＫ２	33	土師器	坏	ⅡA2b①	124.0	52.0	45.0	3.5	41.9	36.3	38.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	3	ＳＫ２	30	土師器	高台付坏	ⅡＢ２	153.0	65.0	67.0	4.0	42.5	43.8	39.5	ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	4	4	ＳＫ２	31	土師器	高台付坏	ⅡＢ２	(142.0)	(66.0)	67.0	5.0	46.5	(47.2)	33.0	ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	5	5	ＳＫ２	37	土師器	高台付坏	ⅡＢ２	(140.0)	(71.0)	(62.0)	5.0	50.7	44.3	35.0	ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	6	6	ＳＫ２	41	土師器	高台付坏	ⅡＢ２	138.0	62.0	56.0	5.0	44.9	40.6	37.0	ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	7	7	ＳＫ２	39	土師器	高台付坏			(65.0)	(55.0)	3.0				ロクロ	ロクロ？	菊花状ナデツケ	
	8	8	ＳＫ２	32	土師器	高台付坏		114.0	63.0	(38.0)	3.0	55.3	(33.3)		ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	9	9	ＳＫ２	42	土師器	坏			51.0	(29.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	坏か？
	10	10	ＳＫ２		土師器	坏	ⅡA3①	(134.0)	(44.0)	(43.0)	5.0	32.8	32.1	47.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	11	ＳＫ２	47	土師器	坏			(50.0)	(37.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	不明	固い焼きしまり。須恵器？
	12	12	ＳＫ２		土師器	坏		(140.0)	(60.0)	(44.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		内面煤？
	13	14	ＳＫ２	39	土師器	甕	ⅡＥ６	(222.0)		(244.0)	5.0				ロクロ ケズリ	ロクロ		頸径（198）胴径（210）
	14	15	ＳＫ２	44	土師器	甕	ⅡＥ３	(124.0)		(67.0)	5.0				ハケメ	ハケメ		
	15	16	ＳＫ２		土師器	鍋	ⅡＧ２			(45.0)	10.0				ハケメ	ハケメ		
	16	17	ＳＫ２		土師器	壷	ⅡＦ１			(52.0)	5.5				ロクロ	ロクロ		壷か？外内面漆痕。
	17	18	ＳＫ２	43	土師器	甕					6.0				ハケメ	ハケメ		
	18	19	ＳＫ２		土師器	坏					4.0				ロクロ	不明		内面全面漆付着
第27図	1	20	ＳＫ２	38	黒色土器	高台付坏	ⅢB1①	(150.0)	(70.0)	(65.0)	3.0	46.7	43.3	39.0	ロクロ	ロクロ ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	2	21	ＳＫ２	29	黒色土器	高台付坏			76.0	(45.0)	5.0				ロクロ	ロクロ ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	3	22	ＳＫ２	43	黒色土器	高台付坏			(68.0)	(50.0)	4.5				ロクロ	ロクロ?ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	4	23	ＳＫ２	46	黒色土器	高台付坏			(60.0)	(41.0)	5.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	5	24	ＳＫ２	36	土師器	高台付坏			80.0	(37.0)	5.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ?		内面漆かミガキ？
	6	25	ＳＫ２	47	土師器	坏			(50.0)	(15.0)	7.0				不明	ミガキ？	不明	内面炭素吸着

第７表　遺物観察表３

掲図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	ＲＰ番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第27図	7	26	ＳＫ２	28	須恵器	甕	ＩＥ	(260.0)		(130.0)	10.0				ロクロ タタキ	ロクロ アテ痕		
	8	27	ＳＫ２	39	須恵器	甕	ＩＥ			(76.0)	8.0				ロクロ	ロクロ		
	9	28	ＳＫ２	28	須恵器	高台付坏				(12.0)					ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	10	29	ＳＫ２	28	須恵器	甕	ＩＥ				10.0				タタキ	アテ		
	11	30	ＳＫ２	35	須恵器	坏		(124.0)	(60.0)	(39.0)	5.0	48.4	31.5		ロクロ	ロクロ		
	12	31	ＳＫ２		須恵器	坏				(13.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		
	13	32	ＳＫ２		須恵器	甕	ＩＥ				10.0				タタキ	アテ		
	14	33	ＳＫ２		須恵器	甕	ＩＥ				15.0				タタキ	アテ		
	15	34	ＳＫ２	48	黒色土器	高台付坏	ⅢB1②	158.0	71.0	73.0	4.0	44.9	46.2	37.0	ロクロ	ミガキ ロクロ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
第28図	1	1	ＳＤ５		土師器	甕	ⅡＧ１		50.0	(21.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	2	ＳＤ５		黒色土器	高台付坏			(64.0)	(37.0)	4.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ	不明	中央に孔か？
	3	3	ＳＤ５	146	土師器	埦				(53.0)	10.0				ロクロ	ロクロ		
	4	4	ＳＤ５	139	土師器	坏			(60.0)	(26.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	5	ＳＤ５	143	土師器	高台付坏			68.0	(18.0)	3.5				不明	不明	ナデ	
	6	6−①	ＳＤ５	142	土師器	高台付坏			(60.0)	(39.0)	6.5				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	7	7	ＳＤ５	140	土師器	坏				(39.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		
	8	8	ＳＤ５	145	土師器	甕			(120.0)		13.0				ハケメ		不明	底部外面に網代痕
	9	9	ＳＤ５		黒色土器	高台付坏			(62.0)	(44.0)	4.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	10	10	ＳＤ５	144	土師器	坏			50.0	(13.0)	4.0				不明	不明	不明	内面全面漆
	11	11	ＳＤ５		須恵器	坏	ⅠA5①	(130.0)	(54.0)	(45.5)	6.0	41.5	35.0	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	外内面漆付着
	12	12	ＳＤ５		土師器	甕か？			(120.0)	(100.0)	6.0				ハケメ	ハケメ		底部外面に網代痕
	13	13	ＳＤ５		土師器	坏			43.0	(29.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	内面全面に漆付着
	14	14	ＳＤ５		黒色土器	高台付坏			(70.0)	(22.0)	5.0						回転糸切	内面炭素吸着
	15	15	ＳＤ５		黒色土器	高台付坏			65.0	(22.0)	5.0						回転糸切	内面炭素吸着
	16	16	ＳＤ５		土師器	坏	ⅡA2c①	(131.0)	(46.0)	(45.0)	4.0	35.1	34.4	44.0	ロクロ	ロクロ		
	17	17	ＳＤ５		黒色土器	高台付坏			(66.0)		6.0				ロクロ		菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	18	18	ＳＤ５		土師器	坏			50.0	(31.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	19	19	ＳＤ５		黒色土器	鉢Ⅲ		(136.0)		(18.0)	5.0				ロクロ ミガキ	ロクロ ミガキ		Ⅲか？内面炭素吸着。
	20	20	ＳＤ５		土師器	坏	ⅡA2c②	(129.0)	48.0	47.0	5.0	(37.2)	(36.4)	41.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	21	21	ＳＤ５		須恵器	壺	ＩＦ２	(114.0)		(81.0)	6.0				ロクロ	ロクロ		頸径63
	22	22	ＳＤ５		土師器	坏	ⅡA2b①	(124.0)	(56.0)	(41.0)	3.0	45.2	33.1	40.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	23	23	ＳＤ５		土師器	坏	ⅡA3②	(118.0)	42.0	40.0	4.0	(35.6)	(33.9)	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	24	24	ＳＤ５		土師器	坏	ⅡA3②	(130.0)	(45.0)	(34.0)	5.0	34.6	26.2	57.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第29図	1	25	ＳＤ５		土師器	坏	ⅡA3①	(126.0)	52.0	36.5	2.0	(41.3)	(29.0)	47.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	26	ＳＤ５	138	須恵器	甕	ＩＥ				18.0				タタキ ケズリ			
	3	27	ＳＤ５		土師器	坏				(31.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書か？
	4	28	ＳＤ５		須恵器	坏					4.5				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	5	29	ＳＤ５		土師器	坏				(22.0)	2.0				ロクロ	ロクロ		外内面漆付着
	6	30	ＳＤ５		土師器	坏				(33.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		外内面漆付着
	7	31	ＳＤ５		土師器	埦	ⅡＧ２	(400.0)		(109.0)	10.0				ロクロ ケズリ	ロクロ ハケメ		
	8	32	ＳＤ５	148	土師器	埦	ⅡＧ２			(90.0)	11.5				ロクロ	ロクロ ハケメ		
第30図	1	1	ＳＸ12	162	須恵器	坏	ⅠA4②	131.0	58.0	41.0	4.5	44.3	31.3	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	2	ＳＸ12	171	須恵器	高台付坏	ⅠＢ３	155.0	66.0	63.0	4.5	42.6	40.6	41.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	3	ＳＸ12	161	須恵器	坏	ⅠA4②	136.0	60.0	41.0	5.0	44.1	30.1	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	4	ＳＸ12	166	黒色土器	坏	ⅢＡ	(142.0)	(65.0)	57.0	4.5	45.8	(40.1)	34.0	ケズリ ナデ	ミガキ	?	内面炭素吸着
	5	5	ＳＸ12	168	須恵器	坏	ⅠA4③	124.0	60.0	38.0	5.0	48.4	30.6	40.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	6	ＳＸ12	163	須恵器	坏	ⅠＡ２	140.0	70.0	40.0	3.5	50.0	28.6	46.0	ロクロ	ロクロ	ヘラ切	
	7	7	ＳＸ12	169	須恵器	坏			(55.0)	(31.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	8	ＳＸ12	164	須恵器	坏			58.0	(24.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	9	ＳＸ12	167	土師器	甕	ⅡＥ４	(126.0)		(112.0)	5.0				ナデ ハケメ	ハケメ		頸径（118）　胴径（128）
	10	10	ＳＸ12	167	土師器	壺									ロクロ	ロクロ		
	11	11	ＳＸ12	151	須恵器	壺			82.0	(44.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	12	12	ＳＸ12	159	土師器	坏	ⅡA2c①	(148.0)	(58.0)	51.0	3.0	39.2	(34.5)	41.5	ロクロ	ロクロ	不明	
	13	13	ＳＸ12	170	須恵器	壺	ＩＦ２		93.0	(109.0)					タタキ	ハケメ？	ナデ	ＳＤ553と接合
	14	14	ＳＸ12	165	土師器	甕	ⅡＥ４			(37.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	15	15	ＳＸ12	152	土師器	甕				(61.0)	5.0				ハケメ	ハケメ		
	16	16	ＳＸ12	158	須恵器	坏		(129.0)		(33.0)	4.5				ロクロ	ロクロ		
	17	17	ＳＸ12	160	須恵器	坏	ⅠA4③	130.0	64.0	39.0	4.5	49.2	30.0	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	18	18	ＳＸ12	163	須恵器	坏	ⅠA4③	190.0	60.0	41.0	5.0	31.6	21.6	39.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	19	19	ＳＸ12	154	須恵器	坏	ⅠA5②	134.0	62.0	50.0	5.5	46.3	37.3	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
第31図	1	20	ＳＸ12	150	須恵器	坏	ⅠA3①	(143.0)	(64.0)	41.0	4.5	44.8	(28.7)	44.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	2	21	ＳＸ12	157	須恵器	坏	ⅠA4②	(137.0)	52.0	42.0	3.5	(38.0)	(30.7)	41.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	22	ＳＸ12	156	須恵器	坏			60.0	(21.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書　底部内面墨付着？
	4	23	ＳＸ12	155	須恵器	坏	ⅠA3②	(137.0)	62.0	35.0	4.0	(45.3)	(25.5)	49.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	24	ＳＸ12		須恵器	坏	ⅠA5①	(123.0)	(62.0)	42.0	4.5	50.4	(34.1)	38.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	6	25	ＳＸ12		須恵器	坏	ⅠA3②	(134.0)	(66.0)	36.0	4.0	49.3	(26.9)	45.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	7	26	ＳＸ12		須恵器	坏			(60.0)	(12.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	8	27	ＳＸ12		須恵器	坏				(19.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明

第８表　遺物観察表４

新図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	ＲＰ番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第31図	9	28	ＳＸ12		須恵器	坏			(62.0)	(19.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	10	29	ＳＸ12		土師器	甕	ⅡＥ４		(80.0)						ハケメ	ハケメ	ケズリ	胴径（150）
	11	30	ＳＸ12		黒色土器	高台付坏	ⅢB1③	(132.0)	(64.0)	(51.0)	4.0	48.5	38.6	36.0	ロクロ	ミガキ		内面炭素吸着
	12	31	ＳＸ12		黒色土器	坏		(128.0)		(44.0)	4.0				ロクロ	ミガキ		内面炭素吸着
	13	32	ＳＸ12		土師器	坏	ⅡA2a②	(110.0)	(52.0)	42.0	4.5	47.3	(38.2)	36.0	ロクロ	ロクロ		外･内面口縁から底部にかけ漆付着
	14	33	ＳＸ12		須恵器	坏	ⅠA4①	(144.0)	(62.0)	(45.0)	4.0	43.1	31.3	43.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	内面体部煤付着
	15	34	ＳＸ12		須恵器	坏		(142.0)		(34.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		内面体部煤付着
	16	35	ＳＸ12		須恵器	坏				(40.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		坏か？内面口縁部煤付着。
	17	36	ＳＸ12		須恵器	坏				(35.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		坏か?外･内面口縁部漆付着。
	18	37	ＳＸ12		須恵器	坏	ⅠA4③	(128.0)	(61.0)	(38.5)	4.5	47.7	30.1	41.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	19	38	ＳＸ12		須恵器	坏		(142.0)	(66.0)	(44.0)	4.5				ロクロ	ロクロ		
	20	39	ＳＸ12		須恵器	坏	ⅠA3②	(140.0)	(60.0)	38.0	3.5	42.9	(27.1)	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部内面つるりとしている
第32図	1	40	ＳＸ12		須恵器	蓋	ⅠＤ２	(155.0)	(22.0)	(22.5)	4.0	14.2	14.5		ロクロ	ロクロ		天井部回転糸切
	2	41	ＳＸ12		須恵器	蓋	ⅠＤ１			(17.0)	4.5				ロクロ	ロクロ		
	3	42	ＳＸ12		須恵器	蓋	ⅠＤ２				3.5				ロクロ	ロクロ		
	4	43	ＳＸ12		須恵器	甕	ⅠＥ			(61.0)	7.0				ロクロ	ロクロ		頸径（137）
	5	44	ＳＸ12		須恵器	壺	ⅠＥ		(61.0)	(29.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		
	6	45	ＳＸ12		須恵器	甕				(27.0)	7.0				ロクロ	ロクロ		
	7	46	ＳＸ12		土師器	鍋	ⅡＧ１			(50.0)	6.0				ハケメ	ハケメ		
	8	47	ＳＸ12		土師器	甕	ⅡＥ４	(156)		(42.0)	4.5				ナデ	ハケメ		
	9	48	ＳＸ12		土師器	甕				(40.0)	5.0				ケズリ		網代痕	
	10	49	ＳＸ12		須恵器	坏			(62.0)	(11.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	11	50	ＳＸ12		須恵器	坏				(13.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	12	51	ＳＸ12		須恵器	坏				(16.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
第33図	1	1	ＳＫ14		土師器	坏	ⅡA2c①	138.0	55.0	47.0	5.0	39.9	34.1	44.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	2	ＳＫ14		土師器	坏	ⅡA2c③	135.0	52.0	45.0	3.5	38.5	33.3	43.8	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	3	ＳＫ14		土師器	坏	ⅡA2b②	136.0	60.0	42.0	3.5	44.1	30.9	－	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ゆがみにより外傾度計測不能
	4	4	ＳＫ14		土師器	坏	ⅡA2c②	134.0	52.0	41.0	4.5	38.8	30.6	44.7	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	5	ＳＫ14	3	土師器	坏	ⅡA2b①	130.0	58.0	(49.0)	3.5	44.6	(37.7)	38.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	6	ＳＫ14	25	土師器	坏	ⅡA2b①	134.0	58.0	(47.0)	4.0	43.3	(35.1)	40.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	7	ＳＫ14		土師器	坏	ⅡA2c②	(136.0)	(57.0)	(43.0)	4.0	41.9	31.6	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	8	ＳＫ14		土師器	高台付坏	ⅡＢ３	(155.0)	(63.0)	(58.0)	4.0	40.6	37.4	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	9	ＳＫ14	23	土師器	坏	ⅡA2b③	(130.0)	(56.0)	44.0	5.0	43.1	(33.8)		ロクロ	ロクロ	回転糸切	歪みのため、外傾度未記入
	10	10	ＳＫ14		土師器	坏	ⅡA2c②	(139.0)	(54.0)	42.0	3.5	38.8	(30.2)	44.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	11	ＳＫ14	7	土師器	坏	ⅡＡ１	(118.0)	(56.0)	49.5	4.5	47.5	(41.9)	34.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	12	12	ＳＫ14	24	土師器	坏	ⅡA2a②	(134.0)	(62.0)	49.0	3.5	46.3	(36.6)	36.8	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	13	13	ＳＫ14	16	土師器	坏	ⅡA2c②	(134.0)	(60.0)	45.0	4.5	44.8	(33.6)	41.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	14	ＳＫ14	4	土師器	高台付坏		(208.0)		(64.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		
	15	15	ＳＫ14	13	土師器	甕	ⅡＥ４	170.0		(121.0)	5.0				ハケメ	ハケメ		頸径148
	16	16	ＳＫ14	5	土師器	甕	ⅡＥ４		70.0	(112.0)	5.0				ハケメ	ハケメ	不明	底部網代痕
	17	18	ＳＫ14	18	須恵器	坏	ⅠA5①	136.0	62.0	48.0	5.0	45.6	35.3	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	表面剥落？
第34図	1	17	ＳＫ14	13	土師器	甕	ⅡＥ３		(82.0)	(15.0)	6.0				ハケメ	ハケメ	不明	底部網代痕
	2	19	ＳＫ14	19	須恵器	坏	ⅠA5①	(137.0)	60.0	(48.0)	5.0	(43.8)	35.0	38.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	20	ＳＫ14	15	須恵器	坏	ⅠA5②	(128.0)	55.0	(47.0)	4.5	(43.0)	36.7	40.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	21	ＳＫ14	8	土師器	甕	ⅡＥ３		90.0	(72.0)	6.0				ケズリ	ヘラナデ	不明	
	5	22	ＳＫ14	13	土師器	壺	ⅡＥ７				8.0				ハケメ	ハケメ？		
	6	23	ＳＫ14	11	土師器	坏			60.0	29.0	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	24	ＳＫ14	2	土師器	坏			54.0	(25.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	25	ＳＫ14	17	須恵器	坏			62.0	(31.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	26	ＳＫ14	24	土師器	坏			62.0	(31.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	10	27	ＳＫ14	20	土師器	坏				(15.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	28	ＳＫ14	16	土師器	坏		(132.0)		(35.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		
	12	29	ＳＫ14	24	土師器	坏		(134.0)		(31.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		内面体部煤付着
	13	30	ＳＫ14	14	土師器	坏		(135.0)		(36.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		
	14	31	ＳＫ14	16	土師器	甕				(24.0)	6.5				ハケメ	ハケメ	網代痕	
	15	32	ＳＫ14	13	黒色土器	高台付坏			(85.0)	(21.0)	7.0				ロクロ	ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	16	33	ＳＫ14	24	黒色土器	高台付坏			(80.0)	(34.0)	6.0				ロクロ	ミガキ		内面炭素吸着
	17	34	ＳＫ14	21	黒色土器	坏		(148.0)		(38.0)	3.5				ロクロ	ミガキ		坏か？内面炭素吸着。
	18	35	ＳＫ14		土師器	坏			52.0	(17.0)	5.0				ロクロ	不明	回転糸切	坏か？全面漆付着。
	19	36	ＳＫ14		黒色土器	高台付坏			(56.0)	(26.0)	3.5				ロクロ	ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	20	37	ＳＫ14	11	土師器	坏				(41.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		坏か?外内面･口縁部漆付着。
	21	38	ＳＫ14		須恵器	坏				(12.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	外面墨書あり
	22	39	ＳＫ14		須恵器	坏					7.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	外面底部墨書
第35図	1	1	ＳＸ102	198	須恵器	坏	ⅠA3②	(138.0)	54.0	36.0	3.0	(39.1)	(26.1)	50.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	2	ＳＸ102		須恵器	坏			64.0	(27.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	3	ＳＸ102	205	須恵器	甕	ⅠＥ				11.0				タタキ	アテ		
	4	4	ＳＸ102		須恵器	壺	ⅠＦ１		(85.0)	(113.0)	9.0				カキメ	ロクロ	ケズリ	
	5	5	ＳＸ102		須恵器	壺	ⅠＦ２		(110.0)	(102.0)	7.0				ケズリ ロクロ	ロクロ		

第９表　遺物観察表５

新図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	ＲＰ番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第35図	6	6	ＳＸ102		黒色土器	高台付坏			(50.0)	(13.0)	3.0				ミガキ	ミガキ		外内面炭素吸着
	7	7	ＳＸ102		須恵器	甕	ＩＥ			(31.9)	8.0				ハケメ	ハケメ		
	8	8	ＳＸ102		須恵器	甕	ＩＦ１		(80.0)	(73.0)	5.0				ハケメ	ハケメ	ナデ	
	9	9	ＳＸ102		須恵器	甕				(57.0)	8.0				ケズリ	ハケメ	不明	底部外面に網代痕
	10	10	ＳＸ102		須恵器	甕			(110.0)	(124.0)	8.0				ハケメ	ハケメ	不明	底部外面に網代痕
第36図	1	1	ＳＰ197	193	土師器	坏	ⅡＡ１	(118.0)	50.0	(50.0)	3.0	(42.4)	42.4	36.0	ロクロ	ロクロ	不明	
	2	2	ＳＰ197		土師器	坏	ⅡＡ１	134.0	60.0	56.0	5.0	44.8	41.8	31.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	3	ＳＰ197		土師器	坏				(32.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	4	1	ＳＤ224	51	土師器	坏			(58.0)	(15.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	2	ＳＤ224		土師器	坏			48.0	(18.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	3	ＳＤ224	52	黒色土器	高台付坏	ⅢＢ1②	156.0	70.0	70.0	4.5	44.9	44.9	38.0	ロクロ	ミガキ ロクロ	切離し不明 ナデ	外・内面炭素吸着
	7	4	ＳＤ224		須恵器	坏	ⅠＡ4①	(150.0)	(70.0)	(45.0)	4.0	46.7	30.0	42.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	8	5	ＳＤ224		須恵器	坏	ⅠＡ4②	(134.0)	(60.0)	(44.0)	5.0	44.8	32.8	40.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	6	ＳＤ224		須恵器	高台付坏			68.0	(37.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	10	7	ＳＤ224		須恵器	高台付坏			64.0	(30.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	8	ＳＤ224		須恵器	高台付坏			69.5	(14.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		
	12	9	ＳＤ224		土師器	甕	ⅡＥ４			(65.0)	5.0				ハケメ	ハケメ		
	13	10	ＳＤ224		須恵器	坏			(64.0)	(16.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	体部外面墨書文字不明
	14	11	ＳＤ224		土師器	坏				(30.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		外・内面の口縁部漆付着
	15	12	ＳＤ224		須恵器	坏					3.0				ロクロ	ロクロ		体部外面墨書文字不明
	16	1	ＳＰ467	191-195	土師器	坏	ⅡＡ2b①	132.0	60.0	45.0	4.0	45.5	34.1	38.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ＳＰ467 ＳＰ195と接合
	17	2	ＳＰ467	194	黒色土器	高台付坏		(130.0)		(59.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		高台付坏か？内面炭素吸着。
	18	3	ＳＰ467	195	土師器	甕	ⅡＥ３				6.0				ハケメ	ハケメ		
	19	4	ＳＰ467		土師器	甕	ⅡＥ３			(38.0)	10.0				ハケメ	ハケメ		底部外面に網代痕？
	20	5	ＳＰ467	196	土師器	甕					7.0				ハケメ	ハケメ		
	21	6	ＳＰ467		土師器	甕	ⅡＥ４			(73.0)	6.0				ナデ ハケメ	ヘラナデ ハケメ		ＳＰ①－16
第37図	1	1	ＳＫ565	197	土師器	坏	ⅡＡ2a③	(129.0)	65.0	51.0	7.0	(50.4)	(39.5)	36.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	2	ＳＫ565		土師器	坏			(56.0)	(24.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	不明	
	3	3	ＳＫ565		土師器	甕				(37.0)	10.0				ハケメ	ナデ ハケメ	不明	底部外面に網代痕
	4	1	ＳＫ568	200	土師器	坏		128.0	50.0	47.0	5.0	39.1	36.7		ロクロ	ロクロ	不明	内面口縁部漆付着
	5	2	ＳＫ568	201	土師器	甕			57.0	(43.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	3	ＳＫ568	202	土師器	高台付坏					7.5				ロクロ	ロクロ	不明	
	7	4	ＳＫ568		土師器	壇	ⅡＧ2?			(42.0)	7.0				ハケメ	ハケメ		
	8	5	ＳＫ568		土師器	甕				(20.0)	6.5				ハケメ	ハケメ	不明	底部外面に網代痕
	9	1	ＳＫ574	183	土師器	坏	ⅡＡ2b②	142.0	60.0	50.0	3.0	42.3	35.2	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	10	2	ＳＫ574	184	黒色土器	高台付坏			(72.0)		5.5				ロクロ	ロクロ?ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	11	3	ＳＫ574		土師器	坏				(29.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		坏か？
	12	4	ＳＫ574		須恵器	坏	ⅠＡ3①	(132.0)	(66.0)	38.0	6.0	50.0	(28.8)	40.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	13	1	ＳＸ357	179	土師器	甕	ⅡＥ６			(90.0)	8.5				ロクロ	ロクロ		
	14	2	ＳＸ357	180	土師器	高台付坏	ⅡＢ２	(144.0)	70.0	(58.0)	5.5	(48.6)	40.3	34.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	15	3	ＳＸ357		黒色土器	壷	ⅡＦ２								ロクロ	不明		壷か？
	16	4	ＳＸ357	182	黒色土器	高台付坏			(65.0)	(16.0)	5.0				ロクロ	ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	17	5	ＳＸ357		土師器	坏				(36.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	18	6	ＳＸ357		須恵器	壷					3.5				ロクロ	ロクロ		ＳＸ②－18
	19	1	ＳＸ382		土師器	壷		75.0	50.0	61.0	5.0				ナデ ハケメ	ヘラナデ	ヘラナデ	外面口縁部漆付着
	20	2	ＳＸ382	204	須恵器	高台付坏	ⅠＢ２	(135.0)	65.0	50.0	5.0	(48.1)	(37.0)	－	ロクロ	ロクロ	回転糸切	外面墨書文字不明
	21	3	ＳＸ382		須恵器	坏	ⅠＡ3①	(134.0)	(60.0)	(36.0)	5.0	44.8	26.9	47.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	22	4	ＳＸ382		土師器	坏	ⅡＡ2a③	(130.0)	(50.0)	(50.0)	5.0	38.5	38.5	36.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	23	5	ＳＸ382		土師器	坏				(49.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		
	24	6	ＳＸ382		土師器	坏				(44.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		
	25	7	ＳＸ382		土師器	坏			(70.0)	(30.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	26	8	ＳＸ382		土師器	坏			(60.0)	(24.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	27	9	ＳＸ382		黒色土器	高台付坏	ⅢＢ1③	(128.0)	(63.0)	(54.0)	5.0	49.2	42.2	35.0	ロクロ	ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	28	10	ＳＸ382		土師器	坏	ⅡＡ2b②	(142.0)	54.0	55.0	2.5	(38.0)	(38.7)	40.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ＳＸ②－26
第38図	1	1	ＳＫ68	26-27	土師器	甕	ⅡＥ１	(261.0)	(98.0)	(322.0)	6.0				ハケメ ケズリ	アテ ハケメ	不明	底部木葉痕
	2	2	ＳＫ68	27	土師器	甕	ⅡＥ１	263.0	96.0	326.0	5.0				ハケメ	ハケメ	不明	頸径222 胴径213 底部木葉痕
	3	3	ＳＫ68	176	黒色土器	坏	ⅢＡ	(130.0)	(65.0)	(44.0)	3.0	50.0	33.8	35.5	ロクロ	不明	不明	内面炭素吸着 内・外面表面剥落
	4	4	ＳＫ68		土師器	坏	ⅡＡ１	(125.0)	56.0	50.0	3.5	(44.8)	(40.0)	33.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	1	ＳＸ427	186	須恵器	甕	ⅠＥ				10.0				タタキ	アテ		
	6	2	ＳＸ427	187	土師器	甕	ⅡＥ１			(62.0)	6.0				ハケメ	ハケメ		外面漆付着
	7	3	ＳＸ427		須恵器	坏	ⅠＡ3①	(138.0)	(60.0)	(33.0)	4.5	43.5	23.9	46.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	4	ＳＸ427		土師器	坏		(125.0)	(54.0)	(29.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第39図	1	1	ＳＤ64	172	土師器	甕	ⅡＥ２	(204.0)		(248.0)	5.0				ハケメ	ハケメ		頸径（173） 胴径（216）
	2	2	ＳＤ64	173	土師器	甕	ⅡＥ３	(164.0)	(78.0)	(187.0)	4.0				ナデ ハケメ	ハケメ	ケズリ	頸径(146) 胴径(190) 底部外面に網代痕
	3	3－①	ＳＤ64		土師器	甕	ⅡＥ１	(250.0)		(190.0)	5.0				ロクロ ハケメ	ロクロ ヘラナデ		頸径（224） 胴径（236）
	4	3－②	ＳＤ64		土師器	甕	ⅡＥ１		(84.0)	(130.0)	5.0				ロクロ ハケメ	ロクロ ヘラナデ		
	5	4	ＳＤ64	174	土師器	坏			(46.0)	(30.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	1	ＳＸ238		土師器	高台付坏			78.0	(45.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	

第10表　遺物観察表６

挿図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	RP番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第39図	7	2	ＳＸ238	50	黒色土器	高台付坏	ⅢB1②	(178.0)	(74.0)	78.0	5.0	41.6	(43.8)	37.5	ロクロ	ミガキ		内面炭素吸着
	8	3	ＳＸ238		黒色土器	高台付坏	ⅢB2③	(134.0)	57.0	51.5	3.5	(42.5)	(38.4)	41.0	ミガキ	ミガキ	菊花状ナデツケ	外・内面炭素吸着
第40図	1	1	ＳＴ10		須恵器	坏	ⅠA3②	136.0	(60.0)	38.0	3.5	(44.1)	27.9	44.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	1	ＳＫ3		須恵器	坏	ⅠA4③	(140.0)	57.0	44.0	4.0	(40.7)	(31.4)	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	外面墨書文字不明
	3	2	ＳＫ3		須恵器	坏	ⅠA4③	(139.0)	(56.0)	43.0	3.0	40.3	(30.9)	44.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	3	ＳＫ3		土師器	坏	ⅡA2b②	(122.0)	(56.0)	40.0	4.0	45.9	(32.8)	40.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	4	ＳＫ7		土師器	坏	ⅡA2b②	(128.0)	(68.0)	40.0	4.0	53.1	(31.3)	37.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	5	ＳＫ9		土師器	坏				46.0	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	6	ＳＫ9		土師器	高台付坏			72.0	(31.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	不明	
	8	7	ＳＫ55		須恵器	高台付坏	ⅠB1	(130.0)	74.0	57.0	4.0	(56.9)	(43.8)	31.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	8	ＳＫ107		土師器	坏					4.0				ロクロ	ロクロ		坏か？内面漆付着。
	10	9	ＳＫ113		土師器	甕	ⅡE4	(160.0)		(94.0)	4.0				ケズリ	不明		頸径（138）
	11	10	ＳＫ205		土師器	坏	ⅡA2a③	(117.0)	(58.0)	(40.0)	3.5	49.6	34.2	36.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	12	11	ＳＫ228		土師器	坏	ⅡA3②	(132.0)	(54.0)	(40.0)	3.5	40.9	30.3	45.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	13	標4	ＳＫ229	1	黒色土器	耳皿		(96.0)	(52.0)	(36.0)	5.0	54.2	37.5		ミガキ	ミガキ	不明 後ナデ調整	外・内面炭素吸着
	14	12	ＳＫ336		土師器	甕					5.0				ハケメ	ハケメ		
	15	13	ＳＫ443		土師器	甕					8.5				ロクロ	ヘラナデ		胴径（162）
	16	14	ＳＫ564		土師器	坏	ⅡA2a②	(132.0)	64.0	49.0	3.5	(48.5)	(37.1)	36.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	17	15	ＳＫ564		土師器	坏	ⅡA2b③	(134.0)	(56.0)	(46.0)	3.0	41.8	34.3	40.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第41図	1	16	ＳＫ564		土師器	坏	ⅡA2c②	(140.0)	(60.0)	(46.0)	4.0	42.9	32.9	42.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	17	ＳＫ564		土師器	高台付坏		154.0		(50.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		高台付坏か？
	3	19	ＳＫ564		黒色土器	高台付坏			60.0	(36.0)	5.0				ロクロ	ロクロ ミガキ	菊花状ナデツケ	高台付坏か？
	4	1	ＳＰ26		土師器	坏			58.0		5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	2	ＳＰ93		土師器	皿	ⅡC	(130.0)	54.0	30.0	4.0	(41.5)	(23.1)	57.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	3	ＳＰ151		土師器	坏	ⅡA2b③	(128.0)	(56.0)	45.0	4.0	43.8	(35.2)	37.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	4	ＳＰ170		土師器	高台付坏			(56.0)		4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切？	
	8	5	ＳＰ207		黒色土器	高台付坏	ⅢB2①	(150.0)	(58.0)	60.0	4.5	38.7	(40.0)	42.0	ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	9	6	ＳＰ208		須恵器	坏	ⅠA4②	(132.0)	(50.0)	(45.0)	4.0	37.9	34.1	42.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	10	7	ＳＰ220		須恵器	坏				(23.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	11	8	ＳＰ263		黒色土器	高台付坏			58.0	(31.0)	4.0				ロクロ ミガキ	ロクロ ミガキ?	菊花状ナデツケ	外・内面炭素吸着
	12	9	ＳＰ271		土師器	皿	ⅡC	(130.0)	(56.0)	(36.0)	5.0	43.1	27.7	54.0	ロクロ ミガキ	ロクロ ミガキ?	回転糸切	
	13	10	ＳＰ271		土師器	高台付坏			62.0	(46.0)	4.0				ロクロ ミガキ	ロクロ ミガキ?	回転糸切	
	14	12	ＳＰ367		須恵器	高台付坏	ⅠB2	140.0	70.0	56.0	4.0	50.0	40.0	36.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	15	13	ＳＰ367		須恵器	坏				(44.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		
	16	14	ＳＰ435		土師器	坏				(50.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		
	17	15	ＳＰ466		須恵器	坏				(30.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		内面漆付着
	18	17	ＳＰ486		須恵器	甕				(64.0)	8.0				ケズリ ロクロ	ロクロ	ケズリ	内面押圧痕
	19	18	ＳＰ536		須恵器	高台付坏	ⅠB1	150.0	(70.0)	67.0	4.0	(46.7)	44.7	34.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	20	20	ＳＰ569		黒色土器	高台付坏	ⅢB1②	128.0	60.0	53.0	3.0	46.9	41.4	38.0	ロクロ	ロクロ ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
第42図	1	①－1	ＳＤ6		須恵器	高台付坏		(126.0)	55.0		5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	2	①－2	ＳＤ6		須恵器	坏	ⅠA3①	(140.0)	(64.0)	(38.0)	5.0	45.7	27.1	46.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	①－3	ＳＤ6		須恵器	坏			(58.0)	(19.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	①－4	ＳＤ6		黒色土器	高台付坏		(52.0)	40.0	(13.0)	4.0				ミガキ	ミガキ	回転糸切	外・内面炭素吸着
	5	①－5	ＳＤ6		黒色土器	高台付坏			(56.0)	(21.0)	5.0				ミガキ	ミガキ	菊花状ナデツケ	外・内面炭素吸着
	6	①－6	ＳＤ8		土師器	坏	ⅡA3②	(122.0)	(50.0)	39.0	4.0	41.0	(32.0)	43.0	ロクロ	ロクロ	不明	
	7	①－7	ＳＤ8		土師器	坏	ⅡA3②	(135.0)	(54.0)	(38.0)	5.0	40.0	28.1	46.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	①－8	ＳＤ8		須恵器	高台付坏		(58.0)		(35.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	切離不明後ナデ	全面に漆衰か？
	9	①－9	ＳＤ8		土師器	甕					6.0				ハケメ	不明		内面漆付着
	10	①－10	ＳＤ51		土師器	甕	ⅡE6			(118.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		
	11	①－11	ＳＤ104		須恵器	坏			(50.0)	(11.0)					ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	12	①－12	ＳＤ136		土師器	坏			(60.0)	(33.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	13	①－13	ＳＤ137		須恵器	高台付坏				(57.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	①－14	ＳＤ156		須恵器	高台付坏			66.0	(32.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	切離不明後ナデ調整	
	15	①－15	ＳＤ156		土師器	高台付坏			(23.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	16	①－16	ＳＤ186		黒色土器	高台付坏	ⅢB2③	(144.0)	(60.0)	(50.0)	4.0	41.7	34.7	41.0	ロクロ	ロクロ ミガキ	菊花状ナデツケ	内面炭素吸着
	17	①－17	ＳＤ186		黒色土器	高台付坏			(70.0)	(61.0)	4.0				ロクロ	ミガキ	不明	
	18	①－18	ＳＤ186		土師器	高台付坏			(70.0)	(25.0)	5.0				ロクロ	ロクロ？	菊花状ナデツケ	
	19	②－19	ＳＤ206		土師器	坏	ⅡA3②	127.0	50.0	42.5	4.5	39.4	33.5	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	20	②－20	ＳＤ206		土師器	坏		(130.0)	54.0	38.0	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第43図	1	②－21	ＳＤ206		須恵器	蓋	ⅠD1			(18.0)	9.0				ロクロ	ロクロ	切離不明	つまみ径30
	2	②－22	ＳＤ206		須恵器	坏					4.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	3	②－23	ＳＤ217		土師器	坏			(45.0)	(34.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	②－24	ＳＤ223		土師器	坏			64.0	(21.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	②－25	ＳＤ315		須恵器	坏		(54.0)	(66.0)	25.0	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	内面滑らか（つるつるしている）
	6	②－26	ＳＤ315		須恵器	甕	ⅠE				8.0				ロクロ	ロクロ		頸径（168）
	7	②－27	ＳＤ412		須恵器	甕	ⅠE	(160.0)		(56.0)	6.0				ロクロ	ロクロ		頸径（130）
	8	53	ＳＸ414		土師器	坏	ⅡA2c③	137.0	50.0	46.0	4.0	36.5	33.6	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	9	54	ＳＸ414		土師器	坏	ⅡA2b③	(134.0)	(60.0)	(46.0)	5.0	44.8	34.3	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	

第11表　遺物観察表７

新図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	RP番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第43図	10	55	ＳＸ414		須恵器	坏				(11.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	11	56	ＳＸ414		土師器	坏				(28.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		坏か？内面漆付着。
	12	②−28	ＳＤ514		須恵器	高台付坏	ＩＢ２	(146.0)	(66.0)	(53.0)	5.0	45.2	36.3	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	外・内面漆付着
	13	②−29	ＳＤ514		土師器	坏	ⅡA2b②	(130.0)	(55.0)	(47.0)	3.5	42.3	36.2	38.5	ロクロ	ロクロ	不明	
	14	②−30	ＳＤ514		須恵器	高台付坏			(74.0)	(33.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	15	②−31	ＳＤ514		土師器	坏				(56.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		
	16	②−32	ＳＤ525		土師器	甕				20.5	9.0				ハケメ ケズリ	ナデ	不明	底部網代痕
	17	②−33	ＳＤ525		須恵器	坏				(50.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		坏か？外面墨書文字不明。
	18	②−34	ＳＤ540		黒色土器	高台付坏			(67.0)	(24.0)	3.5				ロクロ	ミガキ	菊花状ナデツケか	高台付坏か？内面炭素吸着。
第44図	1	1	ＳＸ23		土師器	高台付坏			(72.0)	(28.0)	8.0				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	2	2	ＳＸ23		土師器	甕				(36.0)	7.0				ケズリ	ハケメ	不明 後ナデ調整	内面漆付着
	3	3	ＳＸ39		土師器	高台付坏			(70.0)	(23.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	4	ＳＸ126		土師器	坏	ⅡA2a③	(122.0)	(55.0)	(46.0)	5.0	45.1	37.7	36.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	5	ＳＸ126		土師器	甕				(83.0)	6.0				ロクロ	ヘラナデ ロクロ		
	6	6	ＳＸ126		土師器	甕				(34.0)	5.5				ハケメ	ハケメ		
	7	7	ＳＸ126		須恵器	坏				(34.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	8	8	ＳＸ126		須恵器	坏					4.5				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	9	9	ＳＸ162		土師器	坏				(18.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	10	10	SX320-323		須恵器	坏	ＩA4②	(138.0)	50.0	(44.0)	4.0	(36.2)	31.9	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	12	ＳＸ326		土師器	高台付坏	ⅡＢ１	(134.0)	(69.0)	(49.0)	4.0	51.5	36.6	39.0	ロクロ	ロクロ		
	12	13	ＳＸ327		黒色土器	高台付坏	ⅢB2②	(162.0)	64.0	(66.0)	5.5	(39.5)	40.7	36.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	13	14	ＳＸ327		須恵器	坏	ＩA3①	(128.0)	(58.0)	(38.0)	4.0	45.3	29.7	45.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	15	ＳＸ327		黒色土器	坏			(72.0)	34.0	5.0				不明	ミガキ	不明	内面炭素吸着
	15	16	ＳＸ327		須恵器	坏				(26.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	16	17	ＳＸ327		須恵器	坏				(9.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	17	19	ＳＸ375		須恵器	坏	ＩA4①	(134.0)	62.0	42.0	3.5	(46.3)	(31.3)	44.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	18	20	ＳＸ375		須恵器	高台付坏	ＩＢ１	(135.0)	(62.0)	(69.0)	4.0	45.9	51.1	31.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	19	21	ＳＸ375		須恵器	坏		(136.0)		(44.0)	3.0				ロクロ	ロクロ		
	20	22	ＳＸ375		土師器	坏			(62.0)	(15.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	21	23	ＳＸ375		土師器	坏			(50.0)	(21.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
第45図	1	24	ＳＸ375		土師器	甕				(61.0)	5.0				ハケメ	ハケメ		
	2	25	ＳＸ375		土師器	坏					4.5						回転糸切	底部墨書文字不明
	3	27	ＳＸ396		土師器	坏	ⅡA2c③	130.0	50.0	45.0	4.0	38.5	34.6	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	28	ＳＸ396		土師器	高台付坏	ⅡＢ２	(150.0)	(71.0)	62.0	4.0	47.3	(41.3)	37.0	ロクロ	ロクロ	不明 後ナデ調整	
	5	29	ＳＸ398		土師器	坏	ⅡA3②	(118.0)	(50.0)	39.0	3.0	42.4	(33.1)	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	30	ＳＸ398		土師器	高台付坏			(80.0)	(18.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	31	ＳＸ398		土師器	坏			(70.0)	(19.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	内面漆付着
	8	32	ＳＸ398		須恵器	壺			(102.0)	(20.0)	11.0				ロクロ	ロクロ	不明 後ナデ調整	底部内面放射状ヘラナデ
	9	33	ＳＸ399		土師器	坏	ⅡＡ１	(128.0)	52.0	57.0	4.5	(40.6)	(44.5)	35.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	10	34	ＳＸ399		須恵器	坏	ＩA4③	(141.0)	(60.0)	42.0	4.0	42.6	(29.8)	44.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	11	35	ＳＸ399		土師器	坏	ⅡA3②	138.0	54.0	41.0	4.0	39.1	29.7	46.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	12	36	ＳＸ399		土師器	高台付坏		(140.0)		(55.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		
	13	37	ＳＸ399		土師器	坏		(152.0)		(44.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		坏か？
	14	38	ＳＸ399		土師器	坏			(61.0)	(34.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	15	39	ＳＸ399		土師器	高台付坏			(74.0)	19.0	6.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	16	40	ＳＸ399		須恵器	壺	ＩＦ１			(132.0)	10.0				ロクロ	ヘラナデ ロクロ		胴径（162）
	17	41	ＳＸ399		須恵器	高台付坏			61.0	(21.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部煤付着 転用硯か
	18	42	ＳＸ406		須恵器	坏	ⅡＢ１	(118.0)	(54.0)	(37.0)	5.5	45.8	31.4	42.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	19	43	ＳＸ406		須恵器	坏			54.0	(14.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	20	45	ＳＸ406		土師器	高台付坏			63.0	20.0	4.0				ロクロ	ロクロ	不明 ナデ調整	内面全面漆付着
第46図	1	44	ＳＸ406		須恵器	甕	ＩＥ				8.0				タタキ	アテ		
	2	46	ＳＸ406		土師器	高台付坏			76.0		5.0				ロクロ	ロクロ	不明 ナデ調整	
	3	47	ＳＸ406		土師器	坏					4.5				ロクロ	ロクロ		坏か？内面漆付着。
	4	48	ＳＸ406		土師器	坏					3.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	5	49	ＳＸ407		須恵器	坏			54.0	(21.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	50	ＳＸ407		土師器	坏			58.0	(12.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部煤？
	7	51	ＳＸ407		土師器	坏				(28.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		外面漆付着少々 内面漆附着
	8	52	ＳＸ413		土師器	坏	ⅡA2c③	126.0	48.0	46.0	4.0	38.1	36.5	41.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	外・内面口縁～体部にかけて煤痕?
	9	57	ＳＸ415		須恵器	坏			58.0	(22.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	10	58	ＳＸ416		須恵器	壺	ＩＦ２				7.0				ロクロ	ロクロ		頸径（58）
	11	59	ＳＸ423		須恵器	坏		(126.0)		(37.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		
	12	60	ＳＸ423		土師器	甕					6.5				不明	不明		内面漆付着？
	13	61	ＳＸ424		土師器	坏	ⅡA2b②	126.0	58.0	45.0	4.0	46.0	35.7	38.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	62	ＳＸ424		土師器	坏				40.0	5.0				ロクロ	ロクロ		
	15	63	ＳＸ424		土師器	坏			54.0	(16.0)	6.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	16	64	ＳＸ424		土師器	坏		(140.0)		(40.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		外面体部煤付着
	17	65	ＳＸ424		須恵器	坏					6.5						回転糸切	底部墨書文字不明
	18	66	ＳＸ433		土師器	高台付坏	ＩA4②	(150.0)	(72.0)	(48.0)	5.5	48.0	32.0	39.0	ロクロ	ロクロ		

第12表　遺物観察表８

新図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	RP番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第46図	19	67	ＳＸ433		土師器	坏					3.5				ロクロ	ロクロ		内面漆付着
	20	68	ＳＸ434		須恵器	蓋	ＩＤ１			(16.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		天井部外面ケズリ
	21	69	ＳＸ545		土師器	甕					13.0						不明	底部網代痕 内面なで
	22	70ａ	ＳＸ545		須恵器	壺	ＩＦ１				7.0				ケズリナデ ロクロ	ロクロ		胴径（175） 内面煤付着
	23	70ｂ	ＳＸ545		須恵器	壺	ＩＦ２				7.0				ケズリ	ロクロ		内面煤付着、46−22と同一個体か?
	24	71	ＳＸ927		土師器	坏			(70.0)	(22.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部ヘラ描きあり、完？
第47図	1	⑥①−1	南落ち込み		須恵器	坏	ＩＡ4③	130.0	68.0	40.0	5.0	52.3	30.8	39.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	内面漆裏？
	2	⑥①−2	南落ち込み		須恵器	坏	ＩＡ3①	148.0	64.0	40.0	4.5	43.2	27.0	46.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	3	⑥①−3	南落ち込み		須恵器	坏			58.0	(31.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	外面墨書
	4	⑥①−4	南落ち込み		須恵器	坏			68.0	(33.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	⑥①−5	南落ち込み		須恵器	甕					8.0				ロクロ	ロクロ		
	6	⑥①−6	南落ち込み		須恵器	坏			(56.0)	(15.0)	5.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書
	7	⑥①−7	Ｂ−８		土師器	坏				(15.0)					ロクロ	ロクロ	不明	底部墨書（一部分）
	8	⑥①−8	Ｂ−８		土師器	甕	ⅡＥ６			(62.0)	7.0				ハケメ	ヘラナデ		
	9	⑥①−9	Ｂ−９		須恵器	小壺				(38.0)	6.0				ロクロ	ロクロ		小壺か?外面・口縁部に自然釉↓9に似る。
	10	⑥①−10	Ｂ−10		土師器	坏			54.0	(18.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切？	
	11	⑥①−11	Ｂ−15		黒色土器	高台付坏			(68.0)	(27.0)	3.5				ミガキ	ミガキ	回転糸切？	外・内面炭素吸着
	12	⑥①−12	Ｂ−20		土師器	高台付坏			69.0	(28.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	後ナデ調整か？
	13	⑥①−13	Ｂ−22		土師器	坏			54.0	(30.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切？	
	14	⑥①−14	Ｃ−９		土師器	甕			(70.0)	(54.0)	9.0				ハケメ	ヘラナデ	不明	底部網代痕
	15	⑥①−15	Ｃ−９		須恵器	蓋	ＩＤ１			(18.5)	8.0				ロクロ	ロクロ		天井部ケズリ
	16	⑥①−16	Ｃ−９		土師器	甕				(38.0)	7.0				ハケメ	ハケメ	不明	底部網代痕 底部内面漆付着
	17	⑥①−17	Ｃ−12		須恵器	高台付坏	ＩＢ２	(166.0)	(86.0)	65.0	6.5	51.8	(39.2)	37.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	18	⑥①−18	Ｃ−12		須恵器	坏			(64.0)	(27.0)	7.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	19	⑥①−19	Ｃ−12		須恵器	小壺				(34.0)	6.0				ロクロ	ロクロ		小壺か?9に似る 同一個体?
	20	⑥①−20	Ｃ−15		土師器	甕	ⅡＥ６			(71.0)	8.0				ハケメ	ハケメ		
第48図	1	⑥①−21	Ｃ−15		須恵器	坏			(68.0)	(30.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	2	⑥①−22	Ｃ−15		須恵器	蓋				(19.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		
	3	⑥①−23	Ｃ−19		須恵器	坏	ＩＡ4②	(142.0)	(62.0)	(45.0)	4.0	43.7	31.7	41.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	⑥①−24	Ｃ−19		土師器	甕			(54.0)	(44.0)	5.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	⑥②−25	Ｄ−13		須恵器	坏			(62.0)	(28.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書（畠？・当？）
	6	⑥②−26	Ｄ−14		須恵器	坏	ＩＡ5①	(120.0)	(50.0)	(47.0)	4.0	41.7	39.2	40.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	7	⑥②−27	Ｄ−14		須恵器	坏	ＩＡ3①	(137.0)	(62.0)	(37.0)	4.0	45.3	27.0	45.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	8	⑥②−28	Ｄ−14		須恵器	蓋				(14.0)	4.5				ロクロ	ロクロ		
	9	⑥②−29	Ｄ−14		土師器	甕	ⅡＥ１	(210.0)		(65.0)	6.0				ハケメ	ハケメ		
	10	⑥②−30	Ｄ−14		土師器	甕			(70.0)	(45.0)	5.0				ハケメ	ハケメ	不明	底部網代痕
	11	⑥②−31	Ｄ−14		土師器	甕				(51.0)	6.0				ハケメ ケズリ	ハケメ	不明	底部網代痕 底部内面漆付着
	12	⑥②−32	Ｄ−15		土師器	高台付坏			(75.0)	(29.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	不明	
	13	⑥②−33	Ｄ−15		土師器	甕	ⅡＥ５	204.0		(130.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		
	14	⑥②−34	Ｄ−15		土師器	甕	ⅡＥ６	202.0			7.0				ロクロ	ロクロ		内面体部に漆？付着
	15	⑥②−35	Ｄ−15		土師器	甕				(52.0)	7.0				ハケメ	ハケメ	不明	底部網代痕
	16	⑥②−36	Ｄ−15		黒色土器	高台付坏			58.0	(23.0)	5.5				ミガキ	ミガキ	不明	内面・外面炭素吸着
	17	⑥②−37	Ｄ−15		土師器	坏			(46.0)	(21.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	18	⑥②−38	Ｄ−15		土師器	坏			(70.0)	(33.0)	4.0							内面炭素吸着
	19	⑥②−39	Ｄ−15		土師器	高台付坏			(70.0)	(26.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	20	⑥②−40	Ｄ−15		土師器	坏					5.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	21	⑥②−41	Ｄ−15		須恵器	壺					7.0				ロクロ	ロクロ		
	22	⑥②−42	Ｄ−16		須恵器	坏	ＩＡ4①	(140.0)	(60.0)	43.0	6.0	42.9	(30.7)	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
第49図	1	⑥②−43	Ｄ−16		須恵器	坏		(134.0)		(43.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		
	2	⑥②−44	Ｄ−16		須恵器	坏			(66.0)	(27.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	3	⑥②−45	Ｄ−16		須恵器	高台付坏			60.0	(20.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	4	⑥②−46	Ｄ−16		須恵器	坏			(162.0)	(32.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	5	⑥②−47	Ｄ−16		須恵器	坏			66.0	(18.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	6	⑥②−48	Ｄ−16		須恵器	坏				(12.0)	5.5				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	7	⑥②−49	Ｄ−16		須恵器	坏			(61.0)	(15.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	8	⑥②−50	Ｄ−16		土師器	双耳坏の耳												指圧痕残る
	9	⑥②−51	Ｄ−16		須恵器	壺	ＩＦ２		(125.0)	(63.0)	10.0				ロクロ	ロクロ	不明	
	10	⑥②−52	Ｄ−16		須恵器	壺	ＩＦ２		(101.0)	(46.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	菊花状ナデツケ	
	11	⑥②−53	Ｄ−16		須恵器	壺	ＩＦ３		(136.0)	(34.0)	10.5				ロクロ	ロクロ	不明	
	12	⑥②−54	Ｄ−16		須恵器	壺					7.0				ロクロ	ロクロ		
	13	⑥②−55	Ｄ−16		土師器	双耳坏の耳									ミガキ	ミガキ		外面・内面炭素吸着
	14	⑥②−56	Ｄ−16		黒色土器	高台付坏			64.0	(20.0)	5.0				ロクロ	ロクロ?ミガキ	回転糸切	内面炭素吸着
	15	⑥②−57	Ｄ−16		須恵器	壺					9.0				ロクロ	ロクロ		
	16	⑥②−58	Ｄ−16		土師器	坏			(62.0)	(18.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	17	⑥②−59	Ｄ−16		土師器	小壺					5.0				ミガキ？	ナデ		
	18	⑥②−60	Ｄ−16		土師器	坏					5.0				ロクロ	ナデ		内面漆付着
	19	⑥②−61	Ｄ−16		土師器	坏					5.5				ロクロ	ミガキ		坏か?内面漆付着 内面炭素吸着。
	20	⑥②−62	Ｄ−16		土師器	坏				(18.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		外・内面漆付着

第13表　遺物観察表９

新図番号	遺物番号	実測番号	出土位置	ＲＰ番号	種別	器種	細分	口径	底径	器高	器厚	底径指数	器高指数	外傾度	調整技法 外面	調整技法 内面	底部切離	備考
第49図	21	⑥③-63	Ｄ－17		須恵器	高台付坏			(73.0)	(22.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	22	⑥③-64	Ｄ－19		須恵器	高台付坏			(76.0)	(30.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	23	⑥②-65	Ｄ－18		土師器	坏				(36.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		坏か？内面漆付着。
	24	⑥③-67	Ｅ－13		須恵器	坏	ＩＡ3①	(140.0)	(60.0)	(34.0)	4.5	42.9	24.3	49.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	25	⑥③-68	Ｅ－13		土師器	甕			(66.0)	(23.0)	6.0				ハケメ	ハケメ	不明	底部網代痕
	26	⑥③-69	Ｅ－15		須恵器	壺	ＩＦ１				8.0				ロクロ ハケメ	ロクロ ハケメ		
	27	⑥③-70	Ｅ－15		須恵器	高台付坏			(70.0)	(19.0)	7.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
第50図	1	⑥③-71	Ｅ－16		土師器	坏				(48.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	内面炭素吸着
	2	⑥③-72	Ｅ－16		須恵器	坏				(17.0)	5.5				ロクロ	ナデ	回転糸切	内面つるつるしている
	3	⑥③-73	Ｅ－16		須恵器	坏			48.0	11.0	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	4	⑥③-74	Ｅ－16		須恵器	坏					3.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	5	⑥③-75	Ｅ－16		須恵器	蓋				(13.0)	4.5				ロクロ	ロクロ		
	6	⑥③-76	Ｅ－16		須恵器	壺					4.0				ロクロ	ロクロ		
	7	⑥③-77	Ｅ－18		土師器	坏			52.0	(17.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	8	⑥③-78	Ｅ－18		須恵器	甕				(29.0)	7.0				ロクロ	ロクロ		
	9	⑥③-79	Ｃ－19		須恵器	甕				(32.0)	8.0				タタキ	ヘラナデ	タタキ？	底部平底
	10	⑥③-80	Ｆ－20		黒色土器	高台付坏			62.0	(24.0)	5.0				不明	ミガキ？	回転糸切	内面炭素吸着
	11	⑥③-81	Ｅ－20		土師器	坏					5.0				不明	ミガキ		坏か?外面少々漆付着 内面漆付着。
	12	⑥③-82	Ｆ－10		土師器	甕	ⅡＥ１			(69.0)	8.0				ハケメ	ハケメ		
	13	⑥③-83	Ｆ－10		須恵器	蓋				(10.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		
	14	⑥③-84	Ｆ－18		須恵器	甕	ＩＥ			(126.0)	16.5				タタキ ロクロ	ロクロ		
	15	⑥③-85	Ｆ－18		須恵器	壺	ＩＦ２				6.0				ロクロ	ロクロ		胴径（94）
	16	⑥③-86	Ｆ－20		須恵器	坏	ＩＡ4②	(134.0)	64.0	(40.0)	3.0	(47.8)	29.9	42.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	17	⑥③-87	Ｆ－20		須恵器	坏	ＩＡ4②	(122.0)	(52.0)	(38.0)	4.0	42.6	31.1	43.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	18	⑥③-88	Ｅ－20		須恵器	坏			55.0	(10.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	内面つるつるしている 底部墨書「他」
	19	⑥③-89	Ｆ－20		須恵器	坏					4.0				ロクロ	ロクロ		外面墨書文字不明
	20	⑥③-90	Ｆ－20		須恵器	双耳坏の耳									ケズリ	ケズリ		
	21	⑥④-91	Ｉ－19		土師器	高台付坏			(74.0)	(46.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	静止糸切	外面少々漆付着 内面全面漆付着
	22	⑥④-92	Ｈ－24		須恵器	坏		(132.0)		(36.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		内面漆付着
	23	⑥④-94	Ｍ－19		須恵器	双耳坏の耳					8.0				ケズリ			
第51図	1		Ｍ－20		土師器	甕	ⅡＥ５	(230.0)		(350.0)	10.0				ロクロ ケズリ タタキ	ヘラナデ		頸径（203） 胴径（240）
	2	⑥④-95	Ｍ－６		須恵器	坏	ＩＡ１	(134.0)	95.0	(37.0)	5.0	(70.9)	27.6	－	ケズリ	ケズリ	ヘラ切	底部墨書「押」
	3	⑥④-96	Ｎ－16		土師器	坏				(22.0)					ケズリ	ケズリ		内面漆付着
	4	⑥④-97	Ｎ－25		土師器	高台付坏												
	5	⑥④-98	西ステバ		黒色土器	坏	ⅢＡ	(148.0)	(60.0)	(57.0)	5.0	40.5	38.5	38.0	ケズリ ロクロ	ミガキ ロクロ	ハケメ？	内面炭素吸着
	6	⑥④-99	北区		須恵器	坏			(60.0)	(33.0)	5.0				ケズリ ロクロ	ミガキ ロクロ	回転糸切	底部墨書文字不明
	7	⑥⑥-100	北区		黒色土器	坏			65.0	(16.0)	4.5				ケズリ ロクロ	ミガキ ロクロ	回転糸切	内面炭素吸着
	8	⑥⑥-102	Ｔ13		須恵器	壺？	ＩＦ2?		(120.0)	(43.0)	9.0				ロクロ	ロクロ	ナデ	
	9	⑥⑥-103	Ｔ14東		土師器	坏		(146.0)		(45.0)	4.5				ロクロ	ロクロ		
	10	⑥⑥-104	Ｔ14		黒色土器	高台付坏			47.0	(37.0)	4.0				ミガキ	ミガキ	回転糸切	外・内面炭素吸着
	11	⑥⑥-105	Ｔ14		土師器	高台付坏			(60.0)	(45.0)	5.0				ロクロ	不明	菊花状ナデツケ	
	12	⑥⑥-106	Ｔ14東		土師器	高台付坏			57.0	(21.0)	4.0				ロクロ	ミガキ？	回転糸切	内面炭素吸着？
第52図	1		ＳＫ229		青白磁	小壺蓋		24.0		9.0	2.0							最大径42 蓮弁文(上段5弁 下段16弁)
	2	標1-①	SX102他		灰釉陶器	碗	ⅣＡ	(166.0)	(82.0)	(47.0)	5.5	49.4	28.3	45.0	ロクロ	ロクロ		SX102・SD8・I−19・K−15と接合
	3	標1-②	ＳＫ14		灰釉陶器	長頸瓶					5.0				ロクロ	ロクロ		
	4	標1-③	ＳＸ427		灰釉陶器	碗				(29.0)	3.5				ロクロ	ロクロ		
	5	標1-④	Ｈ－３		灰釉陶器	碗				(24.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		
	6	標1-⑤	Ｋ－15		灰釉陶器	碗					4.5				ロクロ	ロクロ		
	7	標2	ＳＸ375		須恵器	硯		長107	幅46	28.0					ケズリ ナデ	ケズリ ナデ		風字硯
	8	標3	Ｍ－17		須恵器	硯		長80	幅48	16.0					ケズリ ナデ	ケズリ ナデ		風字硯
	9	11	ＳＰ344		須恵器	脚				(19.0)					ケズリ			硯の脚か？
	10	標5	Ｆ－17		石製品	石帯		長23	幅32.5		6.5							
	11	標6	ＳＸ12		石製品	砥石		長(45)	幅(42)		(8.8)							
	12	⑥④-93	M−20(1)		石製品	砥石												
	13	⑥⑥-101	Ｔ８		陶器	焼台			(92.0)	(17.0)	7.0				ロクロ	ロクロ	回転糸切	
	14	100	ＳＫ１		土製品	羽口												胴径（52.0mm）
	15	⑥②-66	Ｄ－18		石製品	砥石												凝石?最大長(51mm)最大厚(11mm)最大幅(42mm)

Ⅳまとめ

今回の調査は、日本道路公団による東北中央自動車道相馬～尾花沢線にかかる緊急発掘調査である。調査の結果を以下に列挙する。

1　遺構は平安時代の掘立柱建物跡４棟、土坑・柱穴跡多数、溝跡が検出された。遺構の多くが調査区北西端に集中おり、遺跡の主体が調査区西側に広がることを示す。今回の調査は奈良・平安時代の集落跡の縁辺を調査したことになる。

2　遺構では、掘立柱建物跡は検出されたが竪穴住居跡は未検出である。これは（１）竪穴住居が単に見つからないだけで集落の他の部分にあるのか、あるいは（２）時期的に竪穴住居が伴わないのか、または（３）本遺跡の性格なのかのいずれかが考えられる。集落跡の主体部が発掘されなければ結論付けることは出来ないが、可能性としては（２）を想定したい。

3　掘立柱建物跡は４棟見つかっているが、南北軸によって２つに分けられる。一つはＳＢ851で、もう一つがＳＢ852・853・600の３棟である。両者に切りあい関係はなく、時期判定できる資料も乏しく前後関係は不明である。

4　本遺跡の遺構では、ＳＫ１・２・14など一括遺物と判断される土器が多量に出土した大型の土坑がある。これらは掘立柱建物跡の並ぶ位置から更に東に位置する。恐らく生活ゴミや廃棄した土器の捨て場と考えられる。出土した遺物の量から一つの家族なり掘立柱建物の住人が捨てた量としては多すぎるため、いくつかの住居単位で共同利用していたとも考えられる。今回の調査ではこうした土坑が集落の端につくられていることが判明した。

5　ＳＫ12からはＳＫ１などと同様に多量の土器が出土している。ただし他の土坑と異なる点は、他の土坑では土師器が須恵器に対して優勢であるのに対して、ＳＫ12では須恵器の方がはるかに多く、しかもその多くに墨書が施されている点である。墨書土器と祭祀との関係は指摘されているが、この土坑もそうした状況を示すものと理解できる。

6　出土遺物は平安時代の遺物が主体である。具体的には９世紀第２四半期から10世紀初頭と位置付けた。特にＳＫ１・２・14の資料は10世紀前後の資料でも良好な資料といえる。山形盆地ではこの時期の資料は少なく、遺物の出土量と共にこの時期の様相を示す資料といえる。同様の土坑一括の資料は山形県山形市の馬上台遺跡でも出土している（山形市教育委員会『馬上台遺跡発掘調査報告書』1995）。

7　本遺跡からは特異な遺物として石帯・硯・段皿・耳皿・灰釉陶器が出土している。これらは官衙遺跡に伴出するとされる遺物である。但しこれらの出土が官衙遺跡であることを直接示すとは考え難い。なお横浜市千手院の阿弥陀如来像（文永３年造）に「出羽国最上郡府中庄外郷石佛」とあり、これまで「府中」とは出羽国府ないしは最上郡衙、「庄外」とは天童市清池（しょうげ）とされてきた。天童市清池地区は高擶地区に隣接し、中袋遺跡からは直線距離で１㎞弱である。文永３年の記述がどこまで遡れるのかという問題と、これらの記述が具体的にどこを指すのかという問題があるが、清池地区周辺の考古学的な調査を待たなければ詳しくはわからない。参考資料としてここで取り上げておく。

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかぶくろいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	中袋遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第97集
編著者名	森谷昌央　黒坂広美
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 023-672-5301
発行年月日	2001年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかぶくろいせき 中袋遺跡	やまがたけんてんどう 山形県天童 しおおあざたかだま 市大字高擽 あざなかぶくろ 字中袋	6201	平成2年度登録	38度20分16秒	140度20分10秒	19980817 ～ 19981113	8,100	東北中央自動車道（相馬～尾花沢線）

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	奈良・平安時代9世紀第2四半期～10世紀初頭	掘立柱建物　4 大型土坑　4	土師器・須恵器 耳皿・風字硯・石帯 灰釉陶器	（総出土箱数：45）

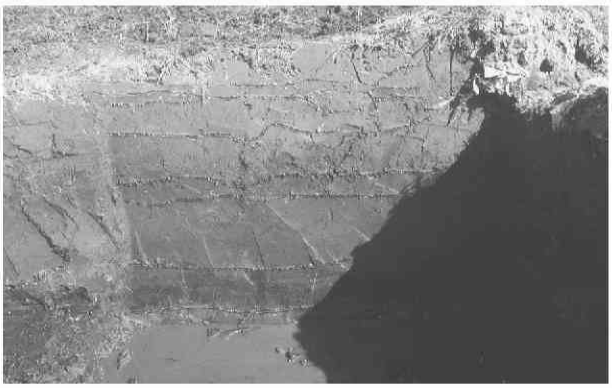
図　　版

中袋遺跡全景（南から）

中袋遺跡全景

図版 2

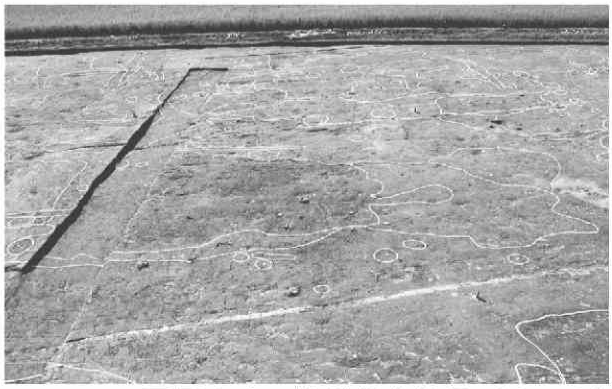
遺跡全景（南から）



南東壁　基本層序（西から）

北西壁　基本層序（東から）

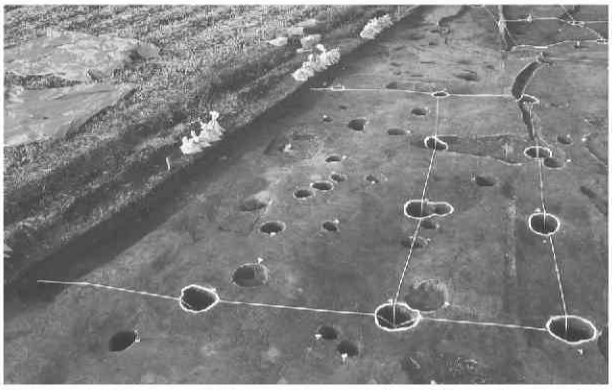
北西部　遺構検出状況（南から）



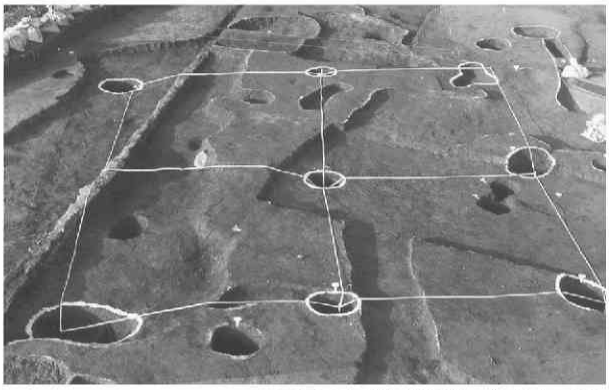
西側中央　遺構検出状況（東から）

北側中央　遺構検出状況（南から）

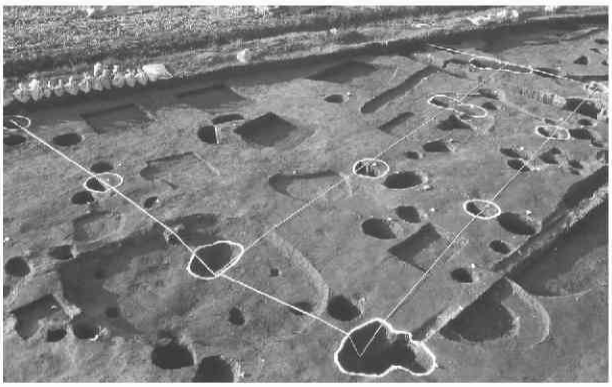
遺構精査状況（東から）



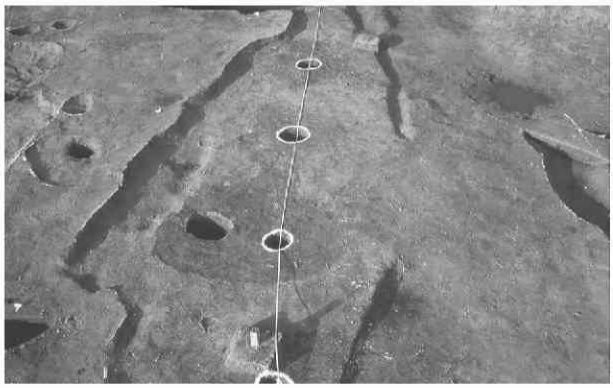
ＳＢ584完掘状況（南から）



ＳＢ582完掘状況（南から）



ＳＢ583完掘状況（南東から）

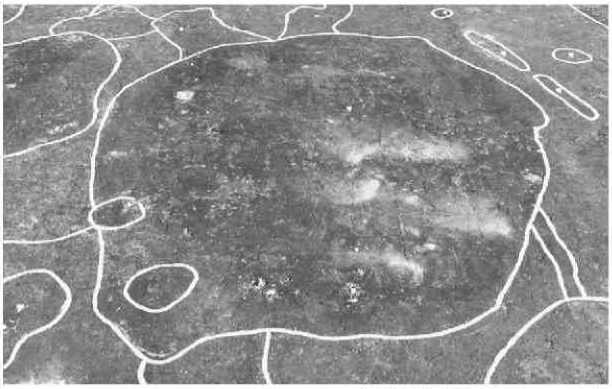


ＳＡ584完掘状況（南から）

掘立柱建物群（南東から）

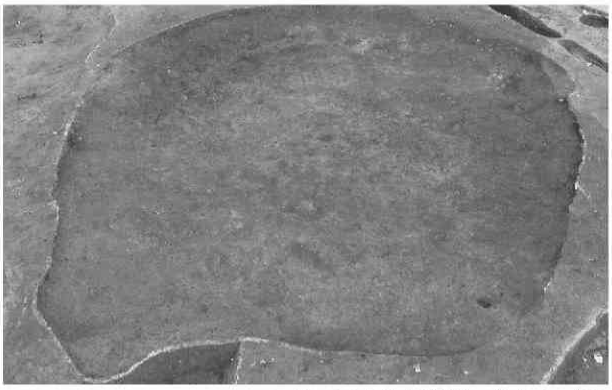
ＳＸ10検出状況（北から）

図版４

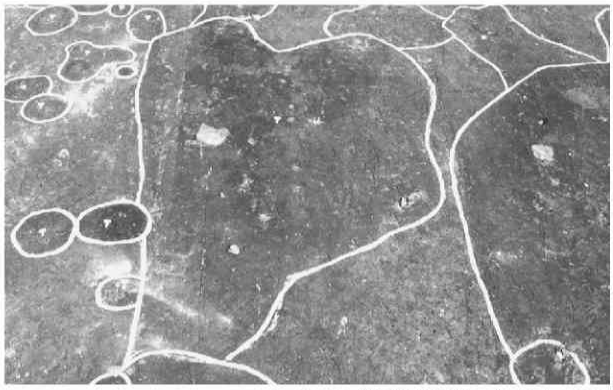


ＳＫ１検出状況（南から）

ＳＫ１遺物出土状況（南から）

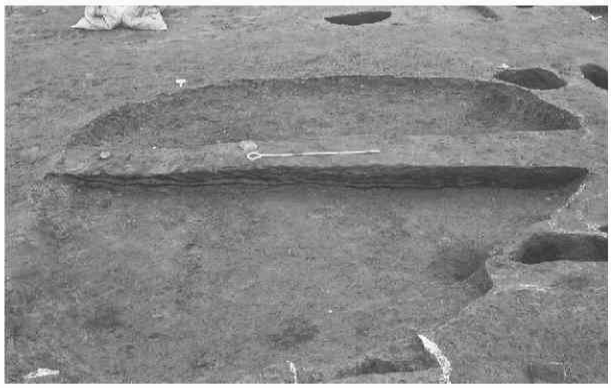


ＳＫ１完掘状況（南から）

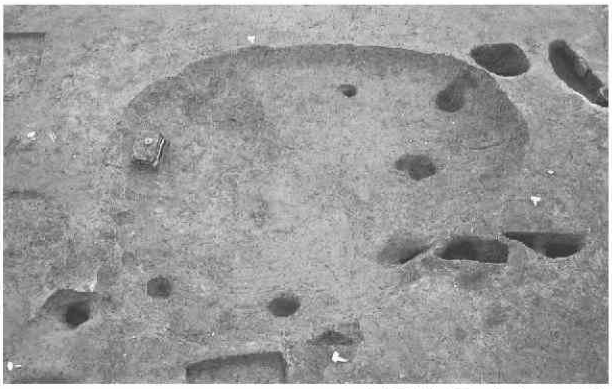


ＳＫ２検出状況（南から）

ＳＫ２遺物出土状況（南から）



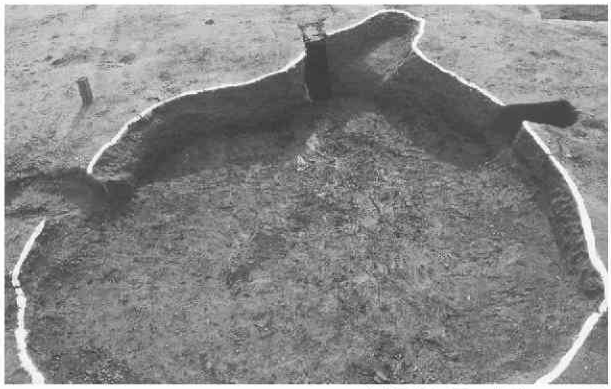
ＳＫ３断面（南から）



ＳＫ３完掘状況（南から）

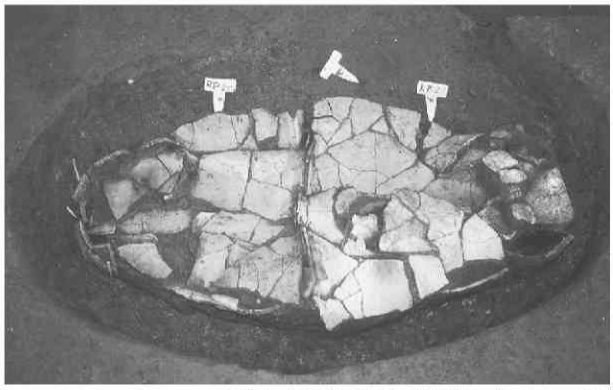
ＳＫ14断面（南から）

ＳＫ14遺物出土状況（南から）

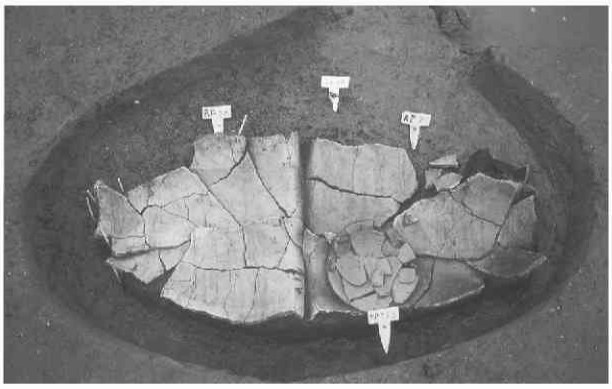


ＳＫ14完掘状況（北から）

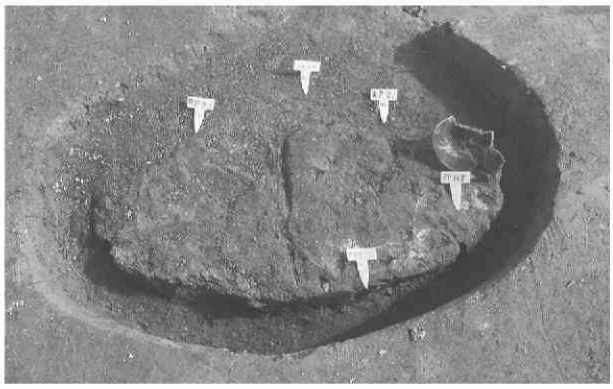
ＳＫ68内、合口甕棺出土状況（南から）



合口甕棺出土状況（西から）



合口甕棺内蔵土師器坏出土状況（西から）



ＳＫ68完掘状況（西から）

ＳＫ229内耳皿出土状況（東から）

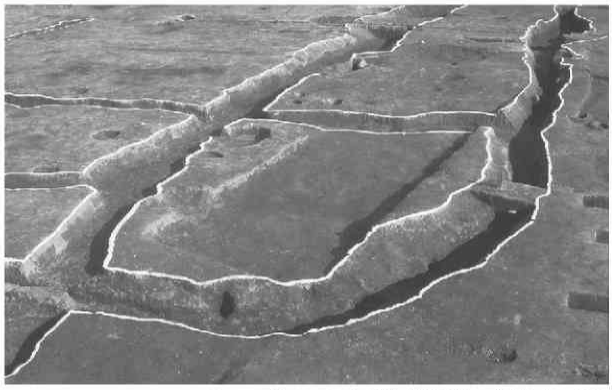
ＳＫ568断面（南西から）

図版６

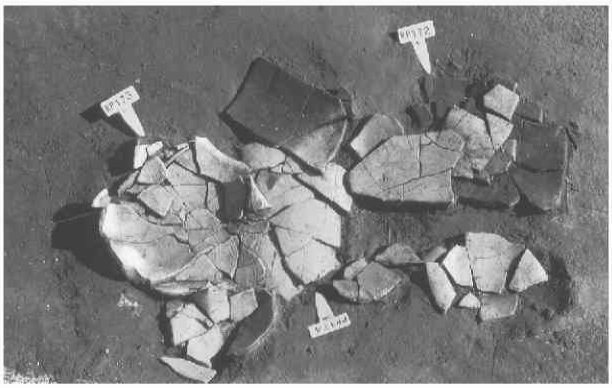
ＳＫ574断面（南から）

ＳＫ574完掘状況（南から）

ＳＤ５遺物出土状況（南西から）



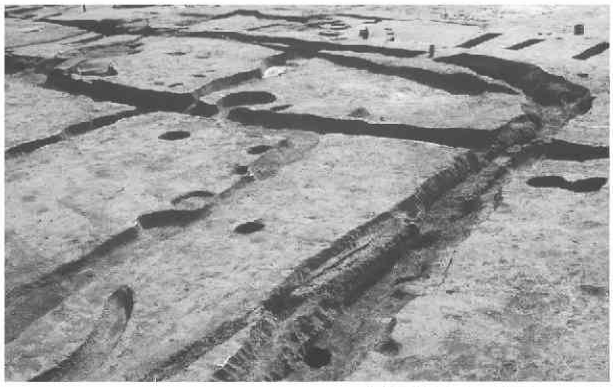
ＳＤ５・６完掘状況（西から）



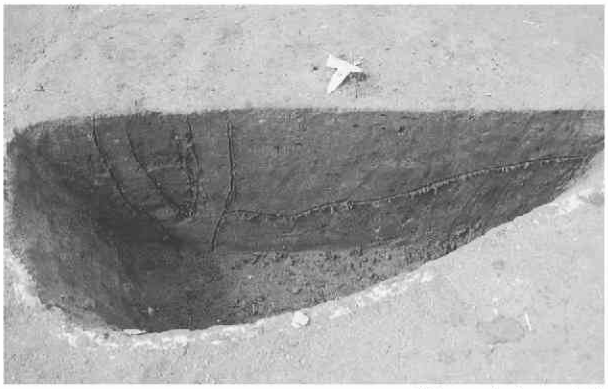
ＳＤ64遺物出土状況（西から）

ＳＤ156完掘状況（東から）

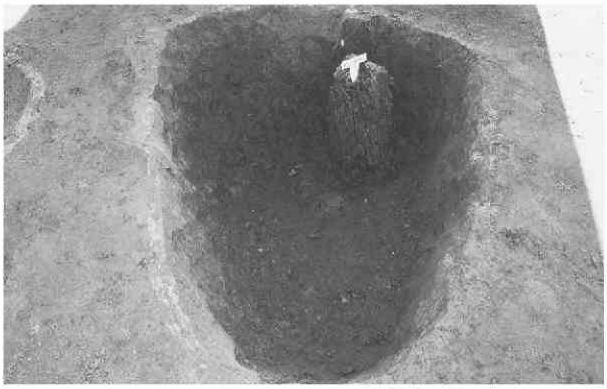
ＳＤ224完掘状況（南から）



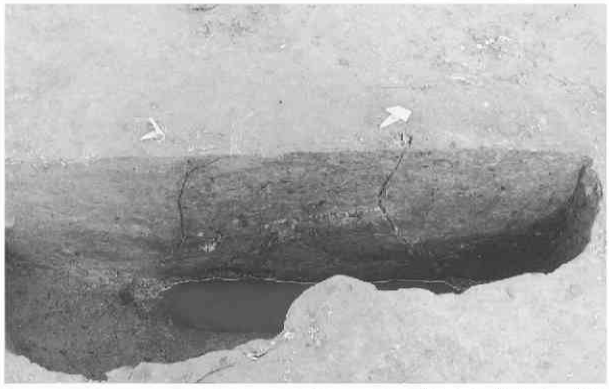
ＳＤ５・６完掘状況（西から）



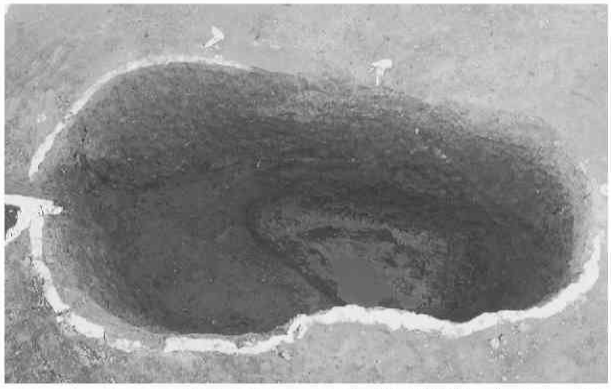
ＳＰ214断面（南から）



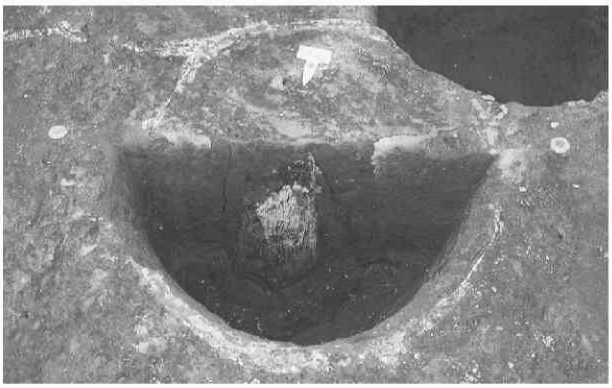
ＳＰ214完掘状況（東から）



ＳＰ219・220断面（南から）

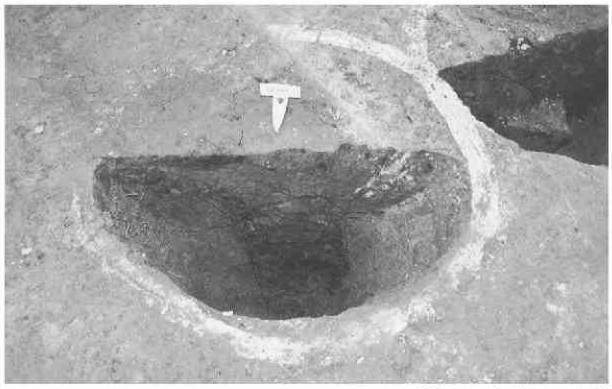


ＳＰ219・220完掘状況（南から）

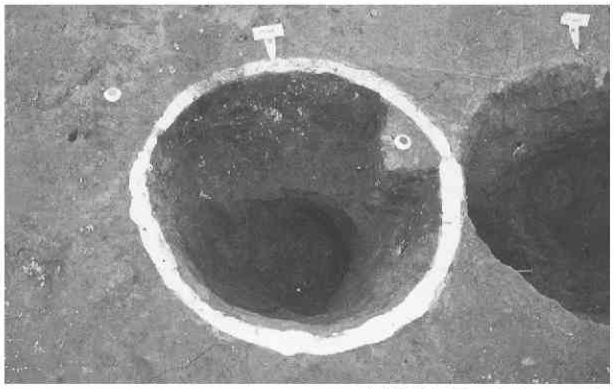


ＳＰ243断面（南から）

ＳＰ243完掘状況（南東から）

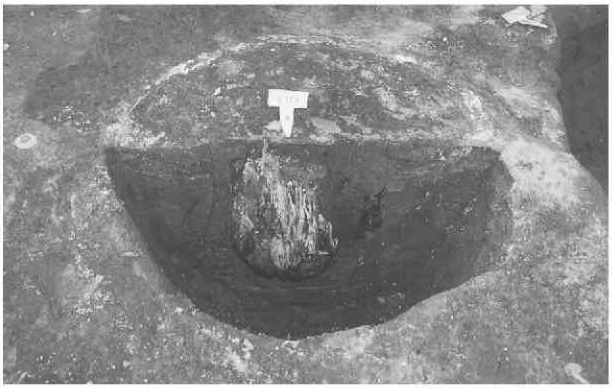


ＳＰ248断面（南から）

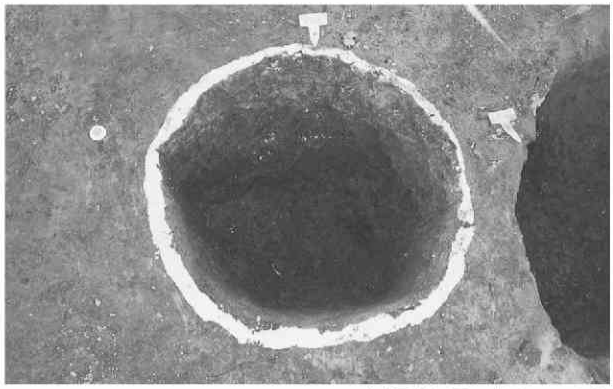


ＳＰ248完掘状況（南から）

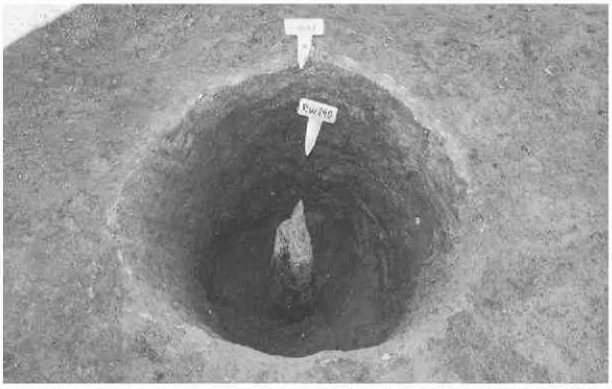
図版 8



ＳＰ253断面（南から）



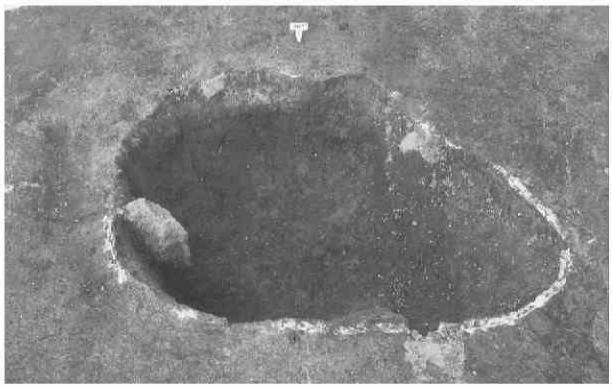
ＳＰ253完掘状況（南から）



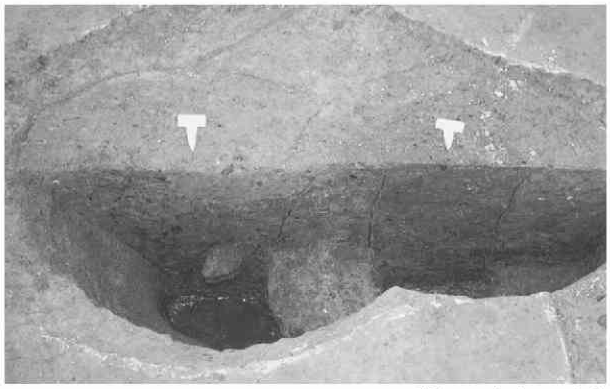
ＳＰ295完掘状況（東から）

ＳＰ575完掘状況（南から）

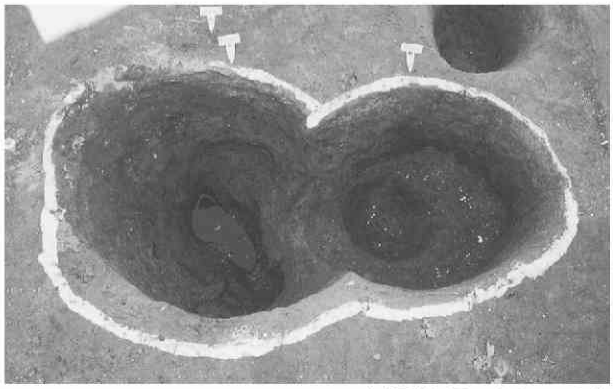
ＳＰ467遺物出土状況（南から）



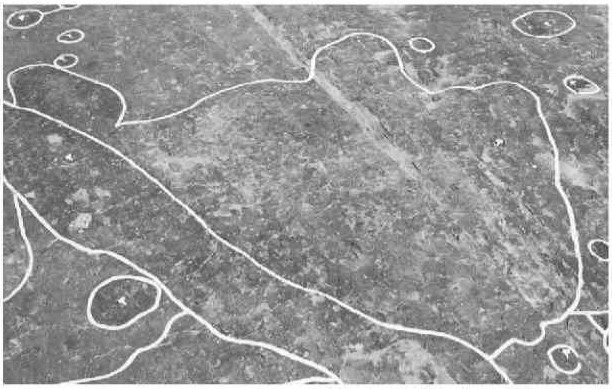
ＳＰ467完掘状況（南から）



ＳＫ569・570断面（南から）



ＳＫ569・570完掘状況（南から）

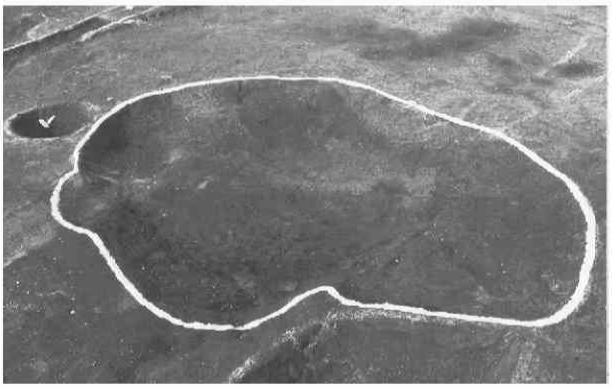


ＳＸ４検出状況（南西から）

ＳＸ４完掘状況（南西から）

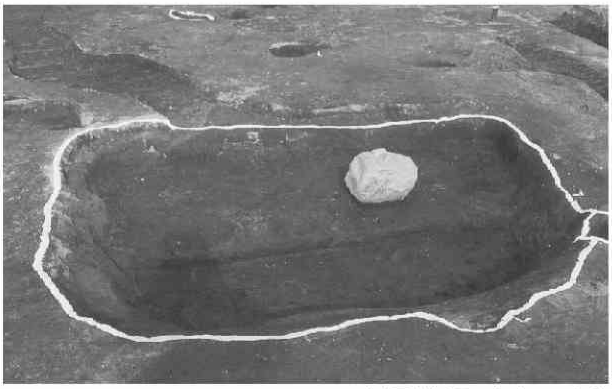
ＳＸ238断面（東から）

ＳＸ357遺物出土状況（南から）

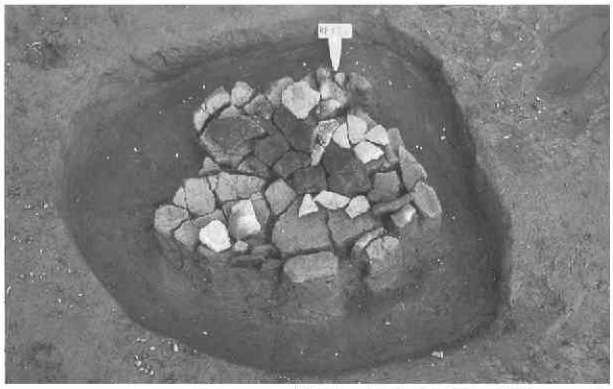


ＳＸ357完掘状況（南東から）

ＳＸ427断面（北から）



ＳＸ427完掘状況（南から）



M20G遺物出土状況（西から）

図版10

20－1

20－2

20－3

20－4

20－5

20－6

20－7

20－8

20－9

20－7

20－10

20－11

20－12

20－13

20－14

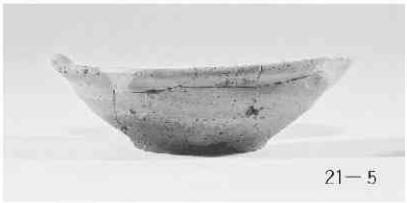
20－15

21－1

21－2

21－3

21－4


21－5

21－6

21－7

21－8

21－9

21－10

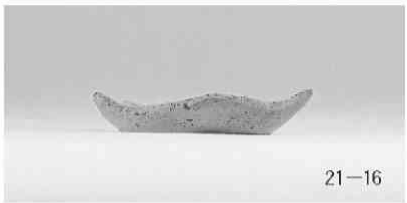
21－11

21－12

21－13

21－14

21－15


21－16

21－17

21－18

22－1

22－2

22－3

22－5

22－6

22－7

22－8

22－9

22－10

22－12

22－13

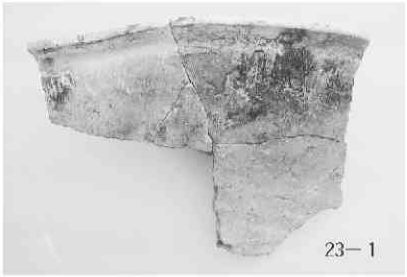
22－15

22－16

図版12

22—17

22—20


23—1

23—3

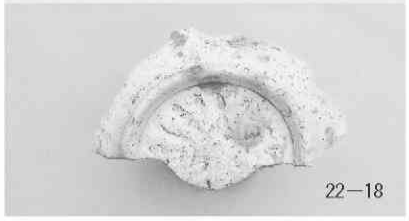
23—7

23—10

23—13

23—17

22—18


22—18

22—19

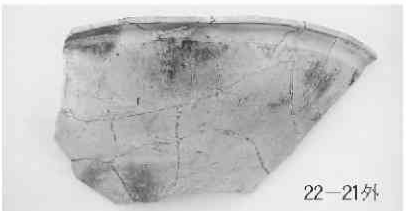
23—5

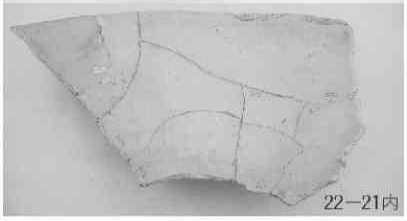
23—8

23—11

23—15

23—18


22—21外


22—21内

23—2

23—6

23—6

23—9

23—16

23—19

24－1

24－1

24－3

24－3

23－20

23－22

24－5

24－7

24－8

24—10

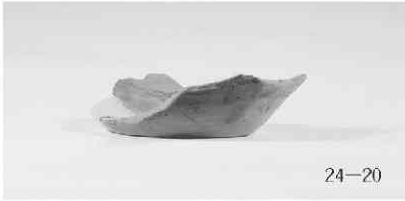
24—11

24—13

24—14

24—16

24—17


24—20

25－6

23—21

24－2

24－6

24－9

24—12

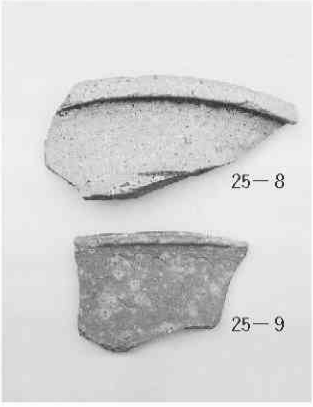
24—15

24—19

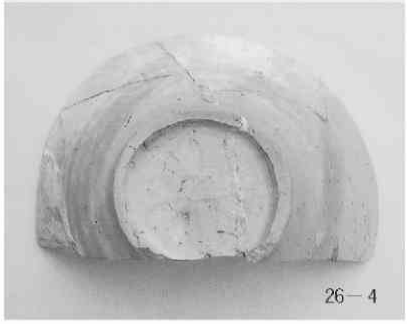
25－7

図版14

25－4，5


25－8
25－9

26－4


26－4

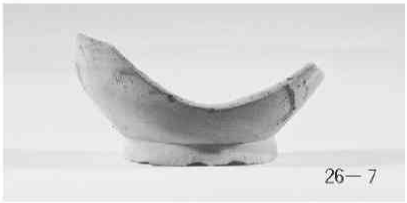
26－1

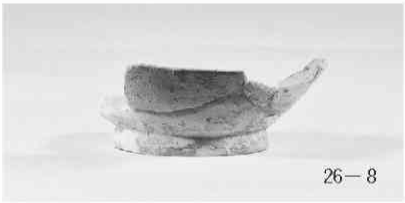
26－2

26－3

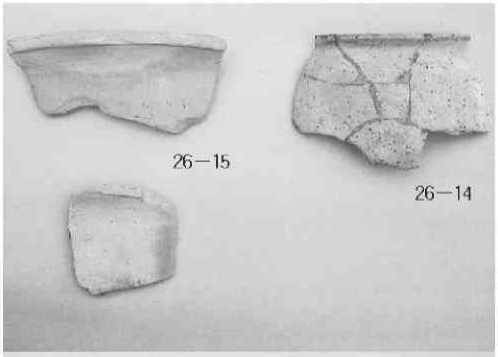
26－5

26－6


26－7

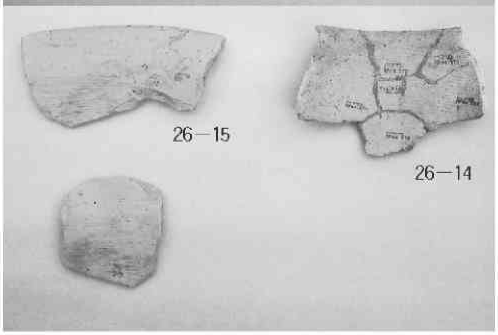

26－8

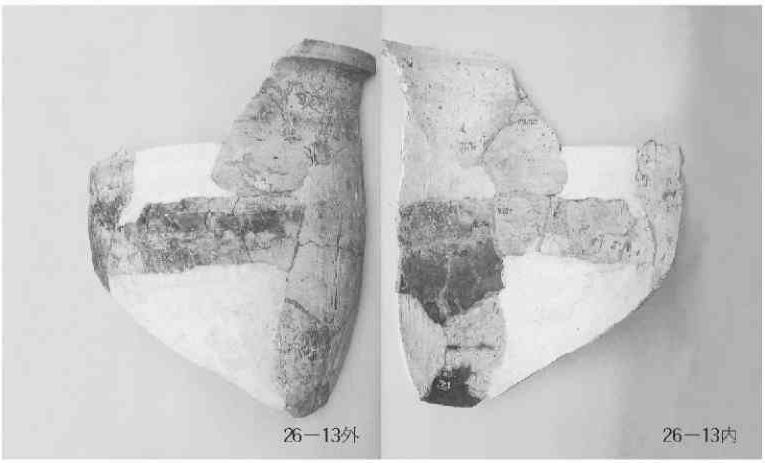
26－9


26－15
26－14

26－10

26－11


26－15
26－14


26－13外
26－13内

26—16

27—3

27—2

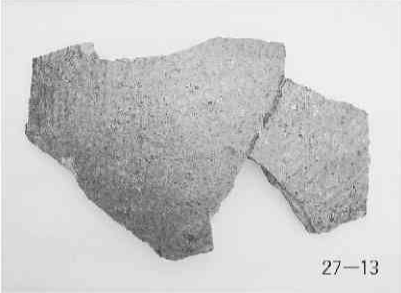
27—5

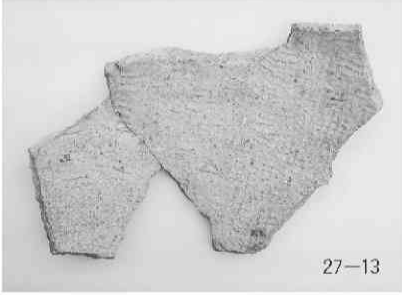
27—5

27—1

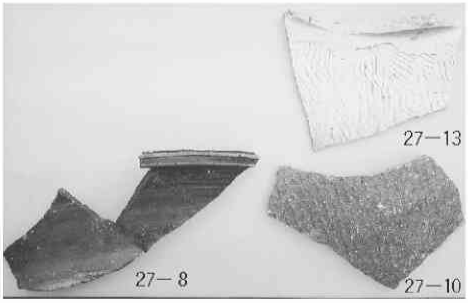
27—2

27—4


27—13


27—13

27—7



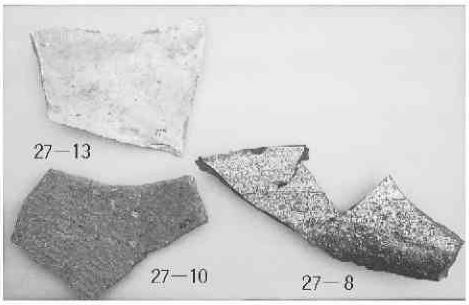
27—15

27—15

28—1

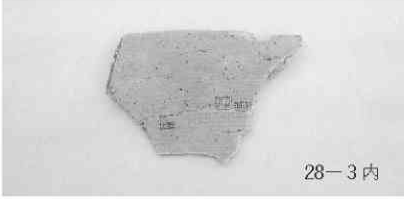
28—2

28—4



図版16

28－3外


28－3内

28－8

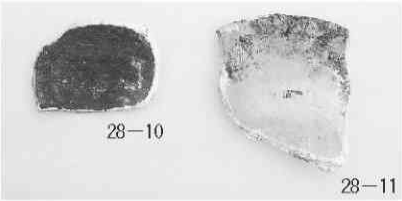
28－5

28－6

28－12

28－11

28－9

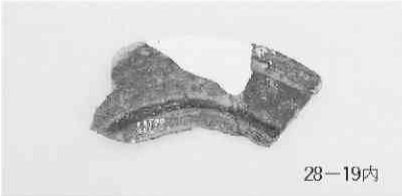

28－10
28－11

28－13

28－14

28－15

28－17

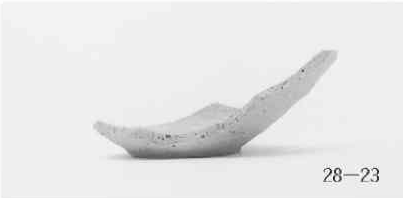

28－19内

28－19

28－20

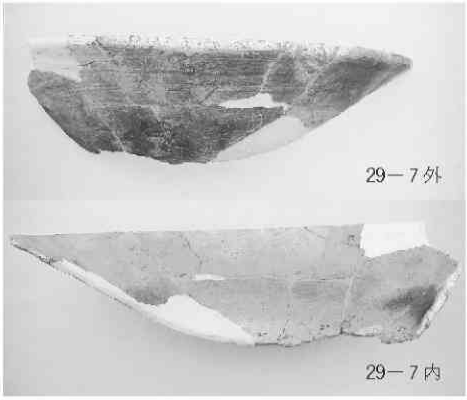
28－21

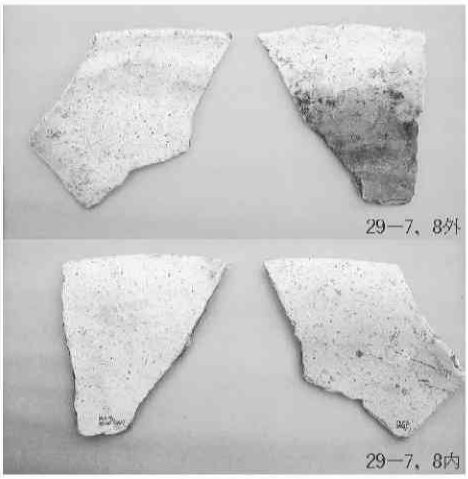
28－22


28－23

28－24

29－1


29－7外
29－7内


29－7、8外
29－7、8内

30－7

30－8

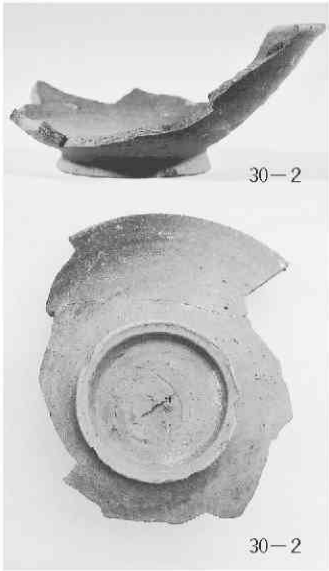
30－1

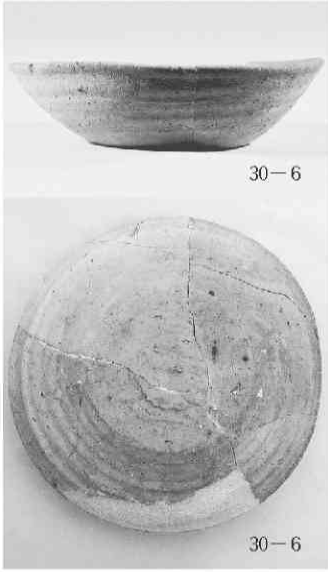
30－3

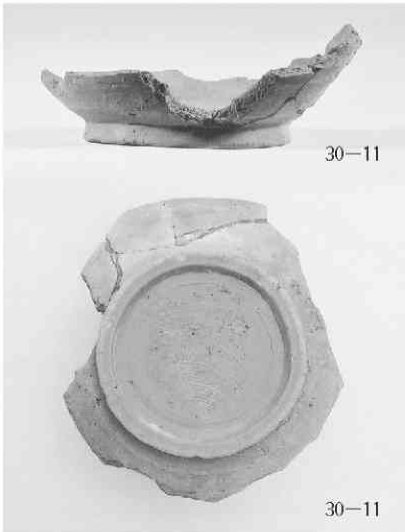
30－4

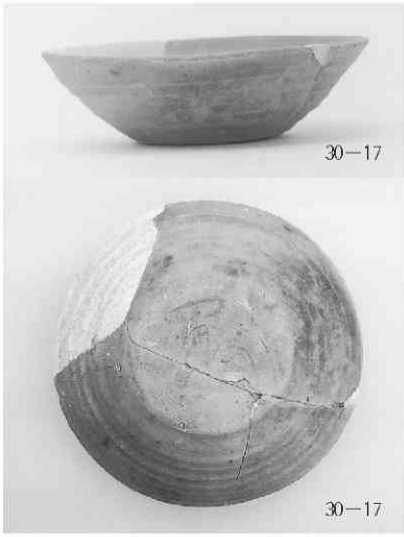
30－5

30－12


30－2
30－2


30－6
30－6


30－11
30－11


30－17
30－17

30－13

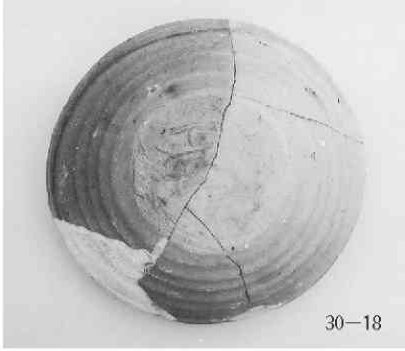
30－14

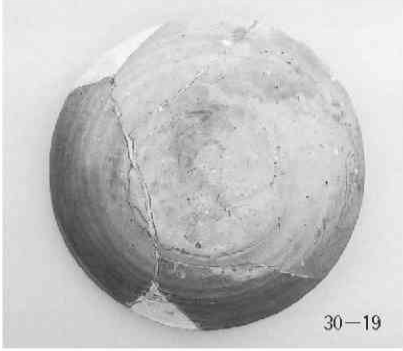
図版18

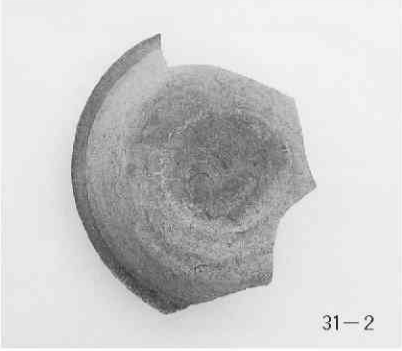
30—18

30—19

31—2


30—18


30—19


31—2

31—1

31—4

31—3

31—5

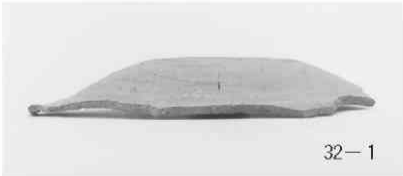
31—6

31—10

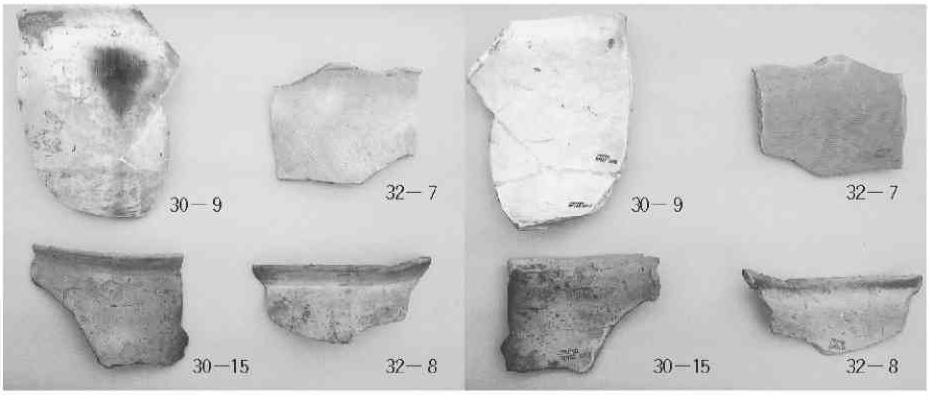
31—14

31—18

31—20


32—1

32—2

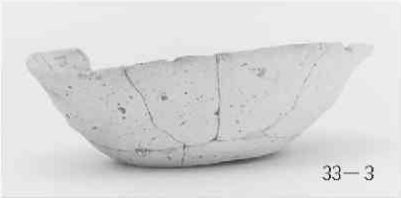

30—9
32—7
30—15
32—8
30—9
32—7
30—15
32—8

32—9

33—5

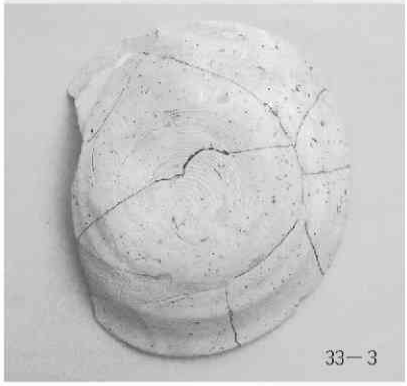
33－1

33－2


33－3

33－4

33－7


33－3

33－8

33－9

33－10

33－11

33－15

33－12

33－13

33－16

33－17

34－2

34－1

34－6

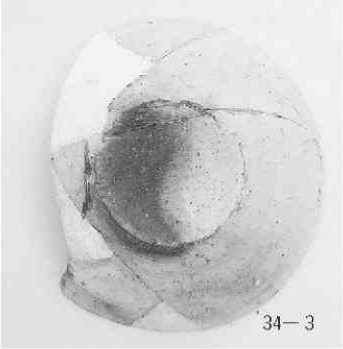
34－7

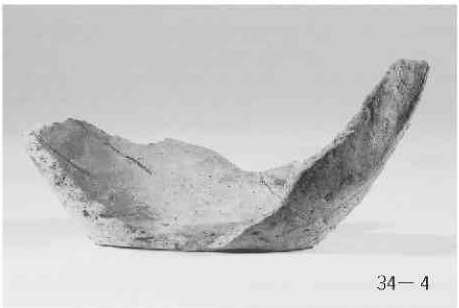
34－8

34－9

図版20

34－3


34－3


34－4

34－5

34－14

34－15

34－10

34－16

34－18

34－19

35－1

35－2

35－4

35－5

35－8

35－9

35－10

36－1

36－2

36－4

36－5

36－6

36－7

36－8

36－9

36－10

36－11

36－16

36－21外

36－21内

37－1

37－2

37－3

37－4

37－5

37－6

37－9

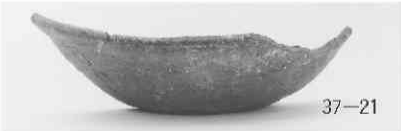
37－10

37－16

37－14

37－20

37－19


37－21

37－20

37－22

37－25

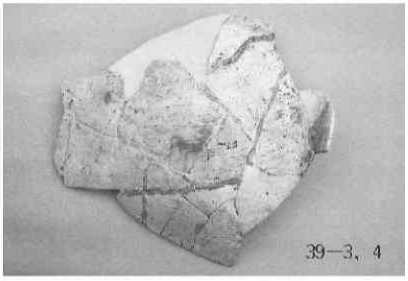
37－26

37－27

図版22

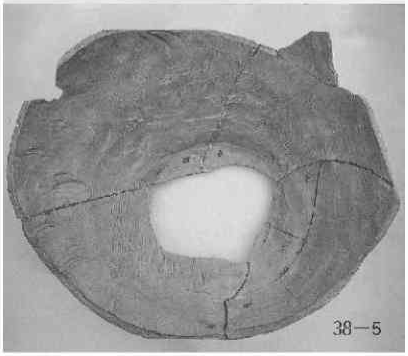
37—28

37—28


39—3，4

38—5

38—5

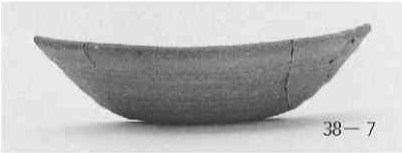

38—5

39—1

39—5

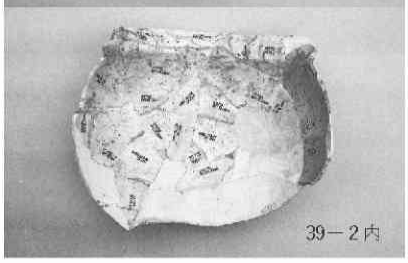
39—6

39—7

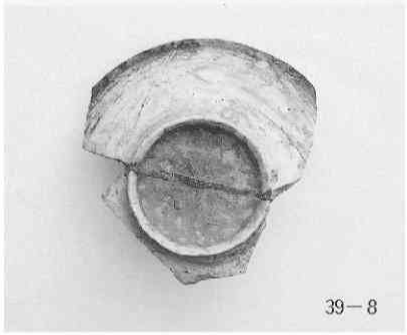

38—7

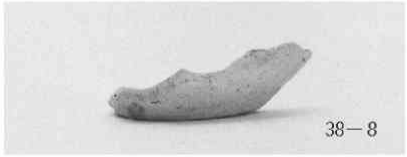
38—1

39—2外


39—2内

39—8


39—8


38—8

38—2

38－3

38－4

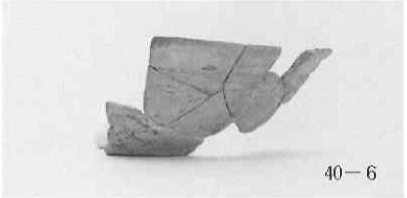
40－1

40－2

40－3

40－4

40－5


40－6

40－7

40－8

40－11

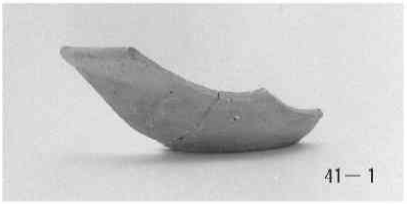
40－12

40－13

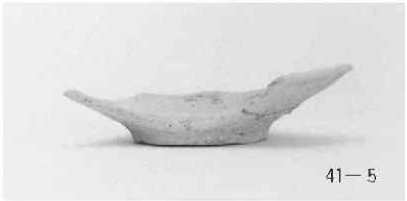
40－16

40－17

40－13


41－1

41－3


41－5

41－6

41－7

41－8

41－9

41－11

図版24

41—12

41—13

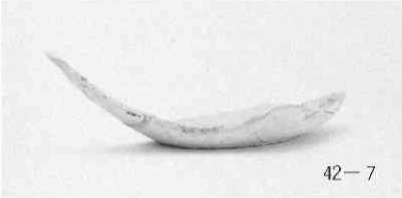
41—14

41—19

41—20

42— 1

42— 2


42— 7

42— 4

42— 5

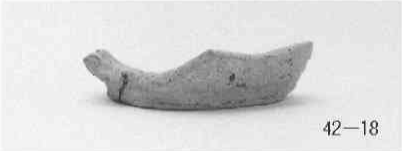
42— 6

42— 8

42—10

42—13

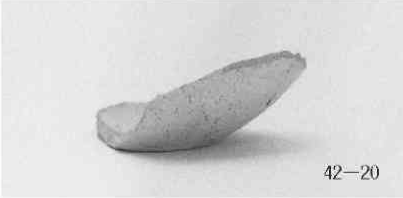
42—16

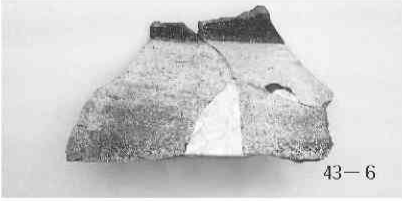

42—18

42—17

42—19

43— 1


42—20


43— 6

43—12

43—13

43—16

43—12

43－8

43－9

44－1

44－2

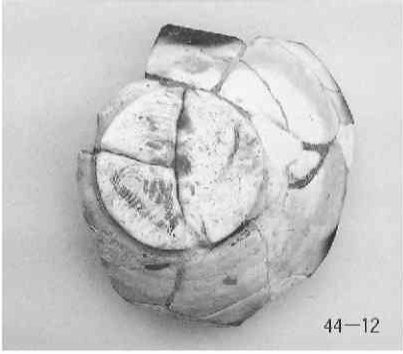
44－3

44－4

44－10

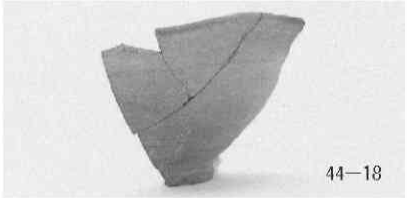
44－11

44－12


44－12

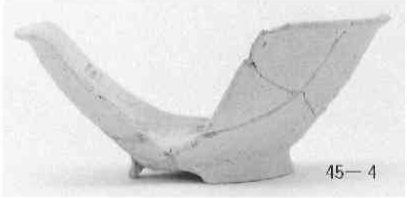
44－13

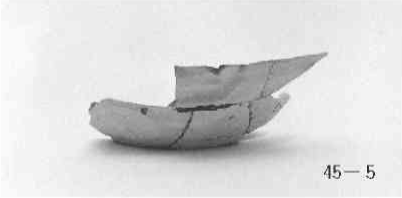
44－17


44－18

45－3

37－28

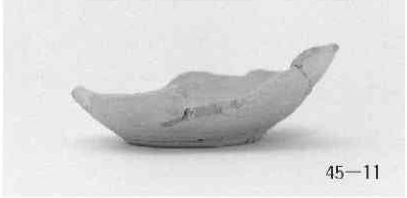

45－4


45－5

37－28

45－9

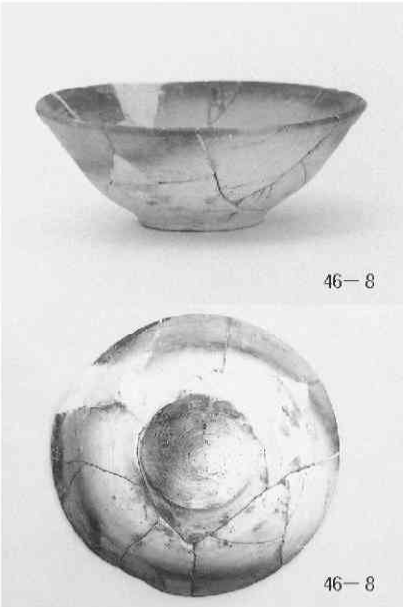
45－10

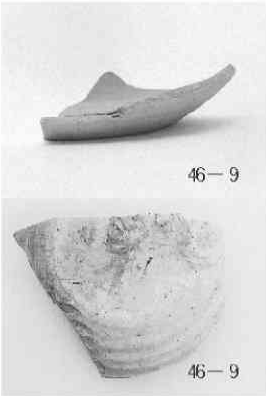

45－11

45－14

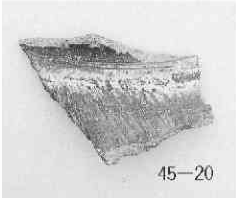
45－17

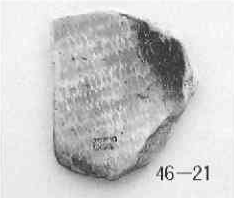
図版26

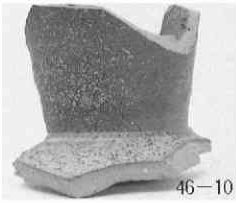

46－8


46－9

46－9


45－20


46－21


46－10

46－24

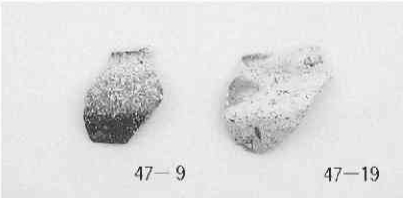
46－13

47－1

47－2

47－3

47－4


47－9　47－19

47－11

47－15

47－14

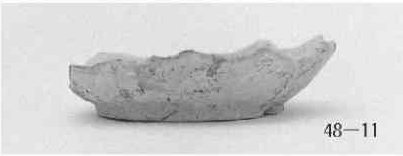
47－17

48－3

48－4

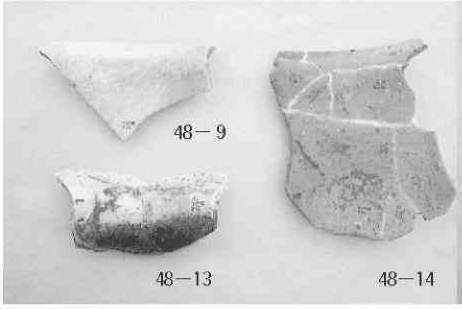
48－6

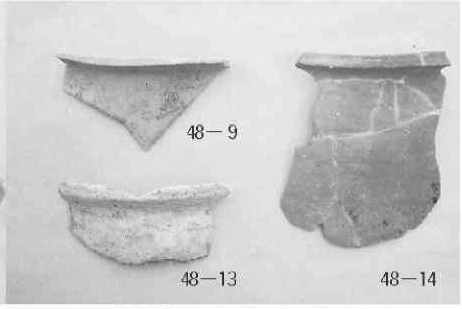
48－7

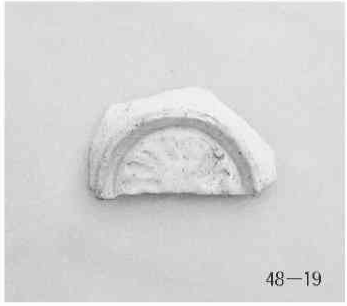

48－11

49－3

48－16

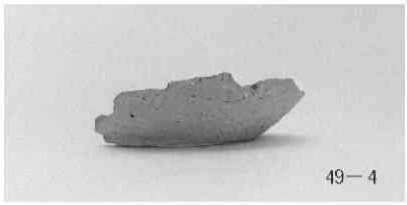

48－9
48－13
48－14


48－9
48－13
48－14


48－19

48－21

48－22


49－4

49－2

49－22

50－10

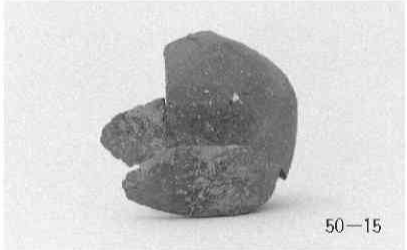
49－9

49－10

49－24

49－25

50－1


50－15

50－16

50－17

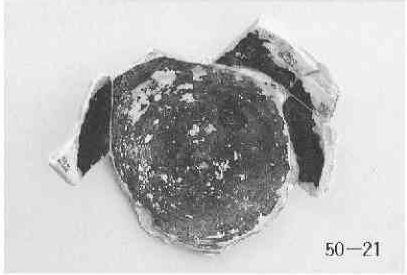
49－13

51－4

50－21

50－23

51－5


50－21

図版28

51－2

51－2

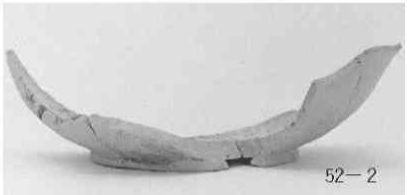
51－1外

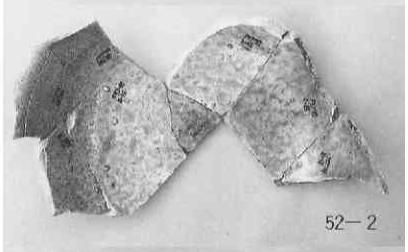
51－1内

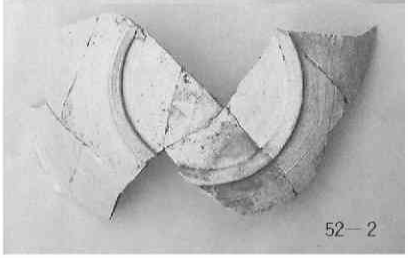
51－8

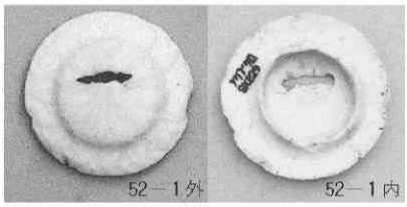
51－10

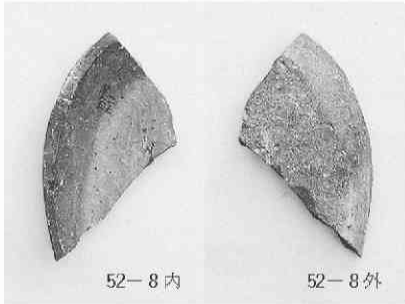
51－11

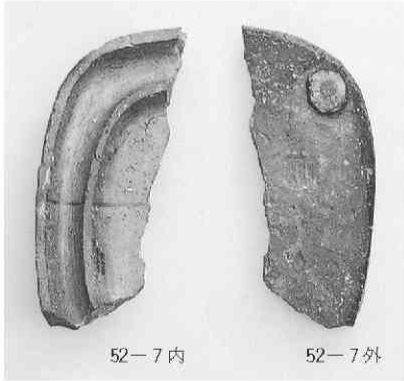

52－2

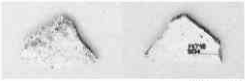

52－2

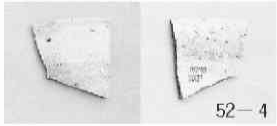

52－2

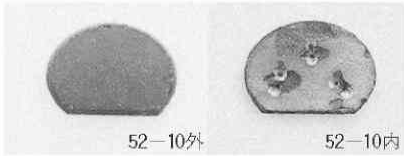

52－1外　52－1内

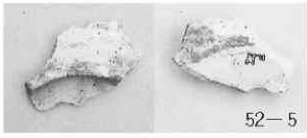

52－8内　52－8外

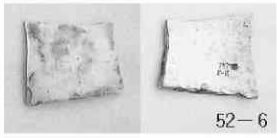

52－7内　52－7外

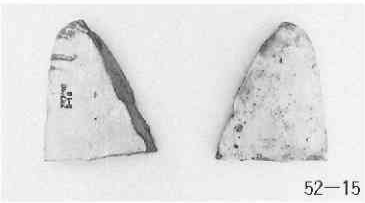

52－3

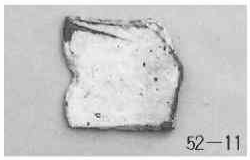

52－4

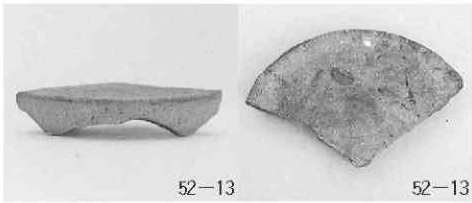

52－10外　52－10内


52－5


52－6


52－15


52－11


52－13　52－13

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第97集

中袋（なかふくろ）遺跡発掘調査報告書

2002年３月25日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号
電話　023－672－5301
印刷　山形印刷株式会社